

【 1 一般男女】

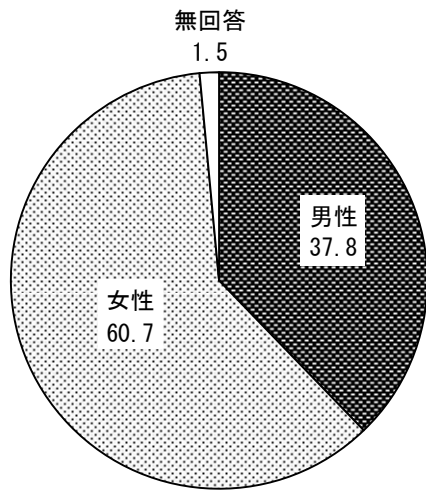
Ⅲ 調査結果

【1 一般男女】

(1) あなた自身について

① 性別・年齢

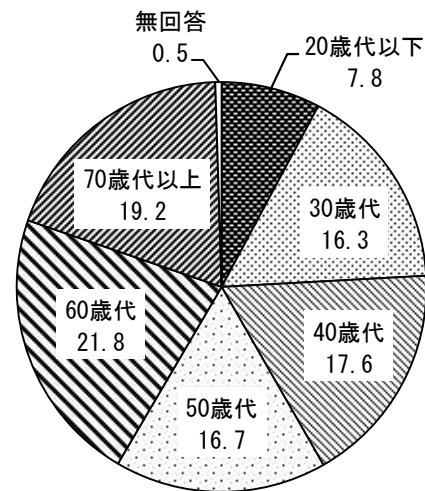
F 1 性別



n = 735

%

F 2 年齢 (平成30年6月1日現在)

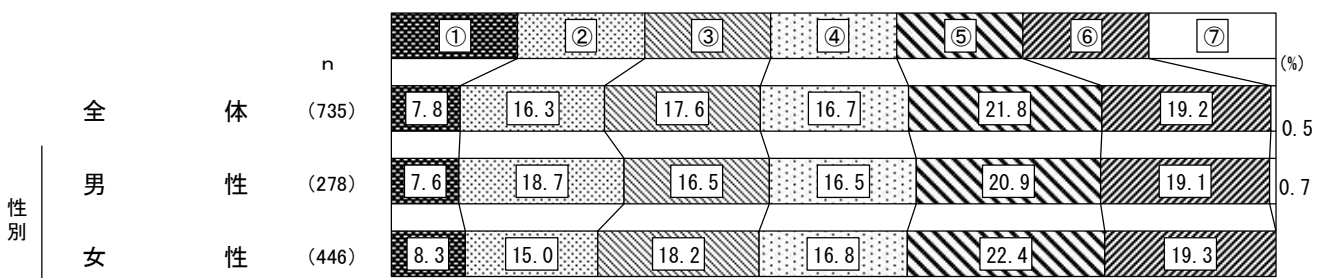


n = 735

%

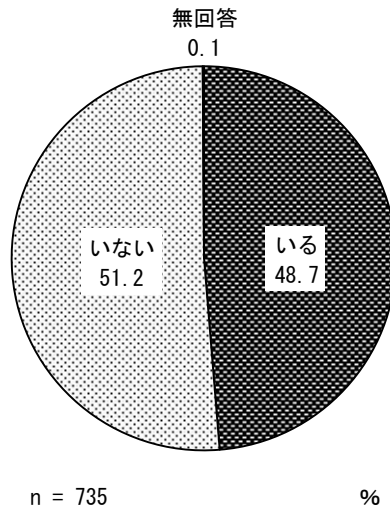
(年齢－性別)

- ① 20歳代以下
- ② 30歳代
- ③ 40歳代
- ④ 50歳代
- ⑤ 60歳代
- ⑥ 70歳代以上
- ⑦ 無回答

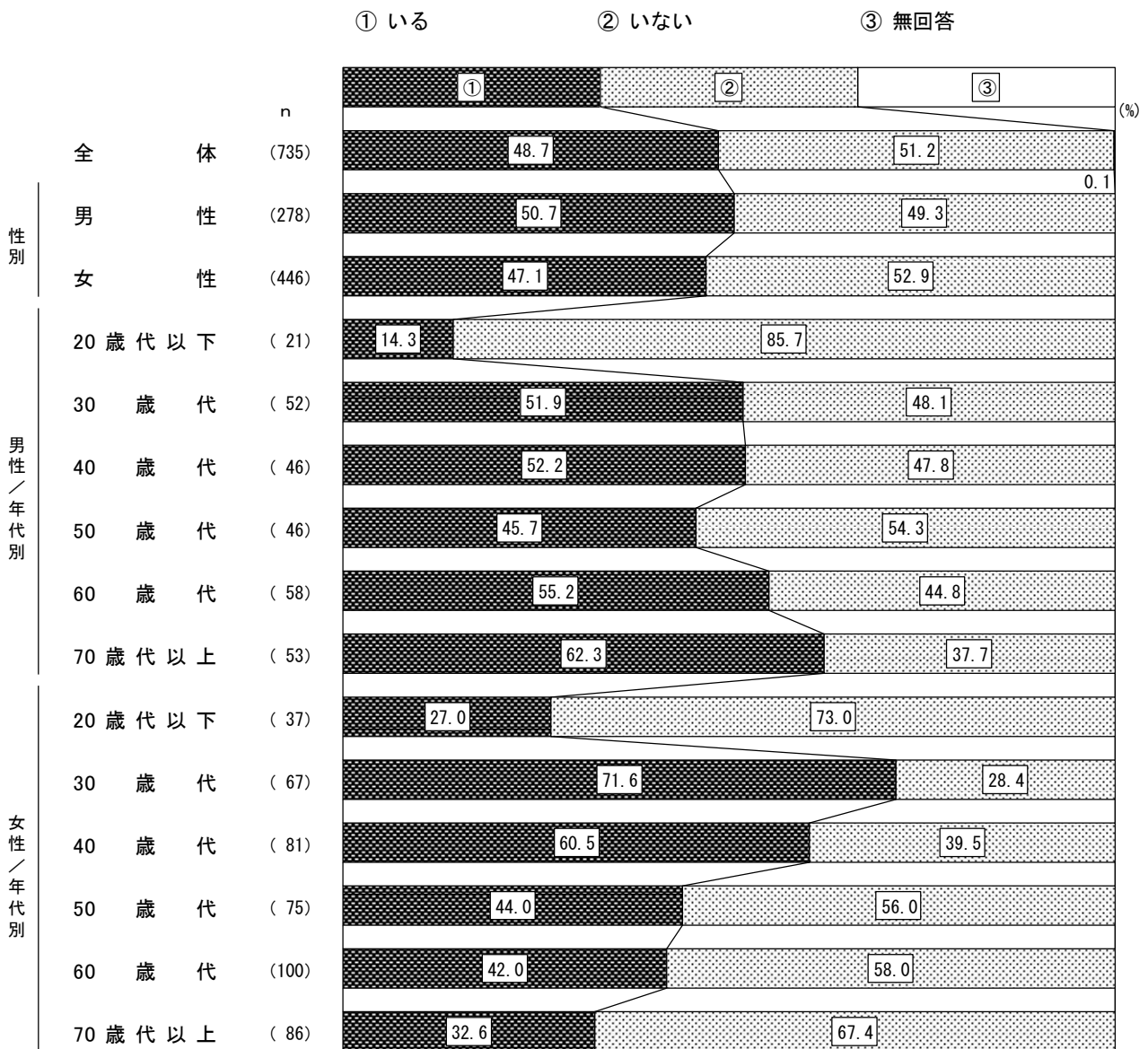


② 配偶者の有無

F 3 配偶者の有無



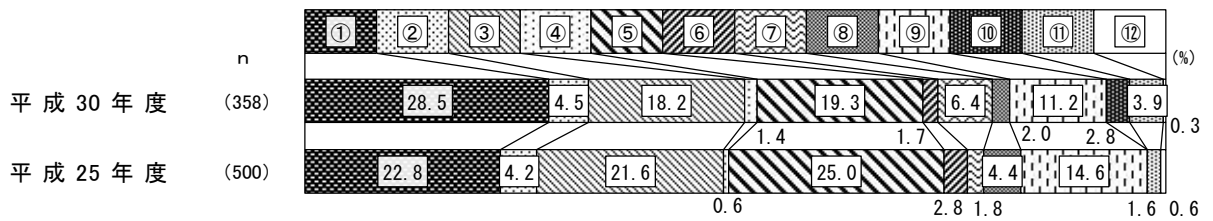
(配偶者の有無一性・年代別)



③ 世帯の働き方

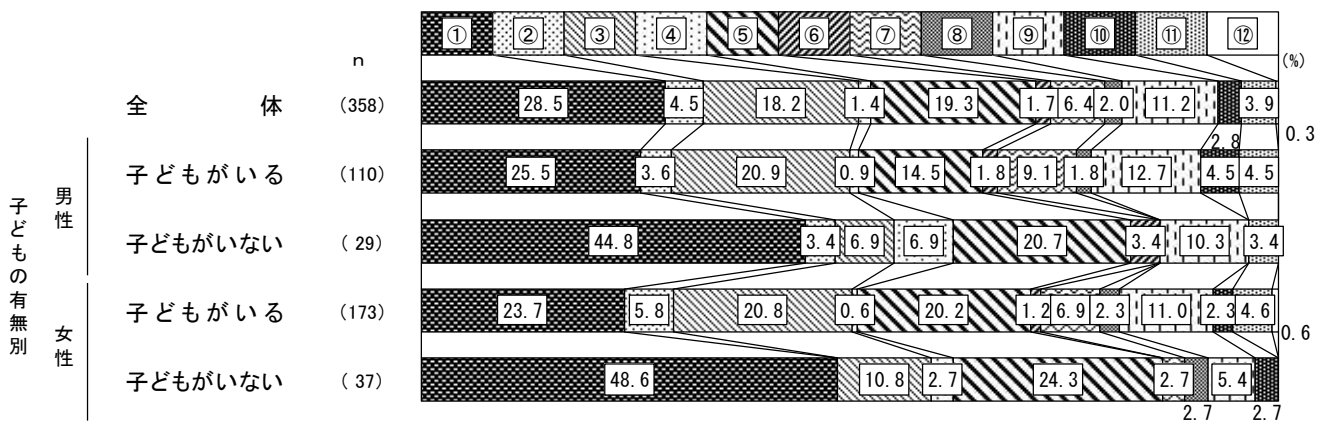
F 3-1 世帯の働き方

- ① 夫・妻ともにフルタイム勤務
- ② 夫・妻ともにパート・アルバイト
- ③ 夫はフルタイム勤務、妻はパート・アルバイト
- ④ 妻はフルタイム勤務、夫はパート・アルバイト
- ⑤ 夫だけ働いている（フルタイム勤務）
- ⑥ 妻だけ働いている（フルタイム勤務）
- ⑦ 夫だけ働いている（パート・アルバイト）
- ⑧ 妻だけ働いている（パート・アルバイト）
- ⑨ 夫婦とも無職
- ⑩ 夫婦とも自営
- ⑪ その他
- ⑫ 無回答



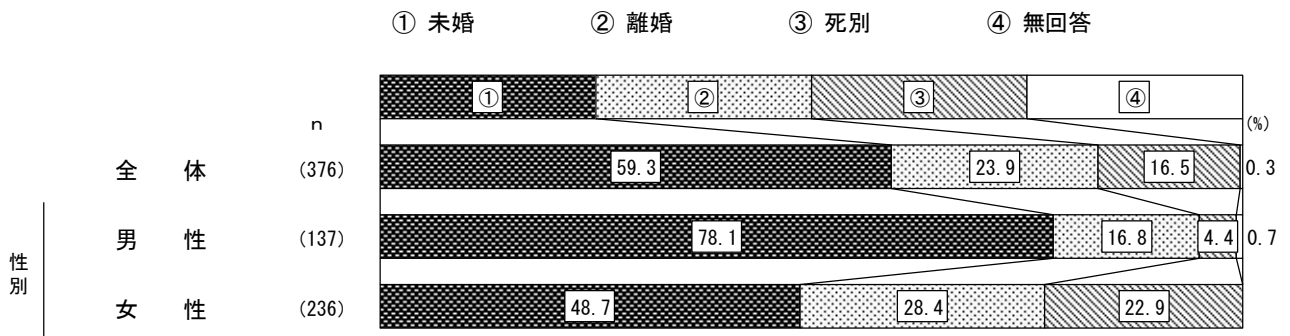
(世帯の働き方ー子どもの有無別)

- ① 夫・妻ともにフルタイム勤務
- ② 夫・妻ともにパート・アルバイト
- ③ 夫はフルタイム勤務、妻はパート・アルバイト
- ④ 妻はフルタイム勤務、夫はパート・アルバイト
- ⑤ 夫だけ働いている（フルタイム勤務）
- ⑥ 妻だけ働いている（フルタイム勤務）
- ⑦ 夫だけ働いている（パート・アルバイト）
- ⑧ 妻だけ働いている（パート・アルバイト）
- ⑨ 夫婦とも無職
- ⑩ 夫婦とも自営
- ⑪ その他
- ⑫ 無回答



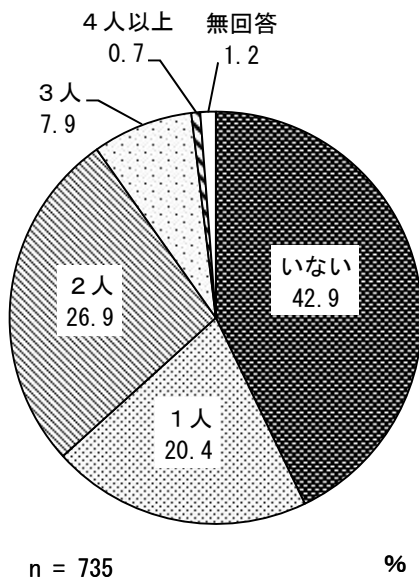
④ 配偶者のいない理由

F 3-2 配偶者のいない理由-性別



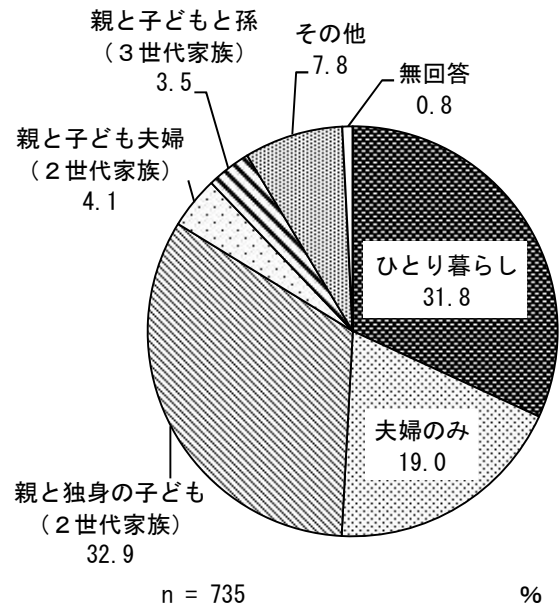
⑤ 子どもの有無

F 4 子どもの有無



⑥ 世帯構成

F 5 世帯構成



(2) 家庭生活について

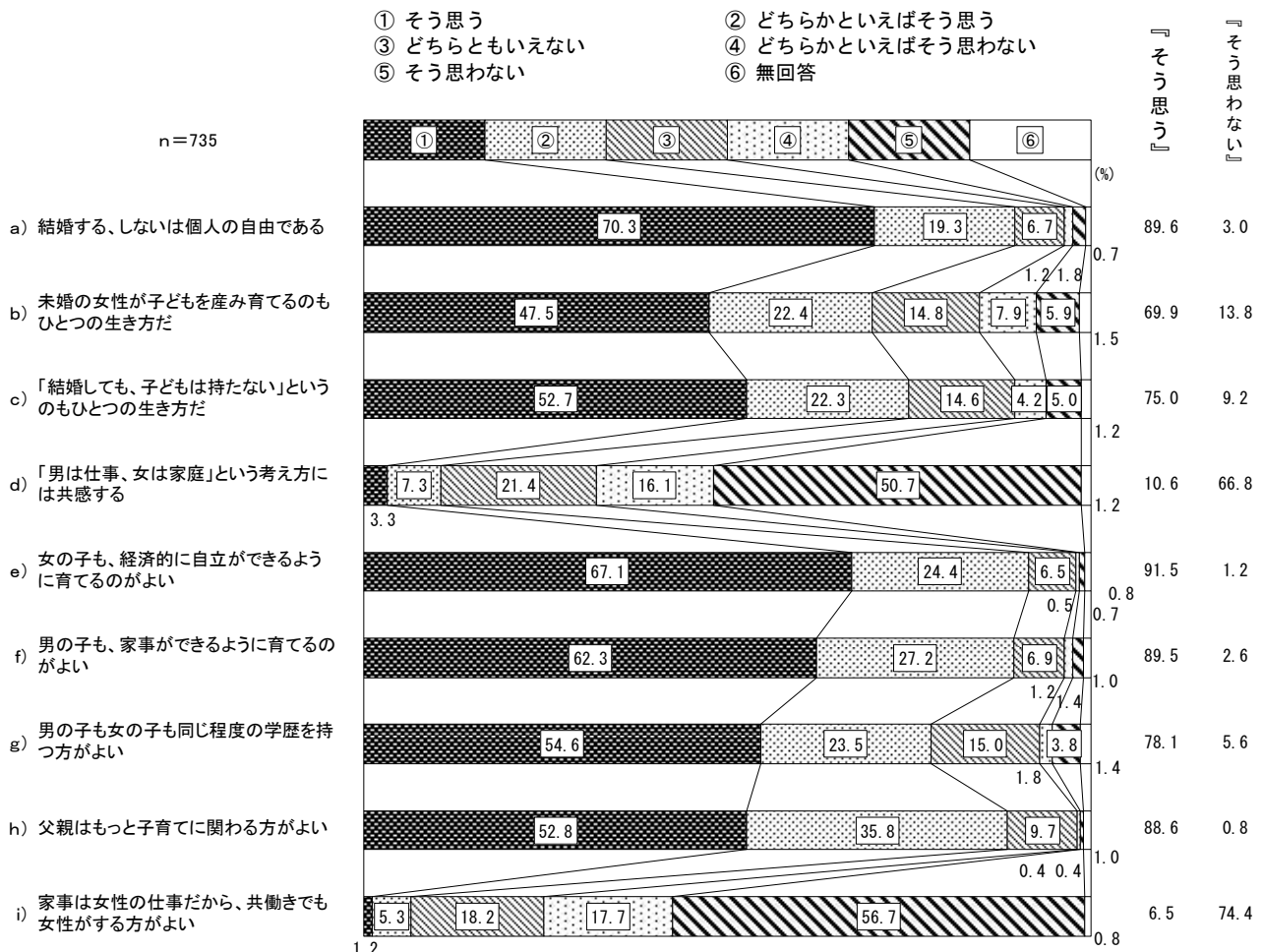
① 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方

問1 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方について、a) から i) の項目について、選択肢 1 から 5 のうち、あなたの考え方にあてはまるものに○をつけてください（それぞれの項目について番号に1ずつ）

結婚や出産、男女の役割などに対する考え方について聞いたところ、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が高いのは、“e 女の子も、経済的に自立ができるように育てるのがよい”(91.5%)で9割を超え、“a 結婚する、しないは個人の自由である”(89.6%)と“f 男の子も、家事ができるように育てるのがよい”(89.5%)で9割となっている。

一方、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合が高いのは、“i 家事は女性の仕事だから、共働きでも女性がする方がよい”(74.4%)で7割半ば、“d 「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する”(66.8%)で7割近くとなっている。

図表1-1-1 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方



■ 「男は仕事、女は家庭」と思わない人の割合は66.8%。

■ 「結婚や出産に必ずしもこだわる必要はない」という生き方の多様性を認める考え方や、「特定の性別だけが特定の役割をする訳ではない」という男女平等の考え方の方が多という結果となっている。

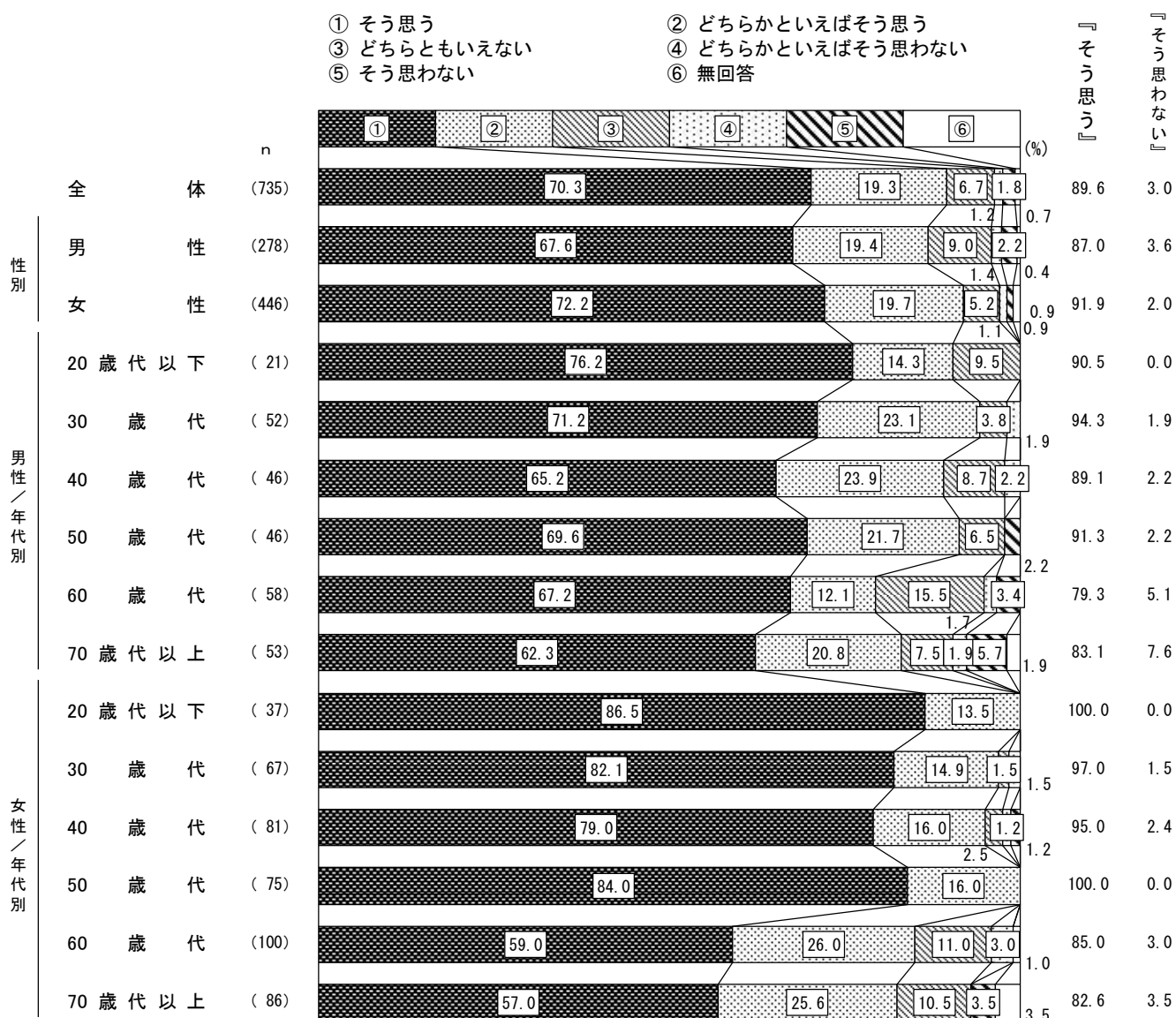
【a 結婚する、しないは個人の自由である】

「結婚する、しないは個人の自由である」という考え方をどう思うか聞いたところ、「そう思う」(70.3%)と「どちらかと言えばそう思う」(19.3%)を合わせた『そう思う』(89.6%)は9割となっている。

性別でみると、『そう思う』は女性が男性より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『そう思う』は女性の20歳代以下、50歳代で10割と高くなっている。一方、『そう思わない』はどの区分でも1割未満となっている。

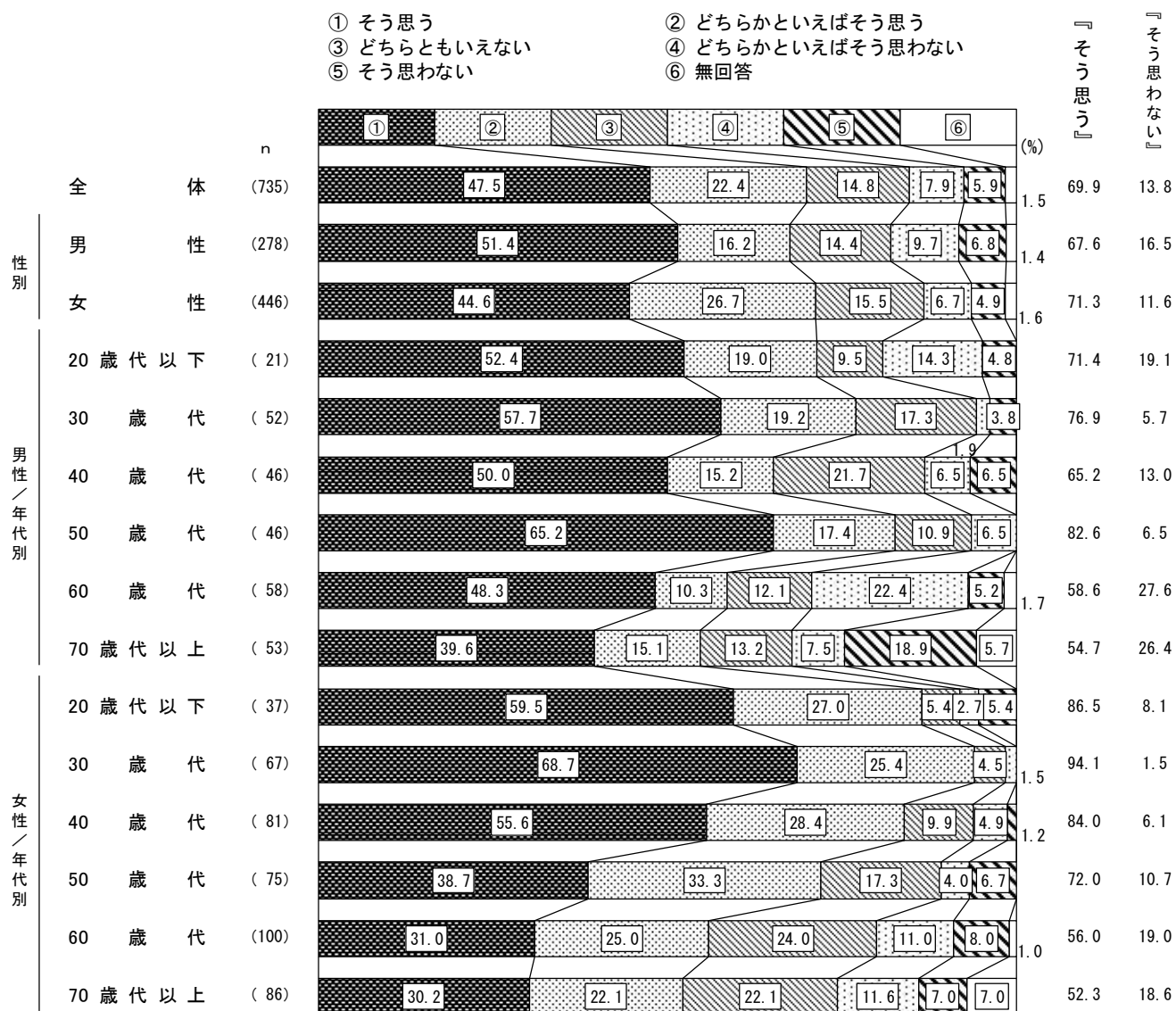
図表 1-1-2 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方 (a) - 性・年代別



【b 未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ】

「未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ」という考え方をどう思うか聞いたところ、「そう思う」(47.5%)と「どちらかといえばそう思う」(22.4%)を合わせた『そう思う』(69.9%)は7割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(7.9%)と「そう思わない」(5.9%)を合わせた『そう思わない』(13.8%)は1割を超えている。

図表 1-1-3 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方 (b) - 性・年代別



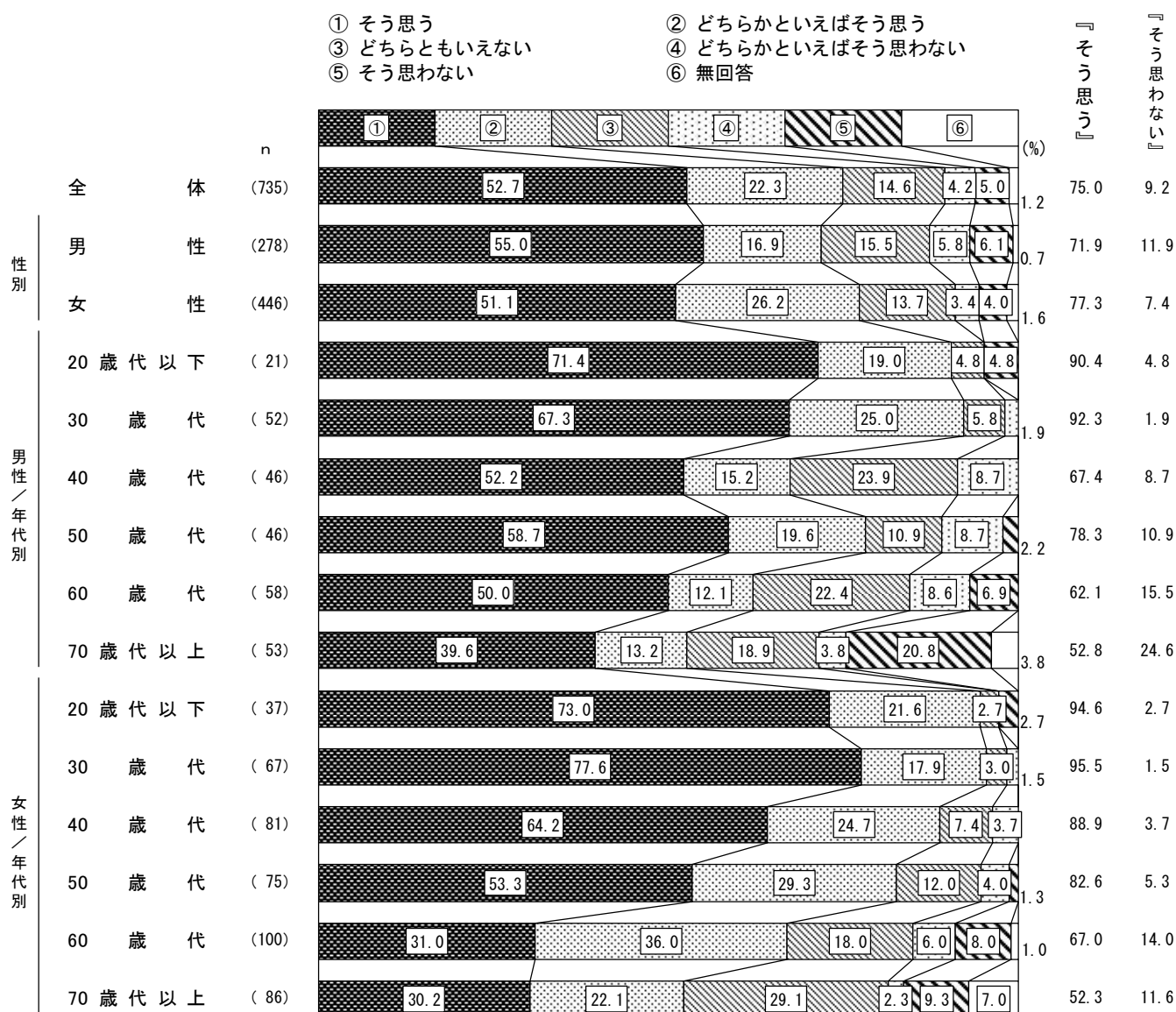
【c 「結婚しても、子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ】

「結婚しても、子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ」という考え方をどう思うか聞いたところ、「そう思う」(52.7%)と「どちらかといえばそう思う」(22.3%)を合わせた『そう思う』(75.0%)は7割半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(4.2%)と「そう思わない」(5.0%)を合わせた『そう思わない』(9.2%)は1割未満となっている。

性別でみると、『そう思う』は女性が男性より5.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『そう思う』は女性の20歳代以下と30歳代で9割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない』は男性の70歳代以上で2割半ばと高くなっている。

図表1-1-4 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方(c) - 性・年代別

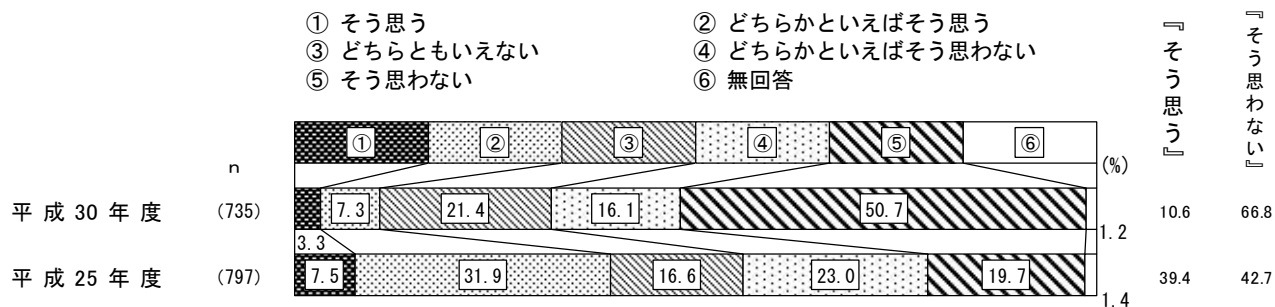


【d 「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する】

「男は仕事、女は家庭という考え方には共感する」という考え方をどう思うか聞いたところ、「そう思う」(3.3%)と「どちらかといえばそう思う」(7.3%)を合わせた『そう思う』(10.6%)はほぼ1割となっている。一方、「どちらかと言えばそう思わない」(16.1%)と「そう思わない」(50.7%)を合わせた『そう思わない』(66.8%)は7割近くとなっている。

前回調査と比較すると、『そう思う』は28.8ポイント減少し、『そう思わない』は24.1ポイント増加している。

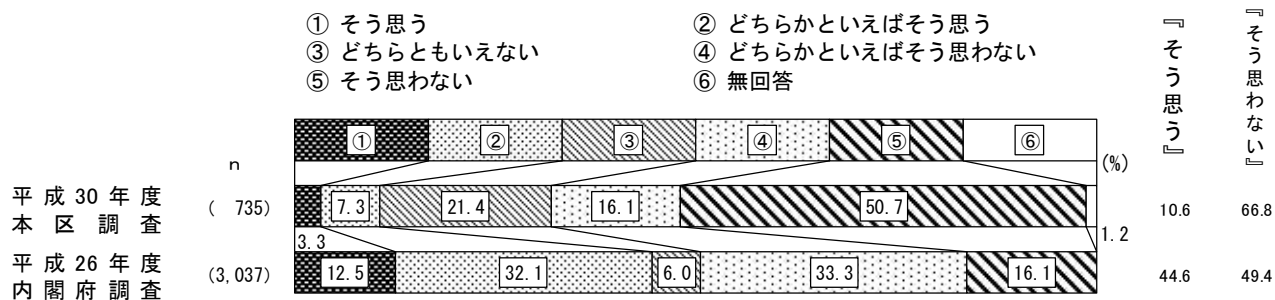
図表 1-1-5 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方（d）－過年度比較



内閣府調査の類似設問との比較でみると、『そう思う』は34.0ポイント低く、『そう思わない』は17.4ポイント高くなっている。

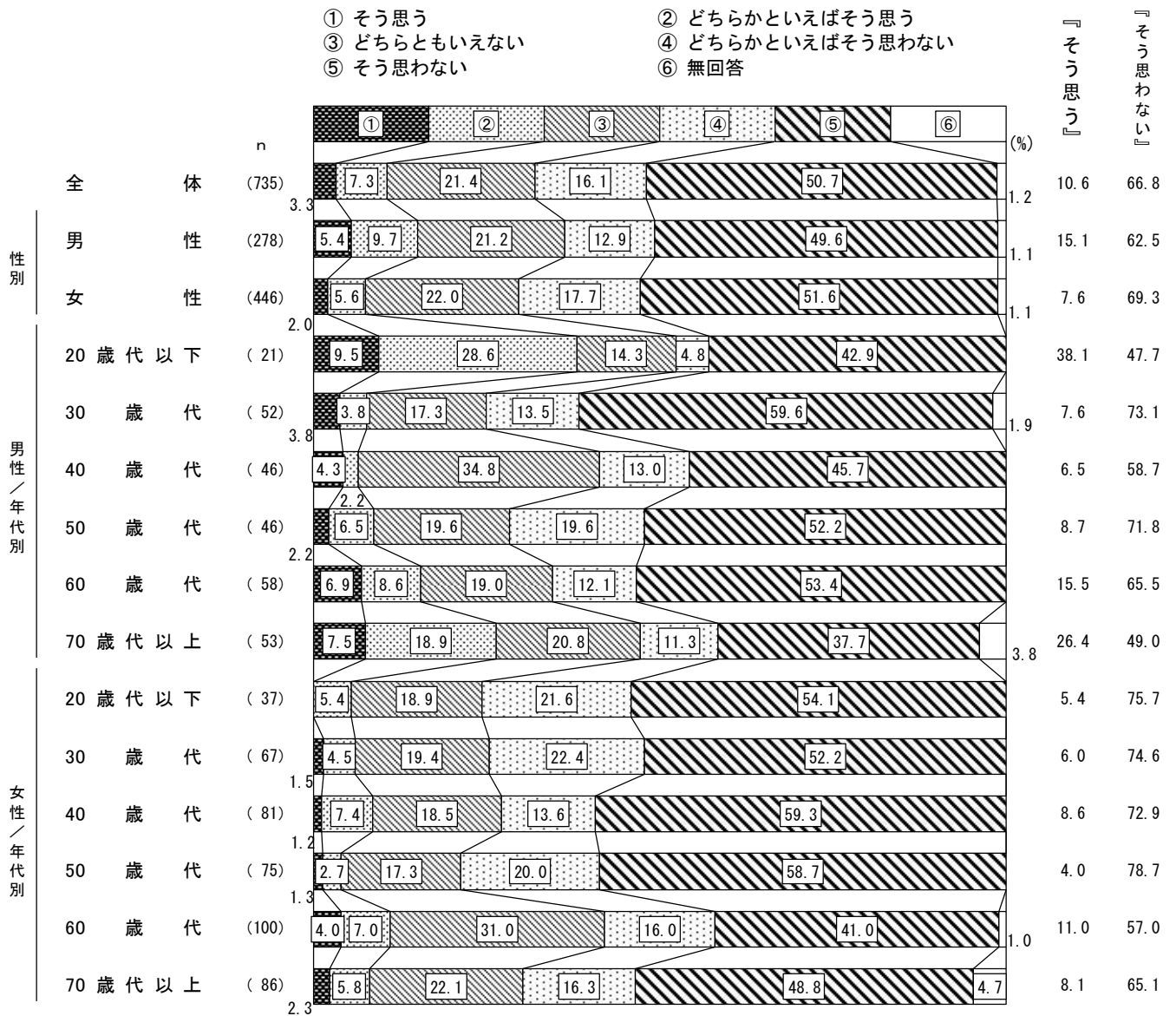
図表 1-1-6

結婚や出産、男女の役割などに対する考え方（d）－内閣府調査（平成26年）との比較



性別で見ると、『そう思う』は男性が女性より7.5ポイント高くなっている。
 性・年代別で見ると、『そう思う』は男性の20歳代以下で4割近くと高くなっている。一方、『そう
 思わない』は女性の50歳代で8割近くと高くなっている。

図表1-1-7 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方(d) - 性・年代別



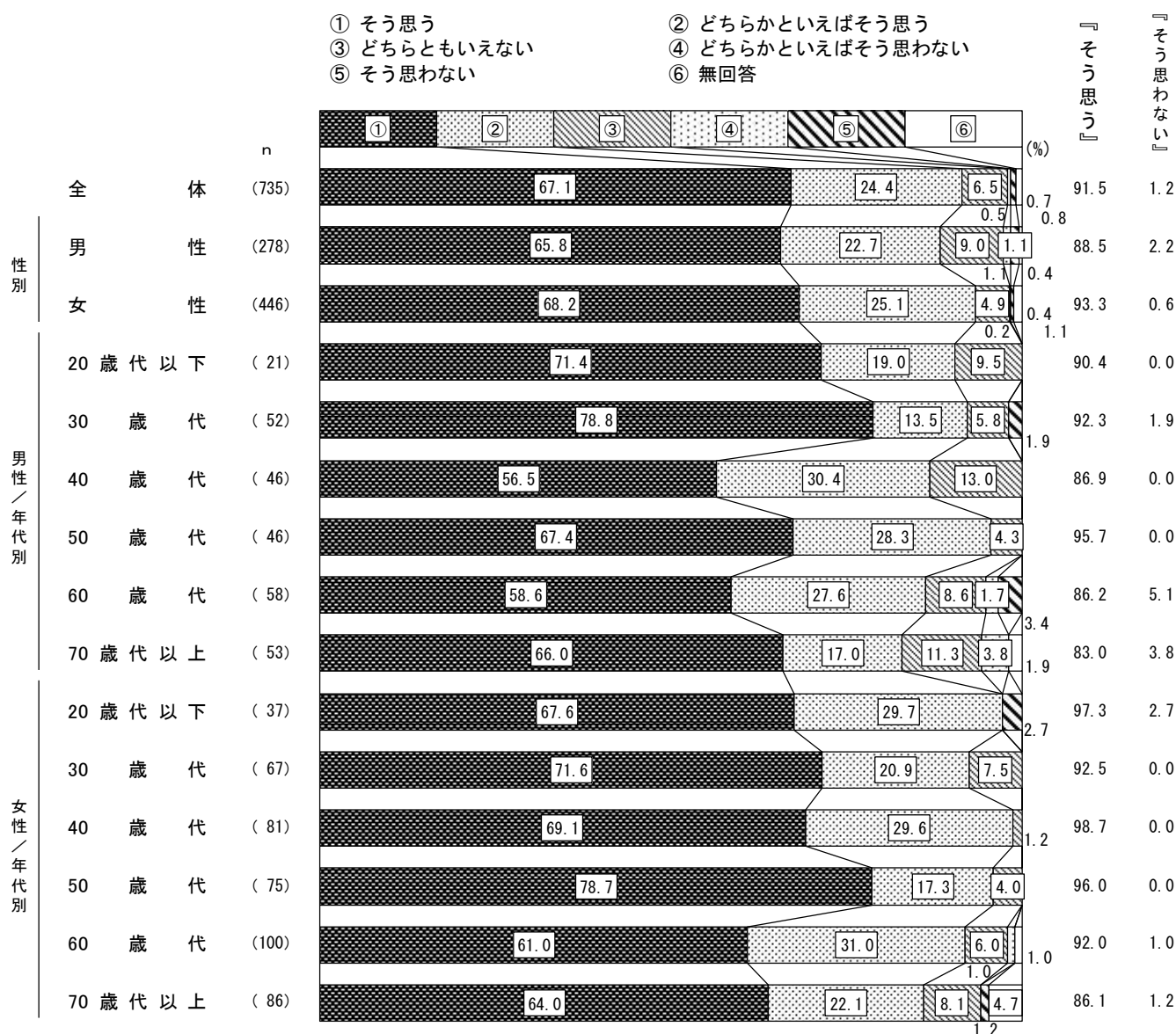
【e 女の子も、経済的に自立ができるように育てるのがよい】

「女の子も、経済的に自立ができるように育てるのがよい」という考え方をどう思うか聞いたところ、「そう思う」(67.1%)と「どちらかと言えばそう思う」(24.4%)を合わせた『そう思う』(91.5%)は9割を超えている。一方、「どちらかと言えばそう思わない」(0.5%)と「そう思わない」(0.7%)を合わせた『そう思わない』は1.2%となっている。

性別でみると、『そう思う』は女性が男性より4.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『そう思う』は女性の20歳代以下と40歳代で10割近くと高くなっている。一方、『そう思わない』はどの区分でも1割未満となっている。

図表1-1-8 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方(e) - 性・年代別



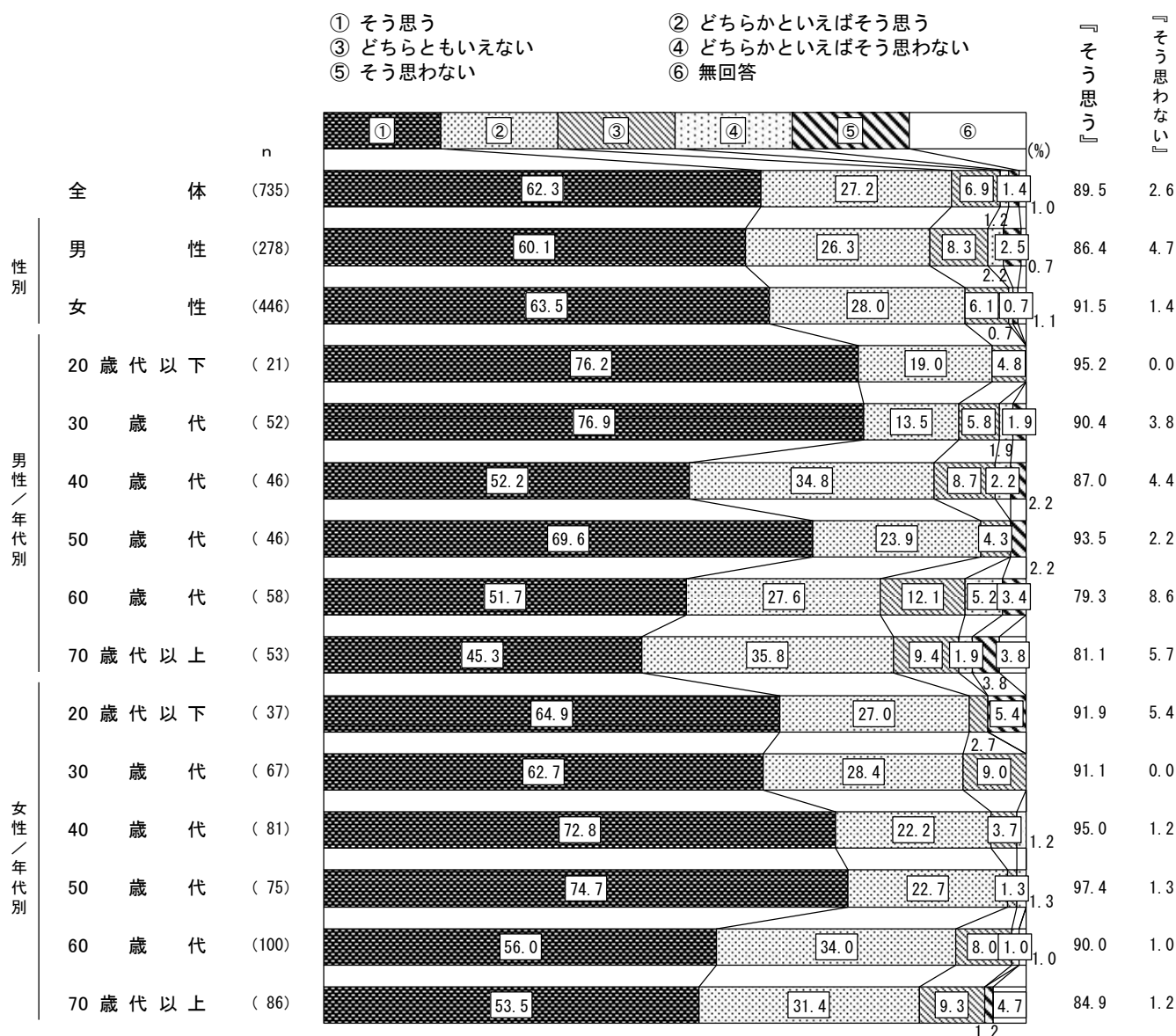
【f 男の子も、家事ができるように育てるのがよい】

「男の子も、家事ができるように育てるのがよい」という考え方をどう思うか聞いたところ、「そう思う」(62.3%)と「どちらかと言えばそう思う」(27.2%)を合わせた『そう思う』(89.5%)は9割となっている。一方、「どちらかと言えばそう思わない」(1.2%)と「そう思わない」(1.4%)を合わせた『そう思わない』は2.6%となっている。

性別でみると、『そう思う』は女性が男性より5.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『そう思う』は女性の50歳代で10割近くと高くなっている。一方、『そう思わない』はどの区分でも1割未満となっている。

図表1-1-9 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方(f) - 性・年代別



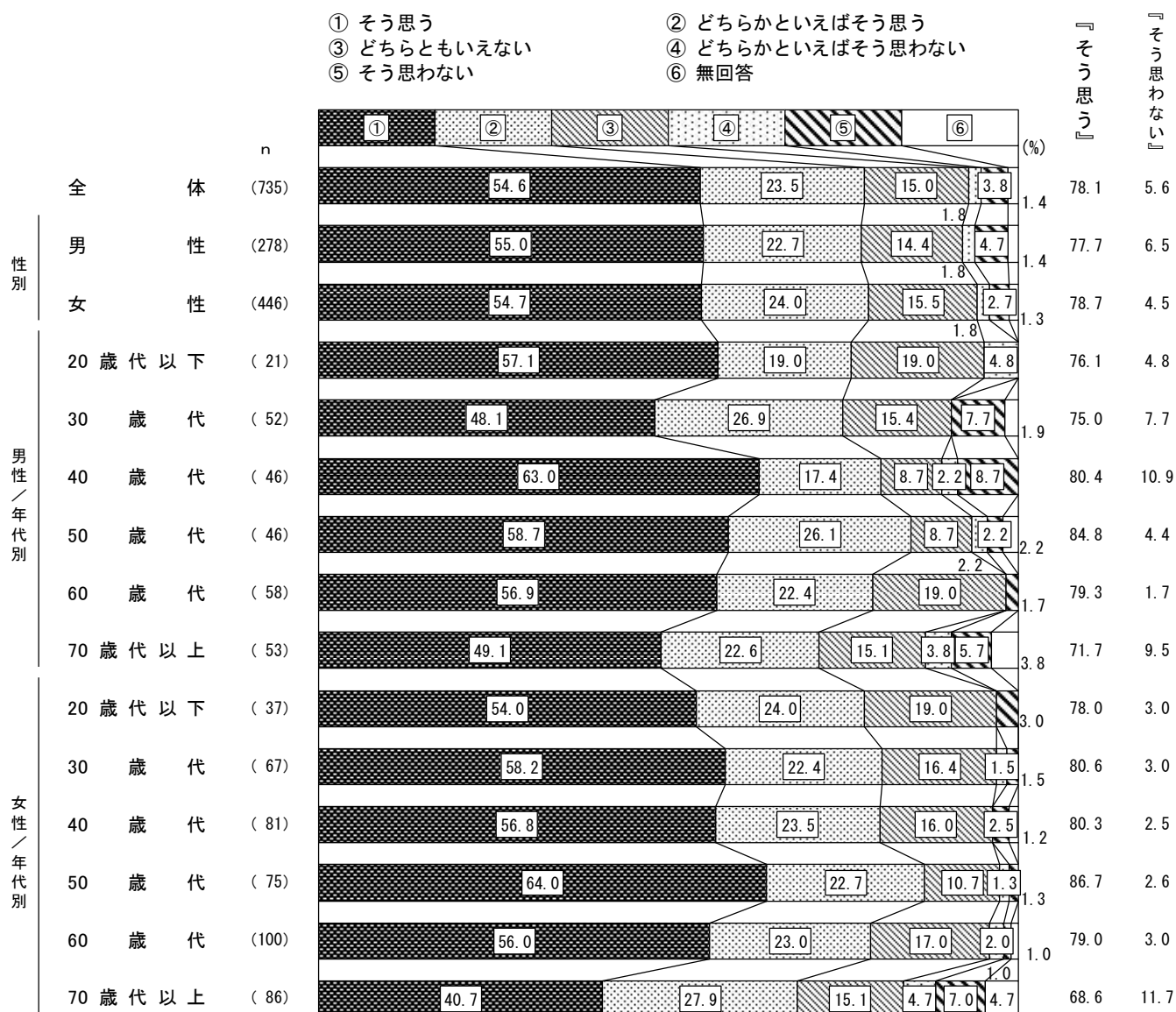
【g 男の子も女の子も同じ程度の学歴を持つ方がよい】

「男の子も女の子も同じ程度の学歴を持つ方がよい」という考え方をどう思うか聞いたところ、「そう思う」(54.6%)と「どちらかと言えばそう思う」(23.5%)を合わせた『そう思う』(78.1%)は8割近くとなっている。一方、「どちらかと言えばそう思わない」(1.8%)と「そう思わない」(3.8%)を合わせた『そう思わない』は5.6%となっている。

性別でみると、『そう思わない』は男性が女性より2.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『そう思う』は女性の50歳代で9割近くと高くなっている。

図表1-1-10 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方(g) - 性・年代別



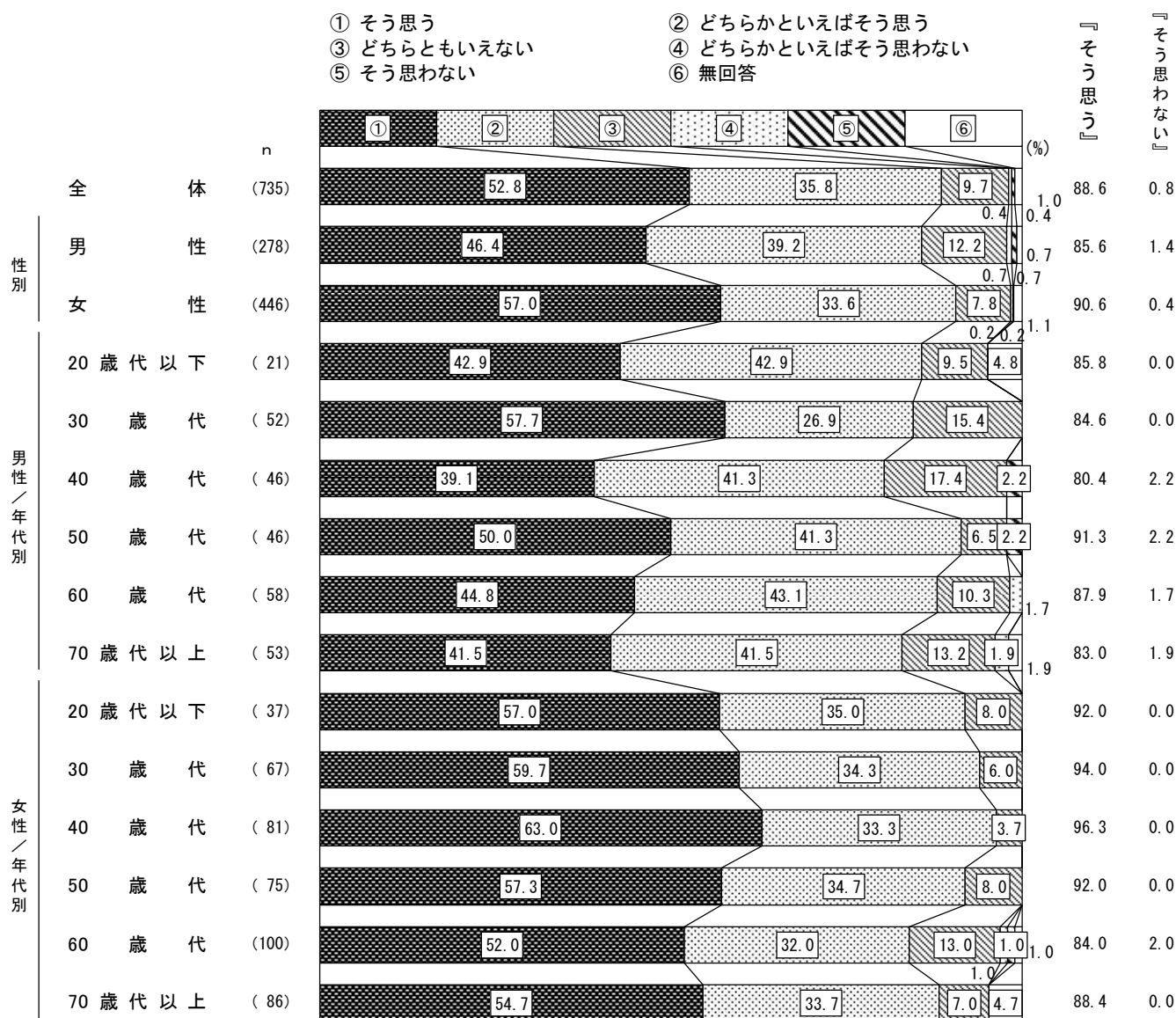
【h 父親はもっと子育てに関わる方がよい】

「父親はもっと子育てに関わる方がよい」という考え方をどう思うか聞いたところ、「そう思う」(52.8%)と「どちらかと言えばそう思う」(35.8%)を合わせた『そう思う』(88.6%)は9割近くとなっている。

性別で見ると、『そう思う』は女性が男性より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う』は女性の30歳代及び40歳代で9割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない』はどの区分でも1割未満となっている。

図表 1-1-11 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方 (h) - 性・年代別



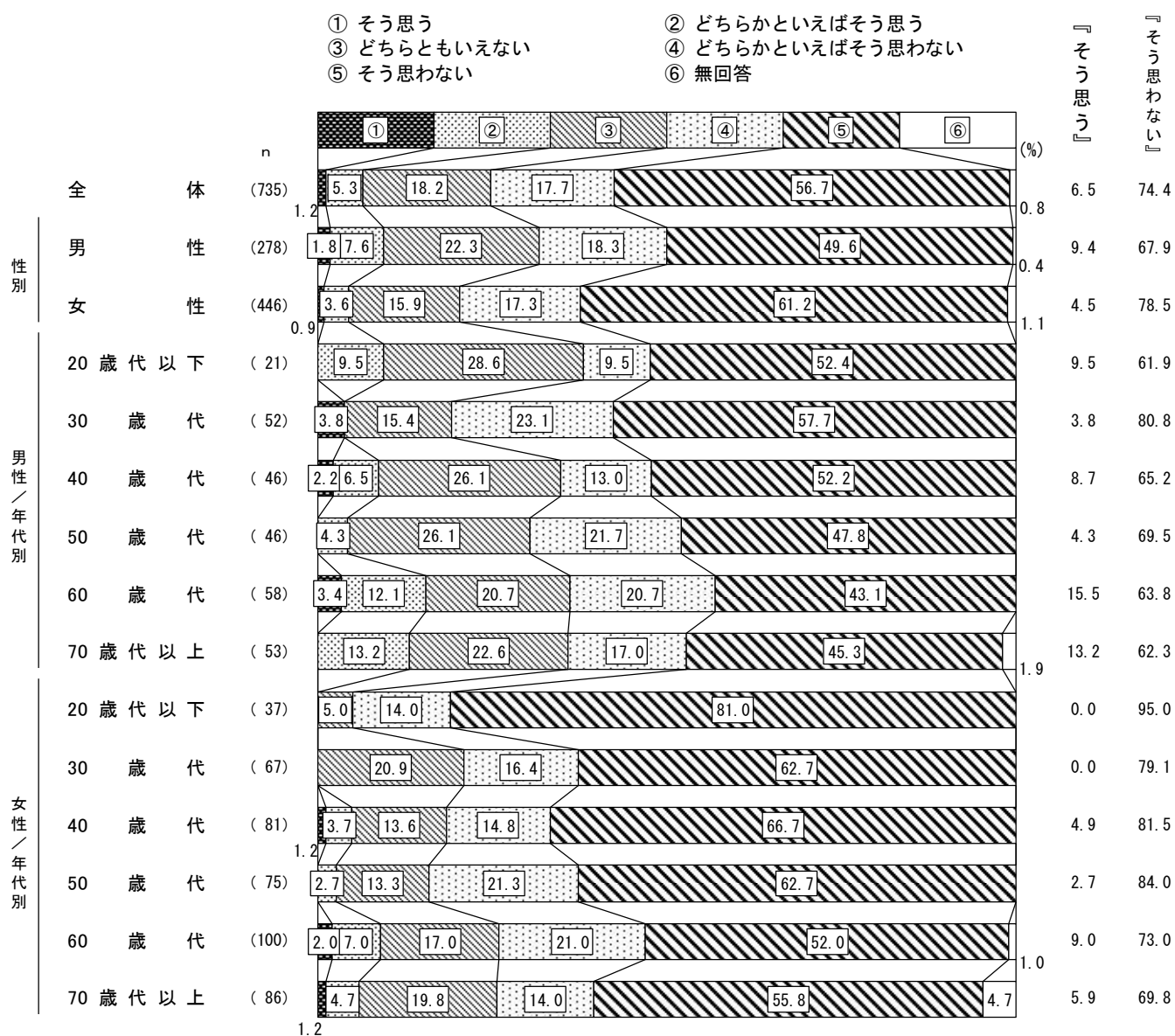
【i 家事は女性の仕事だから、共働きでも女性がする方がよい】

「家事は女性の仕事だから、共働きでも女性がする方がよい」という考え方をどう思うか聞いたところ、「そう思う」(1.2%)と「どちらかと言えばそう思う」(5.3%)を合わせた『そう思う』は6.5%となっている。一方、「どちらかと言えばそう思わない」(17.7%)と「そう思わない」(56.7%)を合わせた『そう思わない』(74.4%)は7割半ばとなっている。

性別でみると、『そう思わない』は女性が男性より10.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『そう思わない』は女性の20歳代以下で9割半ばと高くなっている。

図表1-1-12 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方(i) - 性別、性・年代別



② 家庭での家事分担

問2 あなたのご家庭では、次にあげる家事はどなたが行っていますか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

家庭での家事は主にどなたが行っているか聞いたところ、すべての項目で「自分」が最も高く、“d 洗濯”（59.2%）と“b 食事の後片付け”（59.0%）ではほぼ6割と高くなっている。

前回調査と比較すると、“e 日用品の買い物”は「配偶者」が9.1ポイント減少し、“a 食事のしたく”でも「配偶者」が8.4ポイント減少している。

図表1-2-1 家庭での家事の分担—過年度比較

平成30年度 n=735 平成25年度 n=797	父	母	自分	配偶者	配偶者の	配偶者の娘	息子	娘	分一部・交代制で	分みんな交代制	サービスの利用	その他	やっていない	無回答	(%)
a) 食事のしたく	0.1	12.2	58.5	12.9	-	-	0.4	1.0	4.1	5.7	0.7	1.4	0.4	2.6	
	0.6	11.0	57.3	21.3	0.3	0.0	0.3	0.6	-	4.5	0.1	2.1	-	1.8	
b) 食事の後片付け	0.4	8.6	59.0	11.8	-	-	0.3	0.5	4.8	9.5	0.5	1.5	0.3	2.7	
	1.3	8.0	56.7	19.3	0.3	0.1	1.1	0.5	-	8.4	0.1	2.3	-	1.9	
c) 掃除	0.5	9.7	58.1	10.9	-	-	0.3	0.7	5.9	9.8	0.3	1.2	0.3	2.4	
	1.6	7.2	58.3	17.6	0.3	0.0	0.4	0.4	-	9.0	0.3	2.3	-	2.8	
d) 洗濯	0.4	11.6	59.2	13.1	0.1	-	0.3	0.4	4.8	6.4	0.3	1.4	-	2.2	
	1.3	9.3	59.0	20.2	0.3	0.0	0.1	0.5	-	5.5	0.0	1.8	-	2.1	
e) 日用品の買い物	0.5	8.0	58.6	9.3	-	-	0.4	0.5	6.1	10.9	0.3	1.9	-	3.4	
	1.3	8.9	56.5	18.4	0.4	0.0	0.4	0.9	-	8.2	0.3	2.6	-	2.3	
f) ゴミ出し	3.3	8.4	55.2	14.6	-	-	0.5	0.7	5.2	8.4	0.3	0.8	0.1	2.4	
	3.9	7.5	54.6	20.5	0.4	0.1	0.8	0.3	-	7.7	0.0	2.4	-	2.0	
g) 育児	-	4.6	16.7	4.4	0.4	0.1	-	0.8	3.4	6.9	-	5.3	39.2	18.1	
	0.3	4.8	19.8	8.7	1.0	0.0	0.0	1.1	-	5.4	0.1	12.4	-	46.4	
h) 介護	-	4.6	16.7	4.4	0.4	0.1	-	0.8	3.4	6.9	-	5.3	39.2	18.1	
	0.5	2.5	10.3	3.1	0.0	0.0	0.4	0.1	-	2.5	1.8	20.7	-	58.1	

※「一部の家族で分担・交代制」と「誰もやっていない」は平成30年度から追加された選択肢である。

F5で「ひとり暮らし」と回答した方以外に着目すると、すべての項目で「自分」が最も高く、“d 洗濯” (47.5%)、“b 食事の後片付け” (47.1%)、“a 食事のしたく” (46.7%)、“e 日用品の買い物” (46.5%)、“c 掃除” (45.9%) で5割近くと高くなっている。

図表1-2-2 家庭での家事分担（ひとり暮らしを除く）

n = 501	(%)													
	父	母	自分	配偶者	配偶者の息子	配偶者の娘	息子	娘	一部の家族で分担・交代制	みんな交代制	サービスの利用	その他	やっていない	無回答
a) 食事のしたく	0.0	14.8	46.7	19.0	0.0	0.0	0.6	1.4	5.4	8.0	0.4	1.4	0.4	2.0
b) 食事の後片付け	0.6	10.0	47.1	17.2	0.0	0.0	0.4	0.8	6.0	13.8	0.2	1.6	0.4	2.0
c) 掃除	0.8	11.0	45.9	16.0	0.0	0.0	0.4	0.8	7.8	13.8	0.2	1.4	0.2	1.8
d) 洗濯	0.6	13.0	47.5	19.2	0.2	0.0	0.4	0.6	6.4	9.0	0.2	1.6	0.0	1.4
e) 日用品の買い物	0.8	8.8	46.5	13.2	0.0	0.0	0.6	0.8	8.4	15.6	0.0	2.4	0.0	3.0
f) ゴミ出し	4.2	9.6	41.1	21.4	0.0	0.0	0.8	0.8	7.0	12.2	0.2	1.0	0.2	1.6
g) 育児	0.0	5.0	21.2	5.6	0.6	0.2	0.0	0.8	4.8	9.8	0.0	4.4	34.1	13.6
h) 介護	0.8	1.8	10.4	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	3.8	1.2	4.6	61.5	12.2

性・配偶者の有無別でみると、配偶者がいる女性では、“h 介護”以外の項目では「自分」が最も高く、“a 食事のしたく”が8割近く、“d 洗濯”が7割半ばと高くなっている。

配偶者がいる男性では、“f ゴミ出し”では「自分」が4割近くと高くなっている。その他の項目では“g 育児”と“h 介護”を除いて「配偶者」が最も高くなっている。

配偶者がいない女性では、“g 育児”と“h 介護”以外の項目では「自分」が最も高く、“e 日用品の買い物”が5割半ばと高くなっている。

配偶者がいない男性では、“g 育児”と“h 介護”以外の項目では「自分」が最も高く、“f ゴミ出し”で4割を超えて高くなっている。

図表 1-2-3 家庭での家事分担一性・配偶者の有無別（ひとり暮らしを除く）

【配偶者がいる・女性】

n = 208														(%)	
	父	母	自分	配偶者	配偶者の息子者	配偶者の娘の	息子	娘	分一部・家族制で	分みんな代制	サービスの利用	その他	やっていない	無回答	
a) 食事のしたく	0.0	6.7	77.4	3.8	0.0	0.0	0.0	0.5	4.8	4.3	0.5	0.0	0.0	1.9	
b) 食事の後片付け	1.0	5.3	63.9	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	9.1	0.0	0.0	0.0	2.4	
c) 掃除	1.0	4.3	67.8	7.2	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	12.0	0.0	0.0	0.0	1.0	
d) 洗濯	0.5	4.8	76.4	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	6.3	0.0	0.0	0.0	1.4	
e) 日用品の買い物	0.0	4.8	68.3	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	12.0	0.0	1.0	0.0	3.4	
f) ゴミ出し	2.9	3.4	40.4	33.7	0.0	0.0	0.5	1.0	6.3	10.1	0.0	0.5	0.0	1.4	
g) 育児	0.0	3.8	37.5	1.4	0.5	0.0	0.0	0.0	6.3	9.1	0.0	3.4	25.5	12.5	
h) 介護	0.5	1.9	10.1	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	3.8	1.4	2.9	63.0	12.0	

【配偶者がいる・男性】

n = 137														(%)	
	父	母	自分	配偶者	配偶者の息子者	配偶者の娘の	息子	娘	分一部・家族制で	分みんな代制	サービスの利用	その他	やっていない	無回答	
a) 食事のしたく	0.0	10.9	5.8	59.9	0.0	0.0	0.0	1.5	5.8	11.7	0.0	1.5	0.0	2.9	
b) 食事の後片付け	0.7	9.5	21.9	38.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	17.5	0.0	0.7	0.0	2.9	
c) 掃除	1.5	10.2	13.9	44.5	0.0	0.0	0.0	0.7	8.0	17.5	0.7	0.7	0.0	2.2	
d) 洗濯	0.7	10.2	8.0	56.9	0.0	0.0	0.0	0.7	7.3	12.4	0.0	1.5	0.0	2.2	
e) 日用品の買い物	0.7	8.8	12.4	40.9	0.0	0.0	0.0	0.7	9.5	19.0	0.0	3.6	0.0	4.4	
f) ゴミ出し	6.6	8.0	37.2	25.5	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3	13.1	0.0	0.0	0.0	2.2	
g) 育児	0.0	4.4	0.7	17.5	0.7	0.7	0.0	2.2	6.6	16.1	0.0	5.1	32.1	13.9	
h) 介護	1.5	0.0	2.9	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	3.6	0.0	4.4	67.2	13.1	

図表 1-2-3 家庭での家事分担一性・配偶者の有無別（ひとり暮らしを除く） 続き

【配偶者がいない・女性】

(%)

n = 98	父	母	自分	配偶者	配偶者の息子	配偶者の娘	息子	娘	一部の家族で分担・交代制	みんな交代制	サービスの利用	その他	やっていない誰も	無回答
a) 食事のしたく	0.0	25.5	46.9	0.0	0.0	0.0	2.0	4.1	4.1	10.2	1.0	3.1	1.0	2.0
b) 食事の後片付け	0.0	12.2	52.0	1.0	0.0	0.0	2.0	4.1	6.1	15.3	0.0	6.1	1.0	0.0
c) 掃除	0.0	18.4	50.0	0.0	0.0	0.0	2.0	3.1	7.1	14.3	0.0	2.0	0.0	3.1
d) 洗濯	1.0	19.4	52.0	0.0	1.0	0.0	2.0	2.0	7.1	10.2	1.0	3.1	0.0	1.0
e) 日用品の買い物	1.0	12.2	55.1	0.0	0.0	0.0	3.1	3.1	7.1	14.3	0.0	3.1	0.0	1.0
f) ゴミ出し	2.0	18.4	48.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	7.1	16.3	1.0	1.0	0.0	2.0
g) 育児	0.0	6.1	25.5	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	6.1	0.0	5.1	41.8	13.3
h) 介護	1.0	3.1	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1	3.1	6.1	57.1	12.2

【配偶者がいない・男性】

(%)

n = 46	父	母	自分	配偶者	配偶者の息子	配偶者の娘	息子	娘	一部の家族で分担・交代制	みんな交代制	サービスの利用	その他	やっていない誰も	無回答
a) 食事のしたく	0.0	43.5	26.1	4.3	0.0	0.0	2.2	0.0	10.9	6.5	0.0	4.3	2.2	0.0
b) 食事の後片付け	0.0	30.4	37.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	19.6	0.0	2.2	2.2	2.2
c) 掃除	0.0	30.4	32.6	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	8.7	0.0	6.5	2.2	2.2
d) 洗濯	0.0	47.8	21.7	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	6.5	0.0	4.3	0.0	0.0
e) 日用品の買い物	4.3	21.7	30.4	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	21.7	0.0	2.2	0.0	2.2
f) ゴミ出し	8.7	26.1	41.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	8.7	0.0	6.5	2.2	0.0
g) 育児	0.0	10.9	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	63.0	15.2
h) 介護	0.0	4.3	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	6.5	50.0	8.7

図表 1-2-4 家庭での家事分担一性・配偶者の有無・子どもの有無別（ひとり暮らしを除く）

【配偶者がいる・女性・子どもがいる】

(%)

n = 173	父	母	自分	配偶者	配偶者の息子	配偶者の娘	息子の息子	娘の娘	分一部の家制で	分みなで制	サービスの利用	その他	やっていない	誰もいない	無回答
a) 食事のしたく	0.0	8.1	76.9	3.5	0.0	0.0	0.0	0.6	5.8	2.9	0.6	0.0	0.0	0.0	1.7
b) 食事の後片付け	1.2	6.4	64.7	12.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.4	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
c) 掃除	1.2	5.2	67.6	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	8.1	9.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
d) 洗濯	0.6	5.8	76.9	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
e) 日用品の買い物	0.0	5.8	68.2	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	11.0	0.0	0.6	0.0	0.0	3.5
f) ゴミ出し	3.5	4.0	40.5	32.4	0.0	0.0	0.6	1.2	7.5	9.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
g) 育児	0.0	4.6	44.5	1.7	0.6	0.0	0.0	0.0	7.5	11.0	0.0	3.5	16.8	9.8	9.8
h) 介護	0.6	2.3	11.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	3.5	1.2	3.5	63.0	9.8	9.8

【配偶者がいる・女性・子どもがいない】

(%)

n = 35	父	母	自分	配偶者	配偶者の息子	配偶者の娘	息子の息子	娘の娘	分一部の家制で	分みなで制	サービスの利用	その他	やっていない	誰もいない	無回答
a) 食事のしたく	0.0	0.0	80.0	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
b) 食事の後片付け	0.0	0.0	60.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7
c) 掃除	0.0	0.0	68.6	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
d) 洗濯	0.0	0.0	74.3	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
e) 日用品の買い物	0.0	0.0	68.6	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	17.1	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9
f) ゴミ出し	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9
g) 育児	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	68.6	25.7	25.7
h) 介護	2.4	0.0	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3	0.0	4.9	68.3	9.8	9.8

図表 1-2-4

家庭での家事分担一性・配偶者の有無・子どもの有無別（ひとり暮らしを除く） 続き

【配偶者がいる・男性・子どもがいる】

(%)

n = 107	父	母	自分	配偶者	配偶者の息子	配偶者の娘	息子	娘	一部の家族で分担・交代制	みんな交代制	サービスの利用	その他	やっていない誰も	無回答
a) 食事のしたく	0.0	12.1	4.7	61.7	0.0	0.0	0.0	1.9	7.5	8.4	0.0	0.9	0.0	2.8
b) 食事の後片付け	0.9	10.3	17.8	42.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.3	15.9	0.0	0.9	0.0	2.8
c) 掃除	1.9	11.2	15.0	45.8	0.0	0.0	0.0	0.9	10.3	12.1	0.0	0.9	0.0	1.9
d) 洗濯	0.9	12.1	6.5	59.8	0.0	0.0	0.0	0.9	8.4	7.5	0.0	1.9	0.0	1.9
e) 日用品の買い物	0.9	10.3	11.2	41.1	0.0	0.0	0.0	0.9	11.2	15.9	0.0	3.7	0.0	4.7
f) ゴミ出し	7.5	9.3	34.6	29.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.5	10.3	0.0	0.0	0.0	1.9
g) 育児	0.0	5.6	0.9	22.4	0.9	0.9	0.0	2.8	8.4	19.6	0.0	4.7	22.4	11.2
h) 介護	1.9	0.0	2.8	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	4.7	0.0	4.7	66.4	11.2

【配偶者がいる・男性・子どもがいない】

(%)

n = 29	父	母	自分	配偶者	配偶者の息子	配偶者の娘	息子	娘	一部の家族で分担・交代制	みんな交代制	サービスの利用	その他	やっていない誰も	無回答
a) 食事のしたく	0.0	6.9	6.9	55.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.1	0.0	3.4	0.0	3.4
b) 食事の後片付け	0.0	6.9	34.5	27.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	24.1	0.0	0.0	0.0	3.4
c) 掃除	0.0	6.9	6.9	41.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.9	3.4	0.0	0.0	3.4
d) 洗濯	0.0	3.4	10.3	48.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	31.0	0.0	0.0	0.0	3.4
e) 日用品の買い物	0.0	3.4	13.8	41.4	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	31.0	0.0	3.4	0.0	3.4
f) ゴミ出し	3.4	3.4	44.8	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	24.1	0.0	0.0	0.0	3.4
g) 育児	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	6.9	69.0	20.7
h) 介護	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	72.4	17.2

■「ゴミ出し」以外、明確に女性の方が高い割合となっている。配偶者がいない男性では「自分」で家事をするという回答が多いのに対して、配偶者がいる男性では自分よりも配偶者の方が家事をする割合が高く、またどの区分においても父は家事をほとんどしていないという結果であるため、結婚を機に、家事を女性に任せるようになる傾向がみられる。

(3) 子育て・教育について

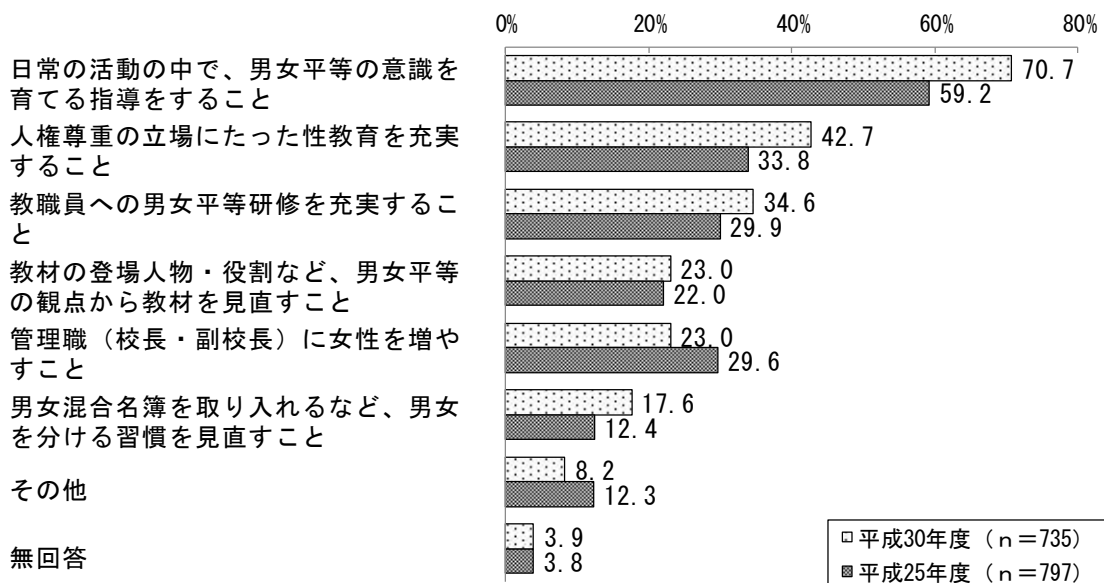
① 学校教育の場で必要なこと

問3 学校教育の場で、特にどのようなことに力を入れる必要があると思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

学校教育の場で、どのようなことに力を入れる必要があると思うか聞いたところ、「日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導をすること」(70.7%)がほぼ7割と最も高く、次いで、「人権尊重の立場にたった性教育を充実すること」(42.7%)、「教職員への男女平等研修を充実すること」(34.6%)などとなっている。

前回調査と比較すると、「日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導をすること」は11.5ポイント増加し、「人権尊重の立場にたった性教育を充実すること」は8.9ポイント増加している。

図表 1-3-1 学校教育の場で必要なこと一過年度比較



■前回調査と比較すると、「男女平等の意識」「人権尊重の性教育」などの回答が増加し、「女性管理職を増やす」の回答が減少していることから、女性管理職を増やすという是正措置よりも、まず意識面の教育に力を入れるべき、という傾向がみられる。

(4) 職業・職場について

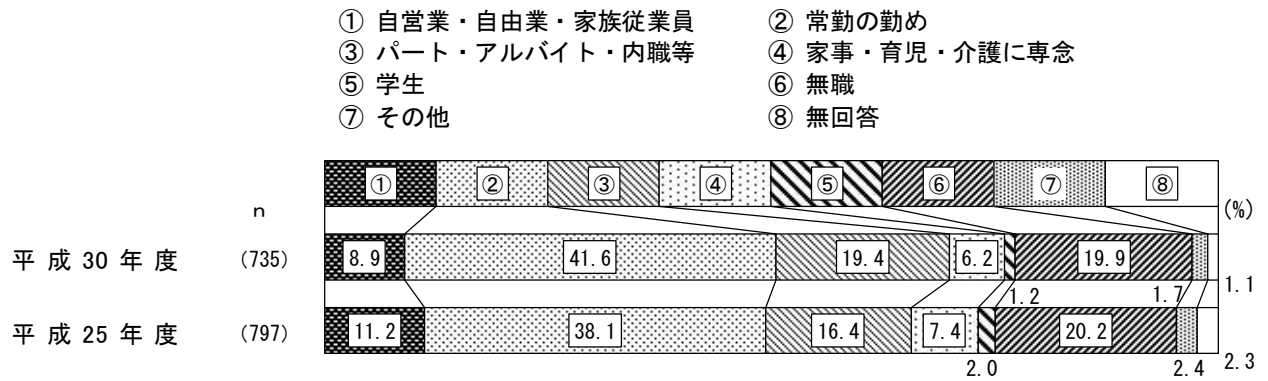
① 職業

問4 あなたの職業は次のうちどれですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

職業を聞いたところ、「常勤の勤め」(41.6%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「無職」(19.9%)、「パート・アルバイト・内職等」(19.4%)などとなっている。

前回調査と比較すると、「常勤の勤め」は3.5ポイント増加し、「パート・アルバイト・内職等」は3.0ポイント増加している。

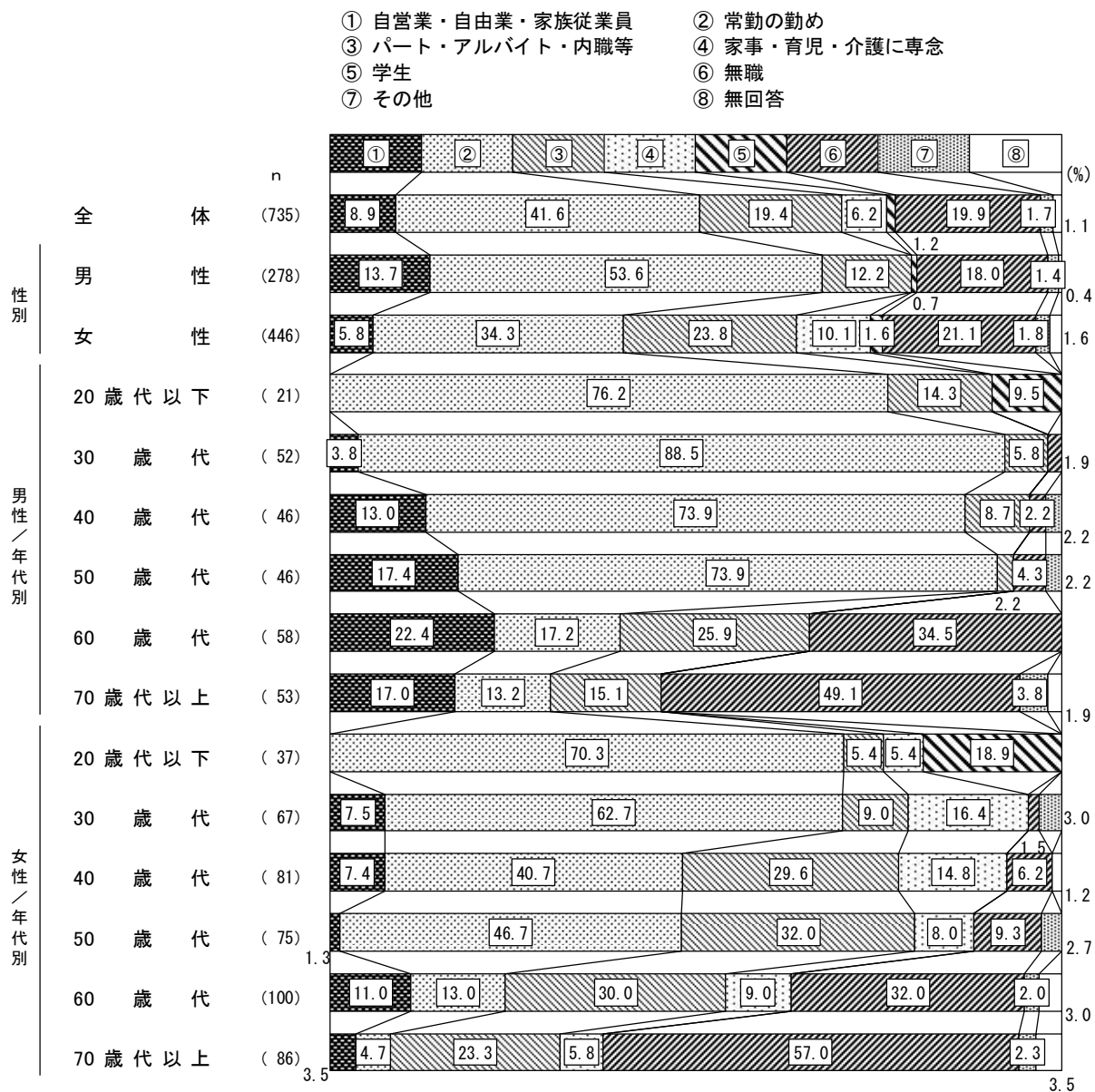
図表1-4-1 職業一過年度比較



性別で見ると、「常勤の勤め」は男性が女性より19.3ポイント高くなっている。一方、「パート・アルバイト・内職等」は女性が男性より11.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「常勤の勤め」は男女ともにおおむね低い年代ほど割合が高く、男性の30歳代で9割近く、男性の20歳代以下で7割半ば、女性の20歳代以下で7割と高くなっている。

図表1-4-2 職業—性別、性・年代別



	n	自営業・自由業・家族従業員	常勤の勤め	パート・アルバイト・内職等	家事・育児・介護に専念	学生	無職	その他	無回答
女性・子どもがいる	(275)	5.5	25.5	30.5	13.8	-	21.8	1.5	1.5
70歳代以上・ひとり暮らし	(53)	3.8	3.8	22.6	1.9	-	60.4	1.9	5.7

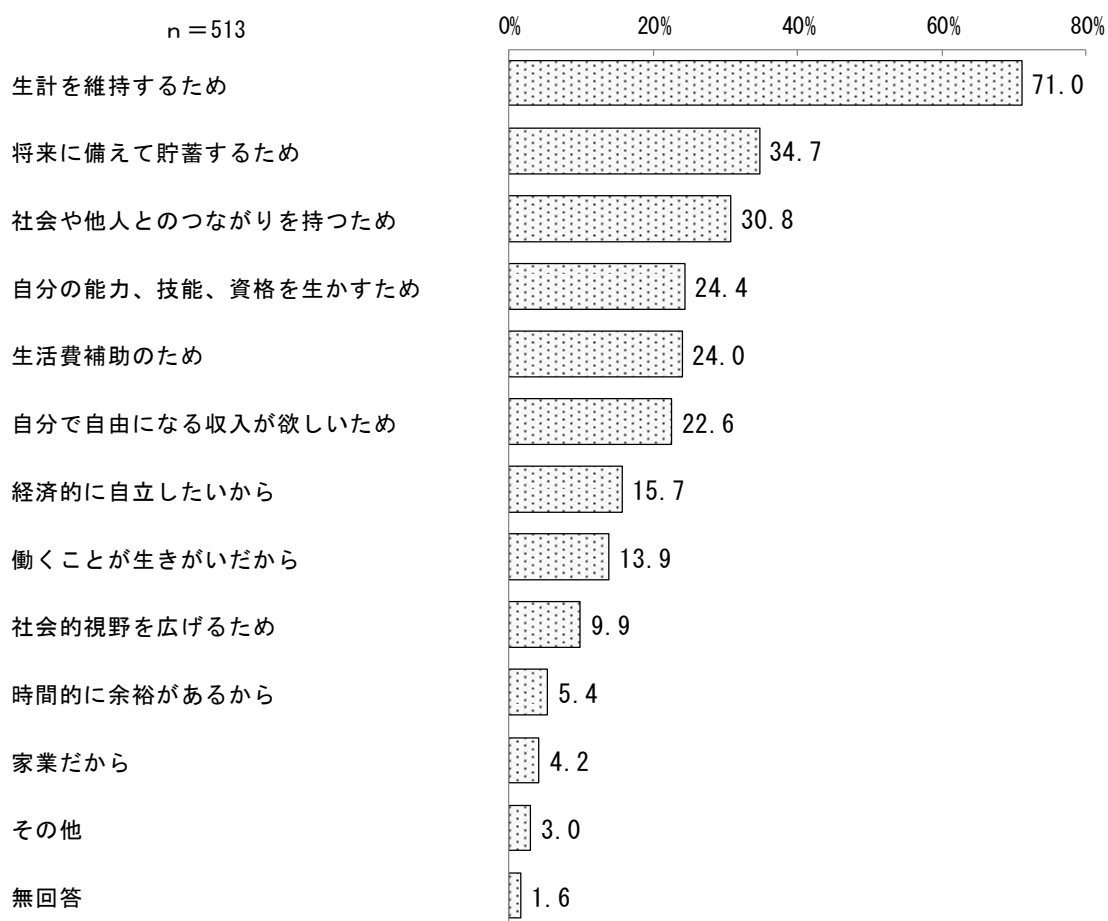
② 働いている理由

(問4で「1 自営業・自由業・家族従業員」「2 常勤の勤め」「3 パート・アルバイト・内職等」とお答えした方にお聞きします。)

問4-1 あなたが働いている理由にあてはまる番号に3つまで○をつけてください。

問4で、「自営業・自由業・家族従業員」、「常勤の勤め」、「パート・アルバイト・内職等」と答えた方に、働いている理由を聞いたところ、「生計を維持するため」(71.0%)が7割を超え、「将来に備えて貯蓄するため」(34.7%)が3割半ばとなっている。

図表1-4-1-1 働いている理由

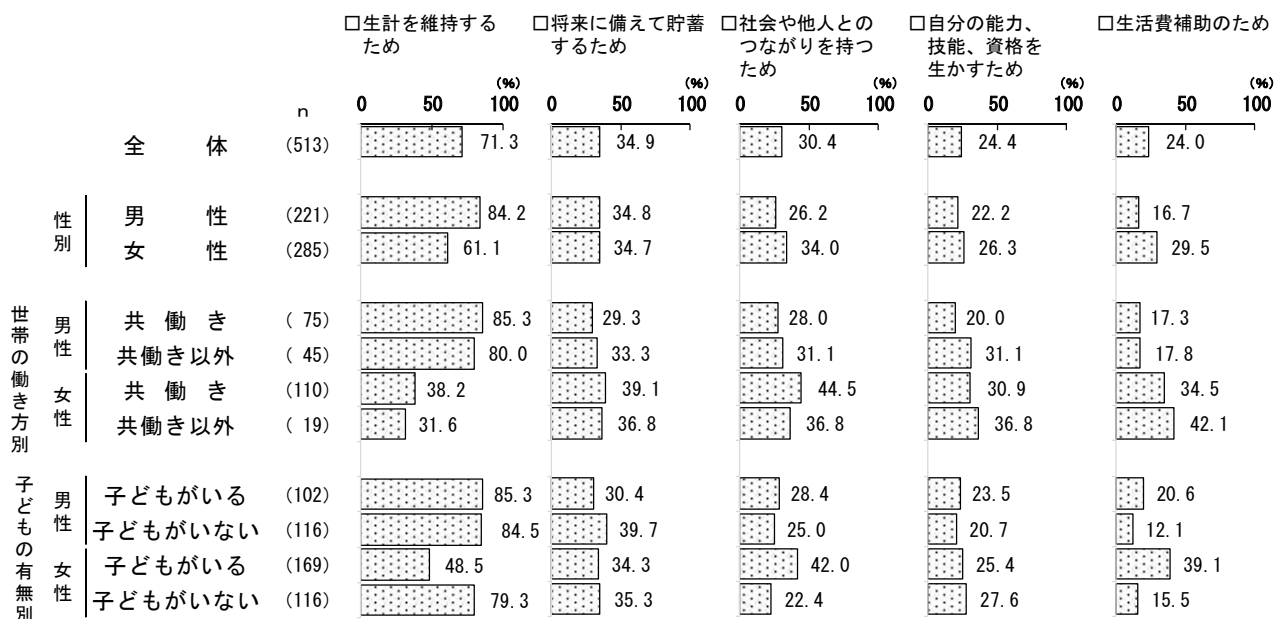


性別でみると、「生計を維持するため」は男性が女性より23.1ポイント高くなっている。

性・世帯の働き方でみると、「生計を維持するため」は“男性の共働き”で8割半ばと高くなっている。「社会や他人とのつながりを持つため」は“女性の共働き”で4割半ばと高くなっている。

性・子どもの有無別でみると、「生計を維持するため」は“子どもがいる女性”が“子どもがいない女性”より30.8ポイント低くなっている。一方、「生活費補助のため」は“子どもがいる女性”が“子どもがいない女性”より23.6ポイント高くなっている。

図表 1-4-1-2 働いている理由—性別、性・世帯の働き方別、性・子どもの有無別



■男性は「生計を維持」、女性は「生活費補助」「社会や他人とのつながり」が高くなっており、「稼ぐのは主に男性」という考えを持つ女性が一定数いることが伺える。

③ 就業経験の有無

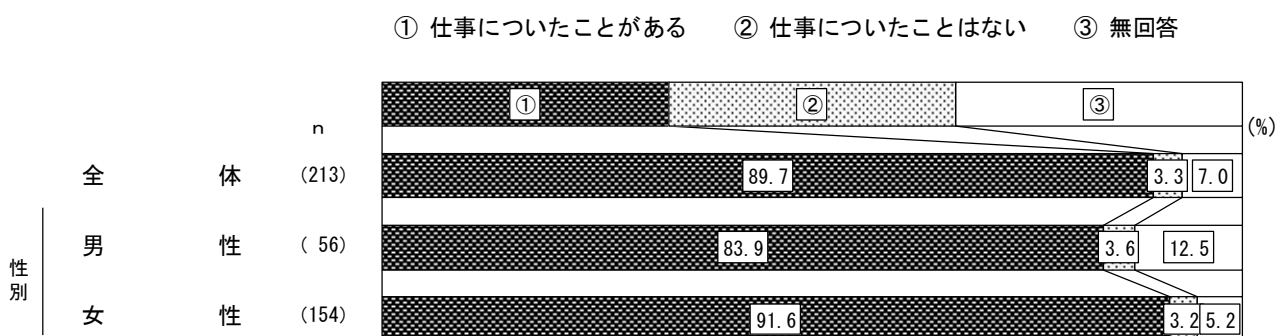
(問5・問5-1は、現在、働いていない方のみお答えください。)

問5 あなたは、今までに仕事についてことがありますか。

今までに仕事についてことがあるかを聞いたところ、「仕事についてことがある」(89.7%)が9割となっている。

性別でみると、「仕事についてことがある」は女性が男性より7.7ポイント高くなっている。

図表1-5-1 就業経験の有無-性別

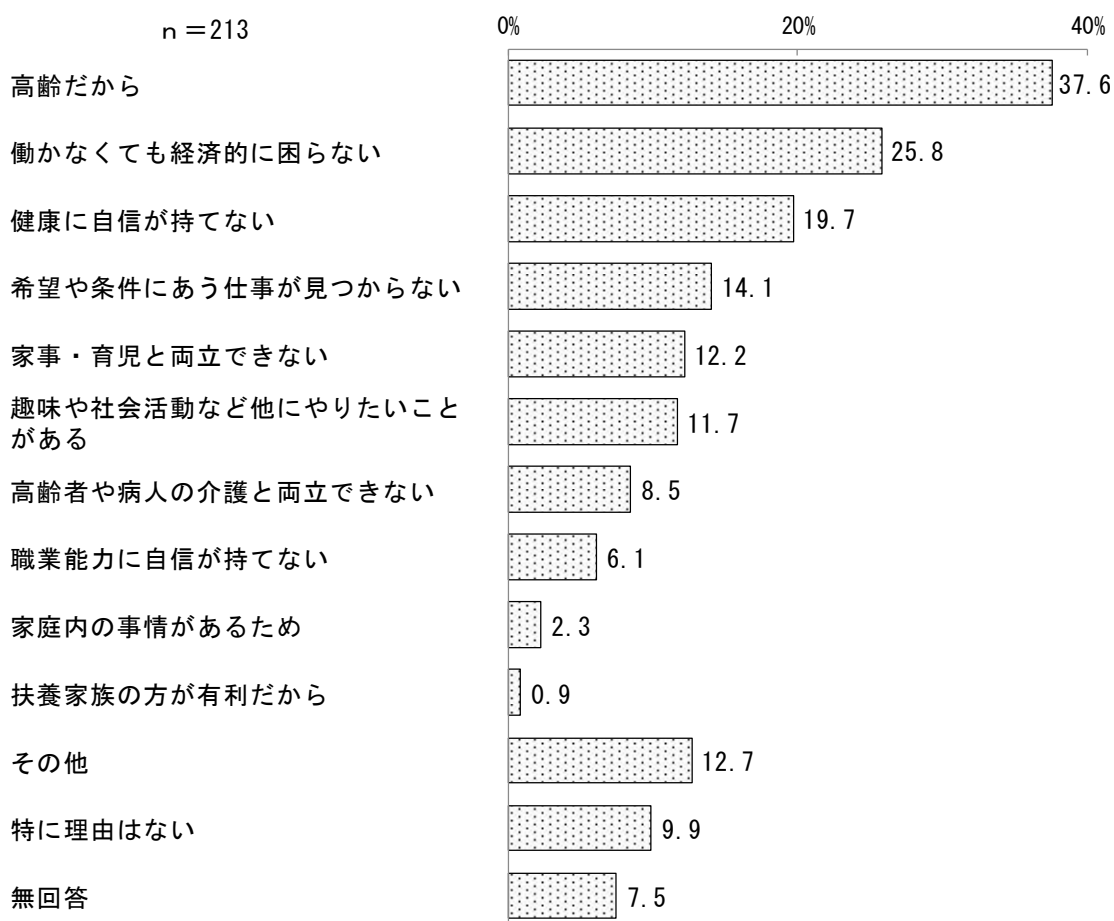


④ 働いていない理由

問5-1 あなたが、現在働いていない理由は、次のどれにあたりますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

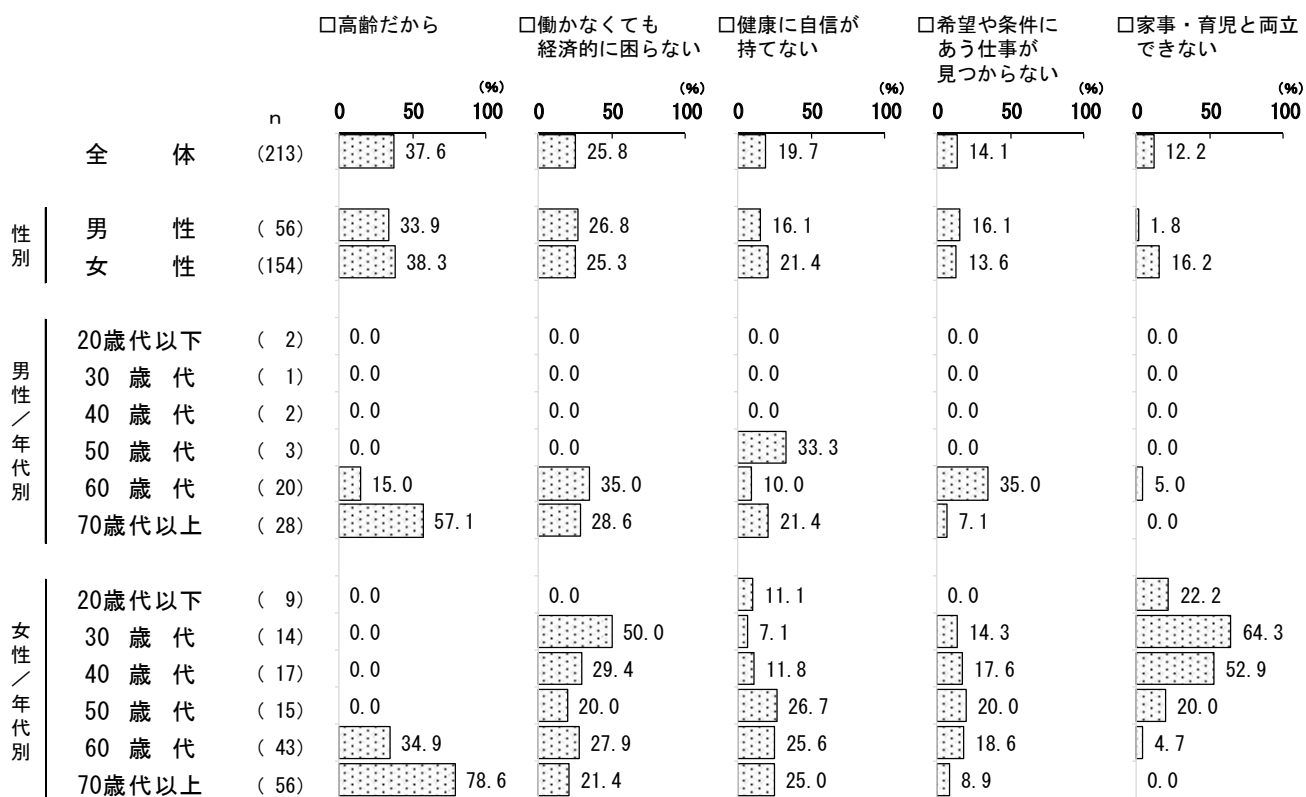
現在働いていない理由を聞いたところ、「高齢だから」(37.6%)が4割近くと最も高くなっている。次いで、「働かなくても経済的に困らない」(25.8%)、「健康に自信が持てない」(19.7%)、「希望や条件にあう仕事が見つからない」(14.1%)などとなっている。

図表1-5-1-1 働いていない理由



性別でみると、「家事・育児と両立できない」は女性が男性より14.4ポイント高くなっている。

図表 1-5-1-2 職業経験の有無—性・年代別



⑤ 望ましい女性の働き方

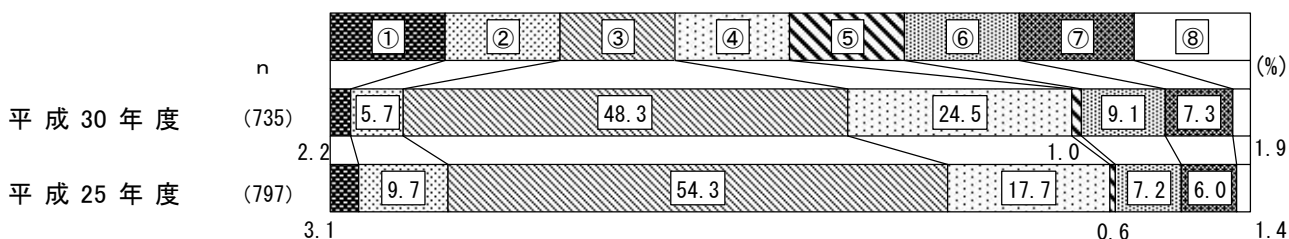
問6 一般的に女性が仕事をする事について、あなたが望ましいと思うのは次のうちどれですか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

女性が仕事をする事について、望ましいと思うのはどれか聞いたところ、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をする」(48.3%)が5割近くと最も高く、次いで、「結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする」(24.5%)などとなっている。

前回調査と比較すると、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をする」は6.0ポイント減少し、「結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする」が6.8ポイント増加している。

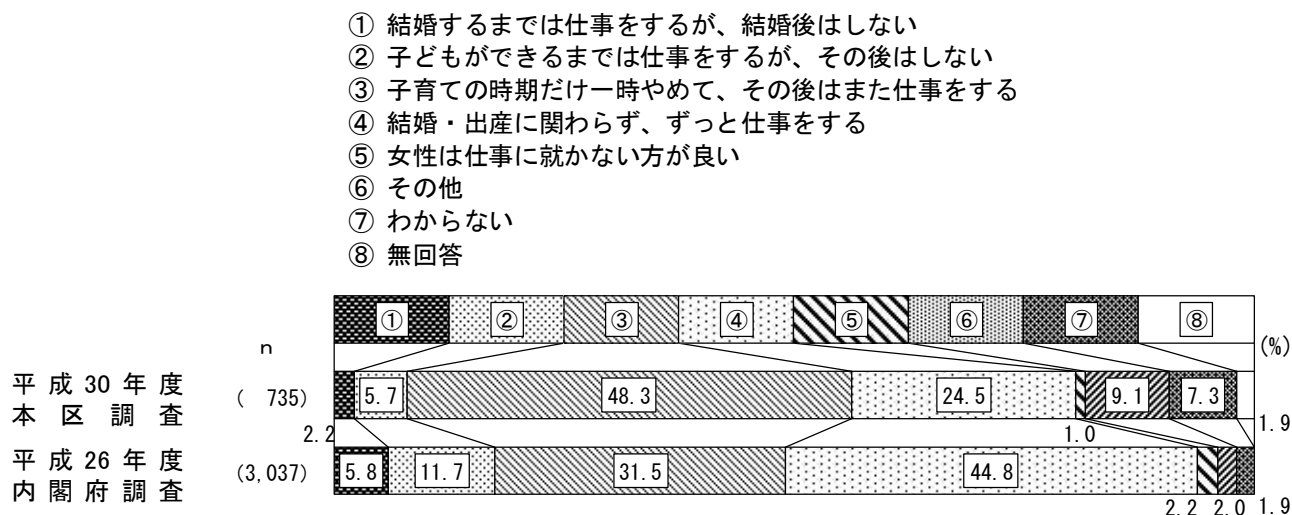
図表1-6-1 望ましい女性の働き方一過年度比較

- ① 結婚するまでは仕事をするが、結婚後はしない
- ② 子どもができるまでは仕事をするが、その後はしない
- ③ 子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をする
- ④ 結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする
- ⑤ 女性は仕事に就かない方が良い
- ⑥ その他
- ⑦ わからない
- ⑧ 無回答



内閣府調査の類似設問と比較すると、「結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする」は20.3ポイント低く、一方、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をする」は16.8ポイント高くなっている。

図表 1-6-2 望ましい女性の働き方—内閣府調査（平成26年）との比較



※下記の通り、内閣府調査項目と北区調査項目とを対応させて比較している。

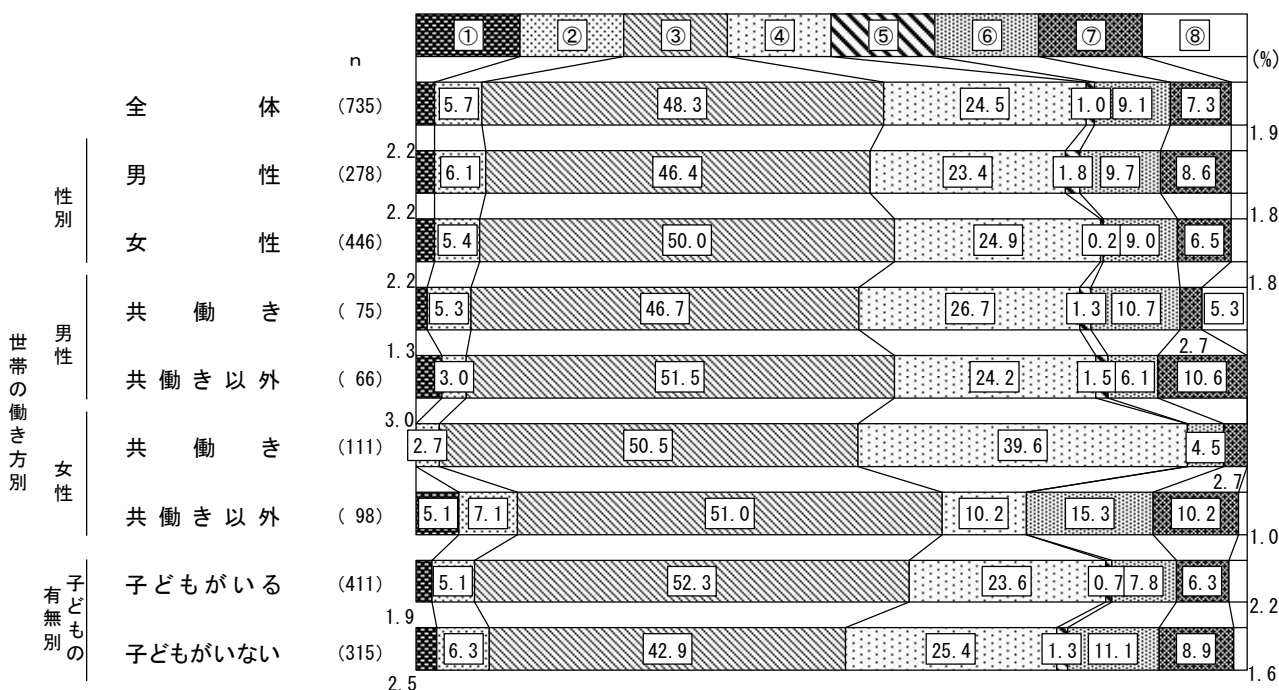
- ・「結婚するまでは職業をもつ方がよい」（内閣府調査項目）と「結婚するまでは仕事をするが、結婚後はしない」（北区調査項目）
- ・「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」（内閣府調査項目）と「子どもができるまでは仕事をするが、その後はしない」（北区調査項目）
- ・「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（内閣府調査項目）と「子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をする」（北区調査項目）
- ・「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」（内閣府調査項目）と「結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする」（北区調査項目）
- ・「女性は職業をもたない方がよい」（内閣府調査項目）と「女性は仕事に就かない方がよい」（北区調査項目）

性別で見ると、「結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする」は女性が男性より1.5ポイント高くなっている。

性・世帯の働き方でみると、「結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする」は“女性の共働き”で4割と高くなっている。

図表 1-6-3 望ましい女性の働き方—性別、性・世帯の働き方別、子どもの有無別

- ① 結婚するまでは仕事をするが、結婚後はしない
- ② 子どもができるまでは仕事をするが、その後はしない
- ③ 子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をする
- ④ 結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする
- ⑤ 女性は仕事に就かない方が良い
- ⑥ その他
- ⑦ わからない
- ⑧ 無回答



■「結婚・出産に関わらずずっと仕事をする」が前回調査よりも増加しているが、全国水準と比較すると低い割合となっている。全国では「結婚・出産に関わらずずっと仕事」の割合が高いのに対し、北区では「子育ての時期のみ一時やめる」の割合が高い結果となっている。

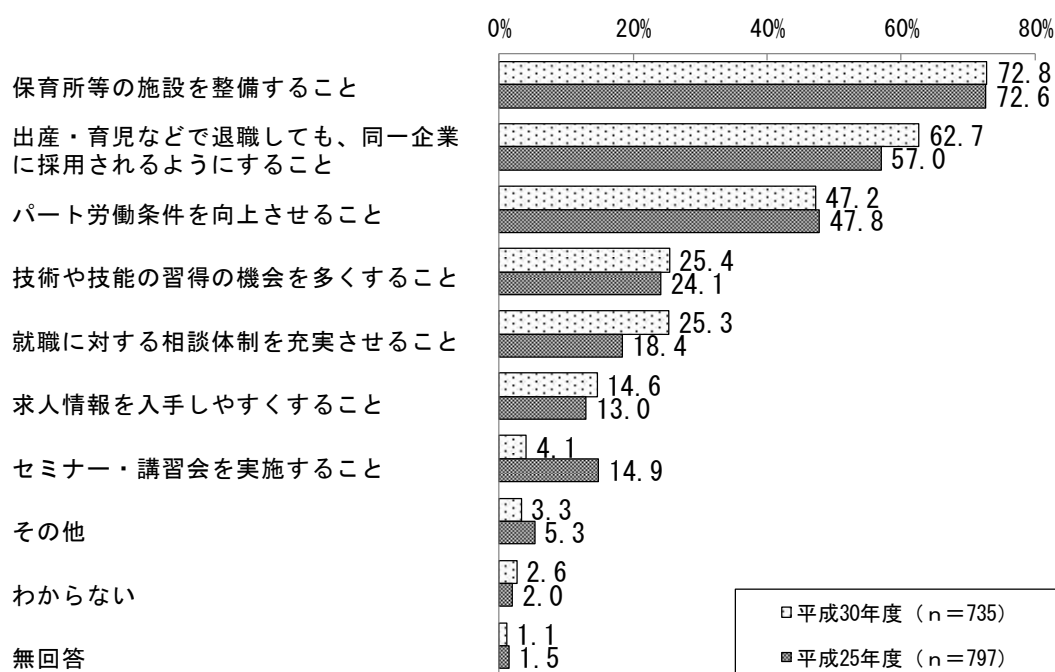
⑥ 女性の再就職に必要な支援・対策

問7 仕事をやめた女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

仕事をやめた女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思うか聞いたところ、「保育所等の施設を整備すること」(72.8%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「出産・育児などで退職しても、同一企業に採用されるようにすること」(62.7%)、「パート労働条件を向上させること」(47.2%)などとなっている。

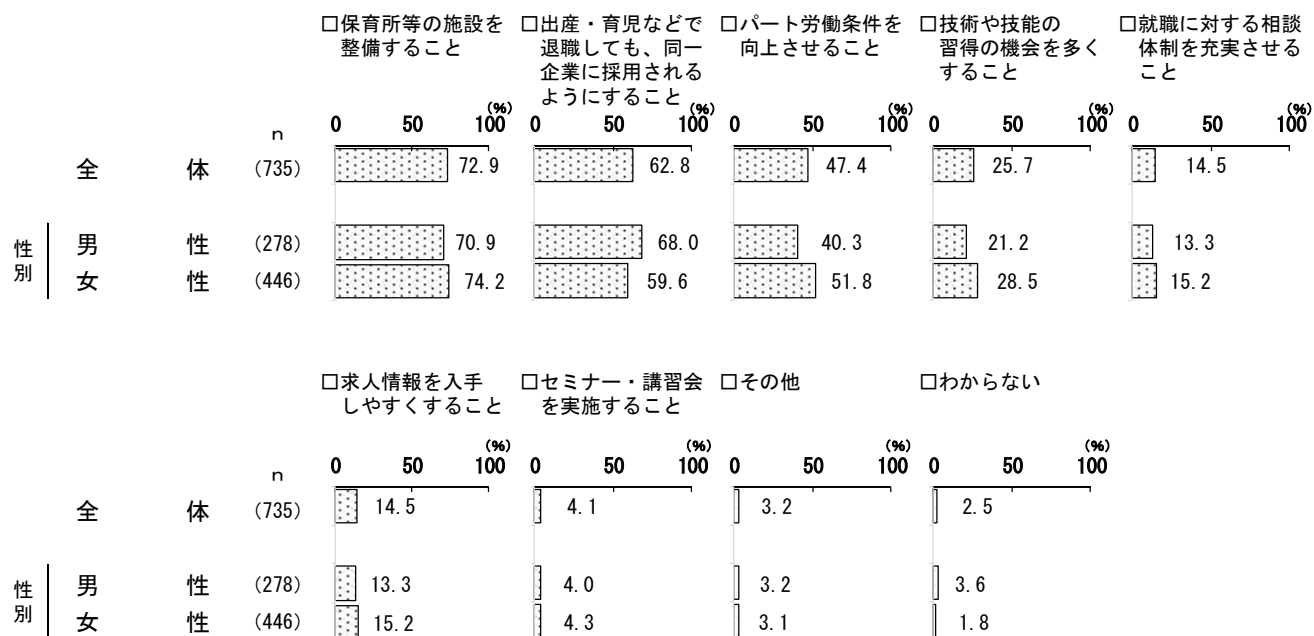
前回調査と比較すると、「出産・育児などで退職しても、同一企業に採用されるようにすること」は5.7ポイント増加している。一方、「セミナー・講習会を実施すること」は10.8ポイント減少している。

図表1-7-1 女性の再就職に必要な支援・対策一過年度比較



性別で見ると、「出産・育児などで退職しても、同一企業に採用されるようにすること」は男性が女性より8.4ポイント高くなっている。一方、「パート労働条件を向上させること」は女性が男性より11.5ポイント高くなっている。

図表 1-7-2 女性の再就職に必要な支援・対策—性別



■技術習得・相談体制・求人情報よりも、施設の整備・労働条件の改善という回答の方が多いため、女性自身に対して直接支援するというよりもまず働きやすい環境を作ることの方が重要ではないかと考えられる。

■男女差が最も大きいのは「パート労働条件を向上」であるため、女性は再雇用時にパートを希望していることがわかる。

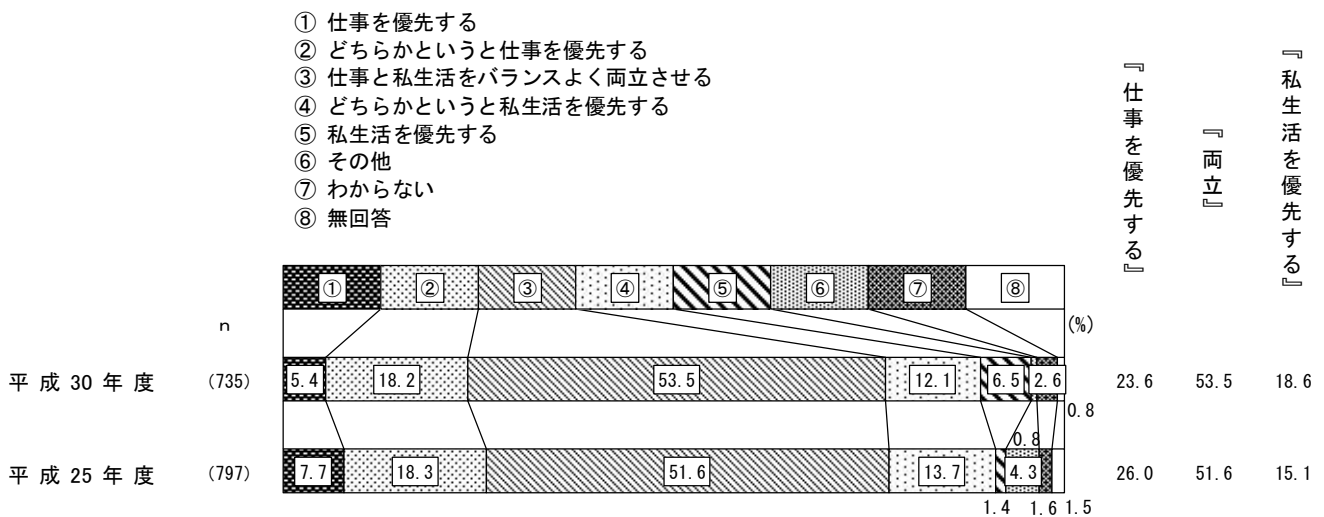
⑦ 仕事と私生活の両立についての考え

問8 一般的にあなたは仕事と私生活の両立について、どのように考えますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

仕事と私生活の両立についての考えを聞いたところ、「仕事と私生活をバランスよく両立させる」(53.5%)が5割を超え最も高くなっている。「仕事を優先する」(5.4%)と「どちらかという仕事を優先する」(18.2%)を合わせた『仕事を優先する』(23.6%)は2割を超え、「どちらかという私生活を優先する」(12.1%)と「私生活を優先する」(6.5%)を合わせた『私生活を優先する』(18.6%)は2割近くとなっている。

前回調査と比較すると、『私生活を優先する』は3.5ポイント増加している。

図表 1-8-1 仕事と私生活の両立についての考え一過年度比較

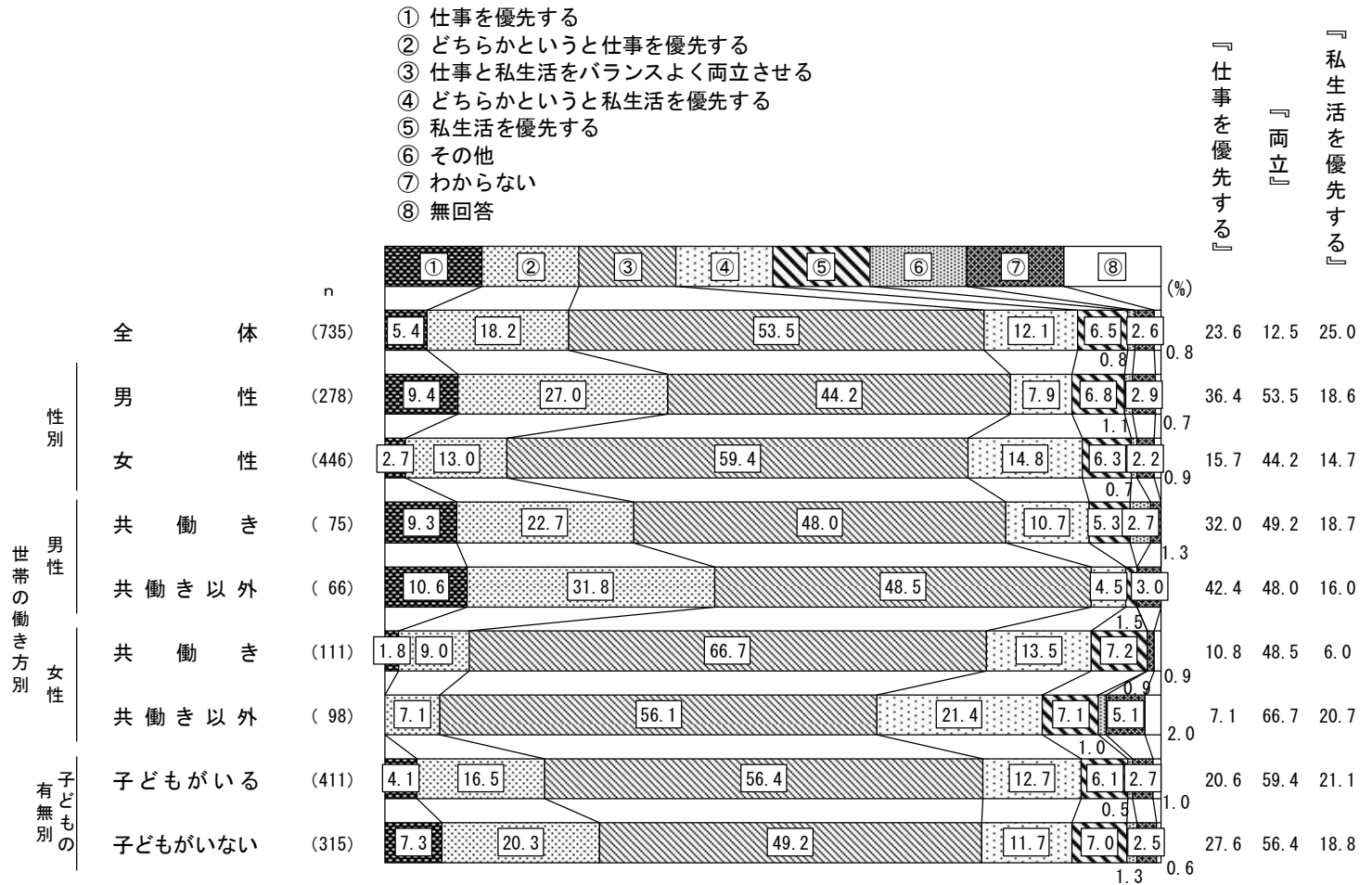


性別でみると、『仕事を優先する』は男性が女性より20.7ポイント高くなっている。

性・世帯の働き方でみると、「仕事と私生活をバランスよく両立させる」は“女性の共働き”で6割半ばと高く、『仕事を優先する』は“男性の共働き以外”で4割を超え高くなっている。

子どもの有無別でみると、「仕事と私生活をバランスよく両立させる」は“子どもがいる”が“子どもがいない”より7.2ポイント高くなっている。一方、『仕事を優先する』は“子どもがいない”が“子どもがいる”より7.0ポイント高くなっている。

図表1-8-2 仕事と私生活の両立についての考えー性別、性・世帯の働き方別、子どもの有無別



■前回調査から変わらず、「バランスよく」、「仕事」、「私生活」の優先順位となっている。
 ■男性は「仕事を優先」が顕著に高く、女性は「バランスよく」が半数を越えており、男女差が大きい。

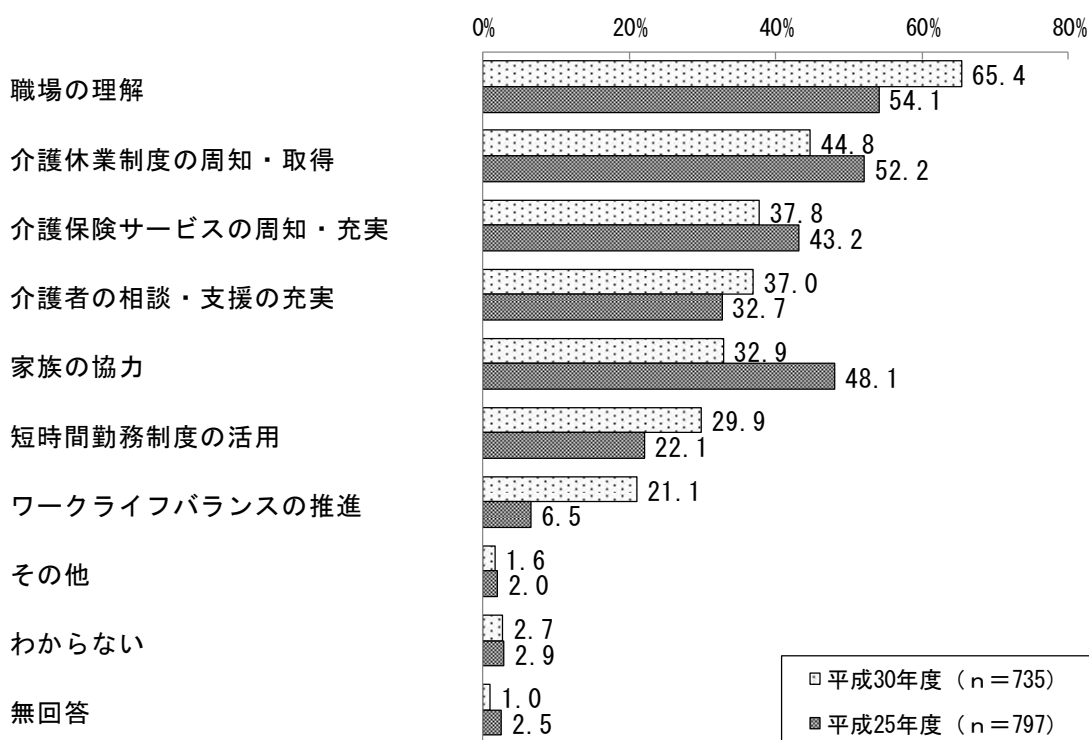
⑧ 介護と仕事の両立に必要な支援

問9 介護と仕事を両立するためにはどのような支援が必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

介護と仕事を両立するためにはどのような支援が必要だと思うか聞いたところ、「職場の理解」(65.4%)が6割半ばと最も高くなっている。次いで、「介護休業制度の周知・取得」(44.8%)、「介護保険サービスの周知・充実」(37.8%)などと続いている。

前回調査と比較すると、「家族の協力」は15.2ポイント減少している。一方、「ワークライフバランスの推進」は14.6ポイント増加している。

図表1-9-1 介護と仕事の両立に必要な支援一過年度比較

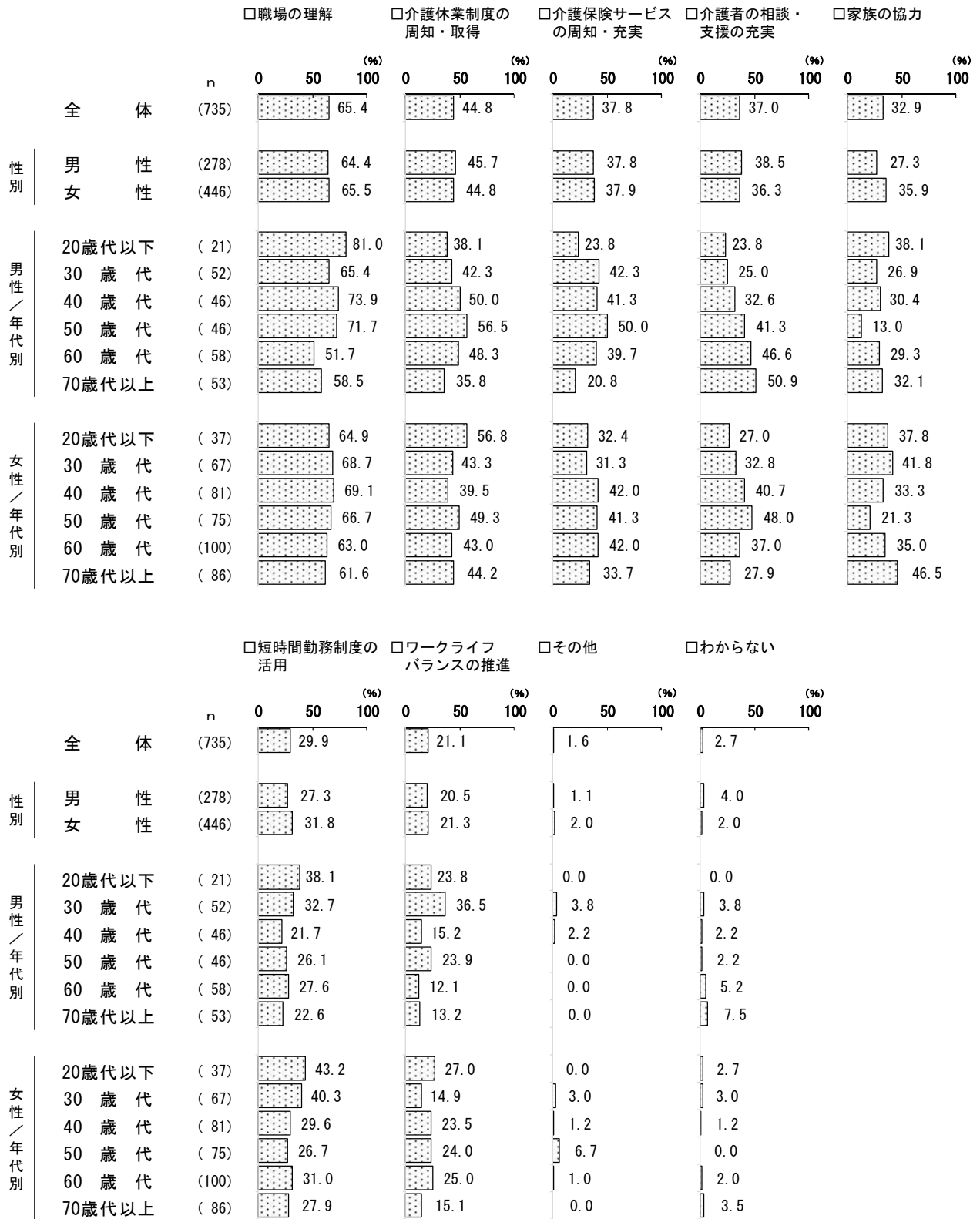


■若い年代の男性は「職場の理解」、50代男性は「介護休業制度の周知・習得」、女性は全年代で「職場の理解」「家族の協力」が高い結果となっており、年代・性別ごとに細かく分けた支援が必要なのではないかと考えられる。

性別でみると、「家族の協力」は女性が男性より8.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「介護休業制度の周知・取得」は男性の50歳代と女性の20歳代以下で6割近くと高く、「介護者の相談・支援の充実」は男性の70歳代以上でほぼ5割と高くなっている。

図表1-9-2 介護と私生活の両立に必要な支援—性別、性・年代別



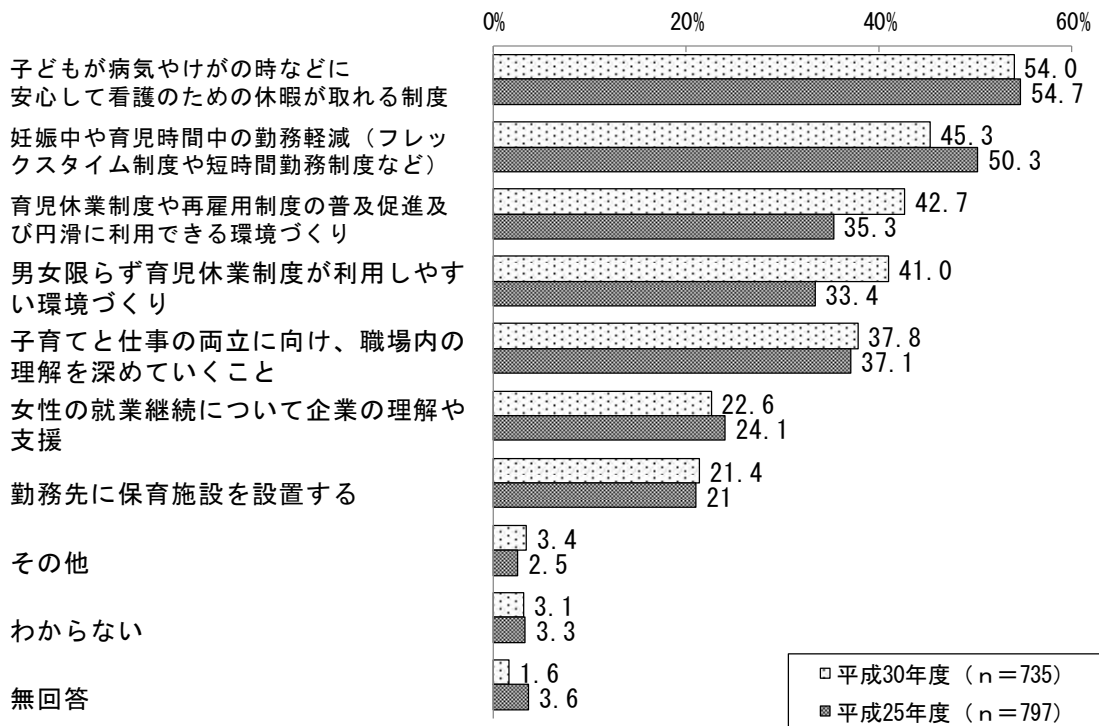
⑨ 子育てと仕事の両立に必要な支援

問10 子育てと仕事の両立支援を図るために、職場においてどのような制度や支援策の充実が必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

子育てと仕事の両立支援を図るために、職場においてどのような制度や支援策の充実が必要だと思うか聞いたところ、「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」(54.0%)が5割半ばと最も高くなっている。次いで、「妊娠中や育児時間中の勤務軽減(フレックスタイム制度や短時間勤務制度など)」(45.3%)、「育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり」(42.7%)、「男女限らず育児休業制度が利用しやすい環境づくり」(41.0%)、「子育てと仕事の両立に向け、職場内の理解を深めていくこと」(37.8%)などとなっている。

前回調査と比較すると、「男女限らず育児休業制度が利用しやすい環境づくり」は7.6ポイント増加し、「育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり」は7.4ポイント増加している。

図表1-10-1 子育てと仕事の両立に必要な支援—過年度比較

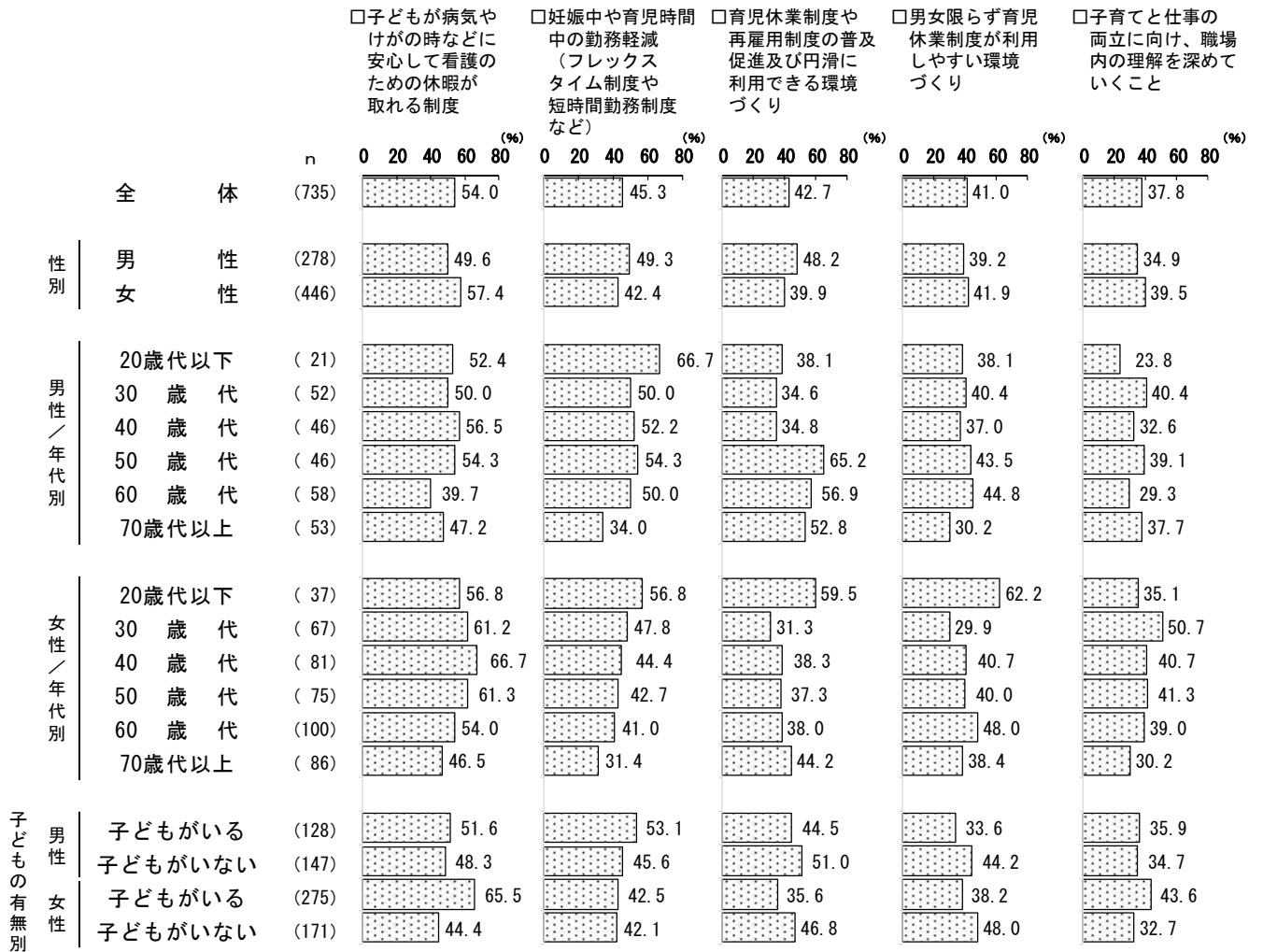


性別でみると、「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」は女性が男性より7.8ポイント高くなっている。一方、「育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり」は男性が女性より8.3ポイント高くなっている。

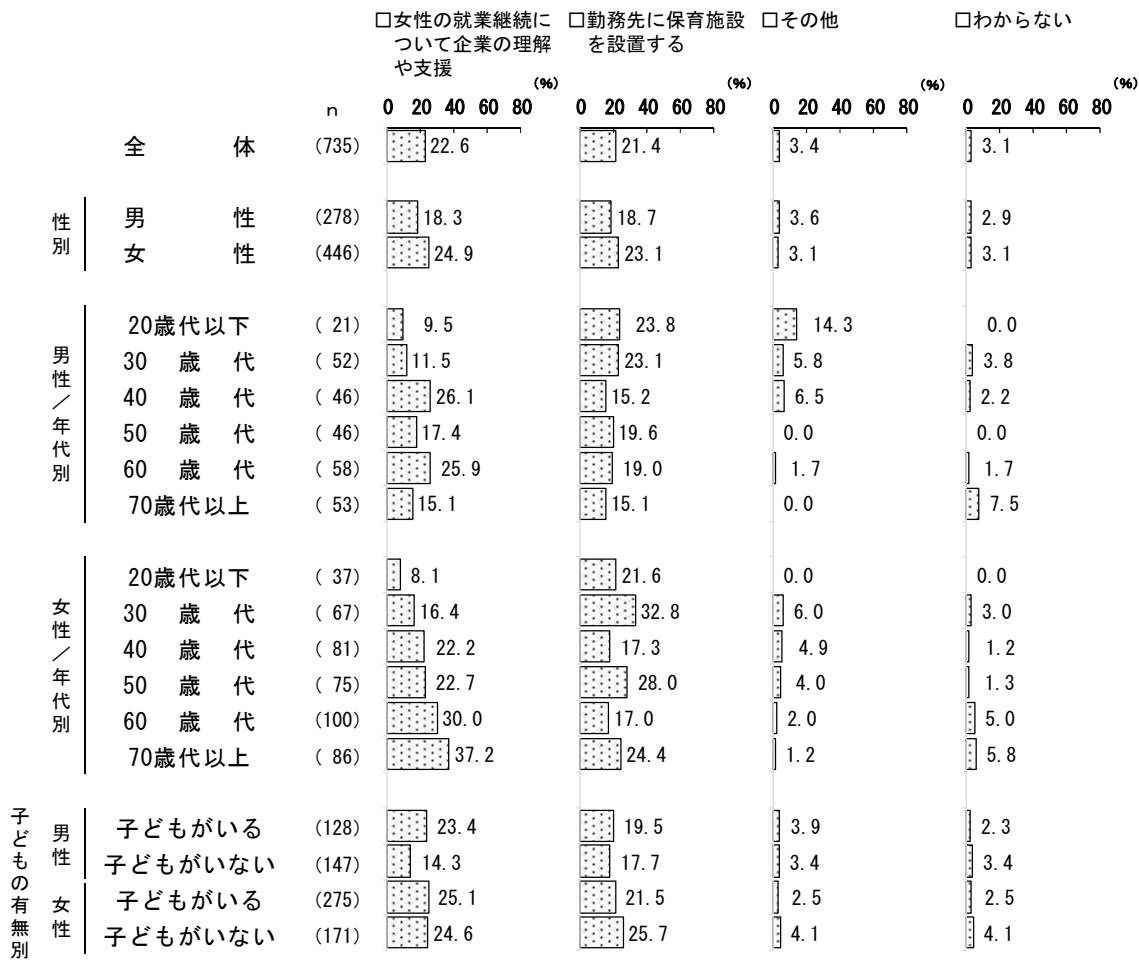
性・年代別でみると、「男女限らず育児休業制度が利用しやすい環境づくり」は女性の20歳代以下で6割を超え高くなっている。

子どもの有無別でみると、「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」は“子どもがいる女性”が“子どもがいない女性”より21.1ポイント高くなっている。

図表 1-10-2 子育てと仕事の両立に必要な支援—性別、性・年代別、性・子どもの有無別



図表 1-10-2 子育てと仕事の両立に必要な支援—性別、性・年代別、性・子どもの有無別 続き



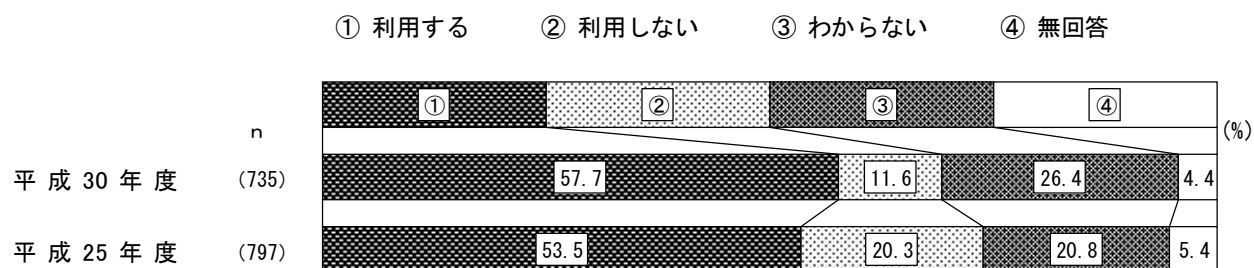
■ “子どもがいる”人は休暇が取得でき、“子どもがいない”人は休業制度を利用できる環境づくりを求めているという結果であったが、子どもの有無に関わらず支援が必要という点は共通している。

⑩ 育児休業制度の利用

問 1 1 仮にあなたやあなたの配偶者がこれから出産する場合、あなたは育児休業制度を利用しますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

仮にあなたやあなたの配偶者がこれから出産する場合、あなたは育児休業制度を利用するか聞いたところ、「利用する」(57.7%)が6割近く、「利用しない」(11.6%)は1割を超えている。前回調査と比較すると、「利用する」は4.2ポイント増加している。

図表 1-11-1 育児休業制度の利用一過年度比較

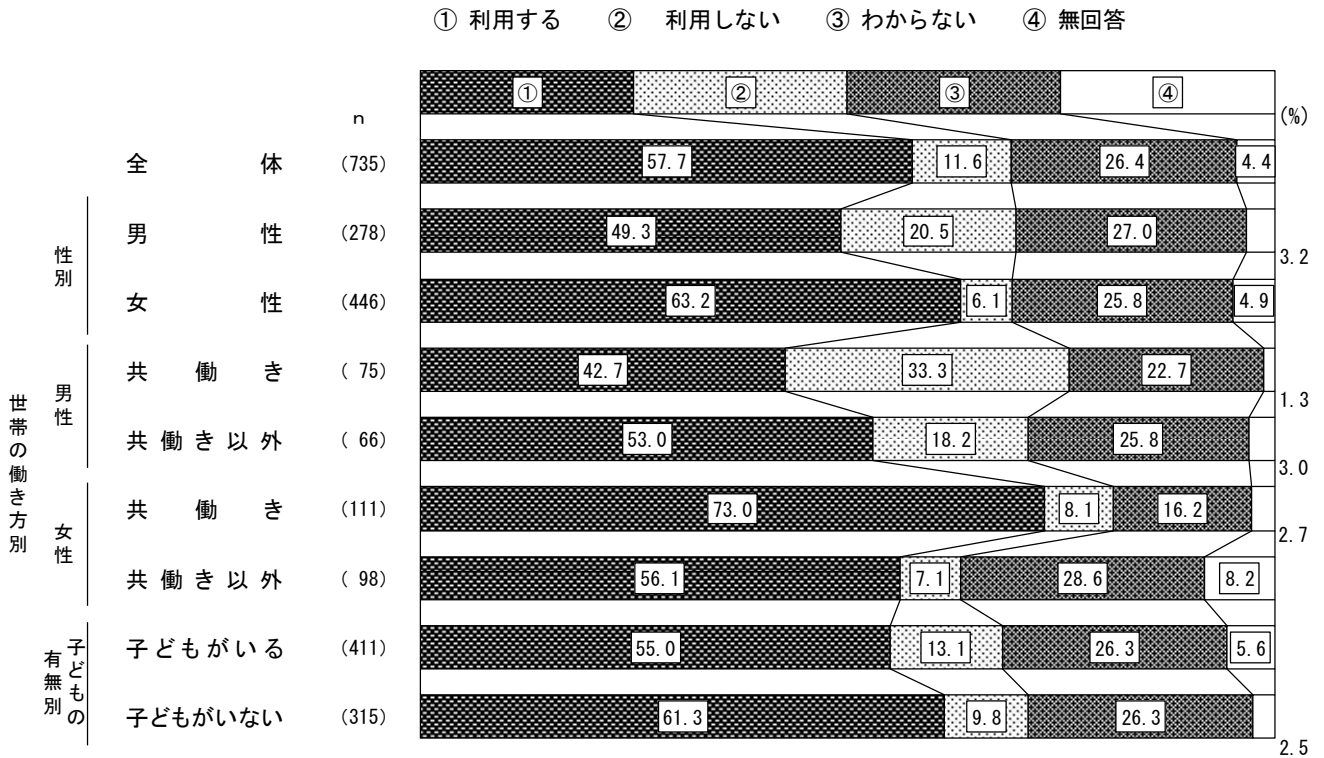


性別で見ると、「利用する」は女性が男性より13.9ポイント高くなっている。

性・世帯の働き方別で見ると、「利用する」は“女性の共働き”で7割を超え高く、「利用しない」は“男性の共働き”で3割を超え高くなっている。

子どもの有無別で見ると、「利用する」は“子どもがいない”が“子どもがいる”より6.3ポイント高くなっている。

図表 1-11-2 育児休業制度の利用—性別、性・世帯の働き方別、子どもの有無別



■ “女性共働き”では7割以上、“共働き以外”は男女ともに5割以上、“男性共働き”は約4割が利用するという結果であり、男性の利用もあるものの、「基本的には女性が休業して育児」という考えを持つ世帯が多いことが伺える。

⑪ 育児休業制度を利用しない理由

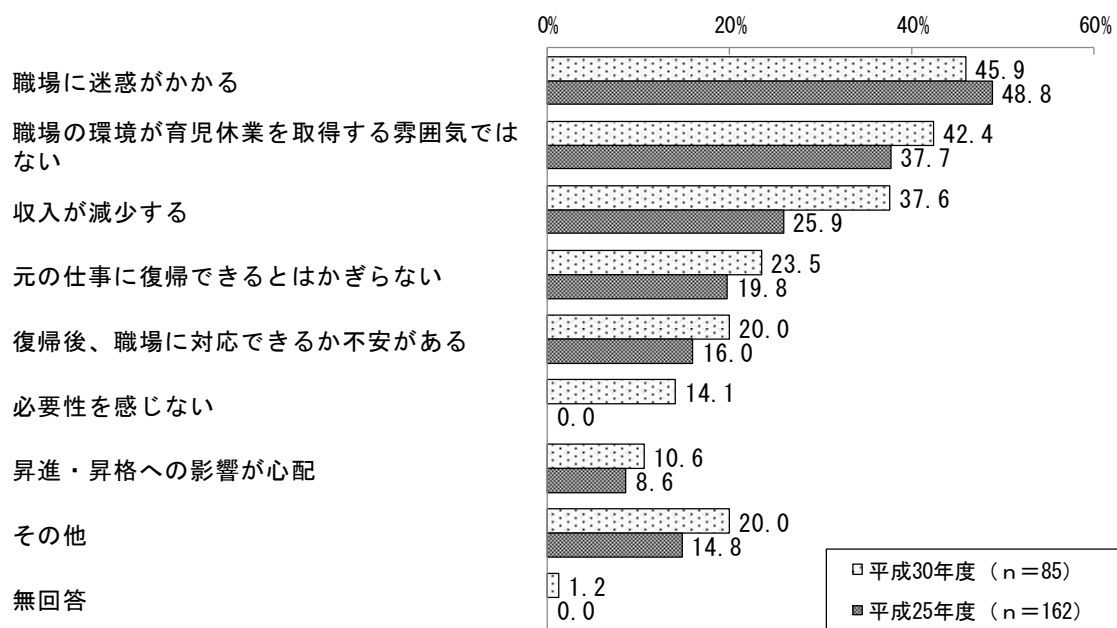
(問11で「2 利用しない」とお答えした方にお聞きします。)

問11-1 育児休業制度を利用しない理由はどれですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

問11で、「利用しない」と答えた方(85人)に、育児休業制度を利用しない理由を聞いたところ、「職場に迷惑がかかる」(45.9%)が4割半ばと最も高くなっている。次いで、「職場の環境が育児休業を取得する雰囲気ではない」(42.4%)、「収入が減少する」(37.6%)などとなっている。

前回調査と比較すると、「収入が減少する」は11.7ポイント増加している。

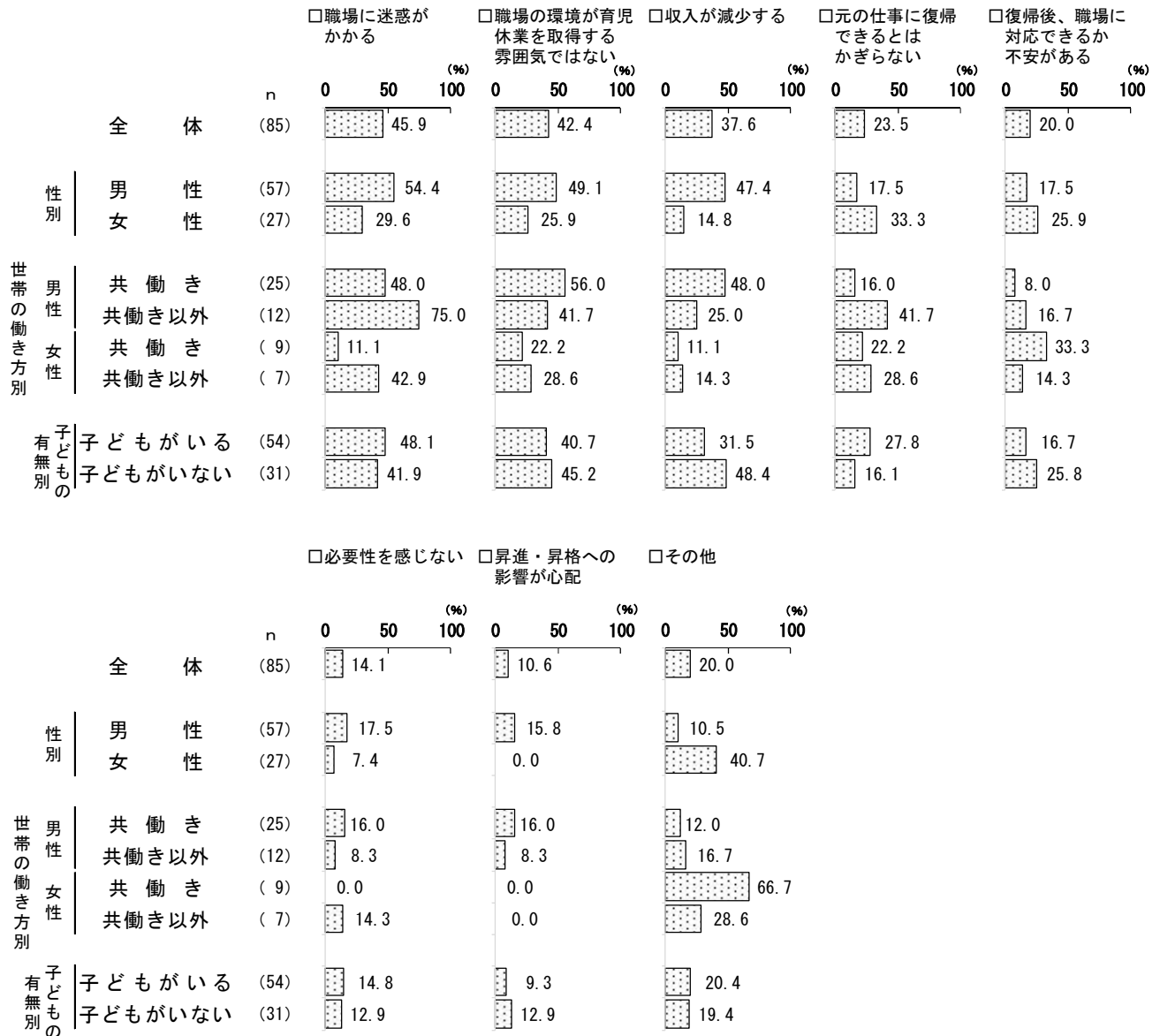
図表1-11-1-1 育児休業制度を利用しない理由-過年度比較



性別でみると、「職場の環境が育児休業を取得する雰囲気ではない」は男性が女性より23.2ポイント高く、「職場に迷惑がかかる」でも男性が女性より24.8ポイント高くなっている。一方、「元の仕事に復帰できるとはかぎらない」は女性が男性より15.8ポイント高くなっている。

性・世帯の働き方別でみると、「職場に迷惑がかかる」は“男性の共働き以外”で7割半ばと高く、「復帰後、職場に対応できるか不安がある」は“女性の共働き”で3割を超え高くなっている。

図表 1-11-1-2 育児休業制度を利用しない理由—性別、性・世帯の働き方別、子どもの有無別



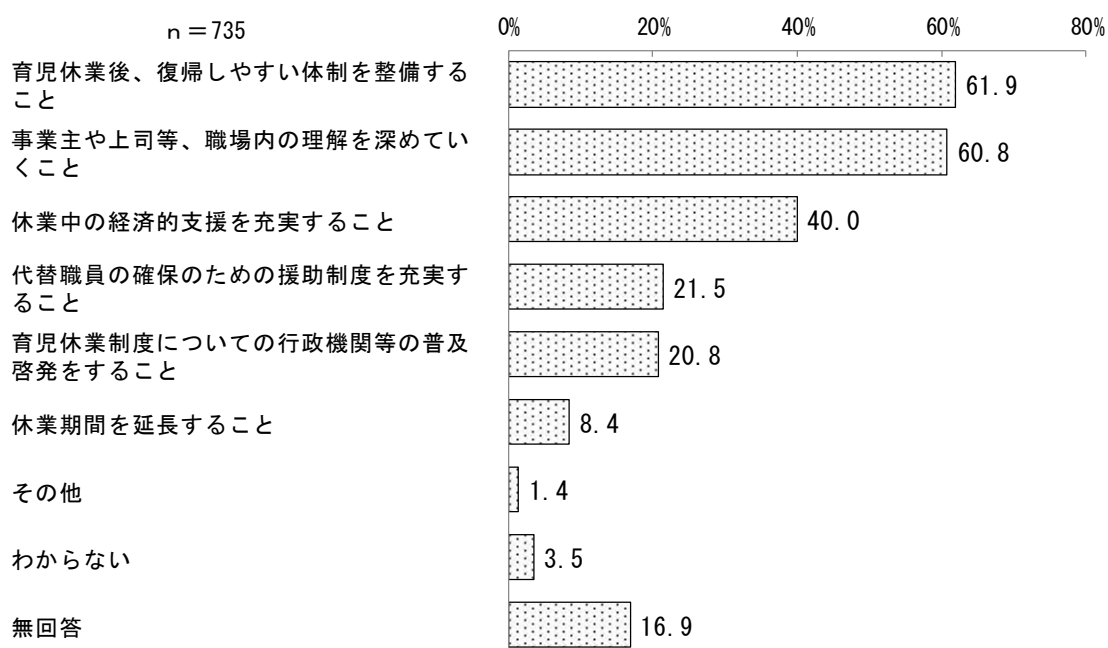
■男性では職場に迷惑がかかる、職場の雰囲気・収入の減少、女性では元の仕事への復帰の可否や復職後の不安の割合が高いなど、大きな男女差がみられるため、男女それぞれに異なった支援をするなどといった対策が必要である。

⑫ 育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと

問 1 1 - 2 育児休業制度をさらに利用しやすくしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

育児休業制度を利用しやすくするために必要なことを聞いたところ、「育児休業後、復帰しやすい体制を整備すること」(61.9%)が6割を超え最も高くなっている。次いで、「事業主や上司等、職場内の理解を深めていくこと」(60.8%)、「休業中の経済的支援を充実すること」(40.0%)などとなっている。

図表 1-11-2-1 育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと



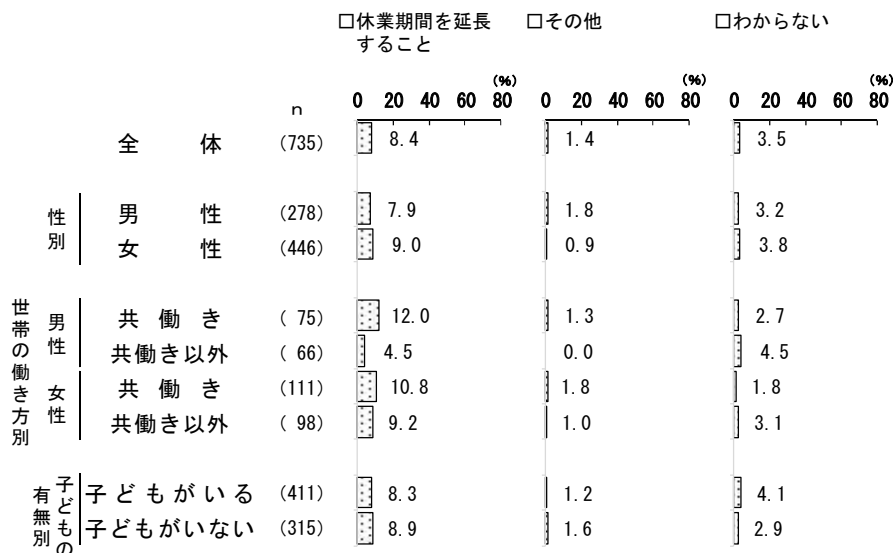
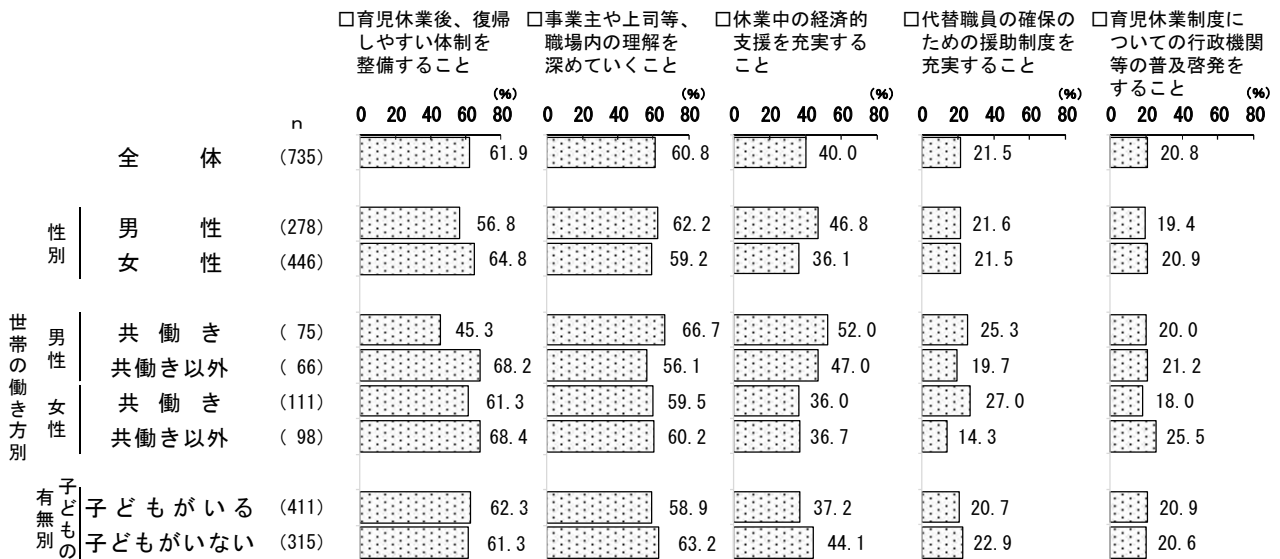
性別でみると、「休業中の経済的支援を充実すること」は男性が女性より10.7ポイント高くなっている。

性・世帯の働き方別でみると、「事業主や上司等、職場内の理解を深めていくこと」は“男性の共働き”で7割近くと高く、「育児休業制度についての行政機関等の普及啓発をすること」は“女性の共働き以外”で2割半ばと高くなっている。

子どもの有無別でみると、「休業中の経済的支援を充実すること」は“子どもがいない”が“子どもがいる”より6.9ポイント高くなっている。

図表 1-11-2-2

育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと一性別、性・世帯の働き方別、子どもの有無別



- 体制の整備・職場内の理解・経済的支援の充実の割合が高い結果となっている。
- 復帰しやすい体制が“男性共働き”で低く、休業中の経済支援が女性で低くなっている。

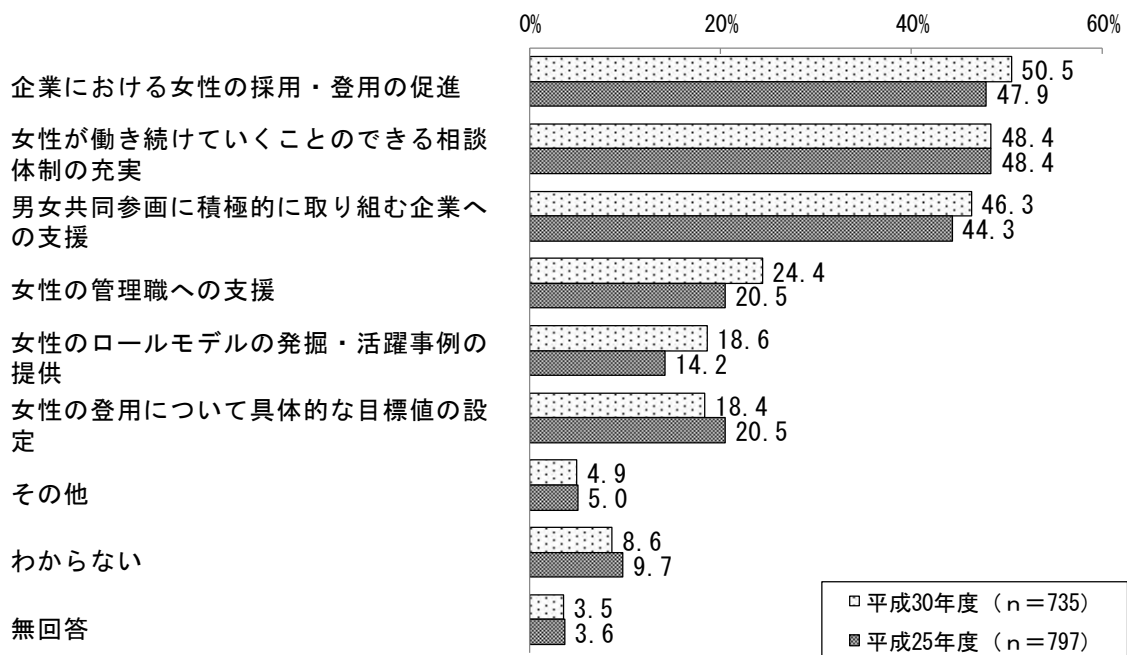
⑬ 雇用分野における女性の参画に必要な支援

問12 雇用分野における女性の管理職の登用など、女性の参画を促すには、どのような支援が必要だと思いますか。

雇用分野における女性の管理職の登用など、女性の参画を促すには、どのような支援が必要だと思うか聞いたところ、「企業における女性の採用・登用の促進」(50.5%)がほぼ5割と最も高く、「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」(48.4%)が5割近く、「男女共同参画に積極的に取り組む企業への支援」(46.3%)が4割半ばなどとなっている。

前回調査と比較すると、「女性のロールモデルの発掘・活躍事例の提供」は4.4ポイント増加し、「女性の管理職への支援」は3.9ポイント増加している。

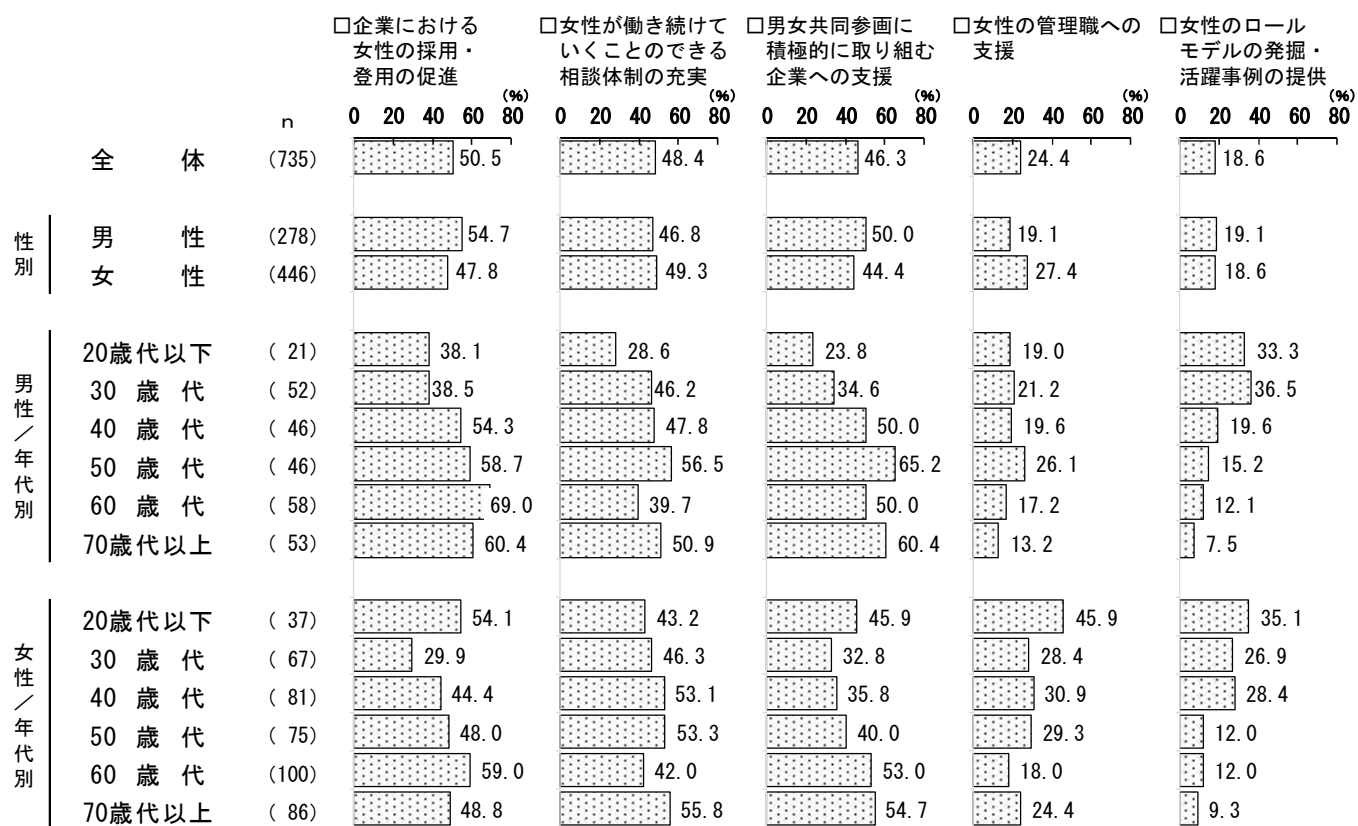
図表1-12-1 雇用分野における女性の参画に必要な支援



性別で見ると、「企業における女性の採用・登用の促進」は男性が女性より6.9ポイント高くなっている。一方、「男女共同参画に積極的に取り組む企業への支援」は男性が女性より5.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」は男性の50歳代で6割近く、女性の50歳代で5割を超えており、高くなっている。また、「女性の管理職への支援」は女性の20歳代以下で4割半ばと高くなっている。

図表 1-12-2 雇用分野における女性の参画に必要な支援—性・年代別



図表 1-12-2 雇用分野における女性の参画に必要な支援—性・年代別 続き



■女性の採用促進といった企業側の努力、相談体制の充実、企業への支援といった回答が多く、女性管理職への支援・ロールモデルの発掘は比較的少ない結果となっている。このため、企業への支援によって企業側の努力を促進することや気軽に相談できる仕組みづくりを行うことが大事であると考えます。

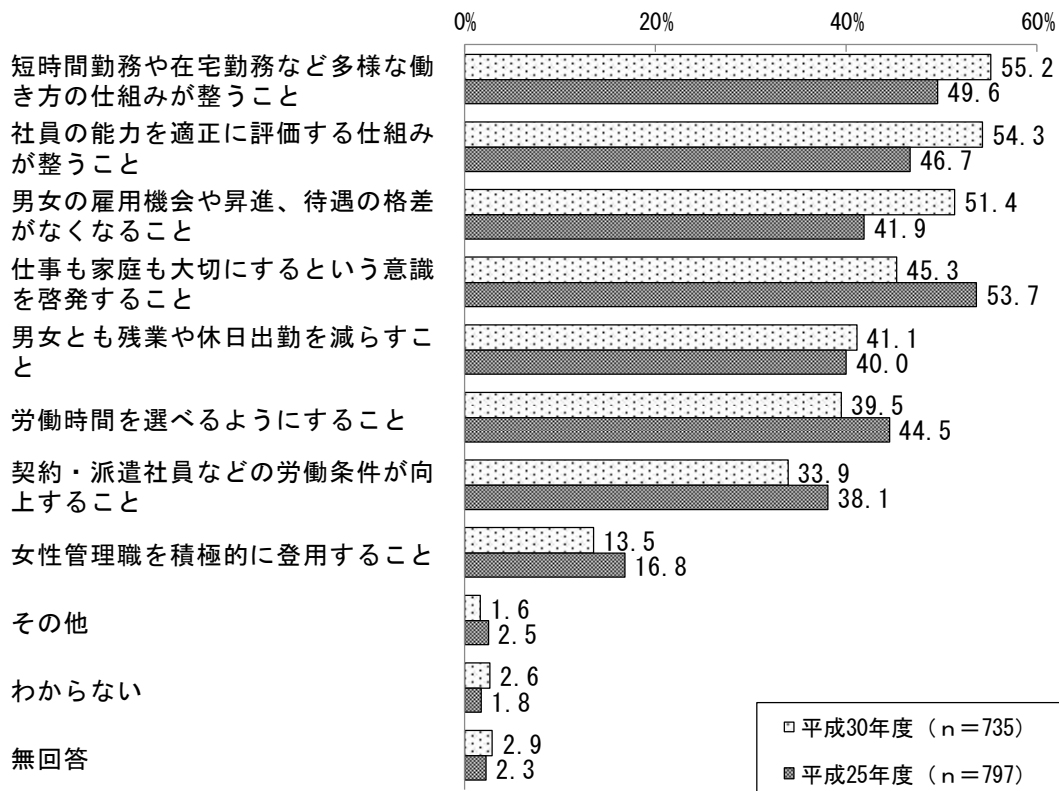
⑭ 働きやすい職場にするために重要なこと

問13 女性も男性も働きやすい職場にしていくために、どのようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

女性も男性も働きやすい職場にしていくために、どのようなことが重要だと思うか聞いたところ、「短時間勤務や在宅勤務など多様な働き方の仕組みが整うこと」(55.2%)が5割半ばと最も高くなっている。次いで、「社員の能力を適正に評価する仕組みが整うこと」(54.3%)、「男女の雇用機会や昇進、待遇の格差がなくなること」(51.4%)などとなっている。

前回調査と比較すると、「男女の雇用機会や昇進、待遇の格差がなくなること」は9.5ポイント増加している。一方、「仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること」は8.4ポイント減少している。

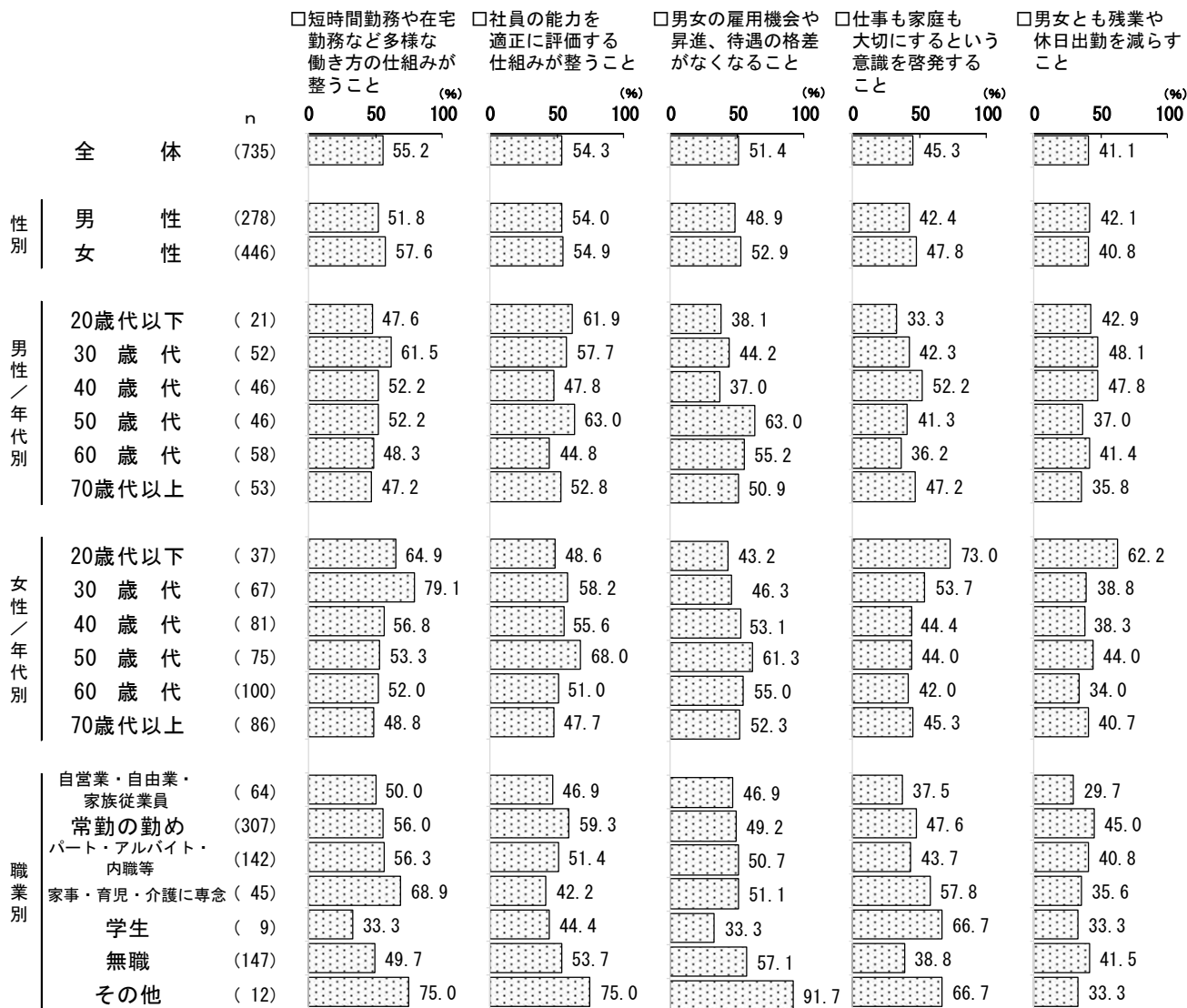
図表1-13-1 働きやすい職場にするために重要なこと一過年度比較



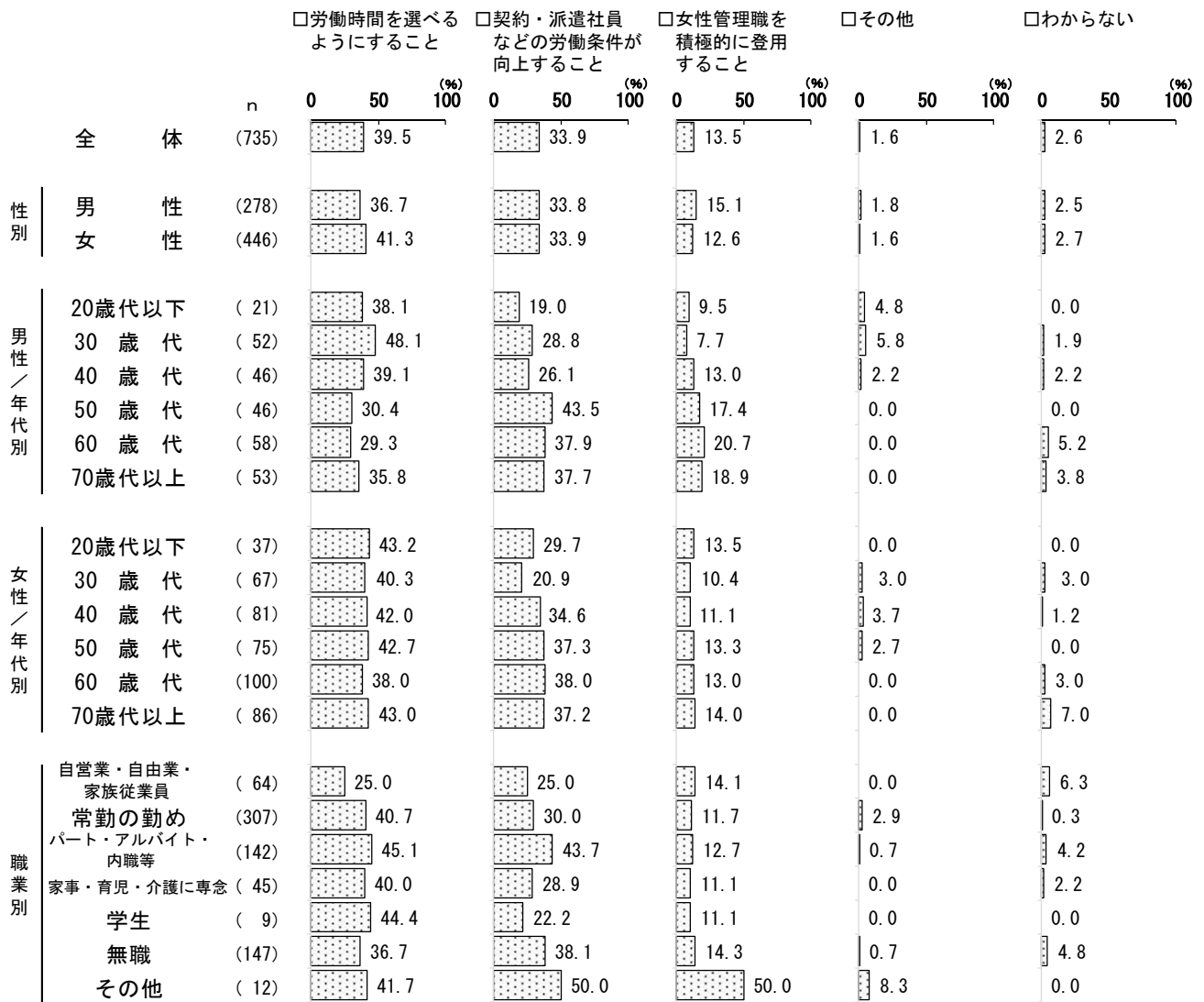
性別でみると、「短時間勤務や在宅勤務など多様な働き方の仕組みが整うこと」は女性が男性より5.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「短時間勤務や在宅勤務など多様な働き方の仕組みが整うこと」は女性の30歳代でほぼ8割、「男女とも残業や休日出勤を減らすこと」は女性の20歳代以下で6割を超えて高くなっている。

図表1-13-2 働きやすい職場にするために重要なこと—性別、性・年代別、職業別



図表 1-13-2 働きやすい職場にするために重要なこと—性別、性・年代別、職業別 続き



■女性管理職の積極的登用を重視する意見が比較的少なく、働く仕組みの整理など具体的な制度面の改善が重要という意見の方が多くなっている。

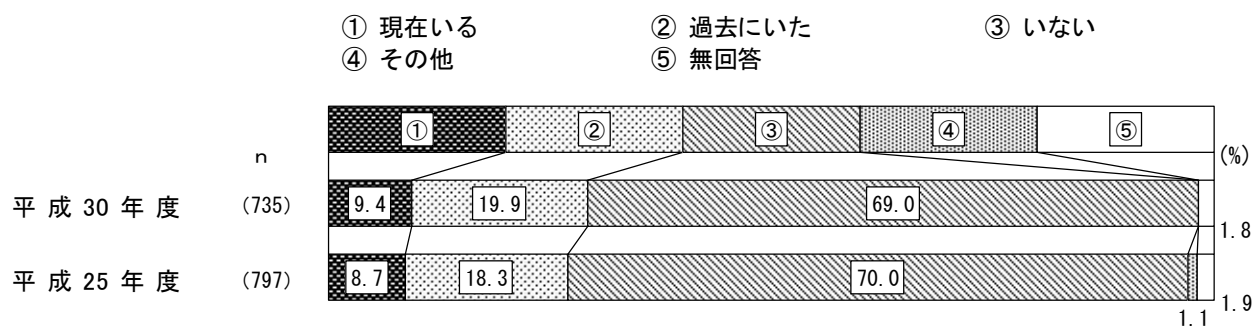
(5) 介護について

① 介護を必要としている方の有無

問14 あなたが同居している家族（あなた自身も含みます）には、現在、介護を必要としている方がいますか。または、過去にいましたか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

現在、介護を必要としている方がいるか聞いたところ、「現在いる」（9.4%）は1割未満、「過去にいた」（19.9%）が2割となっている。一方、「いない」（69.0%）はほぼ7割となっている。前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

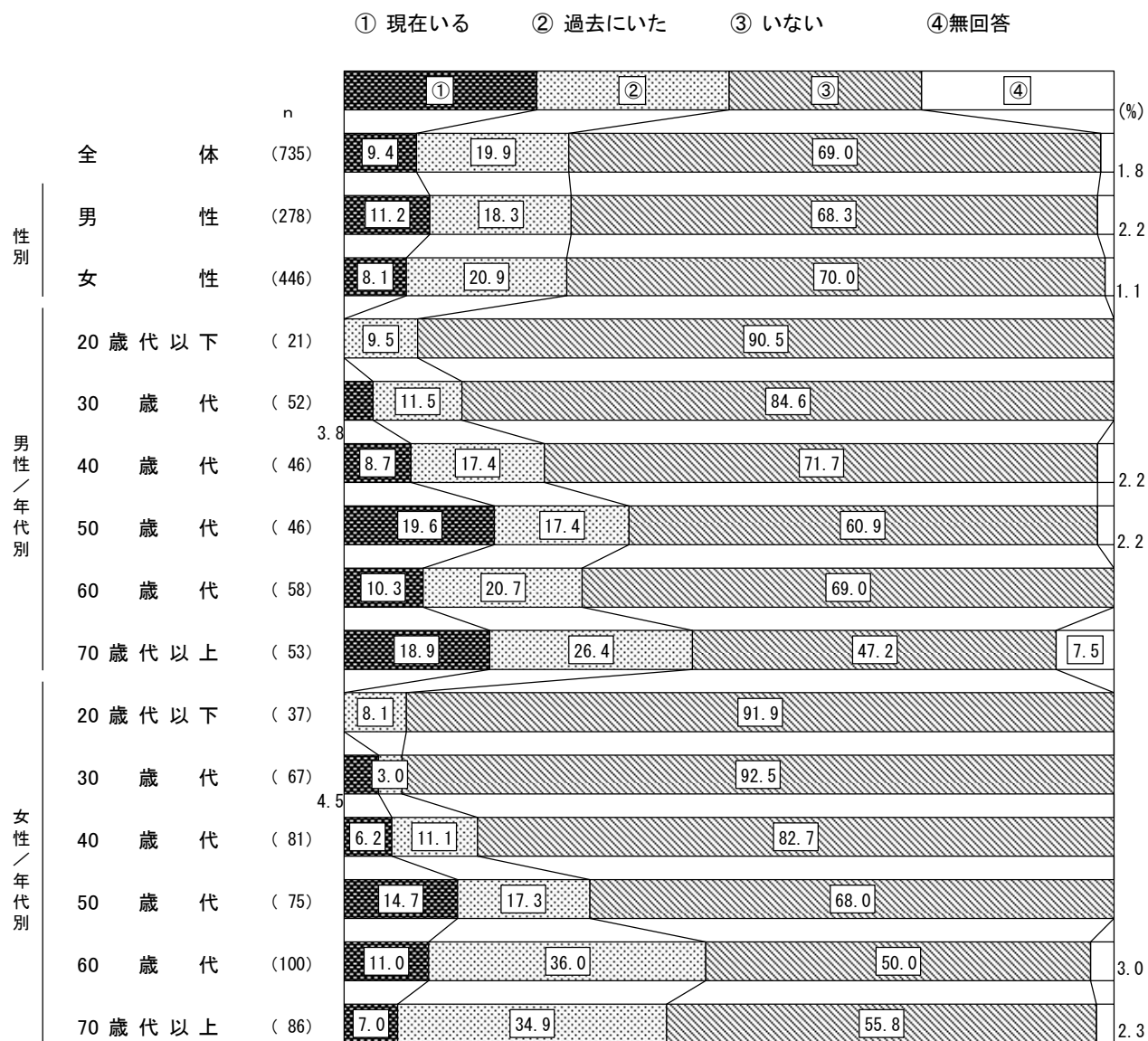
図表1-14-1 介護を必要としている方の有無一過年度比較



性別で見ると、「現在いる」は男性が女性より3.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「過去にいた」は女性の60歳代以上で3割半ばと高く、「現在いる」は男性の50歳代で2割と高くなっている。

図表 1-14-2 介護を必要としている方の有無－性別、性・年代別



② 介護をしている（した）人

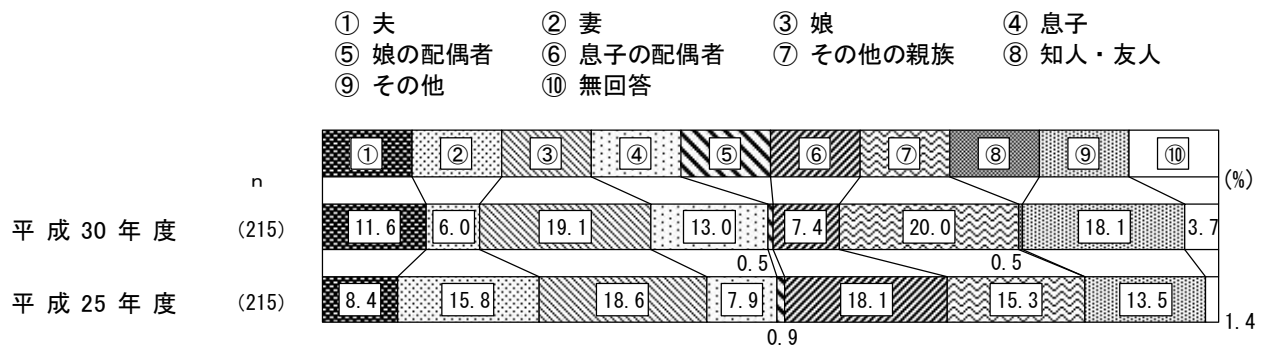
（問14で「1 現在いる」「2 過去にいた」とお答えした方にお聞きます。）

問14-1 介護を必要とする（した）方からみて、介護をしている（いた）方は、どのような関係にあるかについて、1～9のあてはまる番号に1つ〇をつけてください。

問14で「現在いる」、「過去にいた」と答えた方に、主に介護している（した）のはその方から見てどなたか聞いたところ、「その他の親族」（20.0%）が2割と最も高く、次いで、「娘」（19.1%）、「息子」（13.0%）、「夫」（11.6%）などとなっている。

前回調査と比較すると、「息子の配偶者」は10.7ポイント減少し、「妻」は9.8ポイント減少している。

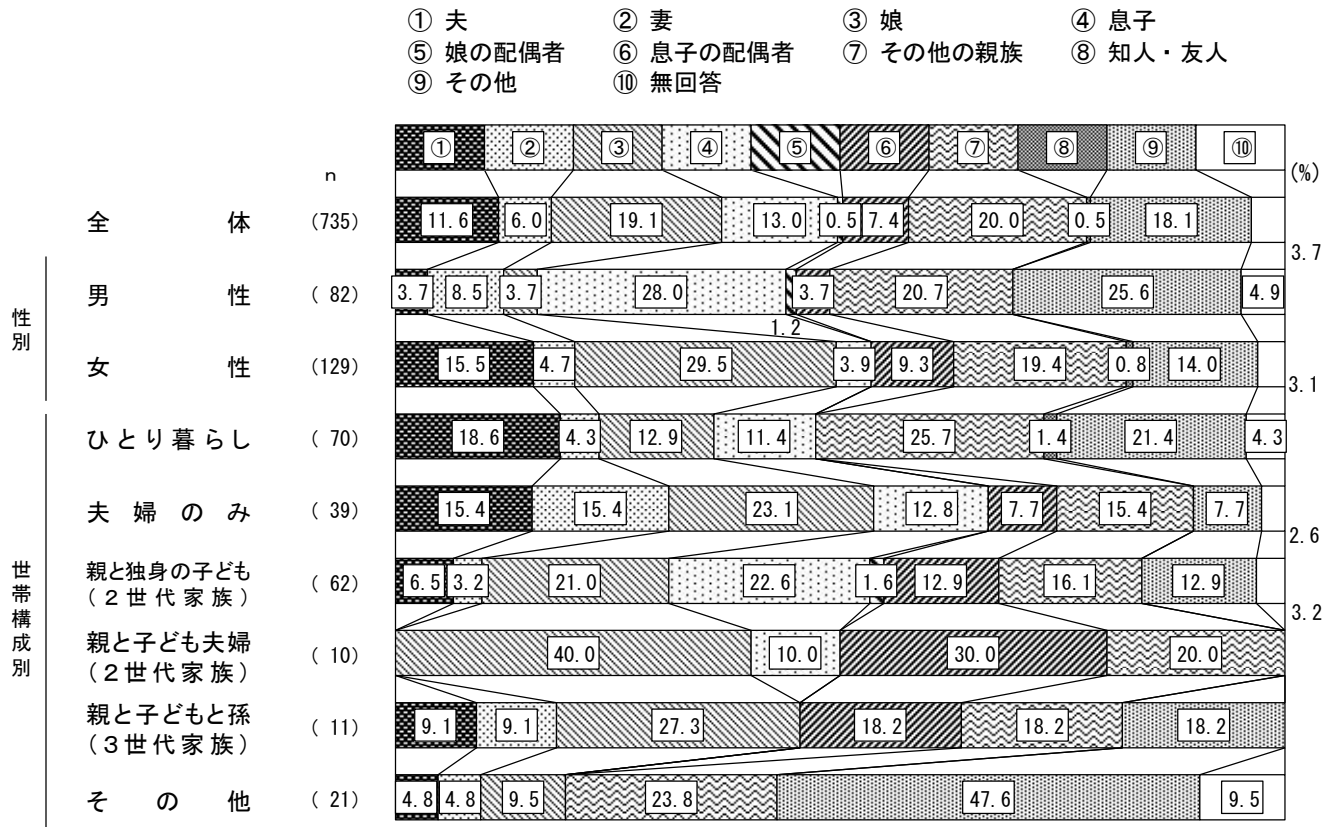
図表1-14-1-1 介護をした人—過年度比較



性別でみると、「息子」は男性が女性より24.1ポイント高くなっている。一方、「娘」は女性が男性より25.8ポイント高くなっている。

世帯構成別でみると、「娘」は「親と子ども夫婦（2世代家族）」で4割と高くなっている。「その他の親族」は「ひとり暮らし」で2割半ばと高くなっている。

図表 1-14-1-2 介護をした人—性別、世帯構成別



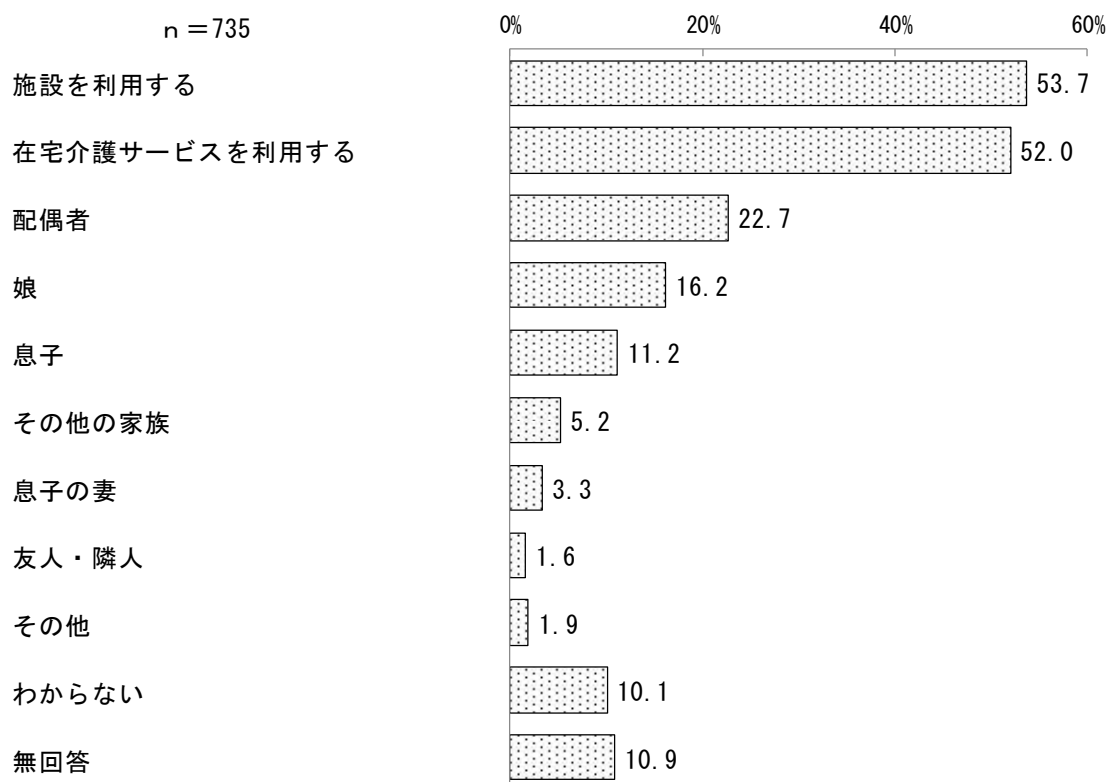
■男性では「息子」が介護したとの回答が最も多くなっているが、全体でみると「娘」「息子の配偶者」など女性が介護したとの回答が多くなっている。

③ 介護をしてほしい人

問14-2 あなたご自身が高齢になり介護が必要になったときは、誰に介護をしてほしいですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

介護をしてほしい人について聞いたところ、「施設を利用する」(53.7%)と「在宅介護サービスを利用する」(52.0%)は5割を超え高くなっている。

図表1-14-2-1 介護をしてほしい人



■外部のサービスの方を希望する人が半数を超えており、家族に迷惑をかけたくないと考える人が多いことが伺える。

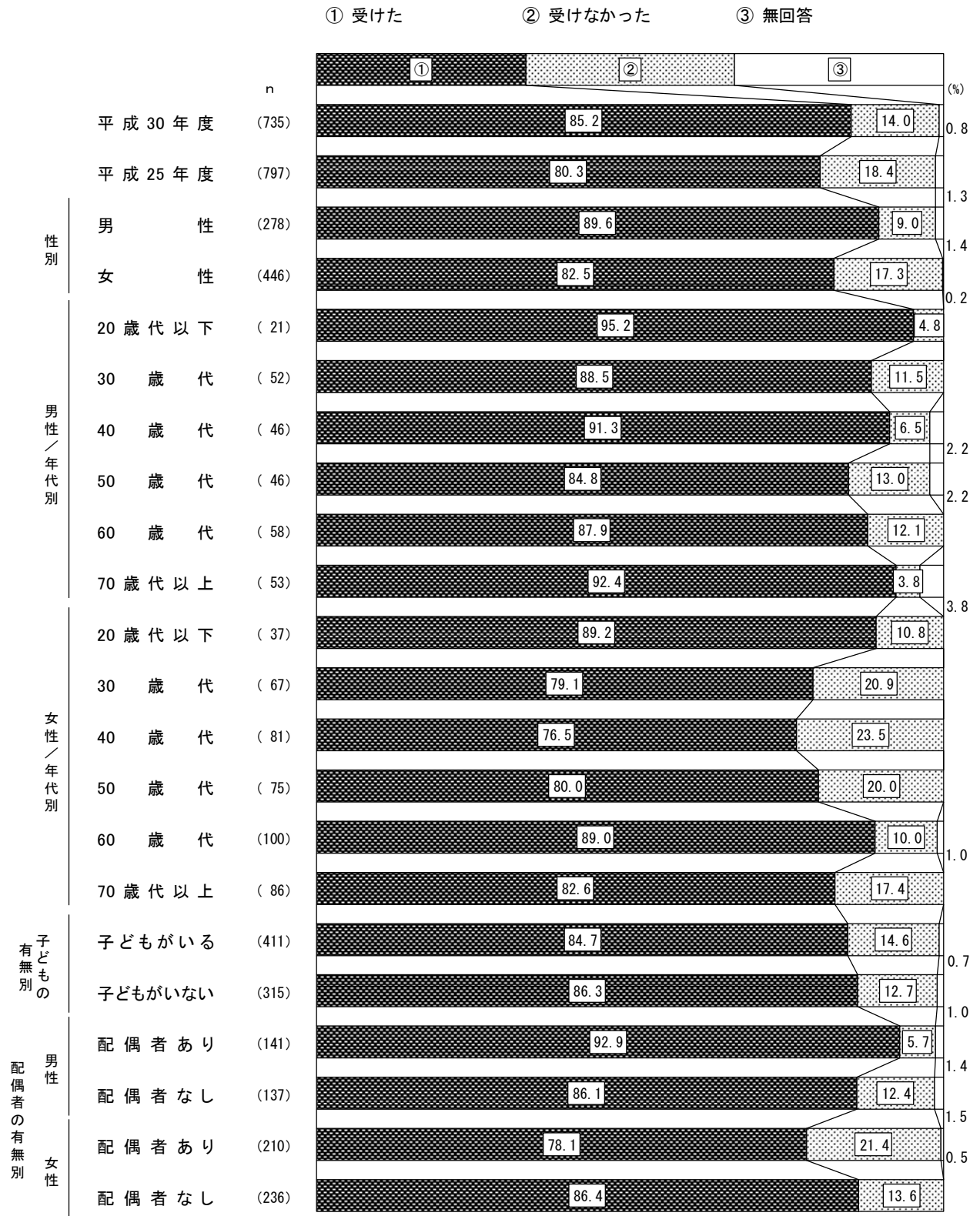
■特に息子の配偶者が介護をしている実態に対して、本人は息子の配偶者に介護してもらおうことを望んでいないことが伺える。

(6) 健康について

① 健康診断の受診状況

問 15 からだの健康についてお聞きします。あなたは、最近1年間にどこかで健康診断を受けましたか。あてはまる番号にすべて○をけてください。

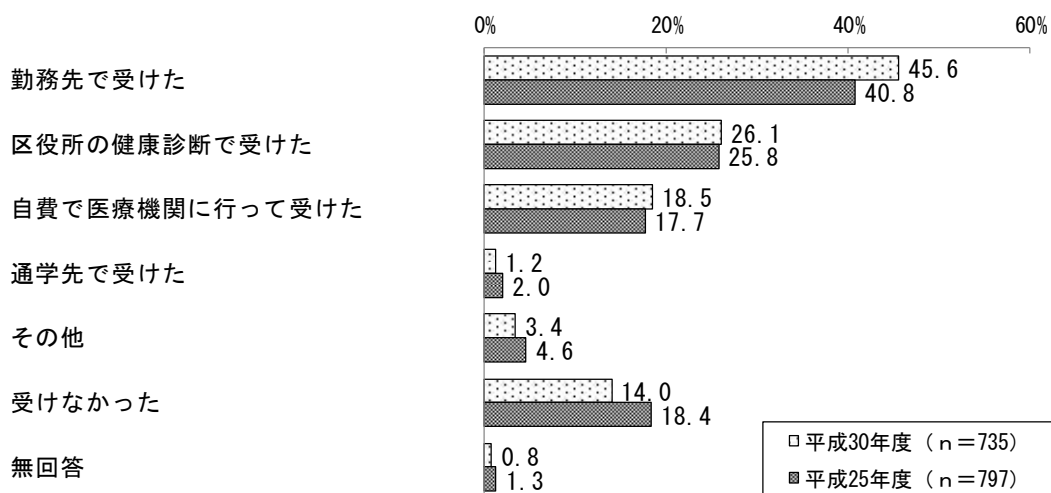
図表 1-15-1 健康診断の受診状況



最近1年間にどこかで健康診断を受けたか聞いたところ、「勤務先で受けた」(45.6%)が4割半ばと最も高くなっている。次いで、「区役所の健康診断で受けた」(26.1%)、「自費で医療機関に行って受けた」(18.5%)などとなっている。一方、「受けなかった」(14.0%)は1割半ばとなっている。

前回調査と比較すると、「勤務先で受けた」は4.8ポイント増加している。一方、「受けなかった」は4.4ポイント減少している。

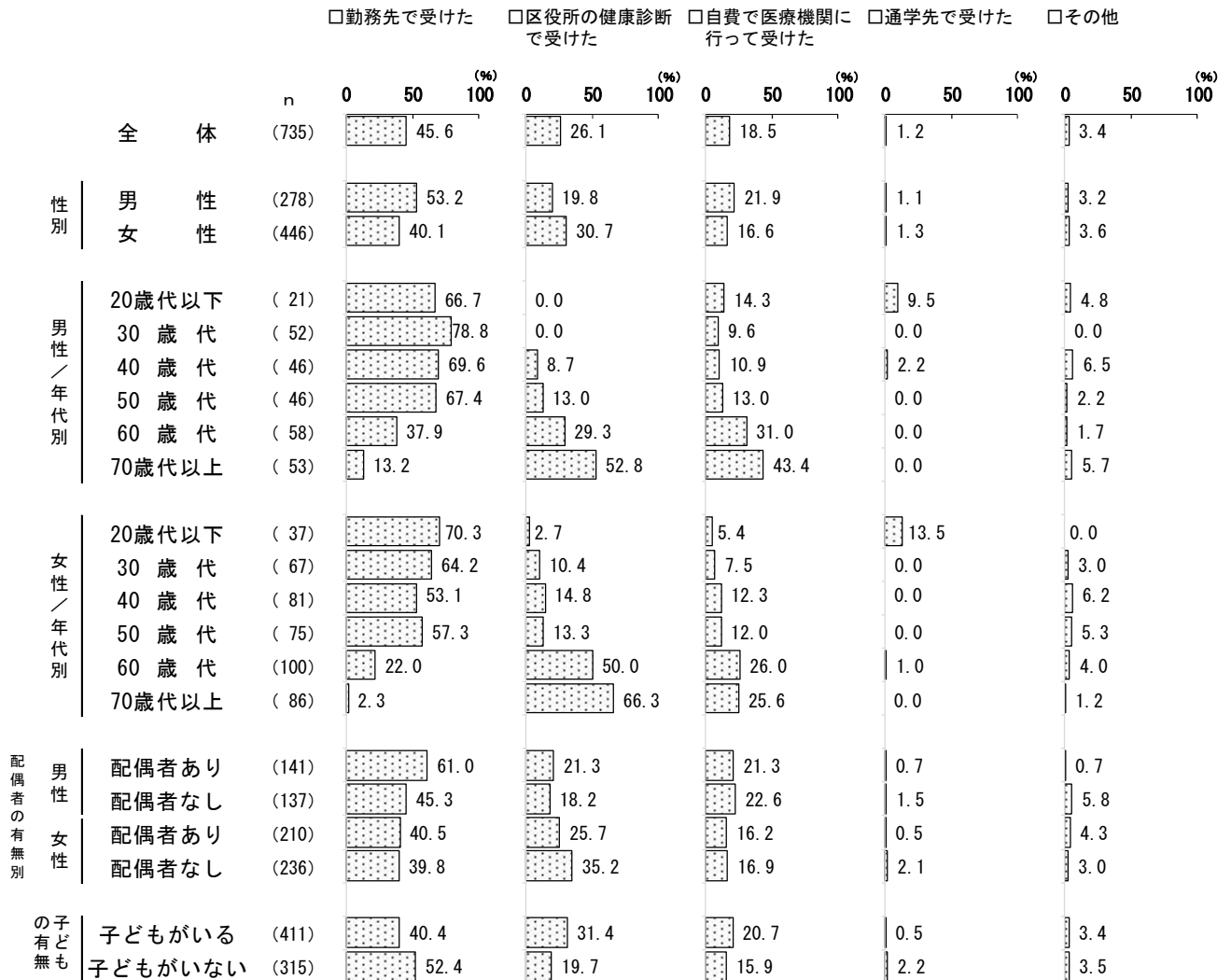
図表 1-15-2 健康診断の受診状況一過年度比較



性別でみると、「勤務先で受けた」は男性が女性より13.1ポイント高くなっている。一方、「区役所の健康診断で受けた」は女性が男性より10.9ポイント高くなっている。

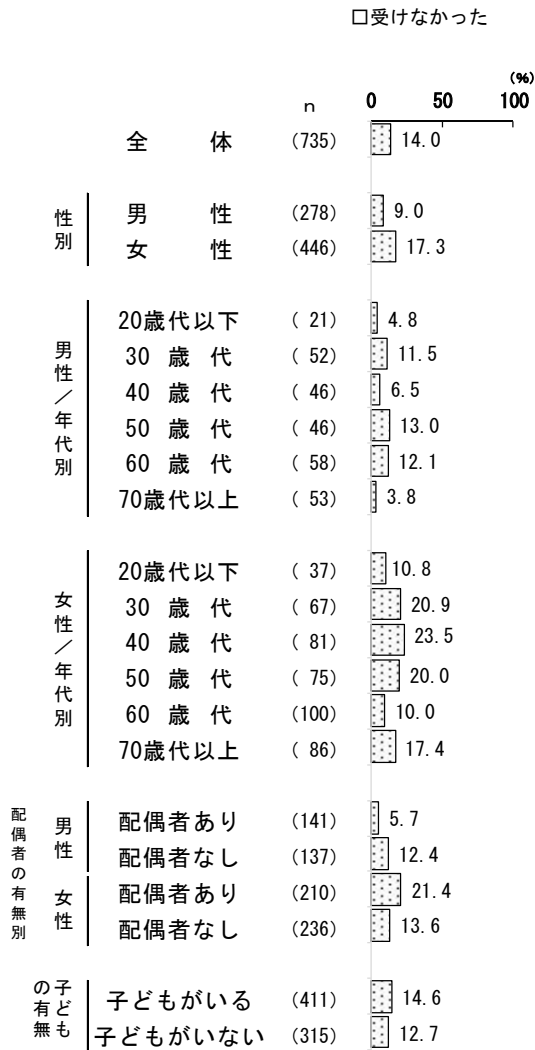
性・年代別でみると、「勤務先で受けた」は男性の30歳代で8割近く、女性の20歳代以下で7割と高くなっている。「区役所の健康診断で受けた」は男女ともにおおむね高い年代ほど割合が高く、女性70歳代以上で6割半ばとなっている。

図表 1-15-3
健康診断の受診状況—性別、性・年代別、性・配偶者の有無別、子どもの有無別



図表 1-15-3

健康診断の受診状況－性別、性・年代別、性・配偶者の有無別、子どもの有無別 続き



■過去1年間に健康診断を受けた人の割合は、男性91.0%・女性82.7%。

■1割以上が、区役所や勤務先などで健康診断を受けていないため、受診するよう働きかけを行う必要がある。

※健康診断を受けた人の割合は、「受けなかった」と回答した男性9.0%・女性17.3%を回答者全体（100.0%）からそれぞれ差し引いて算出している。

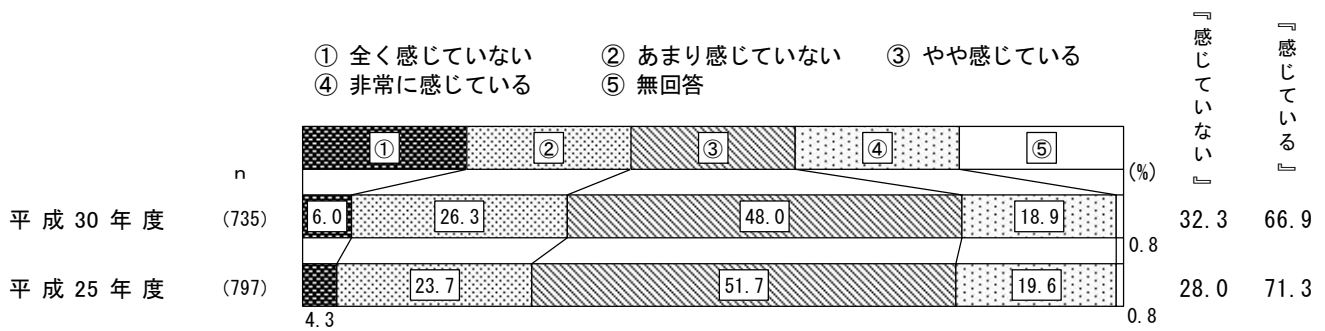
② 日頃のストレス

問16 心の健康についてお聞きします。あなたは、日頃の生活でどの程度ストレスを感じていますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

日頃の生活でどの程度ストレスを感じているか聞いたところ、「やや感じている」(48.0%)と「非常に感じている」(18.9%)を合わせた『感じている』(66.9%)は7割近くとなっている。一方、「全く感じていない」(6.0%)と「あまり感じていない」(26.3%)を合わせた『感じていない』(32.3%)は3割を超えている。

前回調査と比較すると、『感じている』は4.4ポイント減少している。

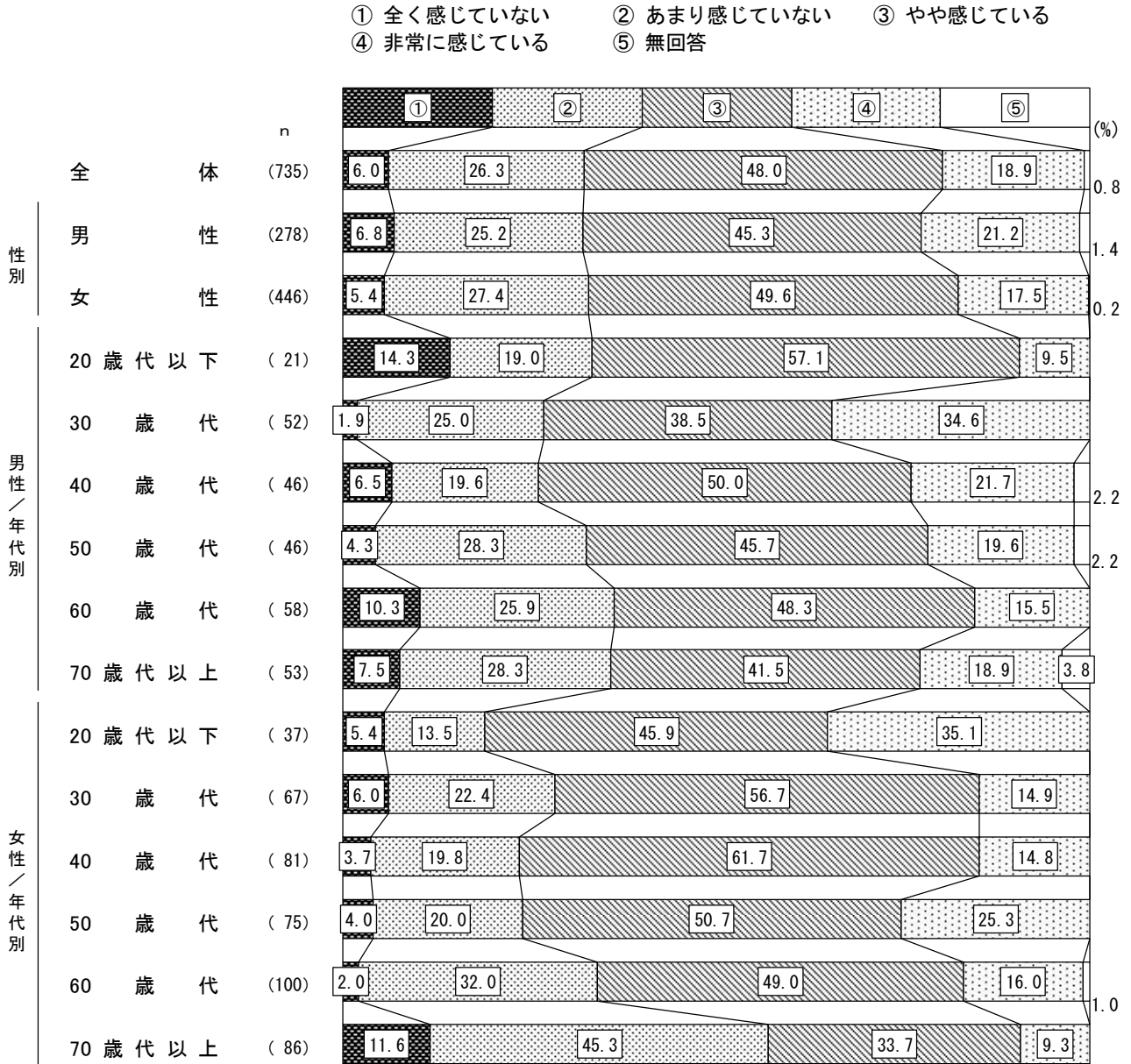
図表1-16-1 日頃のストレス—過年度比較



性別でみると、大きな違いはみられない。

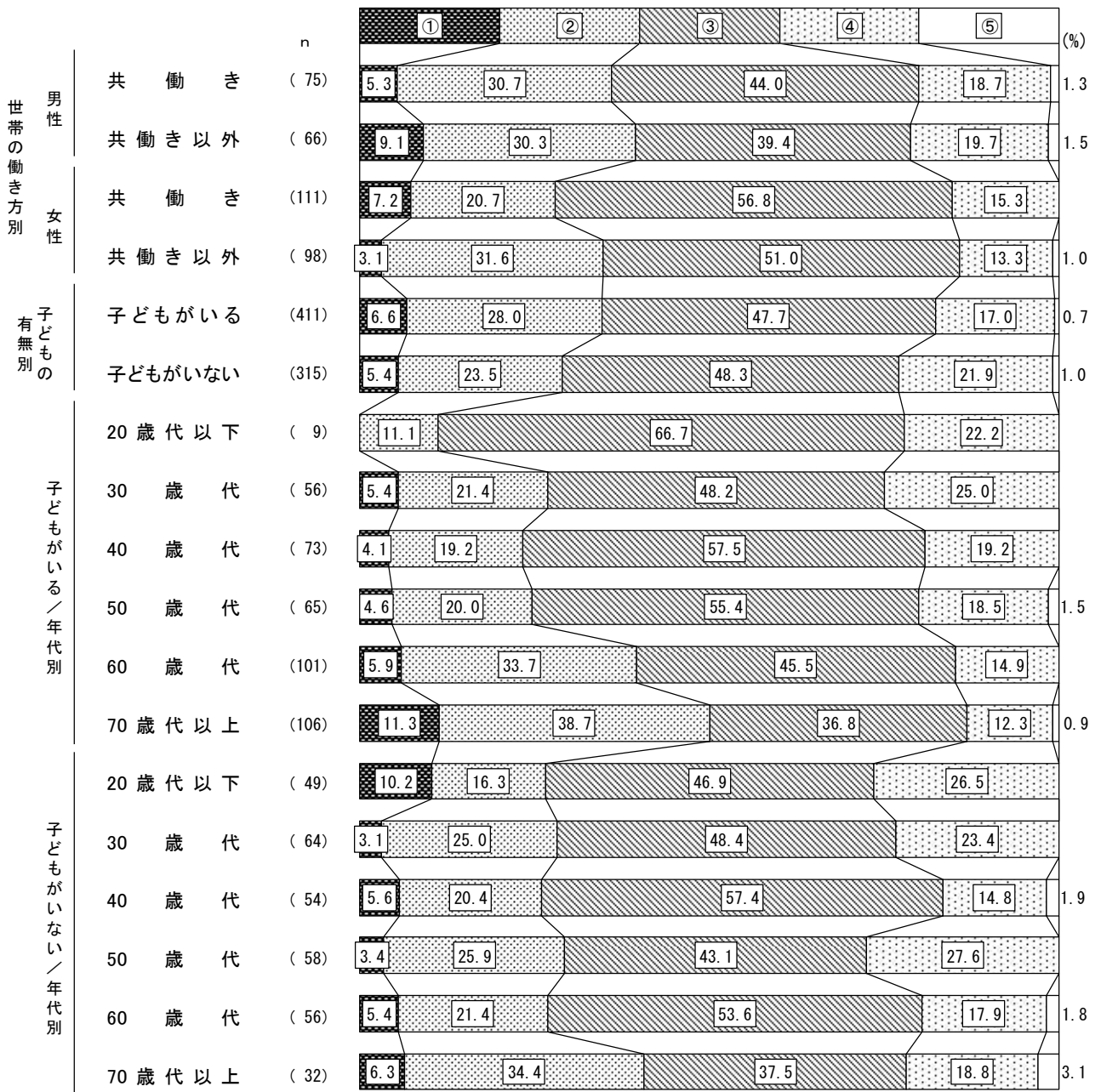
性・世帯の働き方別でみると、『感じている』は“女性の共働き”で7割を超えて高く、『感じていない』は“男性の共働き以外”でほぼ4割となっている。

図表1-16-2 日頃のストレス—性別、性・年代別



図表 1-16-3 日頃のストレス－性・世帯の働き方別、子どもの有無・年代別

① 全く感じていない ② あまり感じていない ③ やや感じている
④ 非常に感じている ⑤ 無回答



■男女別だと大きな違いがみられないが、世帯の働き方別にみると“女性の共働き”で日頃のストレスを「感じている」と回答した割合が高いため、共働き世帯において、家事・育児の負担が女性に偏っている可能性が考えられる。

(7) 地域活動について

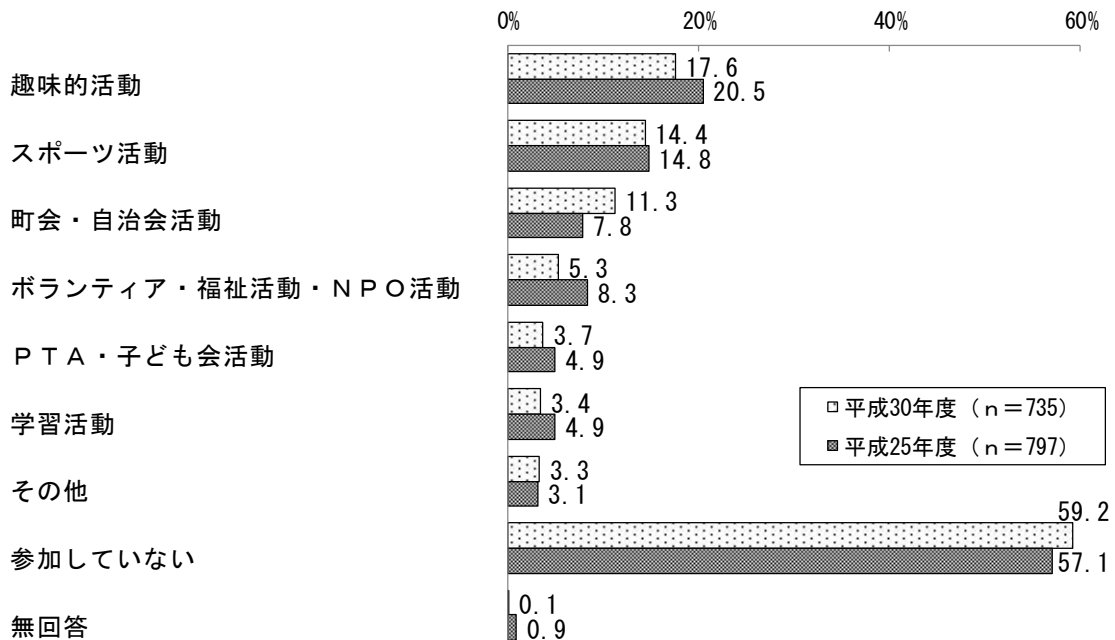
① 地域活動への参加状況

問17 あなたは、日常的にグループやサークル、団体などの自主的な活動に参加していますか。
あてはまる番号にすべて○をつけてください。

日常的にグループやサークル、団体などの自主的な活動に参加しているか聞いたところ、「趣味的活動」(17.6%)が2割近くと最も高くなっている。次いで、「スポーツ活動」(14.4%)、「町会・自治会活動」(11.3%)などとなっている。一方、「参加していない」(59.2%)はほぼ6割となっている。

前回調査と比較すると、「町会・自治会活動」は3.5ポイント増加している。一方、「ボランティア・福祉活動・NPO活動」は3.0ポイント減少している。

図表1-17-1 地域活動への参加状況一過年度比較

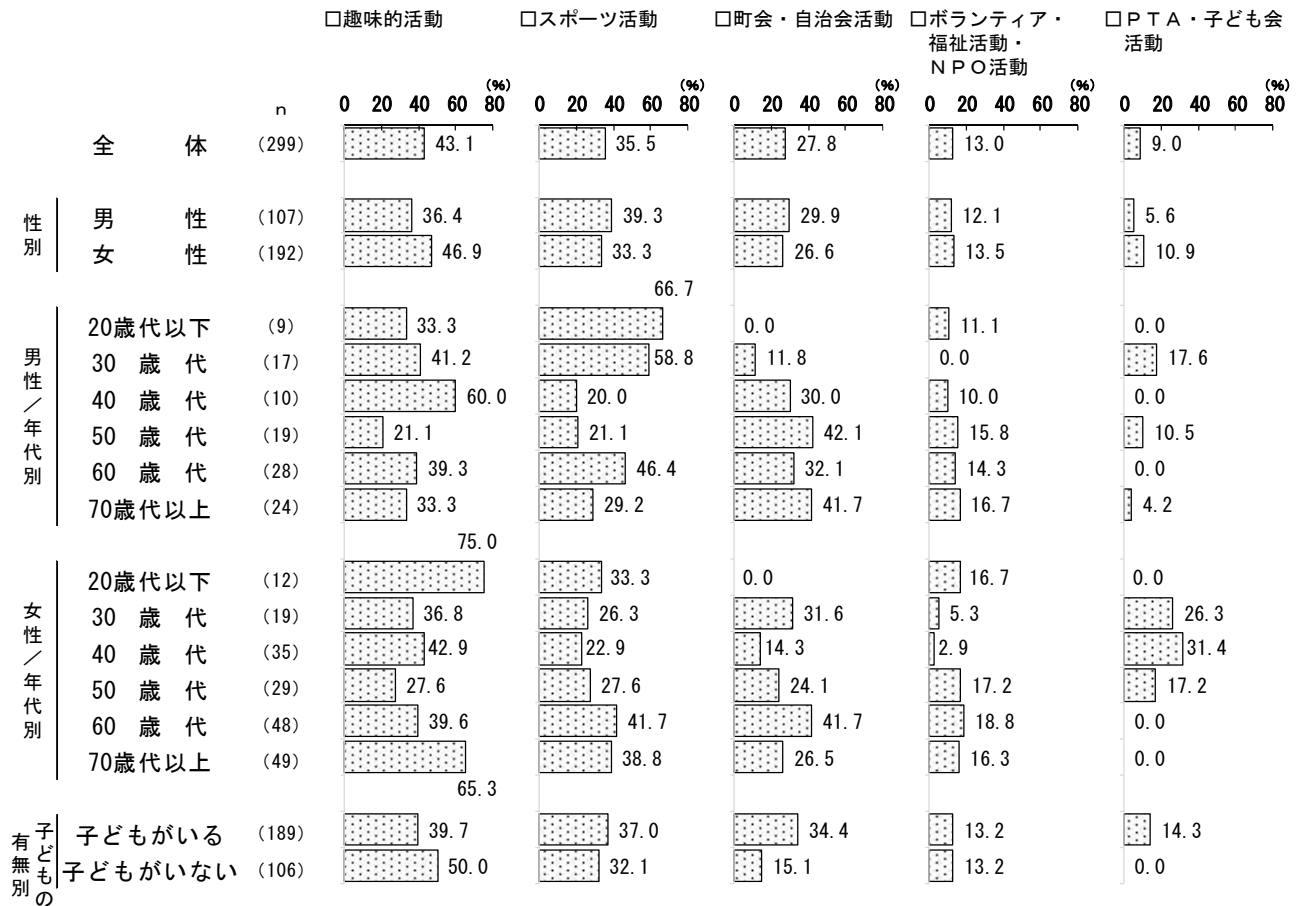


「参加していない」や無回答以外の方について、性別でみると、「趣味的活動」は女性が男性より10.5ポイント高くなっている。

子どもの有無別でみると、「町会・自治会活動」は“子どもがいる”が“子どもがいない”より19.3ポイント高くなっている。

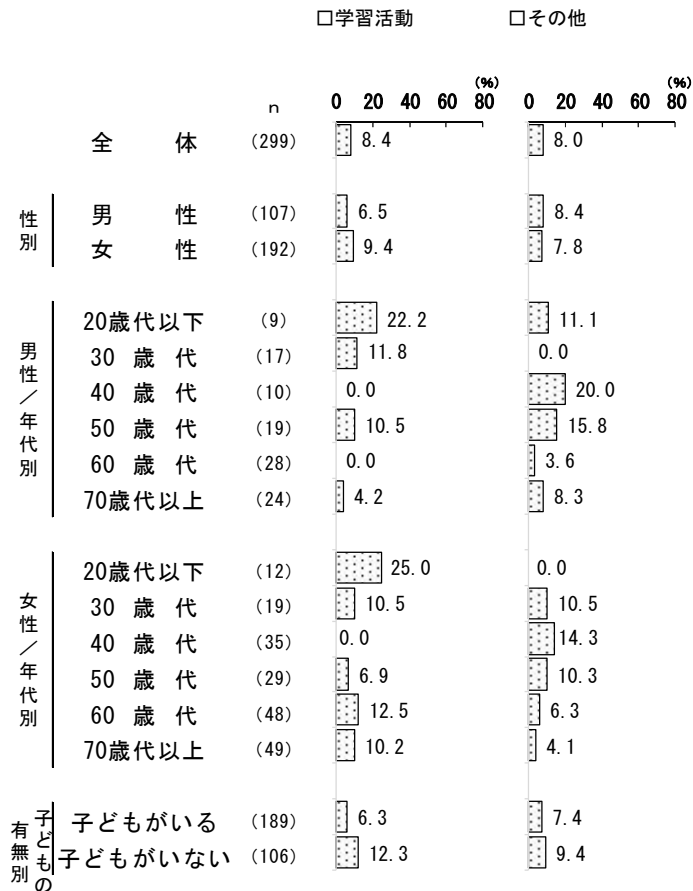
図表 1-17-2

地域活動への参加状況－性別、性・年代別、子どもの有無別（参加していない・無回答以外）



図表 1-17-2

地域活動への参加状況－性別、性・年代別、子どもの有無別（参加していない・無回答以外） 続き



■全般的に低い割合となっているため、個人や家族単位で行動する人が多いことが伺える。

■“子どもがいない”人は町会・自治会活動に参加する機会が少ないという結果であり、単身者や夫婦のみ家庭がどのように活動に参加すればいいのか、方法を考える必要がある。

② 地域活動へ参加していない理由

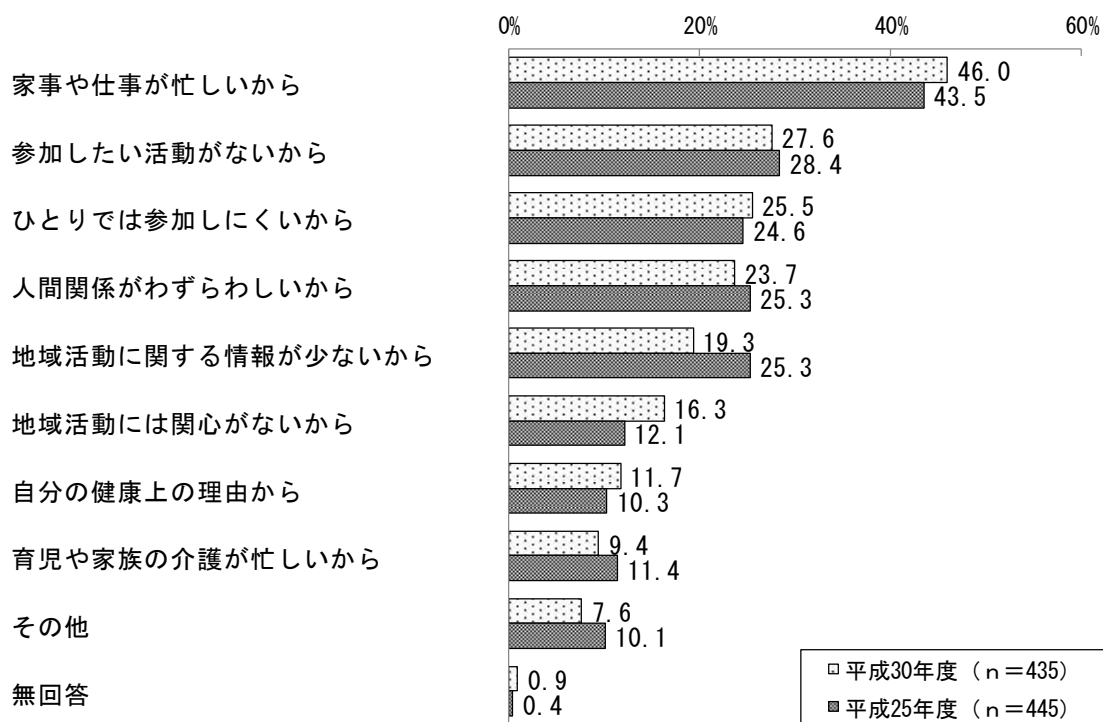
(問17で「8 参加していない」と答えたにお聞きします。)

問17-1 地域活動に参加していない理由は何ですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

問17で、「参加していない」と答えた方に、地域活動に参加していない理由を聞いたところ、「家事や仕事が忙しいから」(46.0%)が4割半ばと最も高くなっている。次いで、「参加したい活動がないから」(27.6%)、「ひとりでは参加しにくいから」(25.5%)、「人間関係がわずらわしいから」(23.7%)などとなっている。

前回調査と比較すると、「地域活動に関する情報が少ないから」は6.0ポイント減少し、「地域活動には関心がないから」は4.2ポイント増加している。

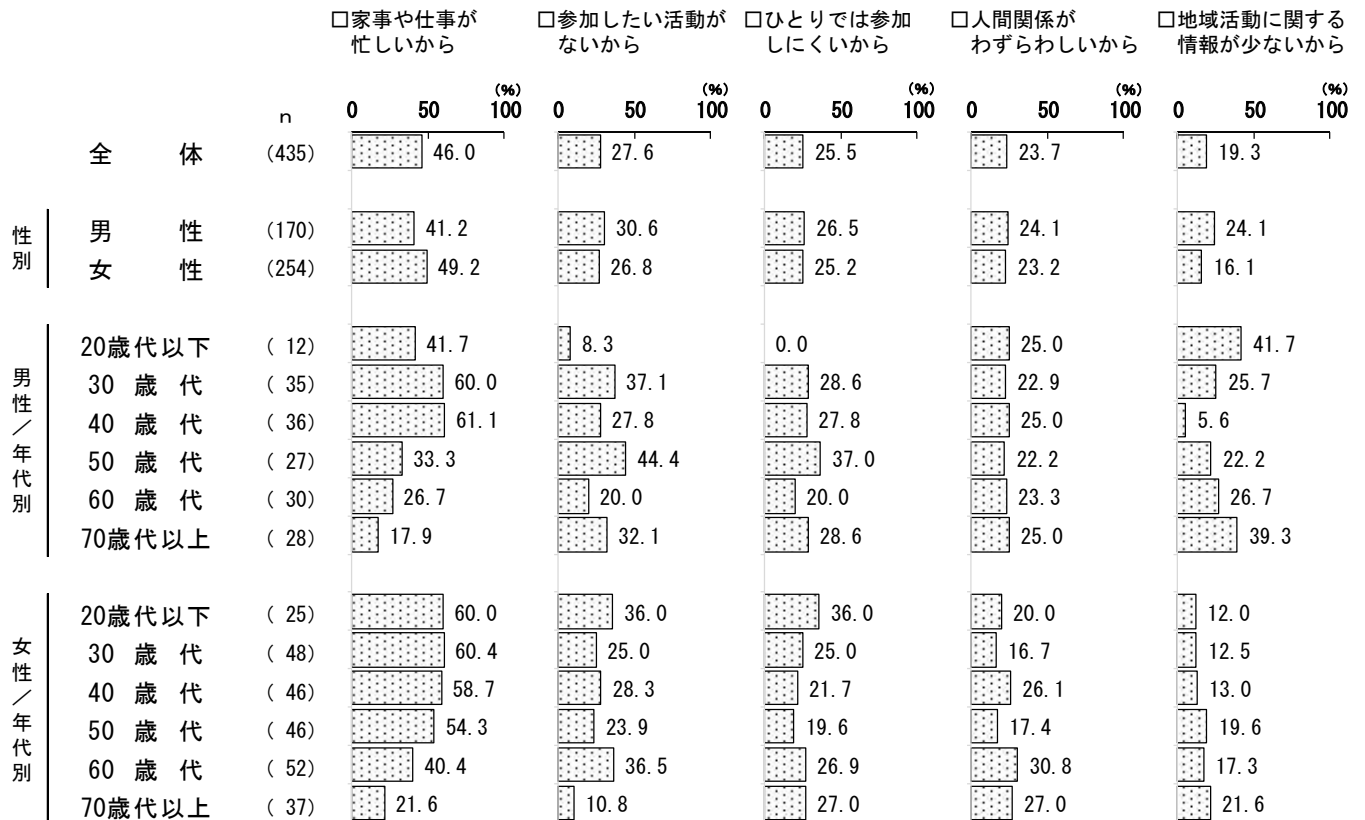
図表1-17-1-1 地域活動へ参加していない理由—過年度比較



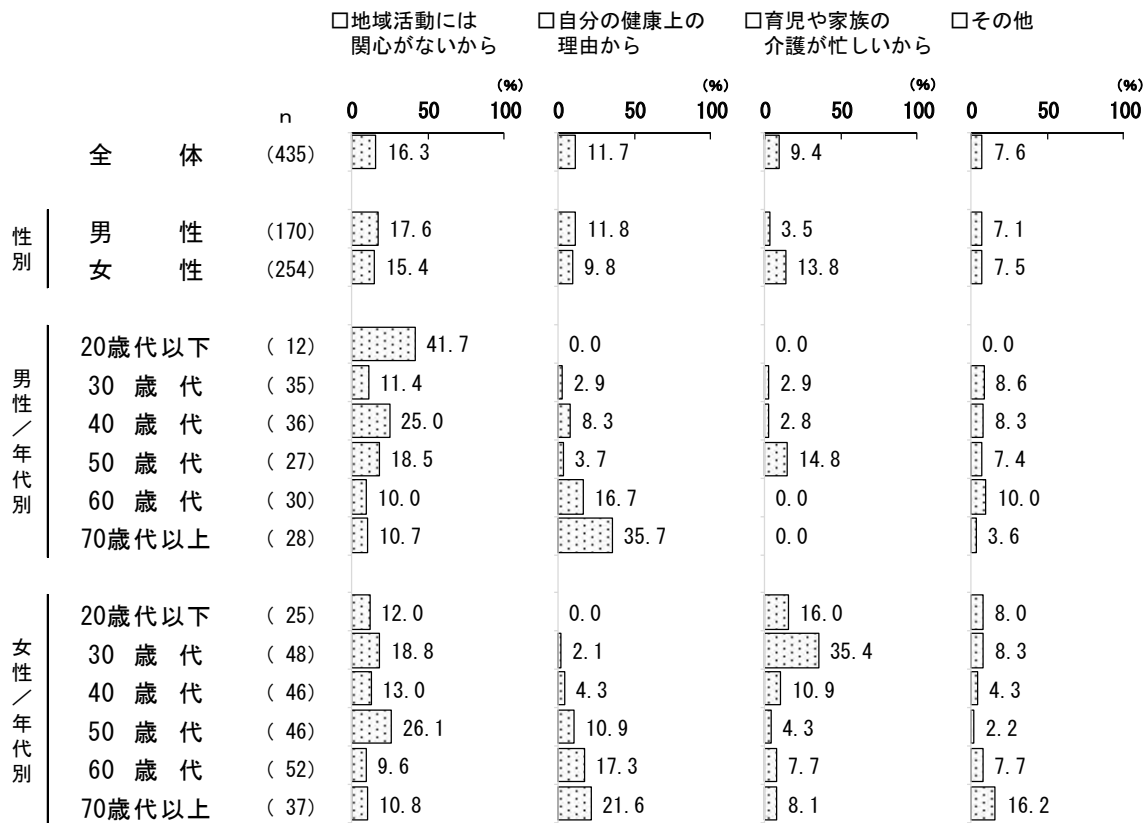
性別でみると、「育児や家族の介護が忙しいから」は女性が男性より10.3ポイント高くなっている。一方、「地域活動に関する情報が少ないから」は男性が女性より8.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「家事や仕事が忙しいから」は女性の20歳代以下及び30歳代で6割と高くなっている。「地域活動に関する情報が少ないから」は男性の20歳代以下で4割を超えて高くなっている。

図表 1-17-1-2 地域活動へ参加していない理由—性・年代別



図表 1-17-1-2 地域活動へ参加していない理由—性・年代別 続き



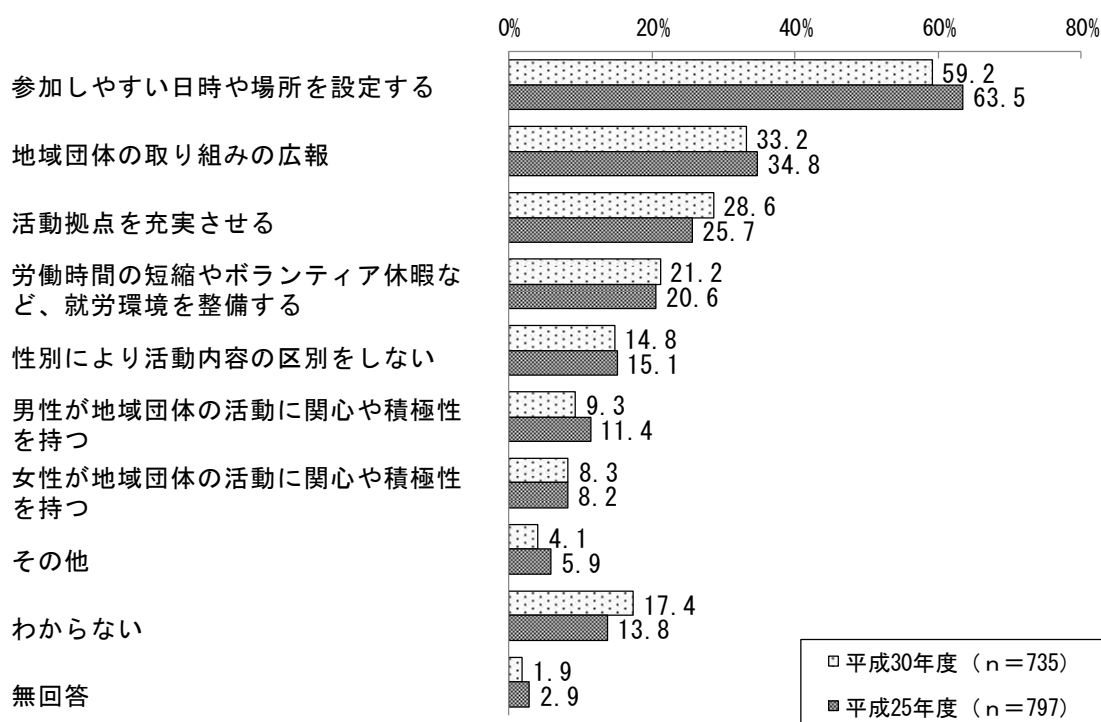
③ 地域活動へ参加しやすくするために必要なこと

問18 男性も女性も地域活動に参加しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

男性も女性も地域活動に参加しやすくするためには、どのようなことが必要だと思うか聞いたところ、「参加しやすい日時や場所を設定する」(59.2%)がほぼ6割と最も高くなっている。次いで、「地域団体の取り組みの広報」(33.2%)、「活動拠点を充実させる」(28.6%)、「労働時間の短縮やボランティア休暇など、就労環境を整備する」(21.2%)などとなっている。

前回調査と比較すると、「参加しやすい日時や場所を設定する」は4.3ポイント減少している。一方、「活動拠点を充実させる」は2.9ポイント増加している。

図表1-18-1 地域活動へ参加しやすくするために必要なこと—過年度比較



■「参加しやすい日時や場所の設定」が最も多いため、短時間の参加でも大丈夫な事業を用意するなどといった対策が必要であると考える。

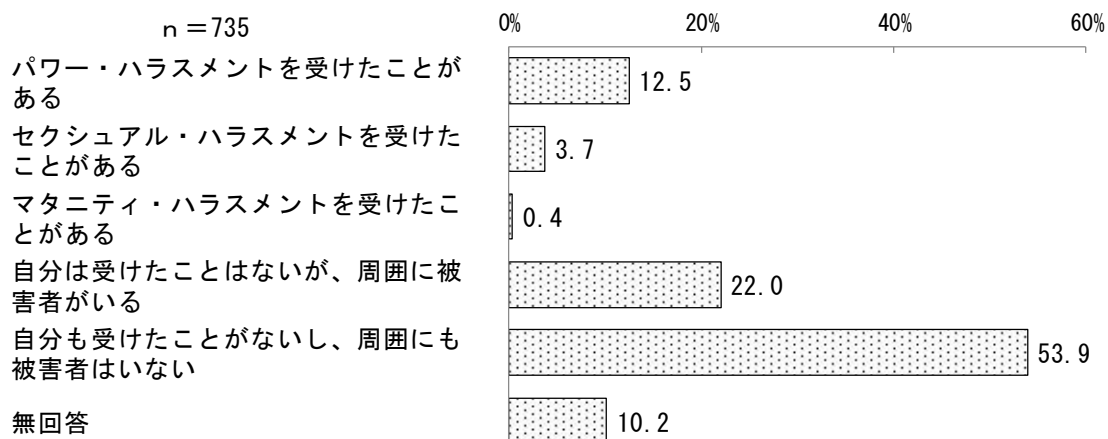
(8) 人権について

① ハラスメントの経験

問19 あなたはここ1～2年の間に、職場・学校・地域で、ハラスメントを受けたこと、または、周囲の方が被害を受けたという話を聞いたことはありますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

ハラスメントの経験を聞いたところ、「パワー・ハラスメントを受けたことがある」(12.5%)が1割を超え最も高くなっている。「自分は受けたことはないが、周囲に被害者がいる」(22.0%)は2割を超え、「自分も受けたことがないし、周囲にも被害者はいない」(53.9%)は5割を超えている。

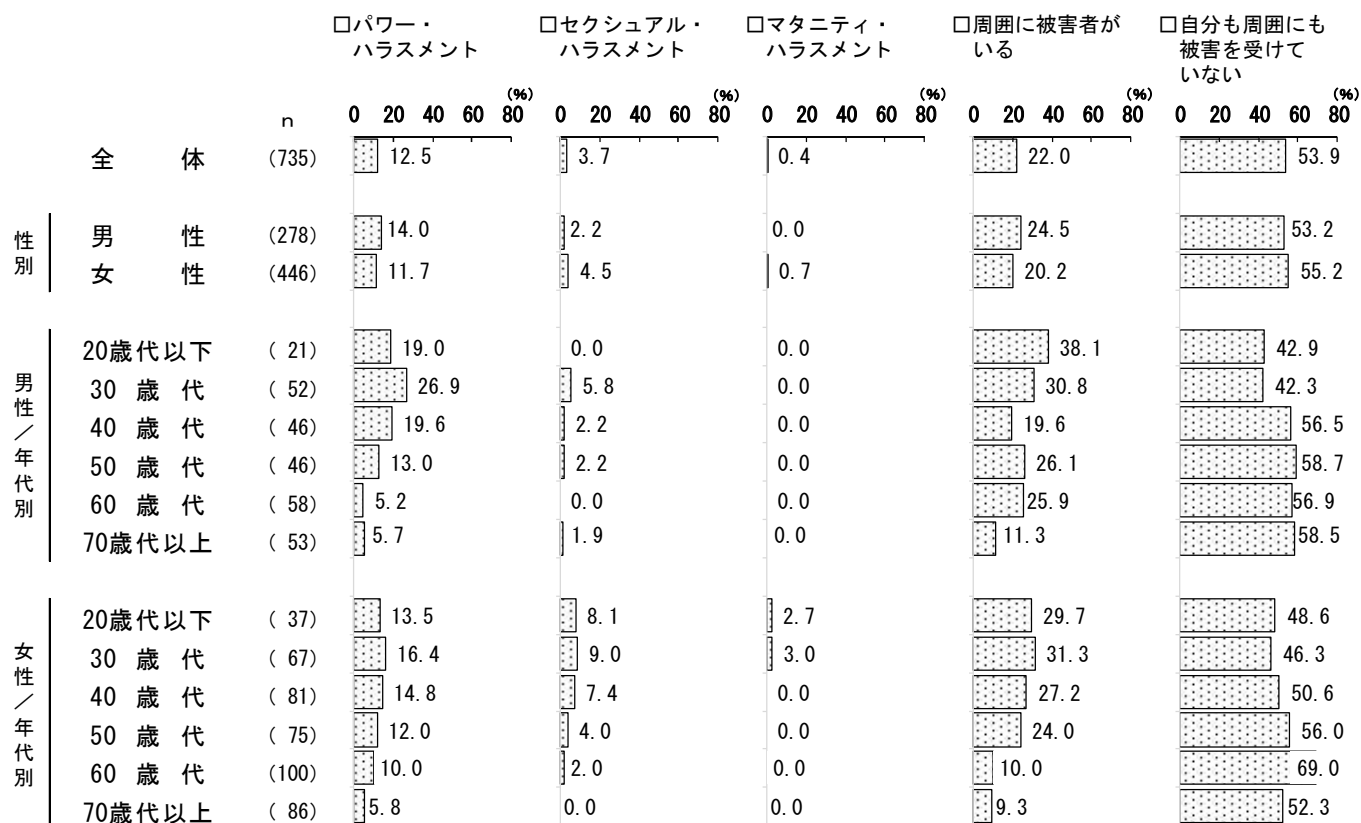
図表1-19-1 ハラスメントの経験



性別で見ると、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は女性が男性より2.3ポイント高くなっている。一方、「パワー・ハラスメントを受けたことがある」は男性が女性より2.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「パワー・ハラスメントを受けたことがある」は男性の30歳代で3割近くと高くなっている。

図表 1-19-2 ハラスメントの経験—性・年代別



■20～30歳代女性ではセクシュアル・ハラスメント、30歳代男性ではパワー・ハラスメントが、それぞれ高い結果となっており、相談窓口の存在をより広く案内するなどの対策を立てる必要があると思われる。

② 相談の有無

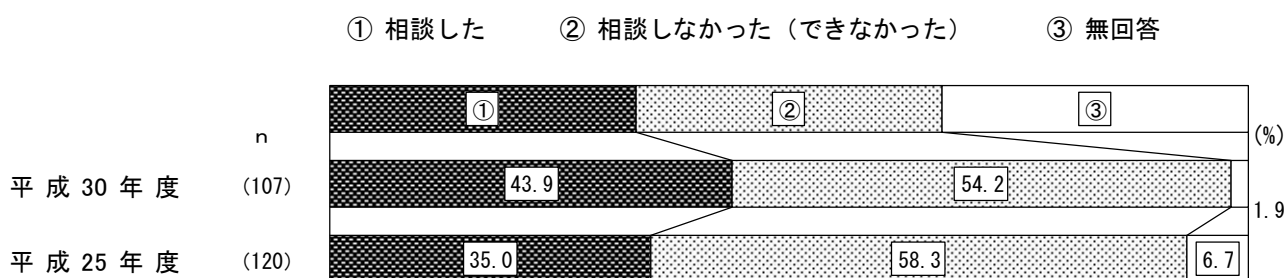
(問19で「1」か「3」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。)

問19-1 あなたはこれまでに誰かに相談しましたか。

問19で、「ハラスメントを受けたことがある」と答えた方に、誰かに相談したか聞いたところ、「相談した」(43.9%)が4割を超え、「相談しなかった(できなかった)」(54.2%)が5割半ばとなっている。

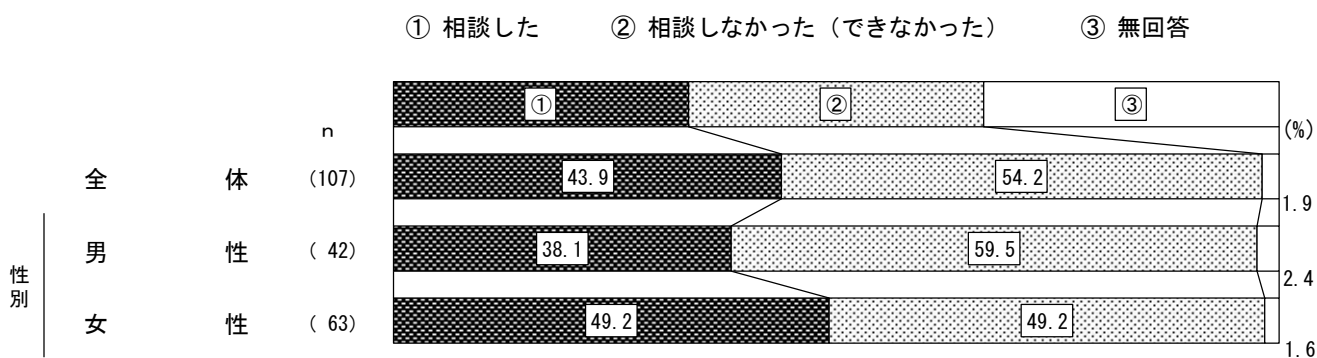
前回調査と比較すると、「相談した」は8.9ポイント増加している。

図表1-19-1-1 相談の有無-過年度比較



性別でみると、「相談しなかった(できなかった)」は男性が女性より10.3ポイント高くなっている。

図表1-19-1-2 相談の有無-性別



■「相談した」が前回調査より増加しているものの、女性に比べて男性は相談した割合が少ないため、男性も気軽に相談できるような窓口の広報が必要であるとする。

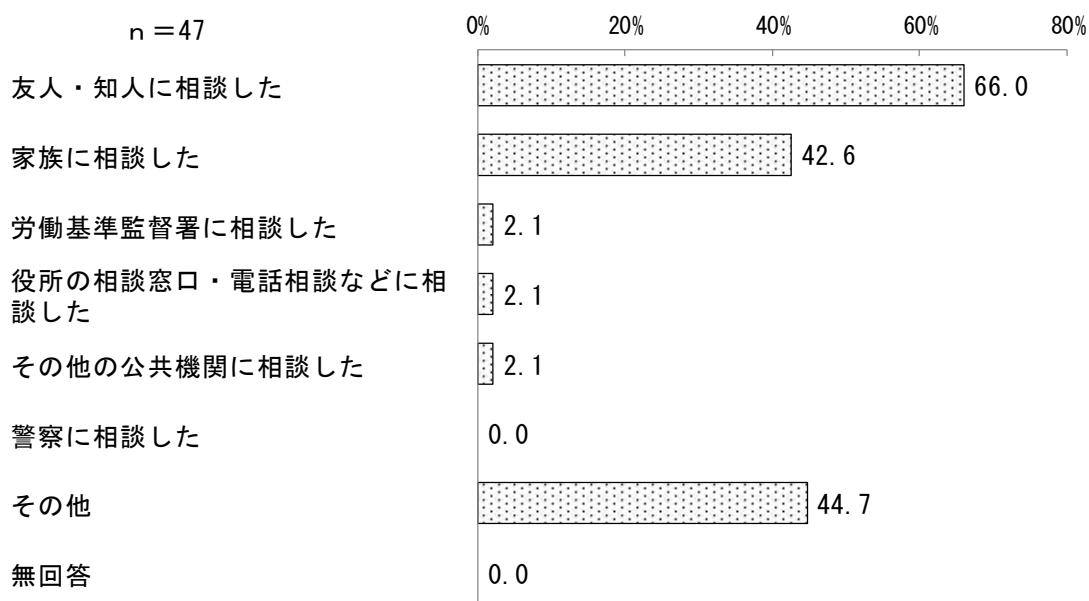
③ 相談相手

(19-1で「1 相談した」と答えた方にお聞きします。)

問19-2 そのとき、どこ(だれ)に相談しましたか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

問19-1で、「相談した」と答えた方に、どこに相談したか聞いたところ、「友人・知人に相談した」(66.0%)が6割半ばと最も高く、次いで、「家族に相談した」(42.6%)などとなっている。

図表 1-19-2-1 相談相手



■友人・知人・家族に相談したという回答が大半を占めており、公的機関への相談は1割未満である。どのような行為がハラスメントに当たり、どのような機関に相談すればよいのかが、分かるような情報の提供が不可欠である。

④ 相談しなかった理由

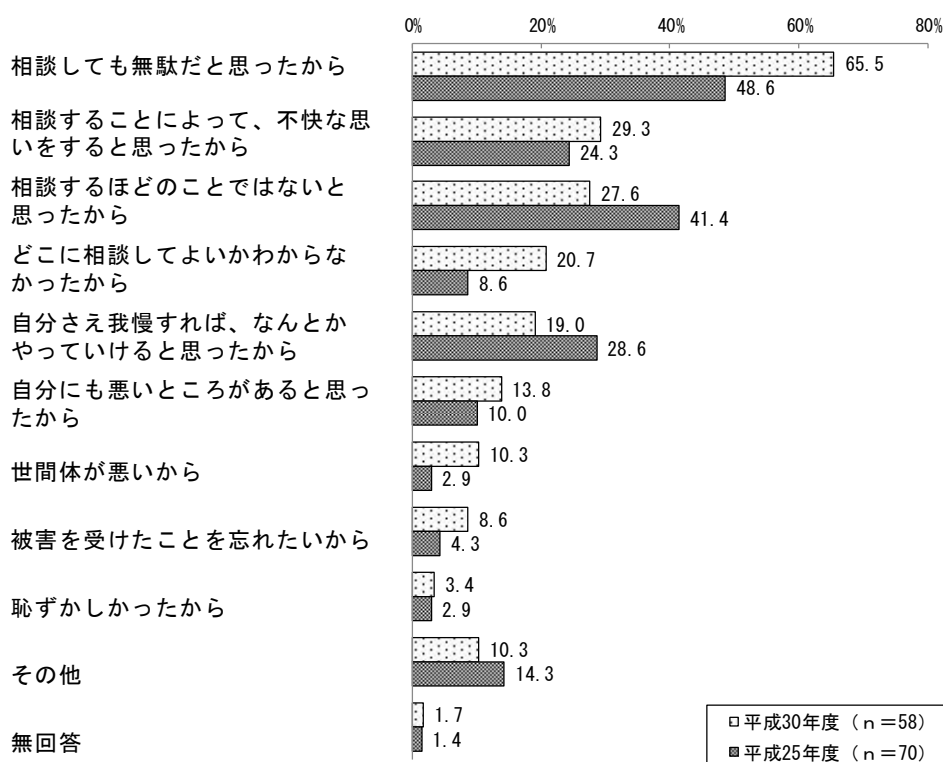
(問19-1で「2 相談しなかった」と答えた方にお聞きます。)

問19-3 どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)理由は何ですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

問19-1で、「相談しなかった(できなかった)」と答えた方(58人)に、だれ(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由を聞いたところ、「相談しても無駄だと思ったから」(65.5%)が6割半ばと最も高くなっている。次いで、「相談することによって、不快な思いをすと思ったから」(29.3%)、「相談するほどのことではないと思ったから」(27.6%)、「どこに相談してよいかわからなかったから」(20.7%)、「自分さえ我慢すれば、なんとかやっていたらと思ったから」(19.0%)などとなっている。

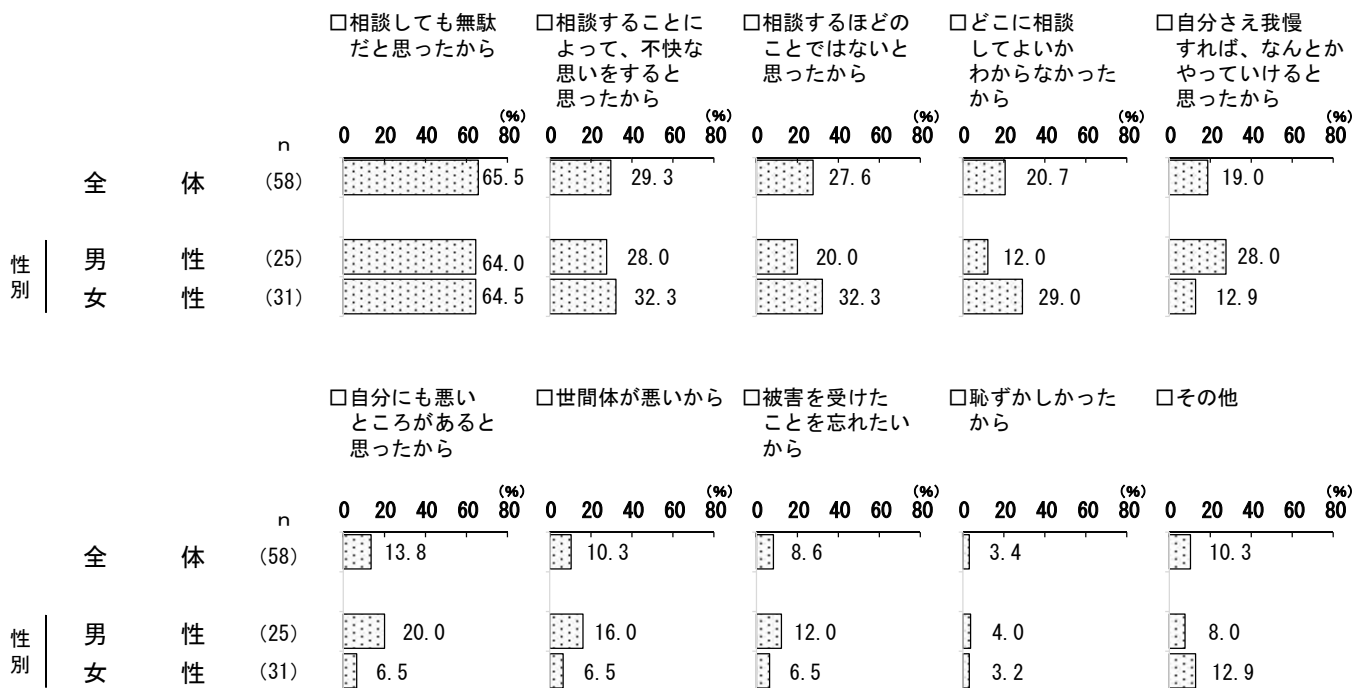
前回調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」は16.9ポイント増加している。一方、「相談するほどのことではないと思ったから」は13.8ポイント減少している。

図表1-19-3-1 相談しなかった理由一過年度比較



性別で見ると、「どこに相談してよいかわからなかったから」は女性が男性より17.0ポイント高くなっている。一方、「自分さえ我慢すれば、なんとかやっていたから」は男性が女性より15.1ポイント高くなっている。

図表 1-19-3-2 相談しなかった理由-性別



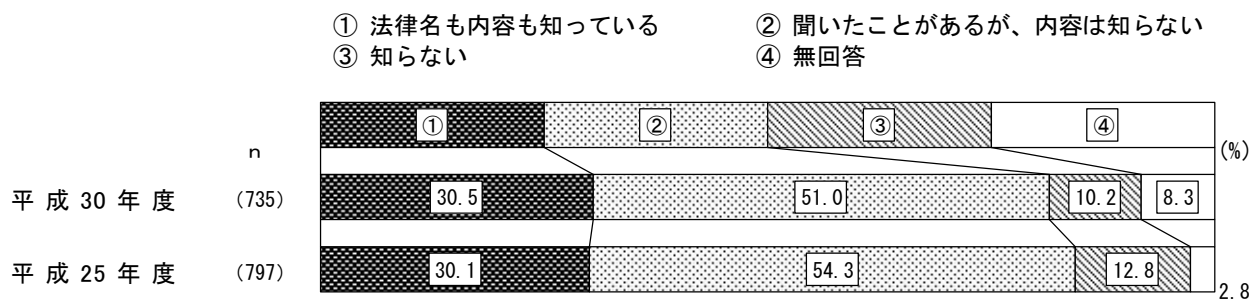
⑤ DV防止法の認知度

問20 あなたは「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」（DV防止法）をご存知ですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

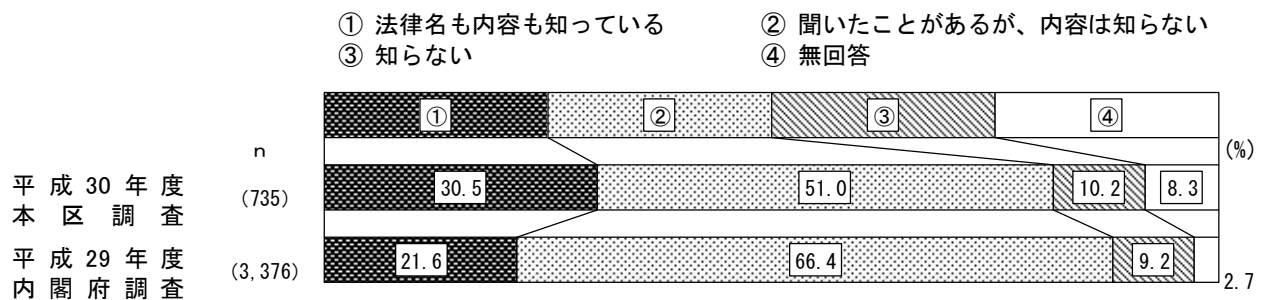
「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（DV防止法）を知っているか聞いたところ、「法律名も内容も知っている」（30.5%）がほぼ3割、「聞いたことがあるが、内容は知らない」（51.0%）が5割を超えている。一方、「知らない」（10.2%）は1割となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

図表1-20-1 DV防止法の認知度—過年度比較



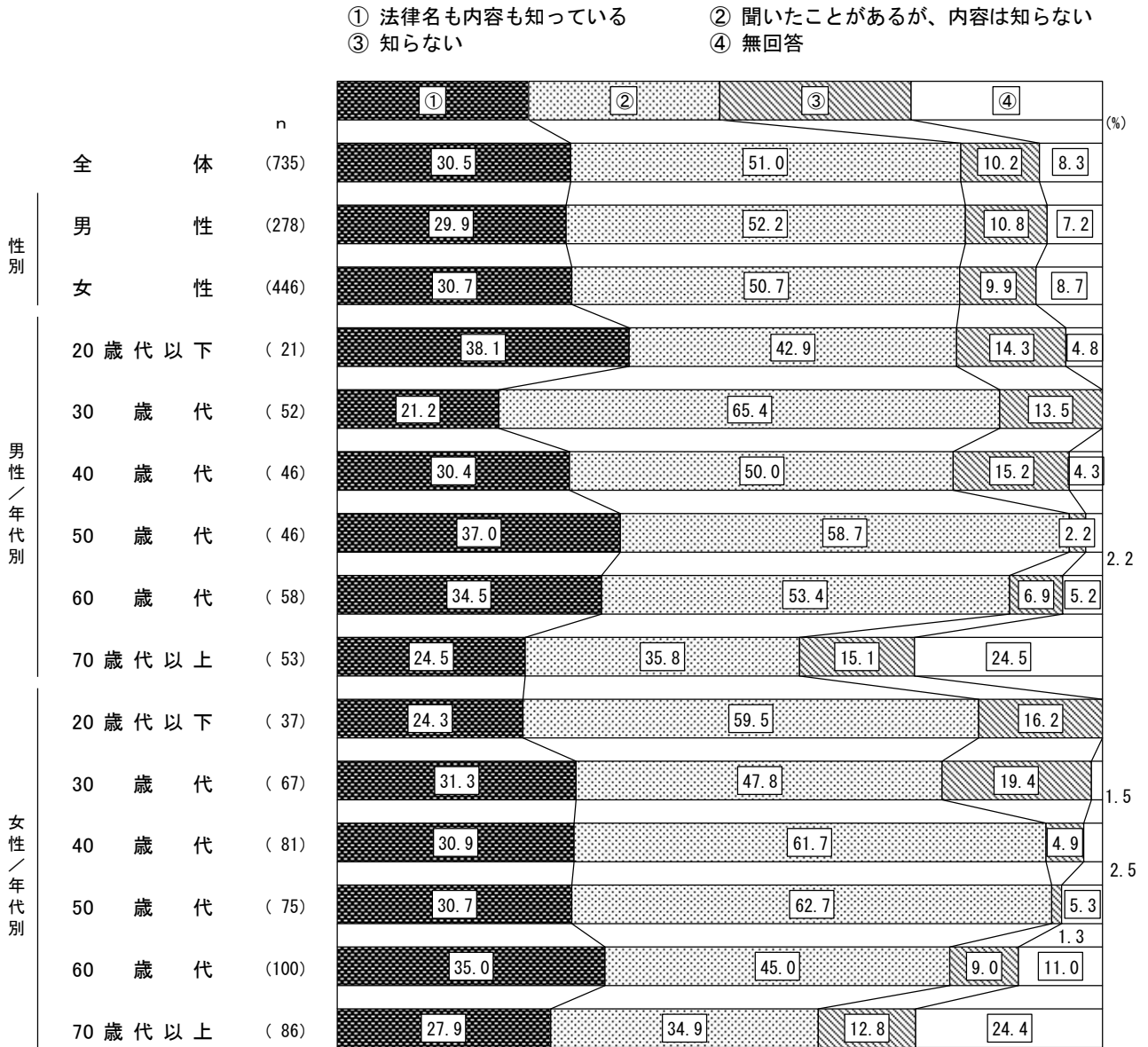
図表1-20-2 DV防止法の認知度—内閣府調査（平成29年）との比較



性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、「法律名も内容も知っている」は男性の20歳代以下及び50歳代で4割近くと高く、「聞いたことがあるが、内容は知らない」は男性の30歳代で6割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は女性の30歳代でほぼ2割と高くなっている。

図表 1-20-3 DV防止法の認知度—性別、性・年代別



■30歳代男性・70歳代以上男性で「法律名も内容も知っている」が低い割合となっているため、これらの層に注力しての啓発活動が必要ではないかと考えられる。

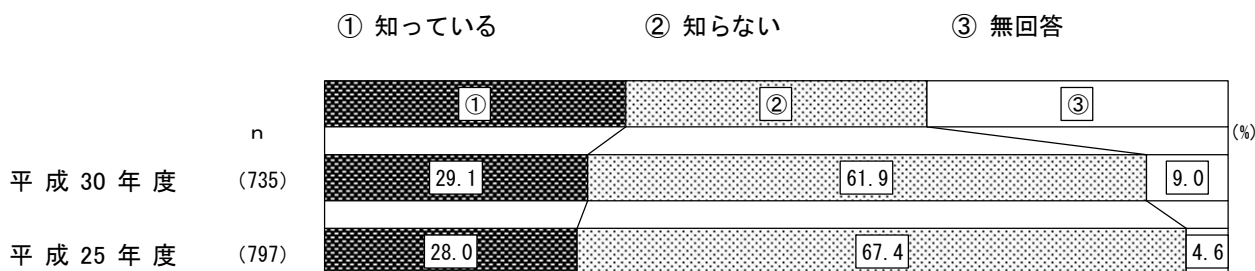
⑥ 相談窓口の認知度

問21 あなたは配偶者からの暴力について相談できる窓口をご存知ですか。

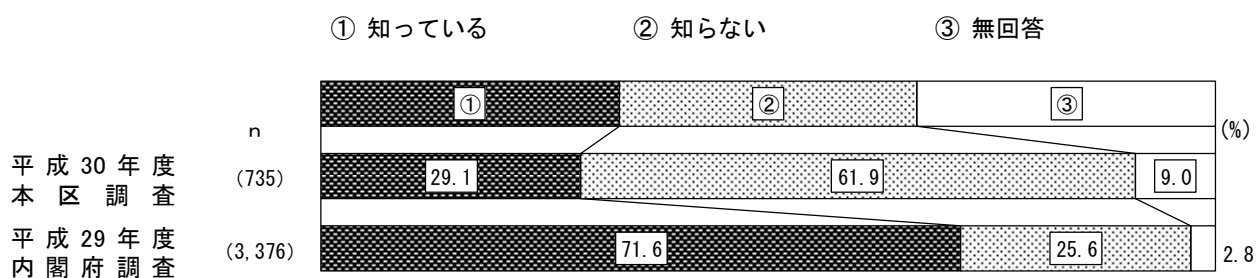
配偶者からの暴力について相談できる窓口を知っているか聞いたところ、「知っている」(29.1%)はほぼ3割、「知らない」(61.9%)は6割を超えている。

前回調査と比較すると、「知らない」は5.5ポイント減少している。

図表1-21-1 相談窓口の認知度—過年度比較

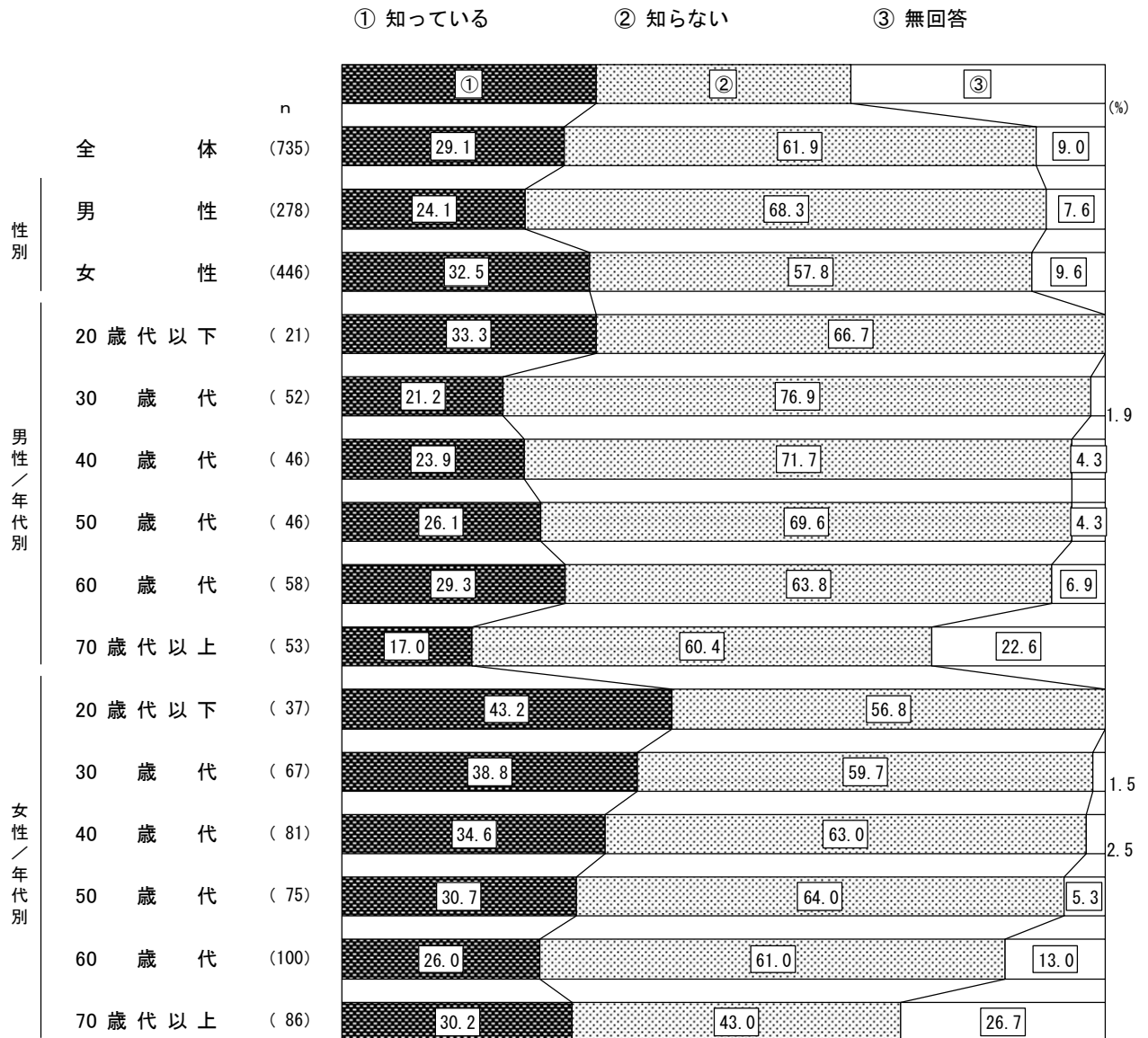


図表1-21-2 相談窓口の認知度—内閣府調査（平成29年）との比較



性別で見ると、「知っている」は女性が男性より8.4ポイント高くなっている。
 性・年代別で見ると、「知っている」は女性の20歳代以下で4割を超え高くなっている。一方、「知らない」は男性の30歳代で8割近くと高くなっている。

図表 1-21-3 相談窓口の認知度—性別、性・年代別



■男女ともに20歳代以下での認知度が高くなっているのに対して、30~40歳代で男女差が大きく、特に30歳代男性・70歳代以上男性で低い割合となっているため、これらの層に注力しての啓発活動が必要ではないかと考えられる。

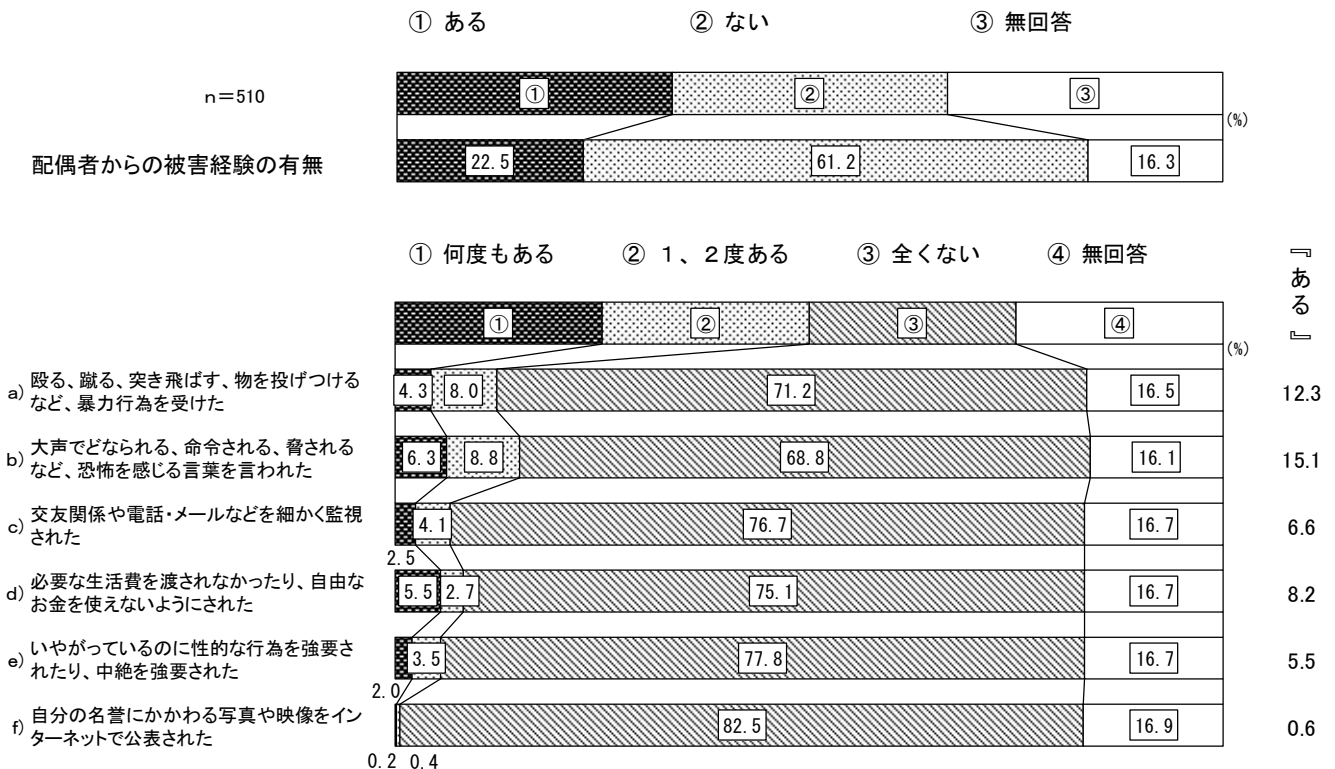
⑦ 配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験

(F3(1ページ)で配偶者が「1 いる」、F3-2で「2 離婚」「3 死別」と答えた方にお聞きします。)

問22 あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。それぞれの項目について番号に1つずつ○をつけてください。

F3で配偶者が「いる」、F3-2で「離婚」または「死別」と答えた方に、配偶者からのドメスティック・バイオレンスを受けたか聞いたところ、「何度もある」と「1、2度ある」を合わせた『ある』は「b 大声でどなられる、命令される、脅されるなど、恐怖を感じる言葉を言われた」(15.1%)で1割半ばと最も高くなっている。

図表1-22-1 配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験



■言葉の暴力、身体的暴力の順で高い割合となっている。

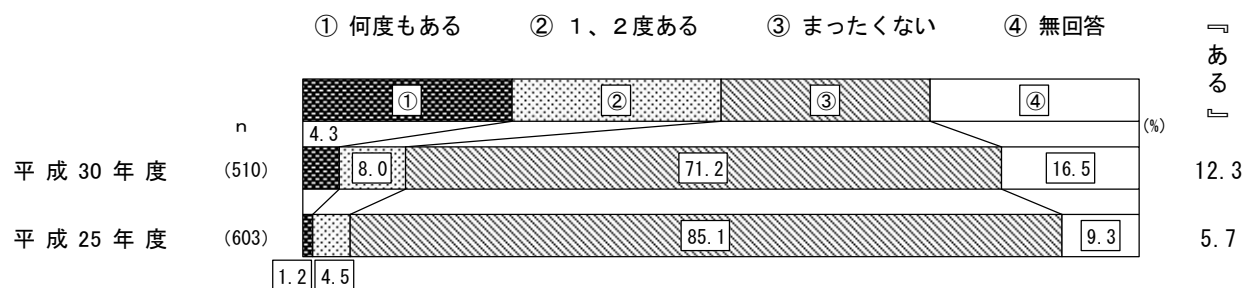
■「インターネットで公表」以外の全項目で男性よりも女性の方が高い割合となっており、相談窓口の周知や見回り活動の強化など、対策を立てる必要があると考える。

【a 殴る、蹴る、突き飛ばす、物を投げつけるなど、暴力行為を受けた】

「殴る、蹴る、突き飛ばす、物を投げつけるなど、暴力行為を受けた」ことがあるか聞いたところ、「何度もある」(4.3%)と「1、2度ある」(8.0%)を合わせた『ある』(12.3%)は1割を超えている。

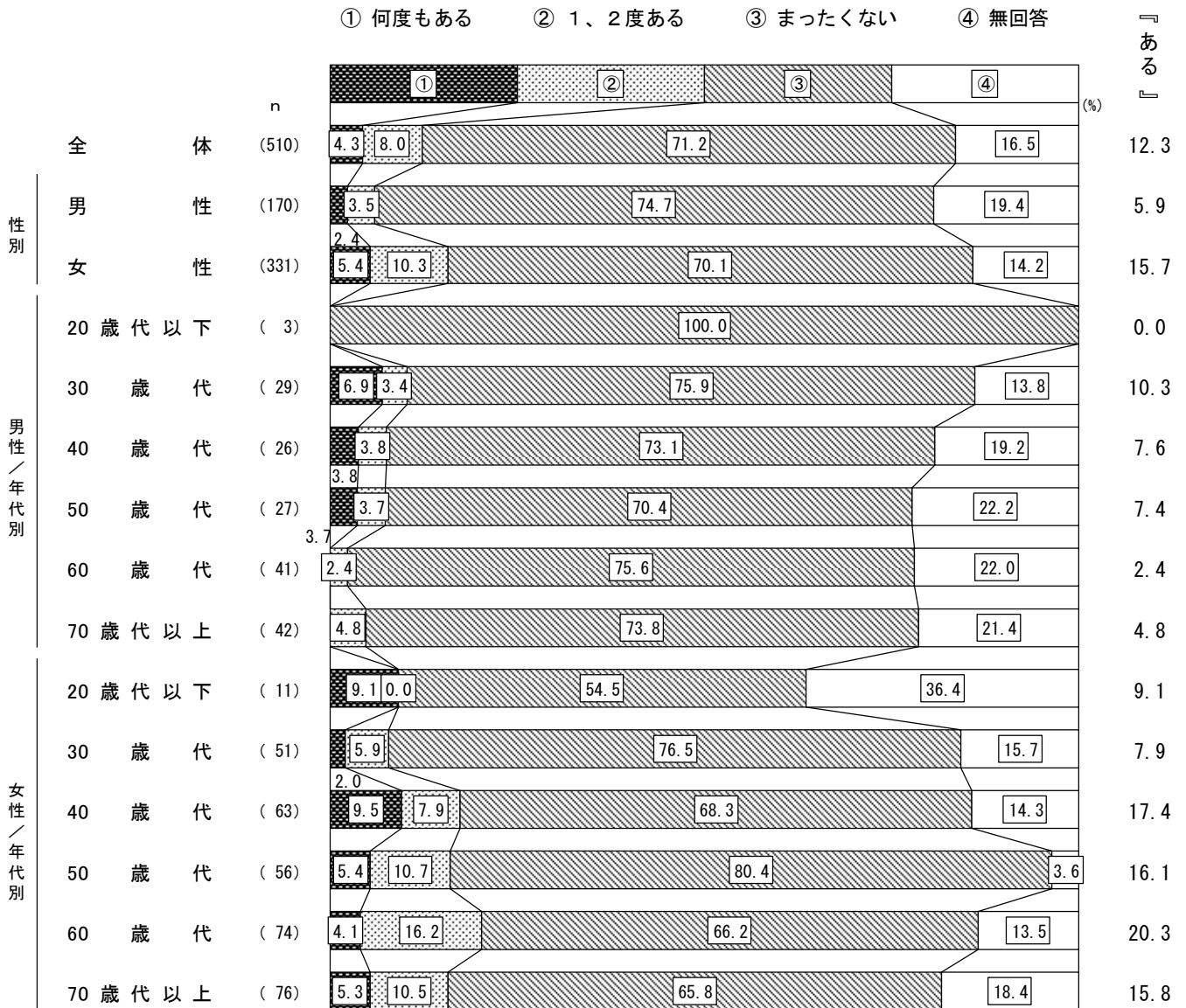
前回調査と比較すると、『ある』は6.6ポイント増加している。

図表 1-22-2 配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験 (a) 一過年度比較



性別で見ると、『ある』は男性が5.9%、女性が15.7%となっており、女性が男性より9.8ポイント高くなっている。

図表 1-22-3 配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験 (a) - 性別、性・年代別

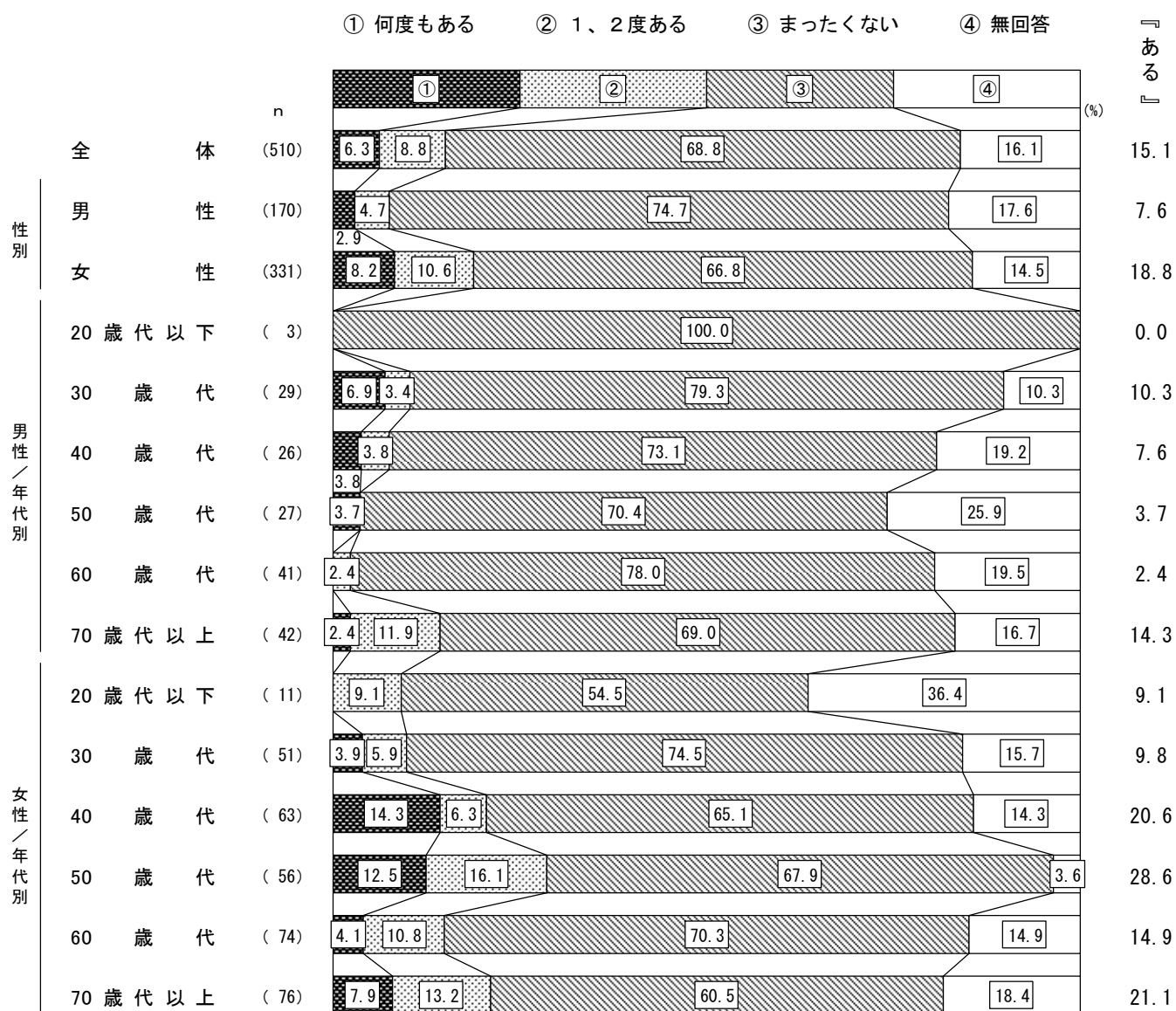


【b 大声でどなられる、命令される、驚かされる、恐怖を感じる言葉を言われた】

大声でどなられる、命令される、驚かされる、恐怖を感じる言葉を言われた」ことがあるか聞いたところ、「何度もある」(6.3%)と「1、2度ある」(8.8%)を合わせた『ある』(15.1%)は1割半ばとなっている。

性別で見ると、『ある』は男性が7.6%、女性が18.8%となっており、女性が男性より11.2ポイント高くなっている。

図表 1-22-4 配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験 (b) -性別、性年代別

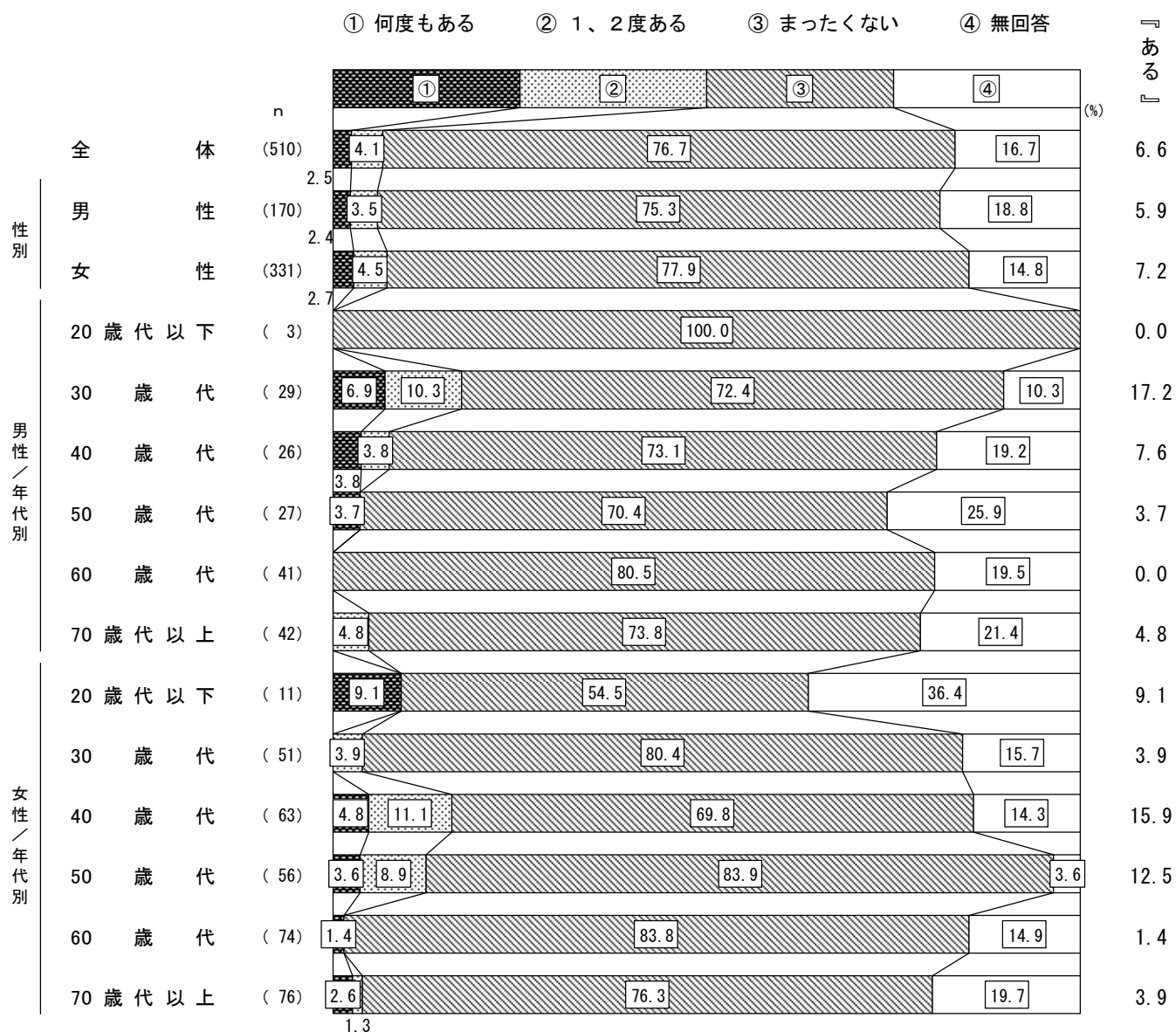


【c 交友関係や電話・メールなどを細かく監視された】

「交友関係や電話・メールなどを細かく監視された」ことがあるか聞いたところ、「何度もある」(2.5%)と「1、2度ある」(4.1%)を合わせた『ある』は6.6%となっている。

性別でみると、『ある』は男性が5.9%、女性が7.2%となっており、大きな違いはみられない。

図表1-22-5 配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験(c) - 性別、性・年代別

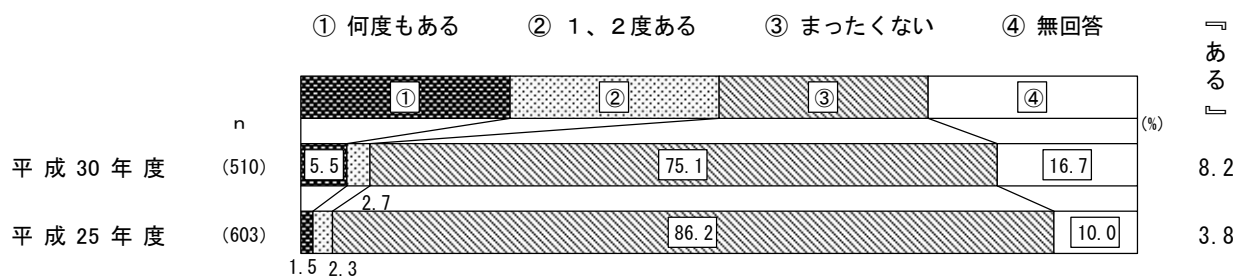


【d 必要な生活費を渡されなかったり、自由なお金を使えないようにされた】

「必要な生活費を渡されなかったり、自由なお金を使えないようにされた」ことがあるか聞いたところ、「何度もある」(5.5%)と「1、2度ある」(2.7%)を合わせた『ある』(8.2%)は1割未満となっている。

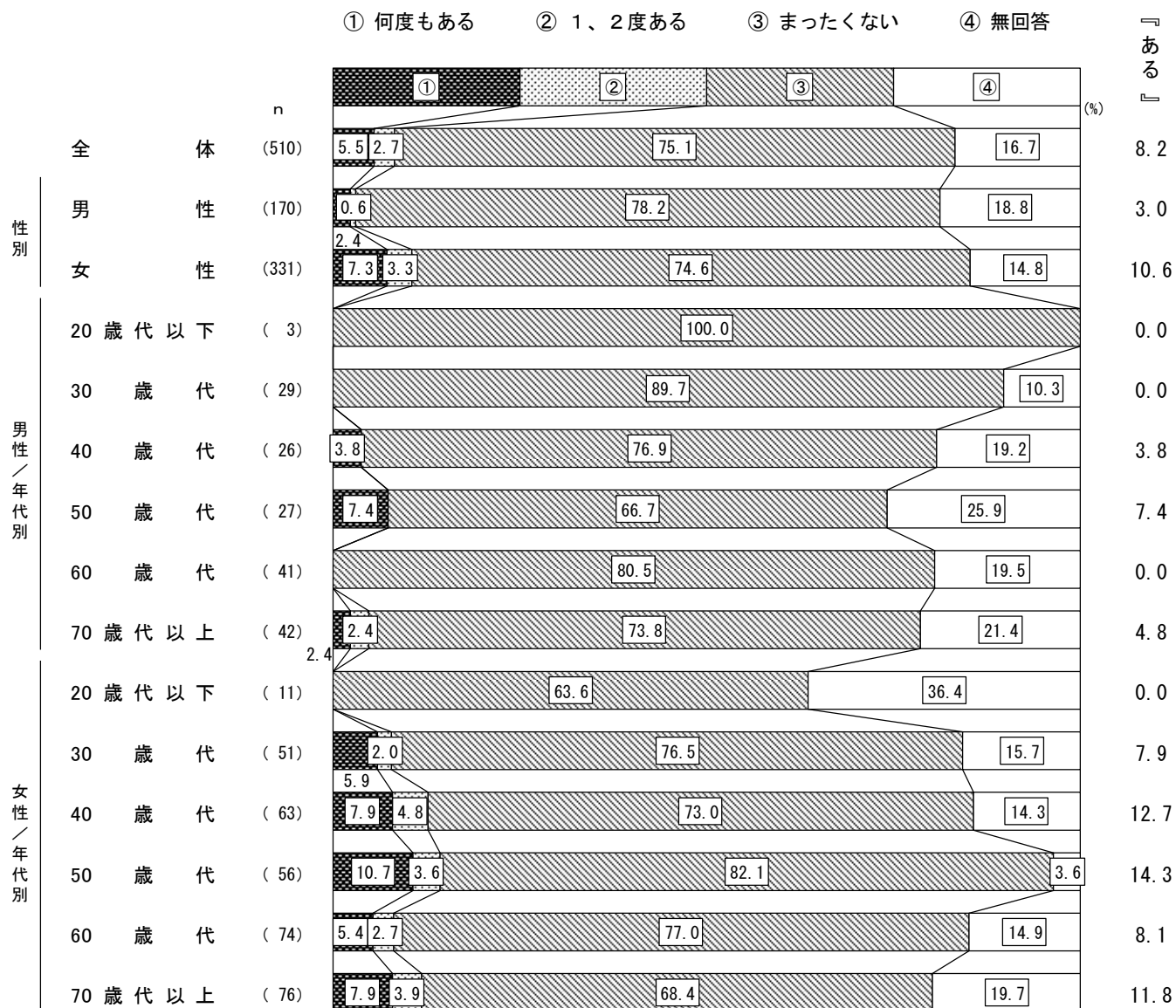
前回調査と比較すると、『ある』は4.4ポイント増加している。

図表 1-22-6 配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験（d）一過年度比較



性別で見ると、『ある』は男性が3.0%、女性が10.6%となっており、女性が男性より7.6ポイント高くなっている。

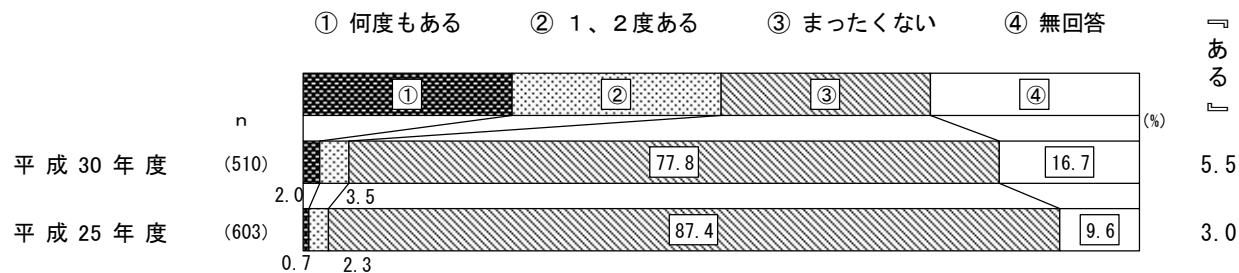
図表 1-22-7 配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験 (d) - 性別、性年代別



【e いやがっているのに性的な行為を強要されたり、中絶を強要された】

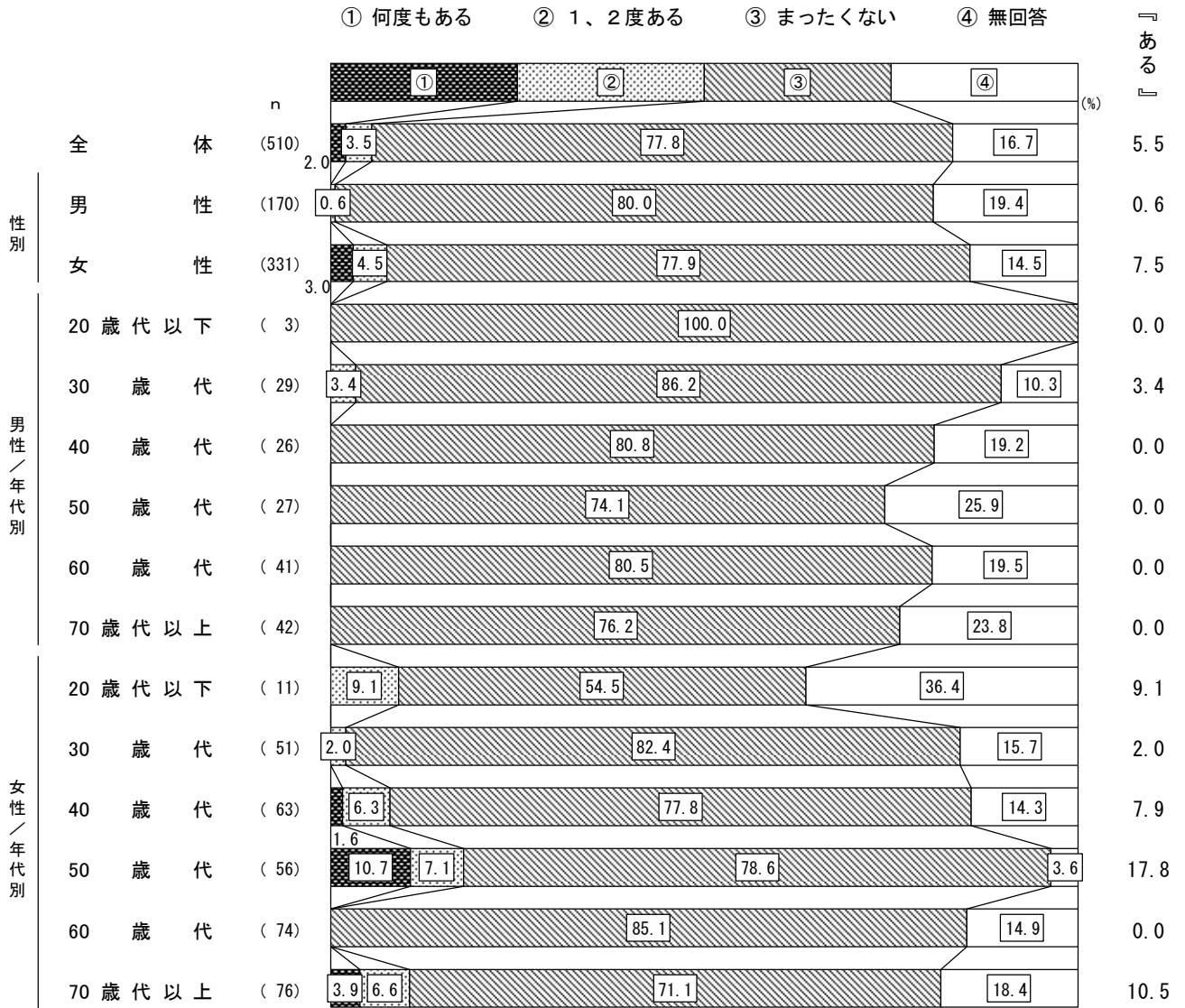
「いやがっているのに性的な行為を強要されたり、中絶を強要された」ことがあるか聞いたところ、「何度もある」(2.0%)と「1、2度ある」(3.5%)を合わせた『ある』は5.5%となっている。前回調査と比較すると、『ある』は2.5ポイント増加している。

図表 1-22-8 配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験(e) 一過年度比較



性別で見ると、『ある』は男性が0.6%、女性が7.5%となっており、女性が男性より6.9ポイント高くなっている。

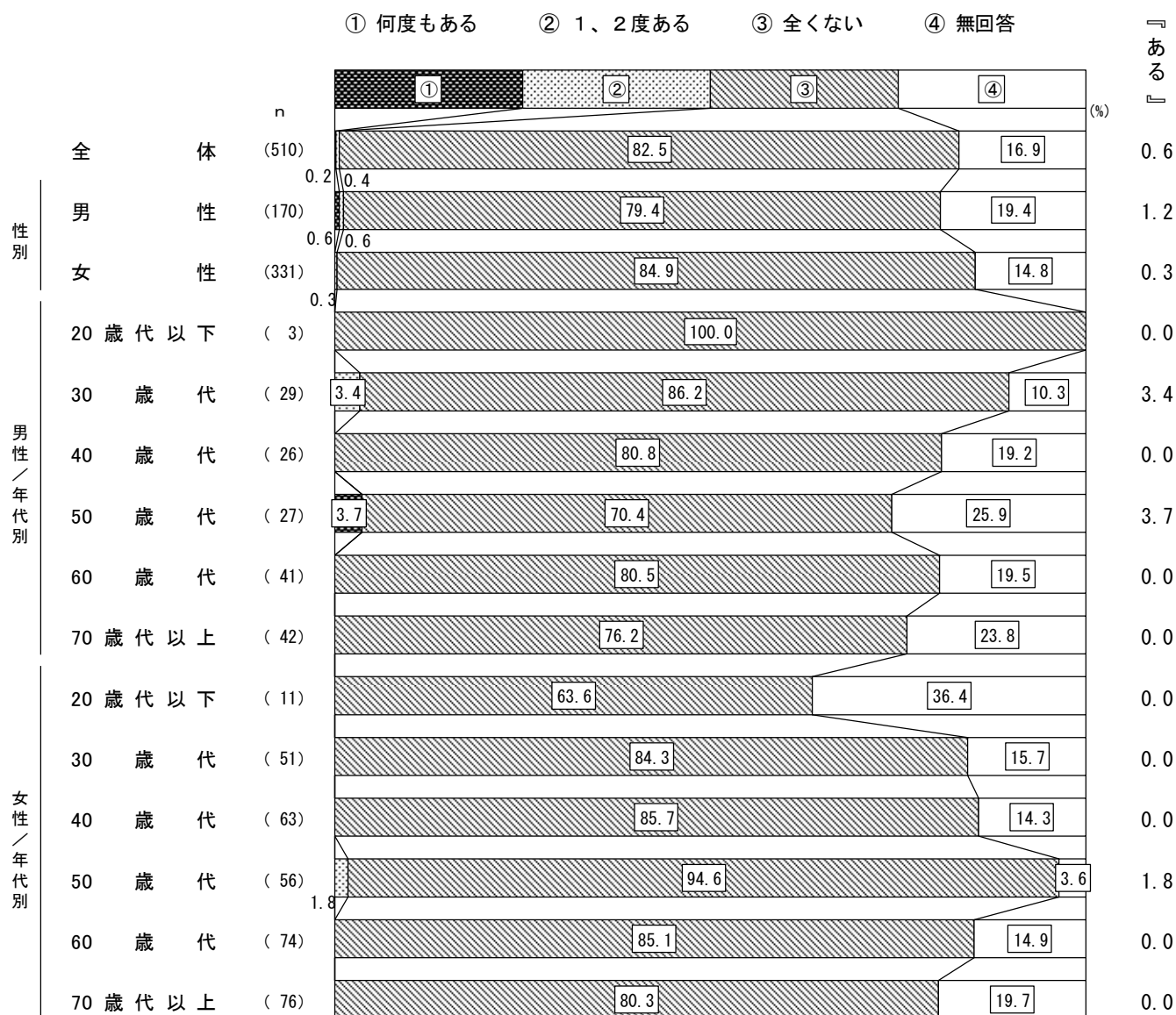
図表 1-22-9 配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験 (e) - 性別



【f 自分の名誉にかかわる写真や映像をインターネットで公表された】

「自分の名誉にかかわる写真や映像をインターネットで公表された」ことがあるか聞いたところ、「何度もある」(0.2%)と「1、2度ある」(0.4%)を合わせた『ある』は0.6%となっている。性別で見ると、『ある』は男性が1.2%、女性が0.3%となっており、大きな違いはみられない。

図表1-22-10 配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験(f) - 性別、性・年代別



⑧ 相談の有無

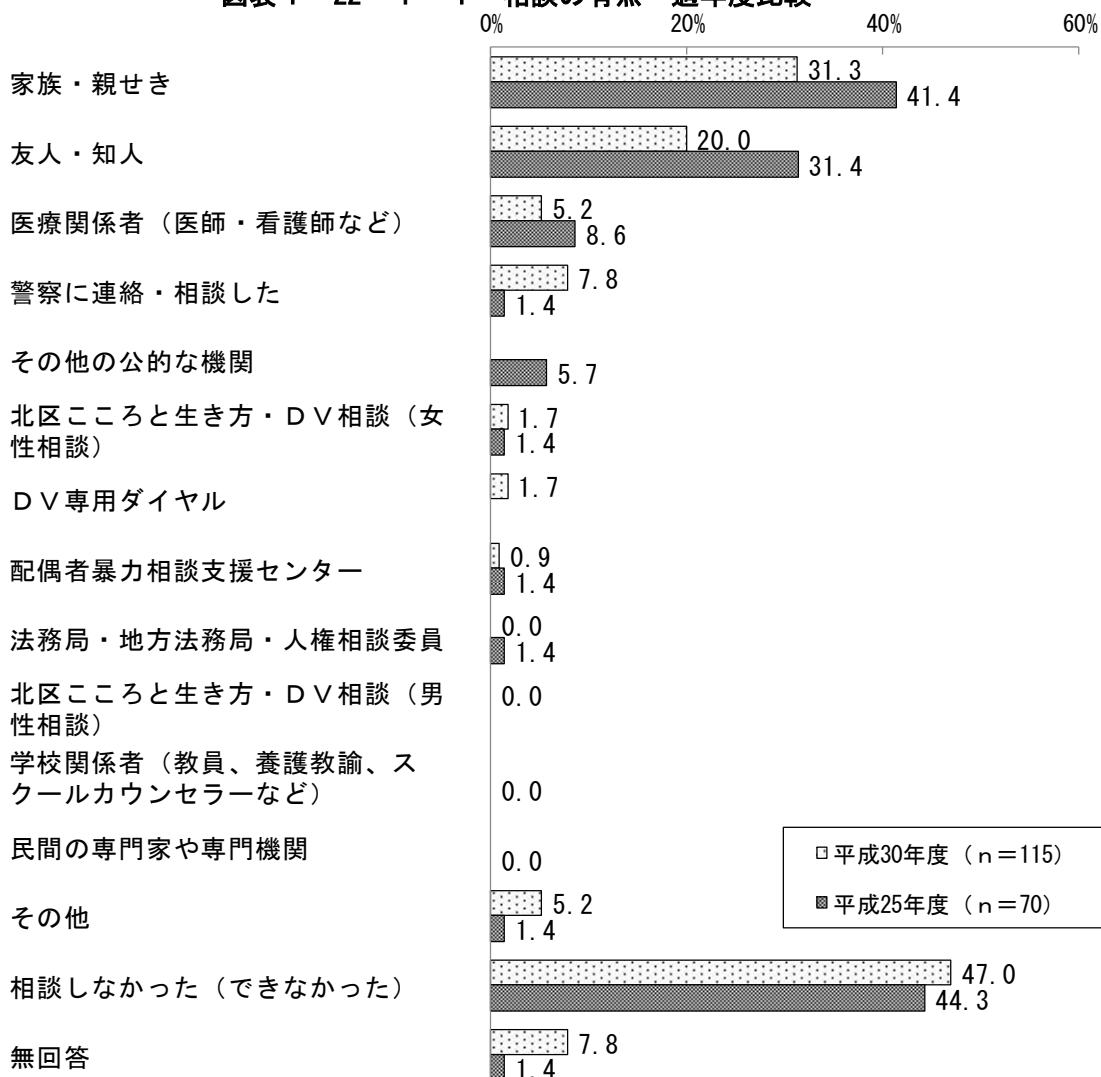
(問22で1つでも「何度もある」「1、2度ある」と答えた方にお聞きします。)

問22-1 あなたはどこ(だれ)かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

問22で1つでも「何度もある」または「1、2度ある」と答えた方に、だれかに打ち明けたり、相談したか聞いたところ、「家族・親せき」(31.3%)が3割を超え最も高く、次いで、「友人・知人」(20.0%)などとなっている。

前回調査と比較すると、「家族・親せき」は10.1ポイント減少し、「友人・知人」も11.4ポイント減少している。

図表1-22-1-1 相談の有無一過年度比較



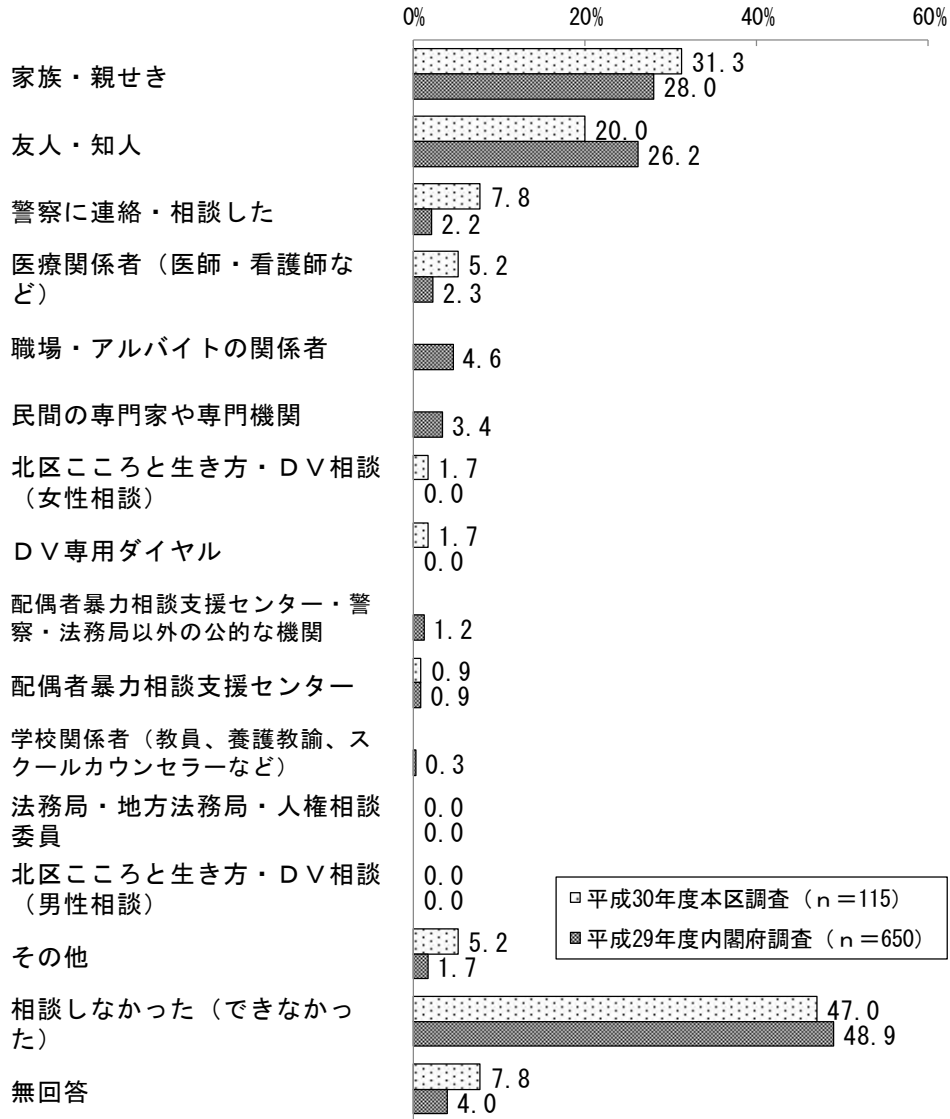
※「DV専用ダイヤル」、「北区こころと生き方・DV相談(男性相談)」は平成30年度から追加された選択肢である。

※「その他の公的な機関」、「学校関係者(教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど)」、「民間の専門家や専門機関」は平成25年度までの選択肢である。

※「北区こころと生き方・DV相談(女性相談)」は平成25年度の「男女共同参画センター」と同じ内容のため、今回比較の対象としている。

内閣府調査の類似設問と比較すると、「家族・親せき」で本区調査が内閣府調査より3.3ポイント高く、「友人・知人」で内閣府調査が本区調査より6.2ポイント高くなっている。

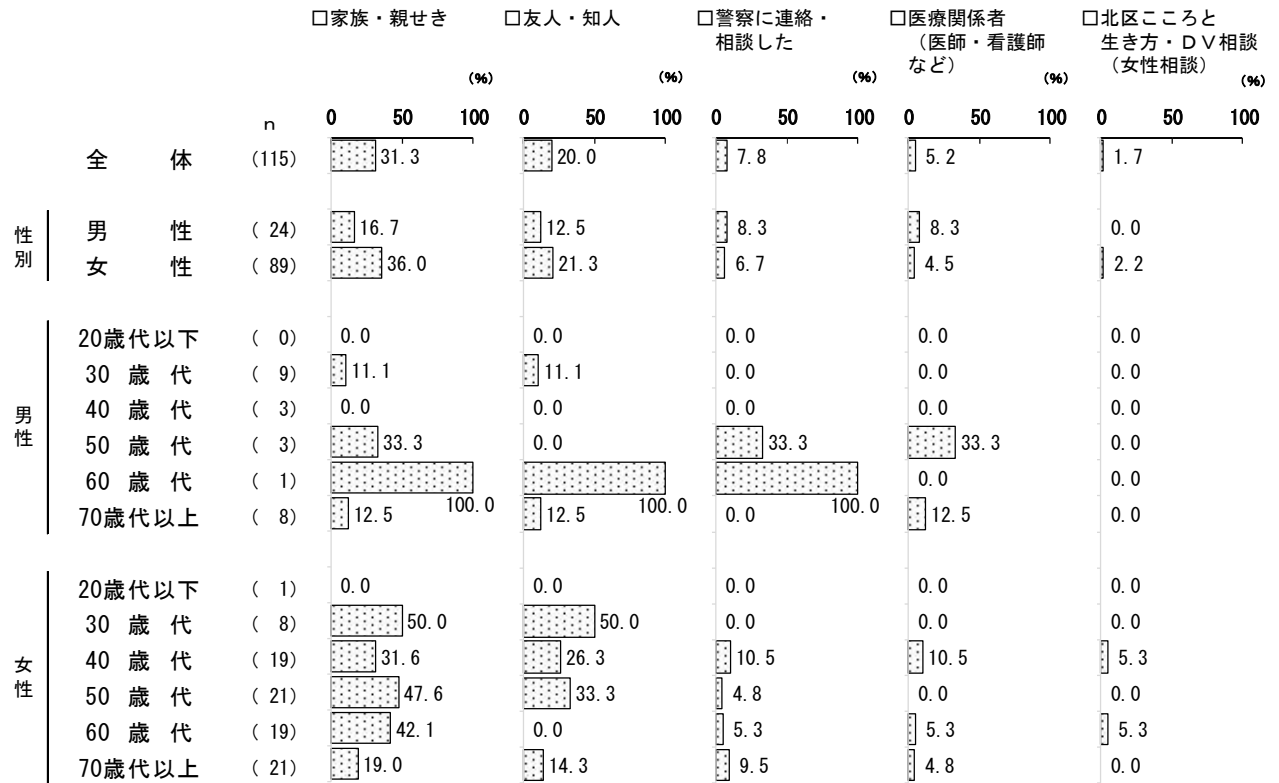
図表 1-22-1-2 相談の有無—内閣府調査（平成29年）との比較



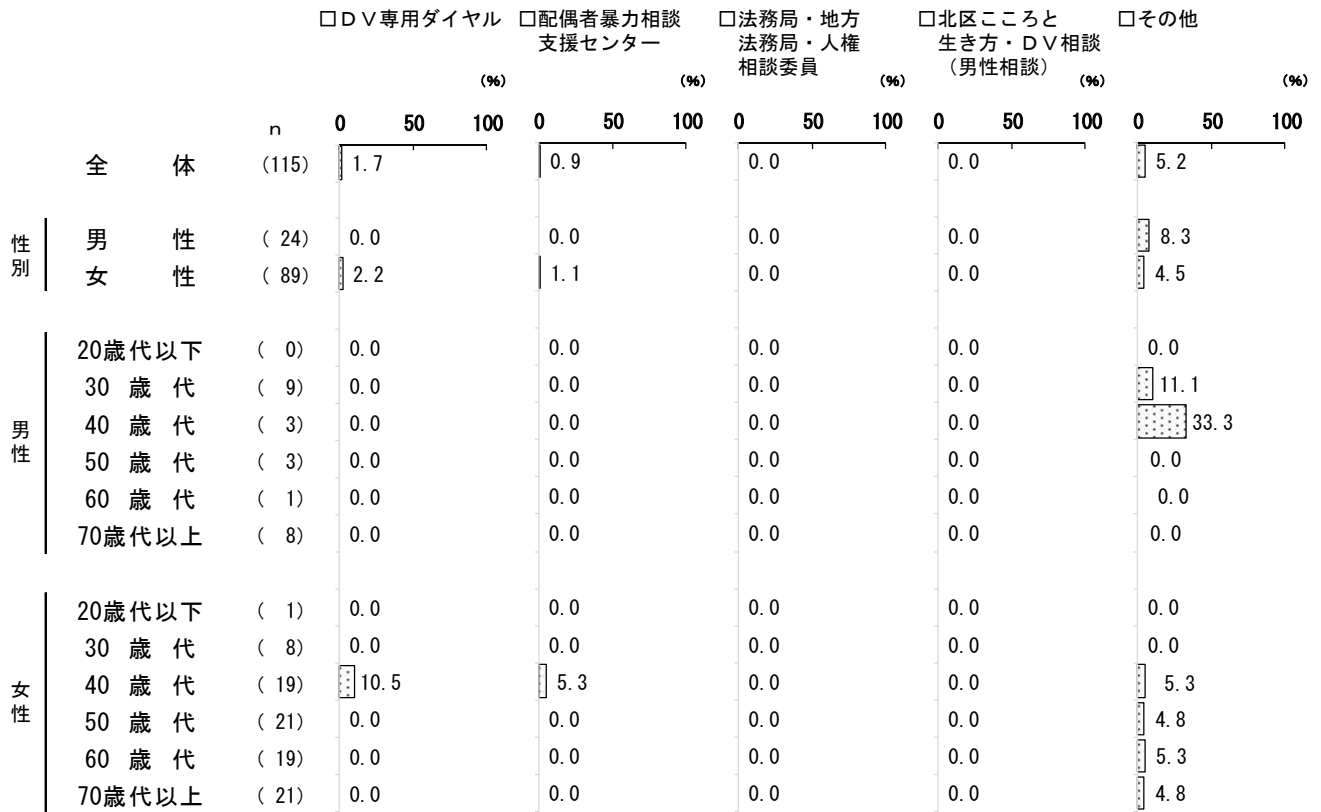
※「職場・アルバイトの関係者」、「民間の専門家や専門機関」、「配偶者暴力相談支援センター・警察・法務局以外の公的な機関」、「学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）」は内閣府調査のみの選択肢である。

性別で見ると、「家族や親せきに相談した」は男性が16.7%、女性が36.0%となっており、女性が男性より19.3ポイント高くなっている。

図表 1-22-1-3 相談の有無—性別、性・年代別



図表 1-22-1-3 相談の有無—性別、性・年代別 続き



- 配偶者から暴力を受けた人のうち、公共機関に相談した人の割合はのべ 12.1%。
- 警察や医師といった専門家よりも家族・友人への相談が多く、表ざたにしたくない気持ちが働いていることが伺える。
- 「相談できなかった」が約半数と多く、こうした人の存在にどのようにすれば気づくことができるのか、対策を考える必要がある。

⑨ 相談しなかった理由

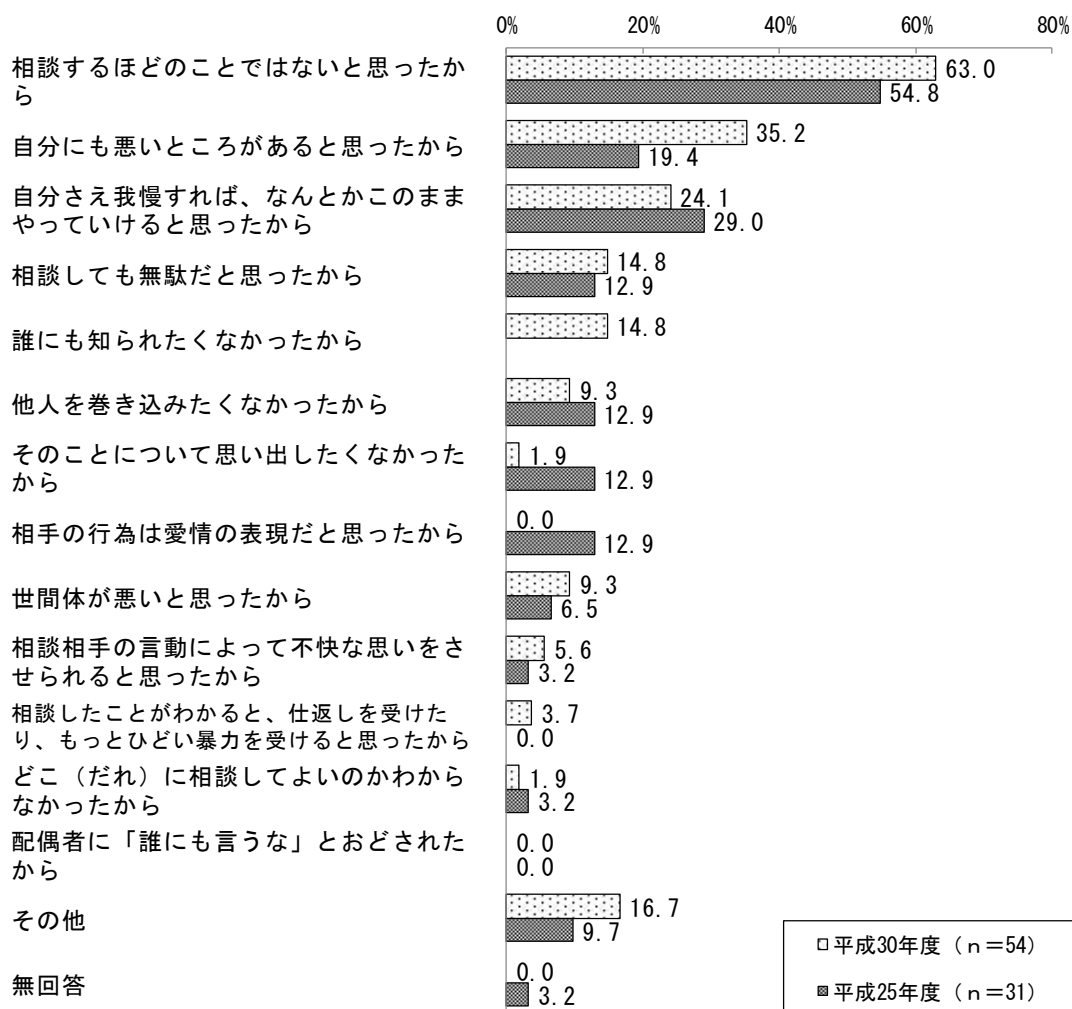
(問22-1で「11 相談しなかった(できなかった)」と答えた方にお聞きします。)

問22-2 どこ(だれ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

問22-1で、「相談しなかった(できなかった)」と答えた方に相談しなかった、できなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」(63.0%)が6割を超え最も高くなっている。次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」(35.2%)、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけるといったから」(24.1%)などとなっている。

前回調査と比較すると、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけるといったから」は4.9ポイント減少している。一方、「相談するほどのことではないと思ったから」は8.2ポイント増加し、「自分にも悪いところがあると思ったから」は15.8ポイント増加している。

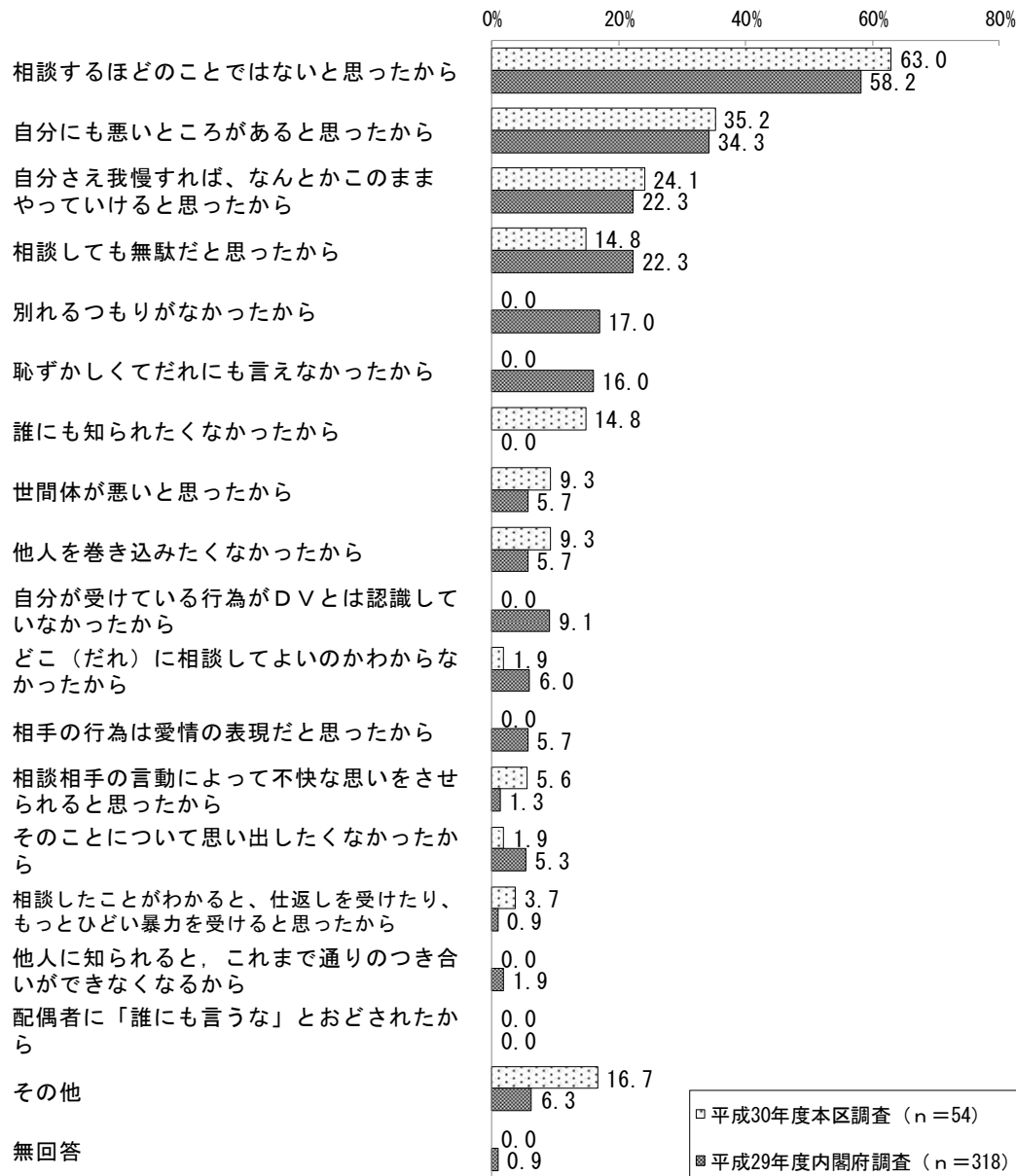
図表1-22-2-1 相談しなかった理由—過年度比較



※「誰にも知られたくなかったから」は平成30年度から追加された選択肢である。

内閣府調査の類似設問と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」で内閣府調査が本区調査より7.5ポイント高く、「相談するほどのことではないと思ったから」で本区調査が内閣府調査より4.8ポイント高くなっている。

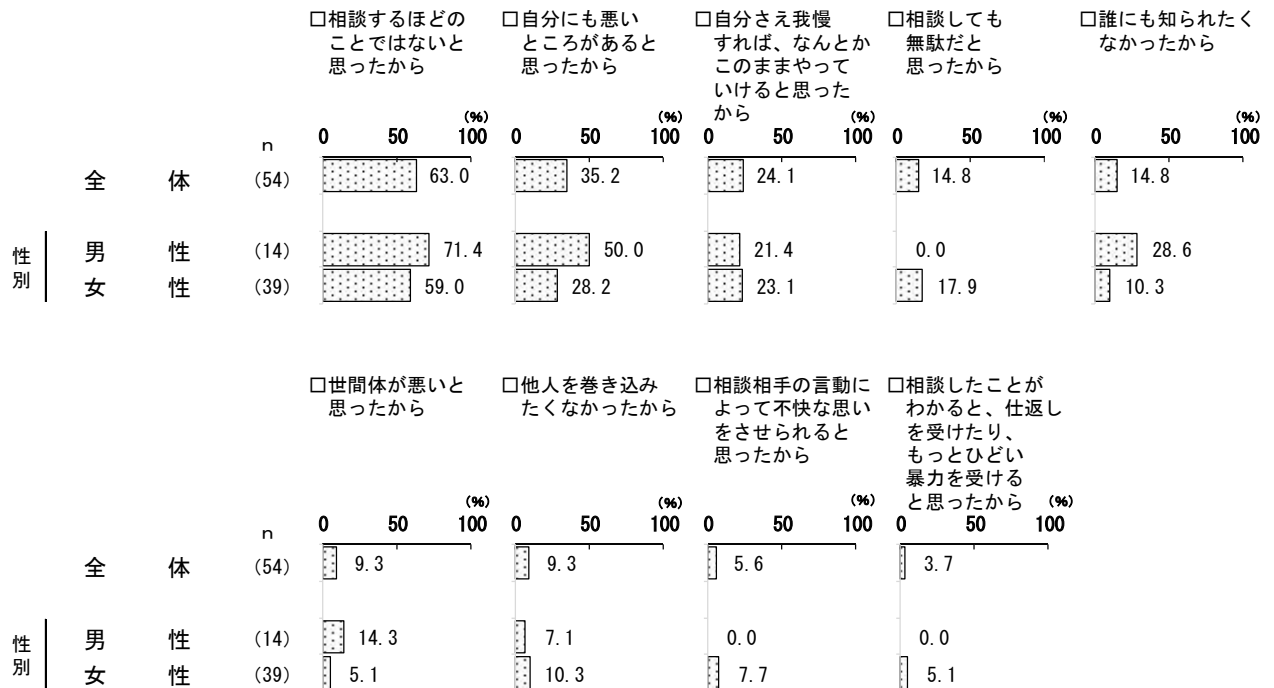
図表 1-22-2-2 相談しなかった理由—内閣府調査（平成29年）との比較



※「別れるつもりがなかったから」、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」、「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」、「他人に知られると、これまで通りの付き合いができなくなるから」は内閣府調査のみの選択肢である。

性別で見ると、「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性が女性より21.8ポイント高くなっている。

図表 1-22-2-3 相談しなかった理由—性別（上位項目）



- 相談するほどのことではない、自分にも非がある、などの回答が多く、ハラスメントに関する質問での「相談しても無駄だと思った」とは異なる結果となっている。
- 男性では「相談するほどのことではない」、「自分にも悪いところがあった」、女性では「他人を巻き込みたくない」「相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った」が、それぞれ異性よりも高くなっているため、性別に合わせて対応する必要があるといえる。

⑩ 直近1～2年間の交際相手の有無

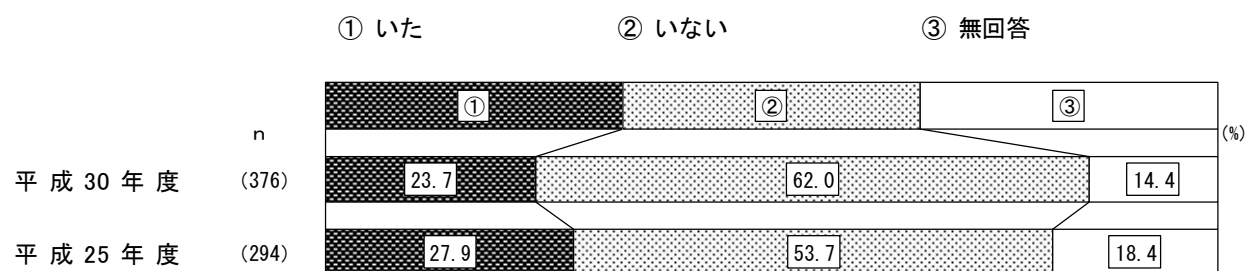
(F3(1ページ)で配偶者が「2 いない」と答えた方にお聞きします。)

問23 あなたはここ1～2年の間に、交際相手はいましたか。

F3で配偶者が「いない」と答えた方に、ここ1～2年間に交際相手がいたか聞いたところ、「いた」(23.7%)は2割を超え、「いない」(62.0%)が6割を超えている。

前回調査と比較すると、「いない」は8.3ポイント増加している。

図表1-23-1 直近の交際相手の有無一過年度比較



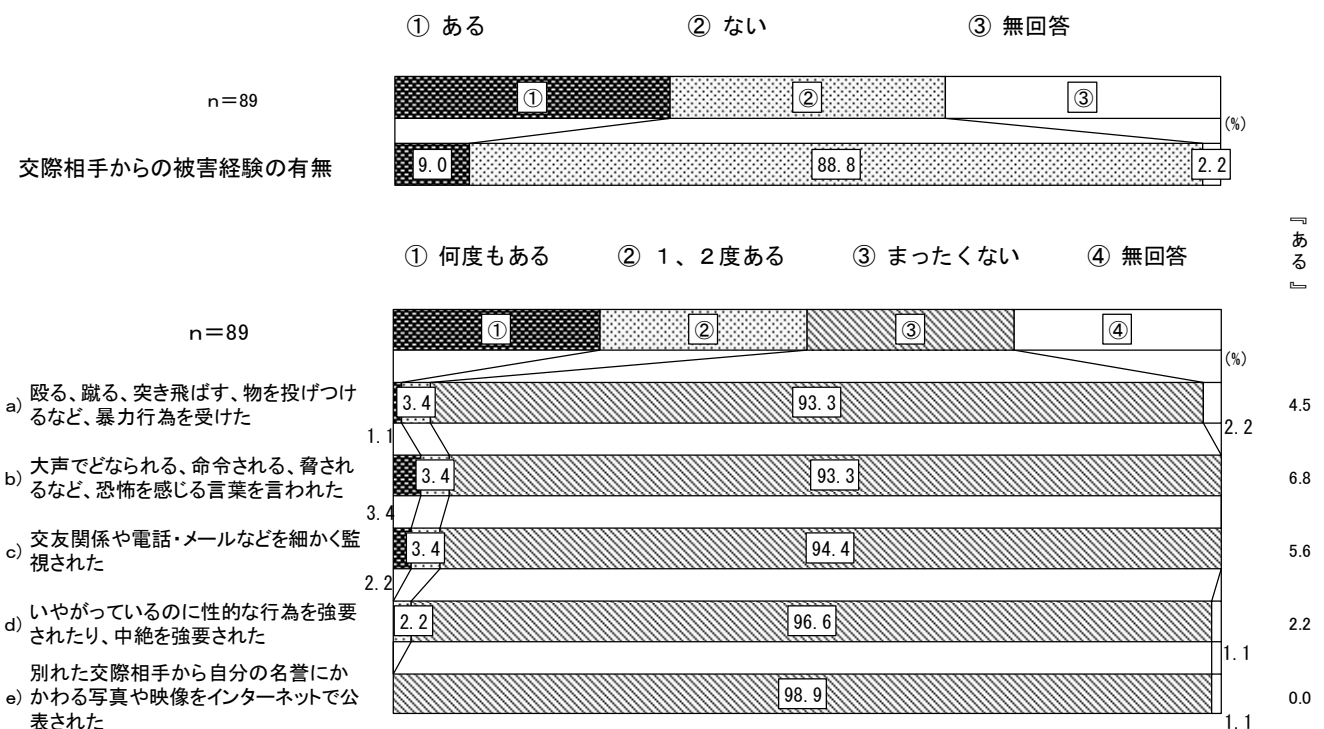
⑪ 交際相手からのドメスティック・バイオレンスの経験

(問23で「1 いた」と答えた方にお聞きします。)

問23-1 あなたはここ1~2年の間に、あなたの交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(それぞれの項目について番号に○を1つずつ)

問23で、「いた」と答えた方に、ここ1~2年間に、あなたの交際相手からドメスティック・バイオレンスを受けたか聞いたところ、「何度もある」と「1、2度ある」を合わせた『ある』は“b 大声でどなられる、命令される、脅されるなど、恐怖を感じる言葉を言われた”で6.8%と最も高くなっている。

図表1-23-1-1 交際相手からのドメスティック・バイオレンスの経験



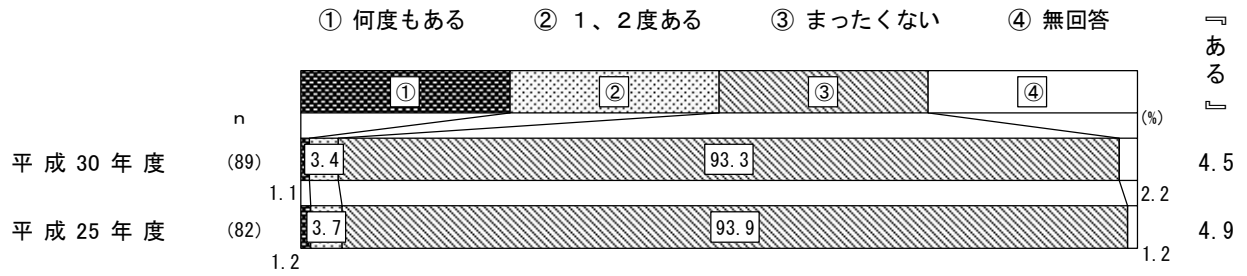
■言葉の暴力、細かい監視、身体的暴力の順に高い割合となっている。

■男性では「細かい監視」を訴える意見が多く、女性では「身体的暴力」「言葉の暴力」「性的行為に関する暴力」を訴える意見が多い。相談できる窓口の存在を周知するなど、働きかけを行う必要があると考える。

【a 殴る、蹴る、突き飛ばす、物を投げつけるなど、暴力行為を受けた】

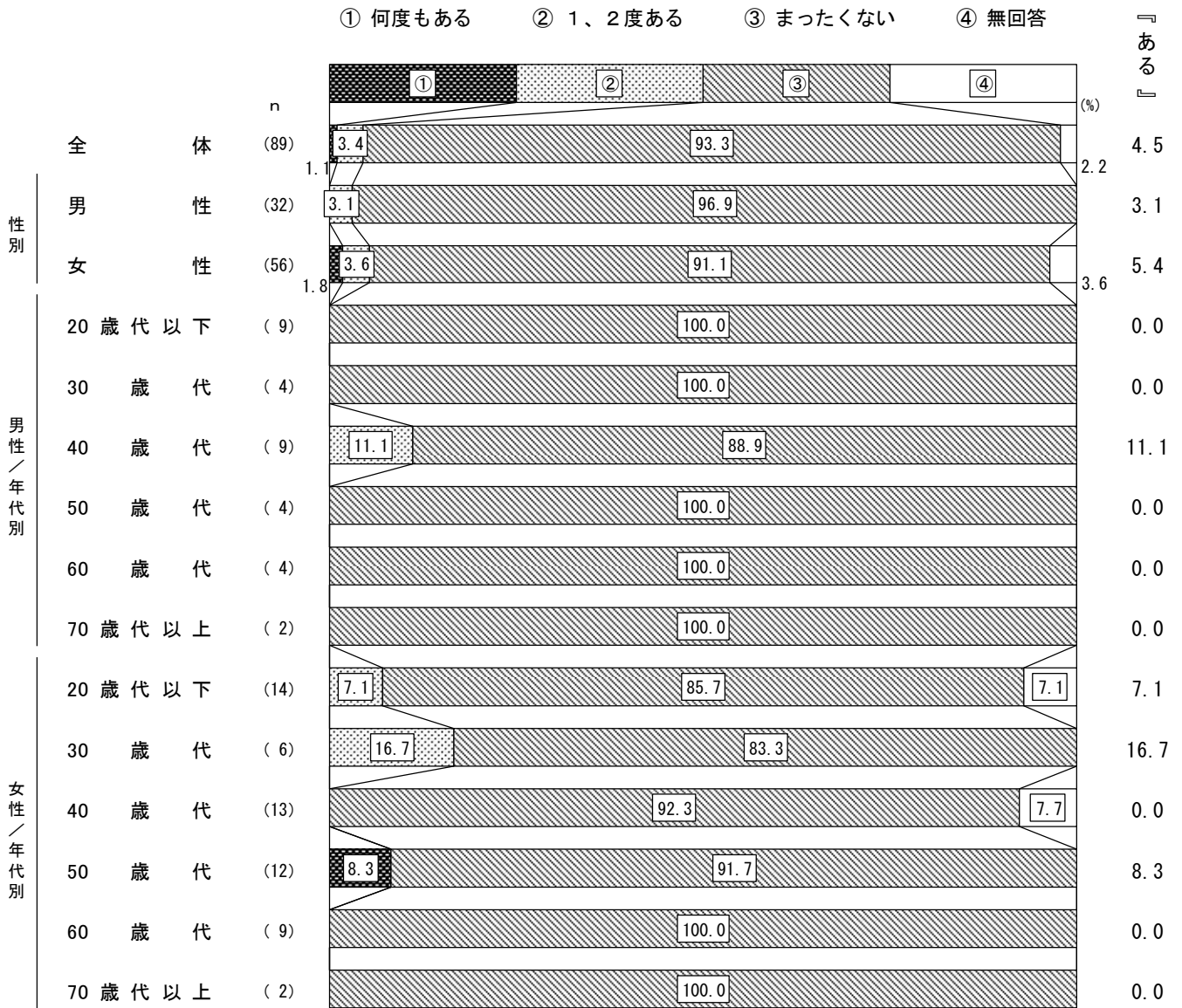
「殴る、蹴る、突き飛ばす、物を投げつけるなど、暴力行為を受けた」ことがあるか聞いたところ、「何度もある」(1.1%)と「1、2度ある」(3.4%)を合わせた『ある』は4.5%となっている。前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

図表 1-23-1-2 交際相手からのドメスティック・バイオレンスの経験 (a) - 過年度比較



性別で見ると、『ある』は男性が3.1%、女性が5.4%となっており、女性が男性より2.3ポイント高くなっている。

図表 1-23-1-3
交際相手からのドメスティック・バイオレンスの経験 (a) - 性別、性・年代別

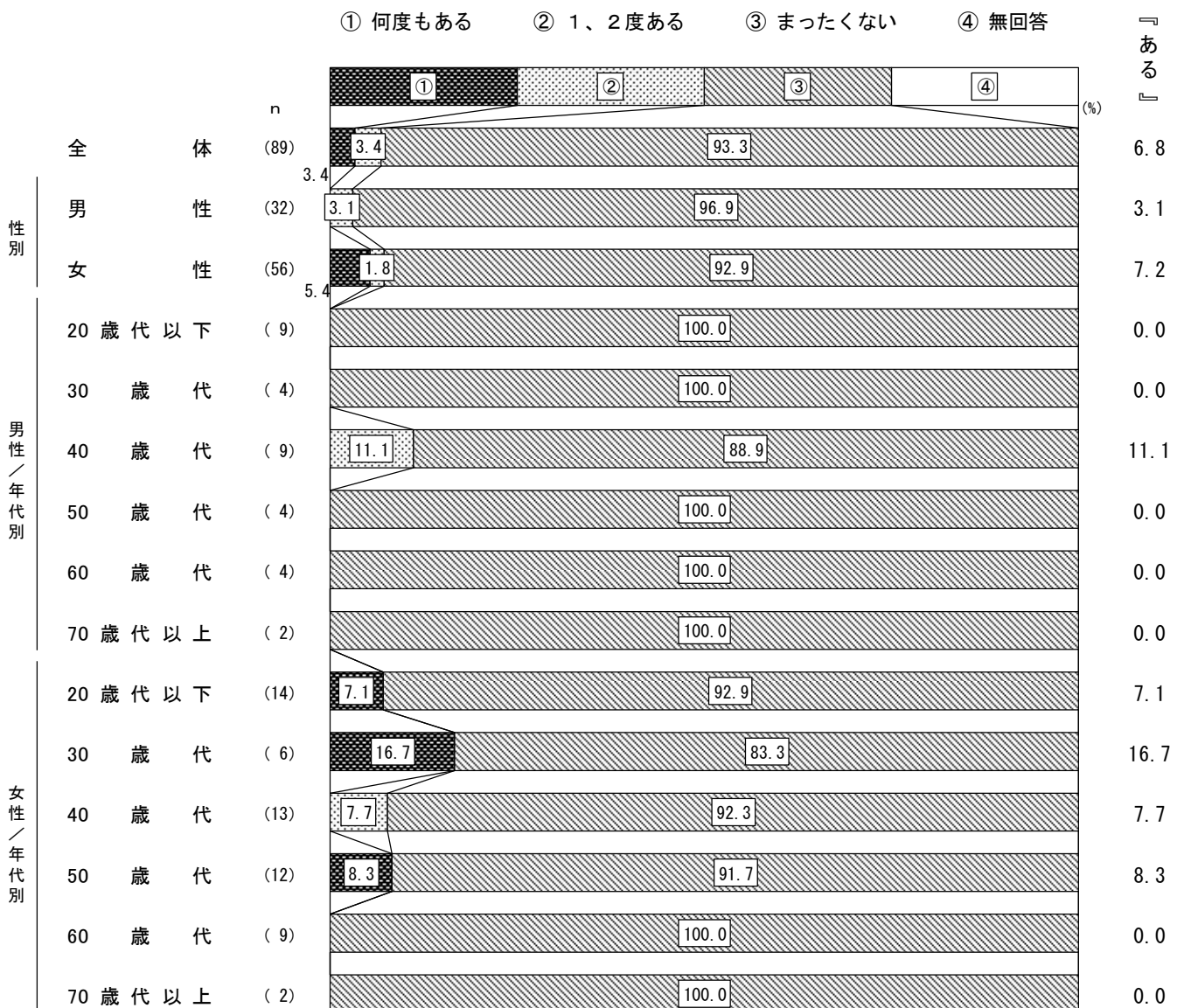


【b 大声でどなられる、命令される、驚かされる、恐怖を感じる言葉を言われた】

大声でどなられる、命令される、驚かされる、恐怖を感じる言葉を言われた」ことがあるか聞いたところ、「何度もある」(3.4%)と「1、2度ある」(3.4%)を合わせた『ある』は6.8%となっている。

性別でみると、『ある』は男性が3.1%、女性が7.2%となっており、女性が男性より4.1ポイント高くなっている。

図表 1-23-1-4
交際相手からのドメスティック・バイオレンスの経験 (b) - 性別、性・年代別

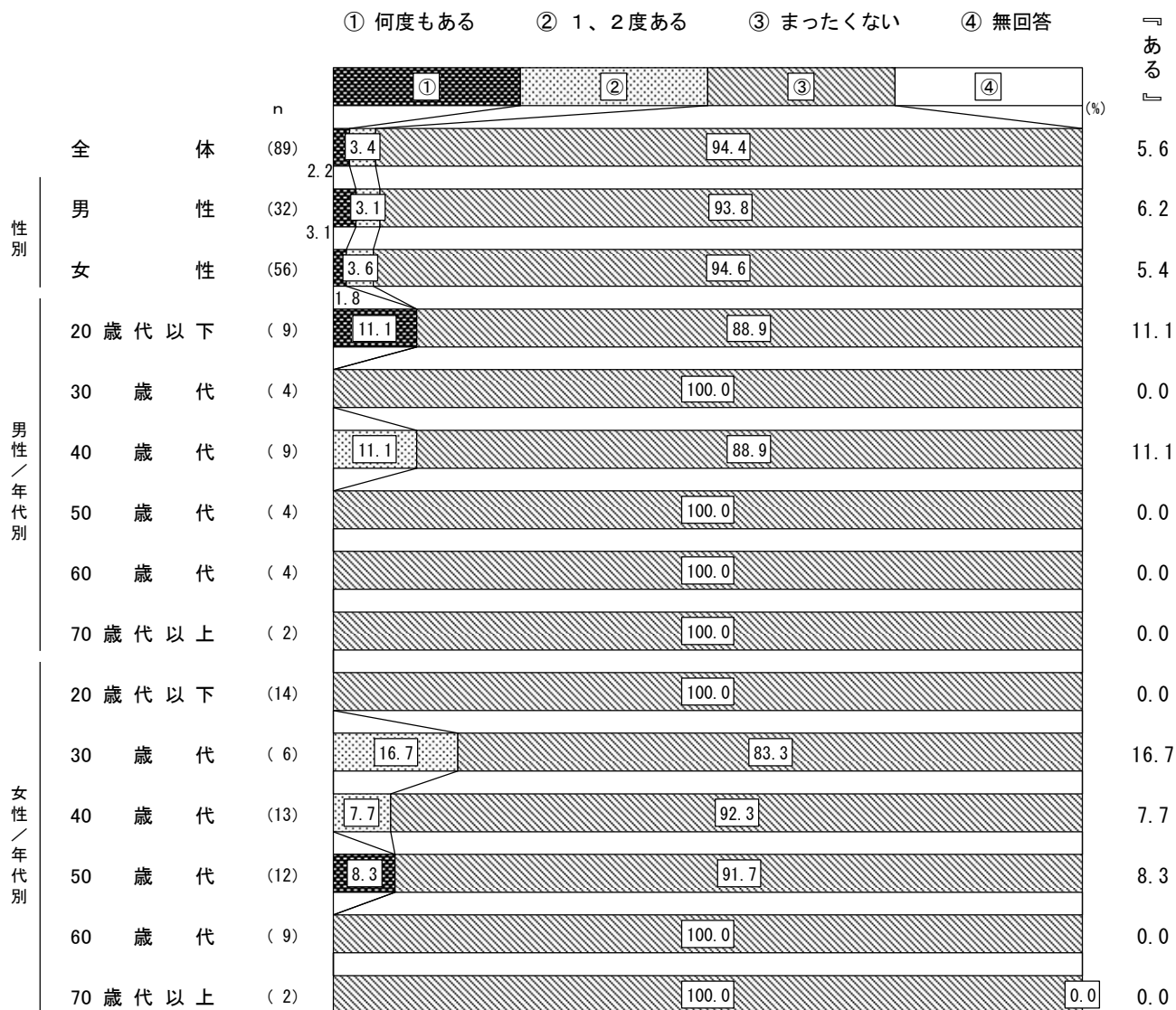


【c 交友関係や電話・メールなどを細かく監視された】

「交友関係や電話・メールなどを細かく監視された」ことがあるか聞いたところ、「何度もある」(2.2%)と「1、2度ある」(3.4%)を合わせた『ある』は5.6%となっている。

性別でみると、『ある』は男性が6.2%、女性が5.4%となっており、大きな違いはみられない。

図表 1-23-1-5
交際相手からのドメスティック・バイオレンスの経験 (c) - 性別、性・年代別

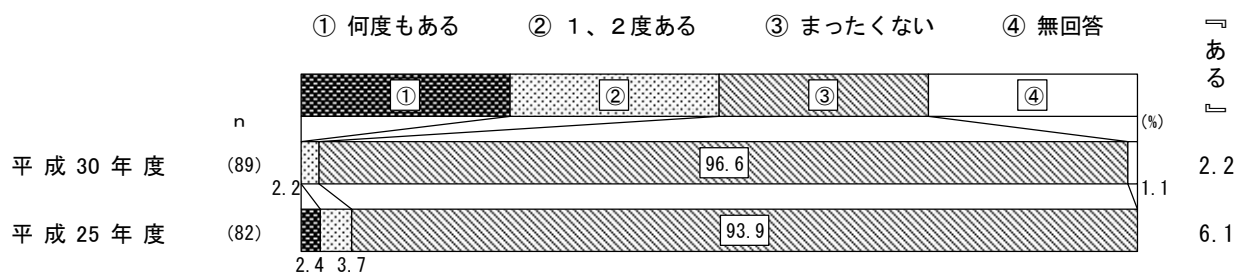


【d いやがっているのに性的な行為を強要されたり、中絶を強要された】

「いやがっているのに性的な行為を強要されたり、中絶を強要された」ことがあるか聞いたところ、「何度もある」と答えた人はおらず、と「1、2度ある」(2.2%)を合わせた『あった』は2.2%となっている。

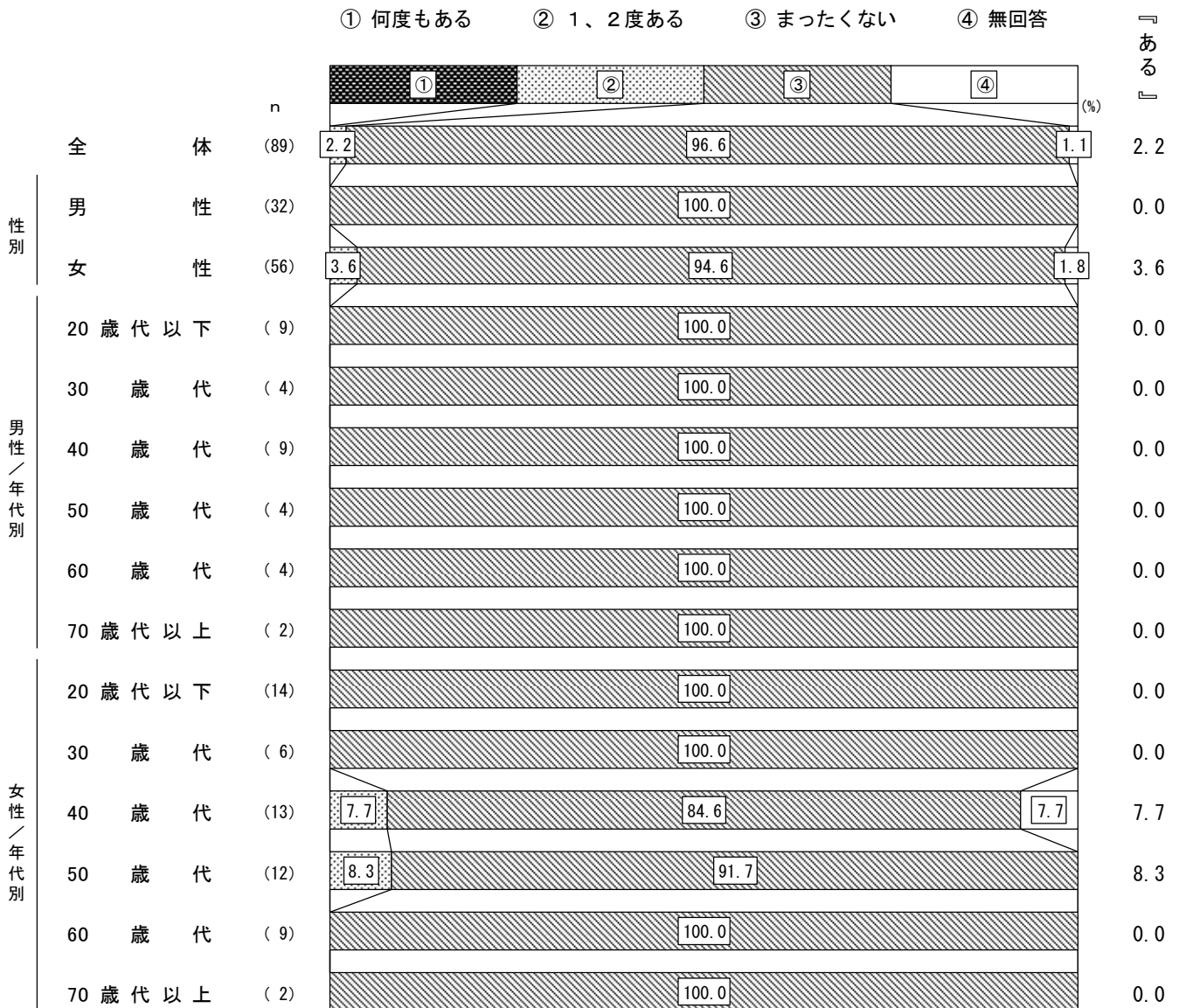
前回調査と比較すると、『ある』は3.1ポイント減少している。

図表 1-23-1-5 交際相手からのドメスティック・バイオレンスの経験(d) - 過年度比較



性別で見ると、『ある』は男性が0.0%、女性が3.6%となっており、女性が男性より3.6ポイント高くなっている。

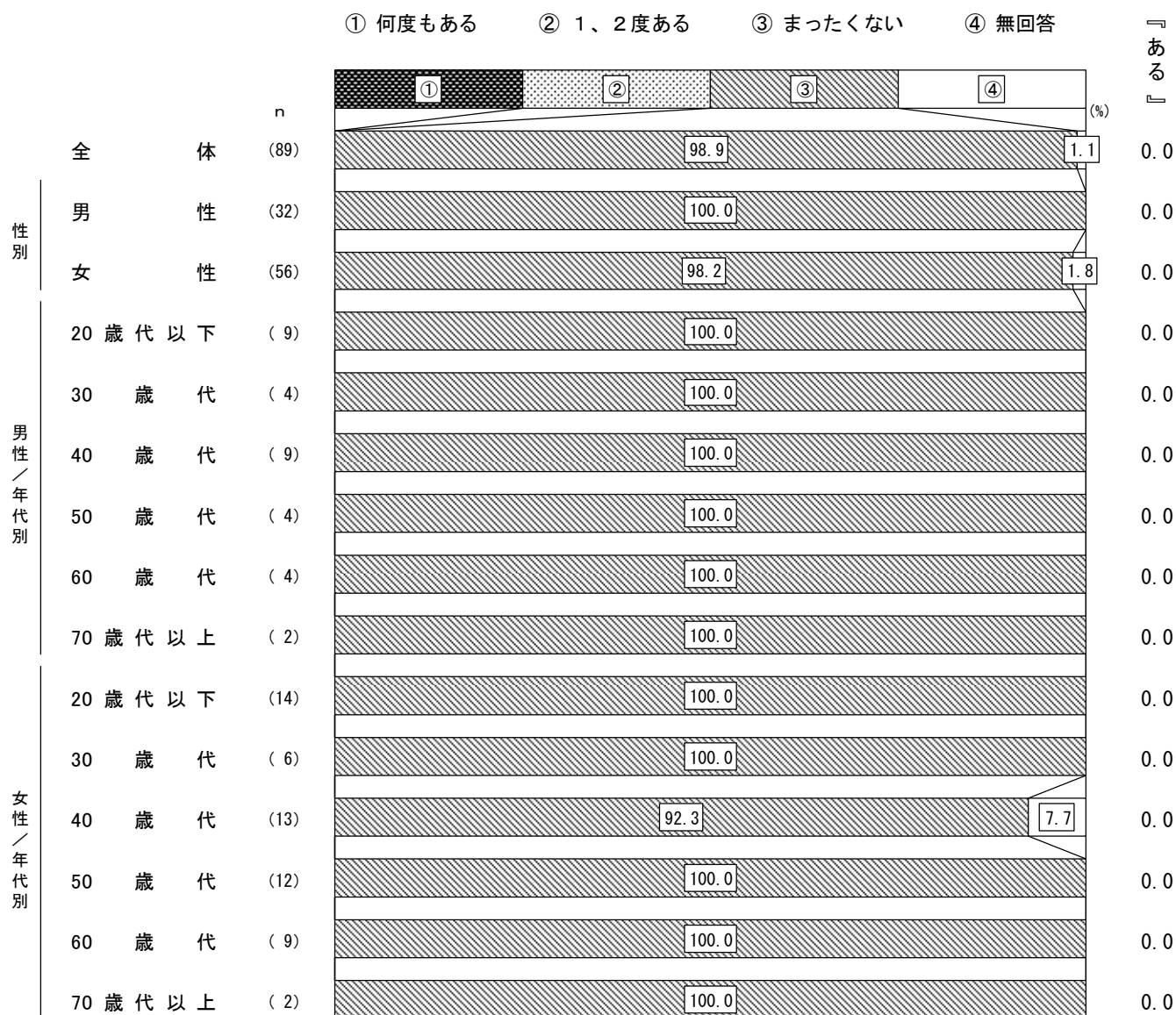
図表1-23-1-6
交際相手からのドメスティック・バイオレンスの経験(d) - 性別、性・年代別



【e 自分の名誉にかかわる写真や映像をインターネットで公表された】

「別れた交際相手から自分の名誉にかかわる写真や映像をインターネットで公表された」ことがあるか聞いたところ、男女ともに「全くない」の回答がほぼ10割であった。

図表 1-23-1-7
交際相手からのドメスティック・バイオレンスの経験 (e) - 性別、性・年代別

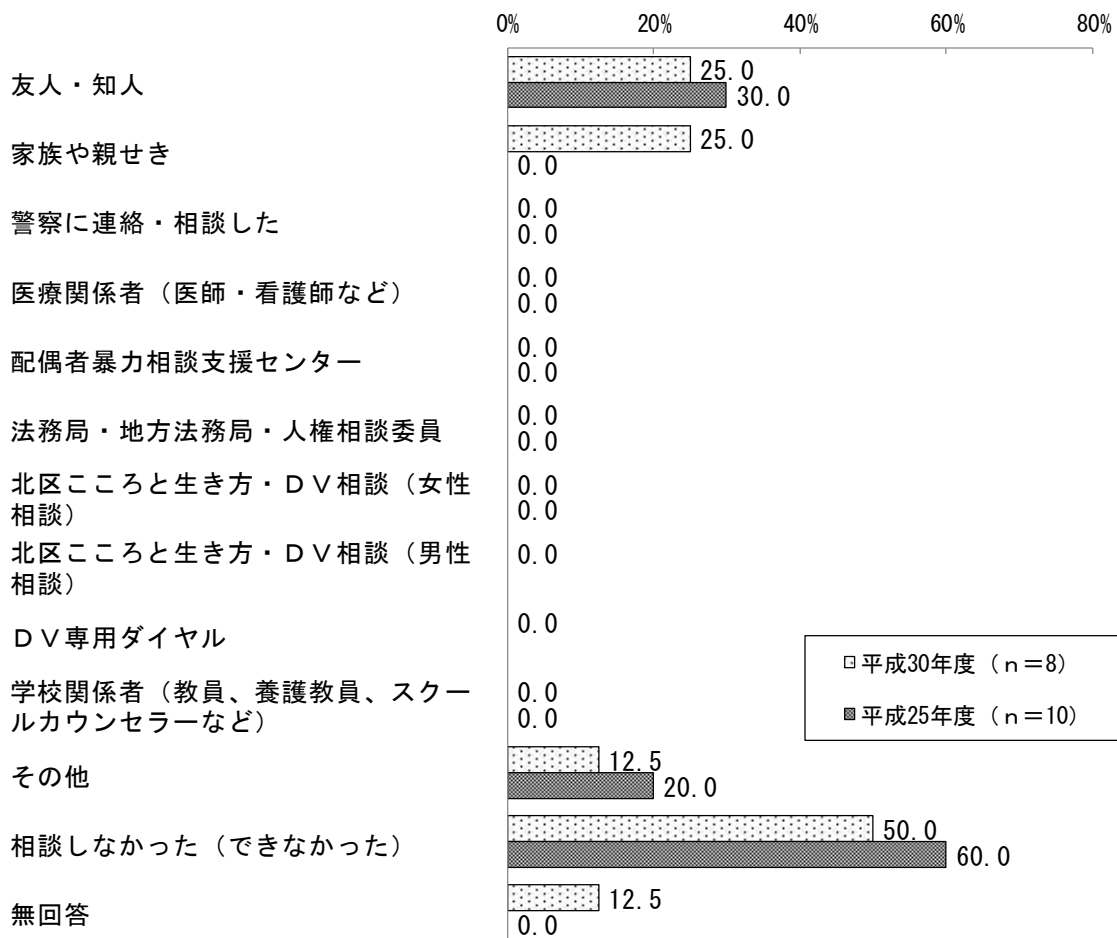


⑫ 相談の有無

(問23-1で1つでも「何度もあった」「1、2度ある」と答えた方にお聞きします。)
 問23-2 あなたはどこ(だれ)かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号に
 すべて○をつけてください。

前回調査との比較は、サンプル数が少ないため参考までに図示する。

図表1-23-2-1 相談有無一過年度比較



※「北区こころと生き方・DV相談(男性相談)」、「DV専用ダイヤル」は平成30年度から追加された選択肢である。

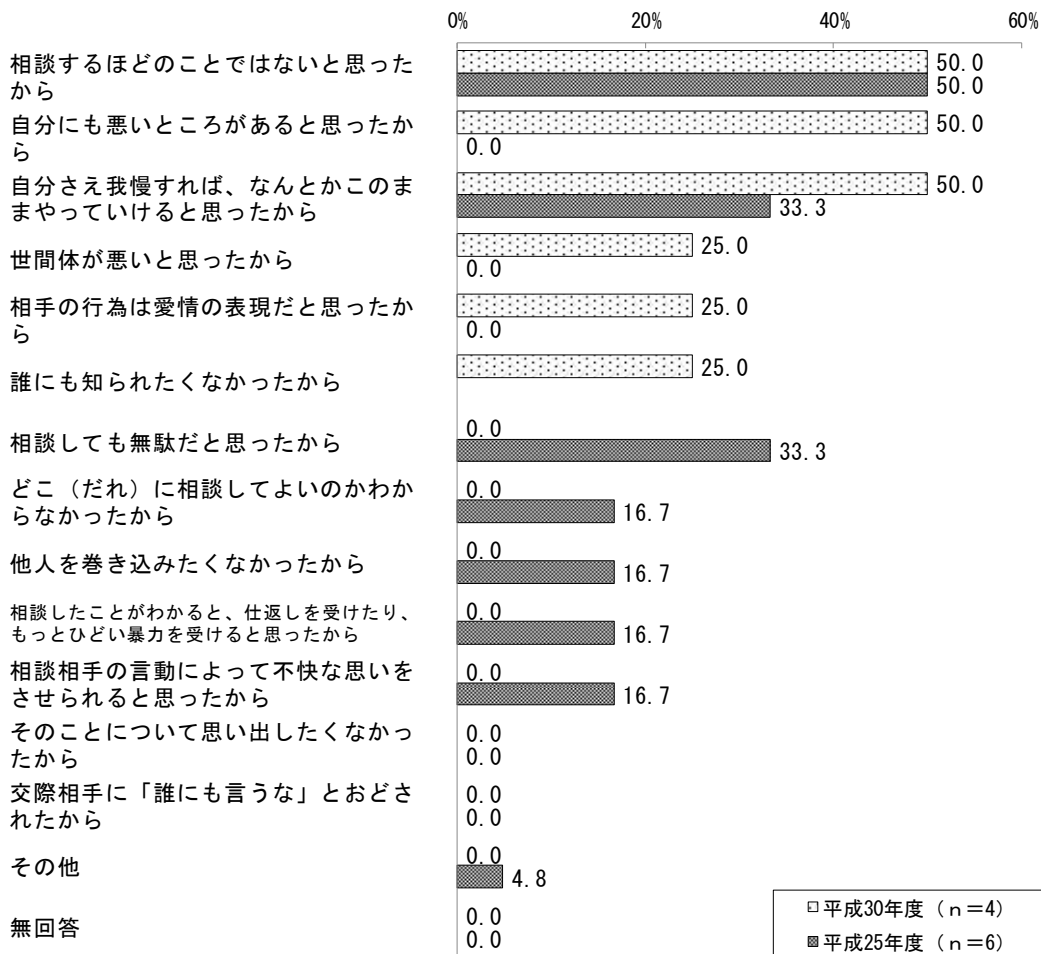
※「北区こころと生き方・DV相談(女性相談)」は平成25年度の「男女共同参画センター」と同じ内容のため、今回比較の対象としている。

⑬ 相談しなかった理由

(問23-2で「12 相談しなかった(できなかった)とお答えした方にお聞きします。」)
 問23-3 どこに(だれ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

前回調査との比較は、サンプル数が少ないため参考までに図示する。

図表1-23-3-1 相談しなかった理由—過年度比較



※「誰にも知られたくなかったから」は平成30年度から追加された選択肢である。

⑭ 配偶者からのDV防止、被害者支援に必要な対策

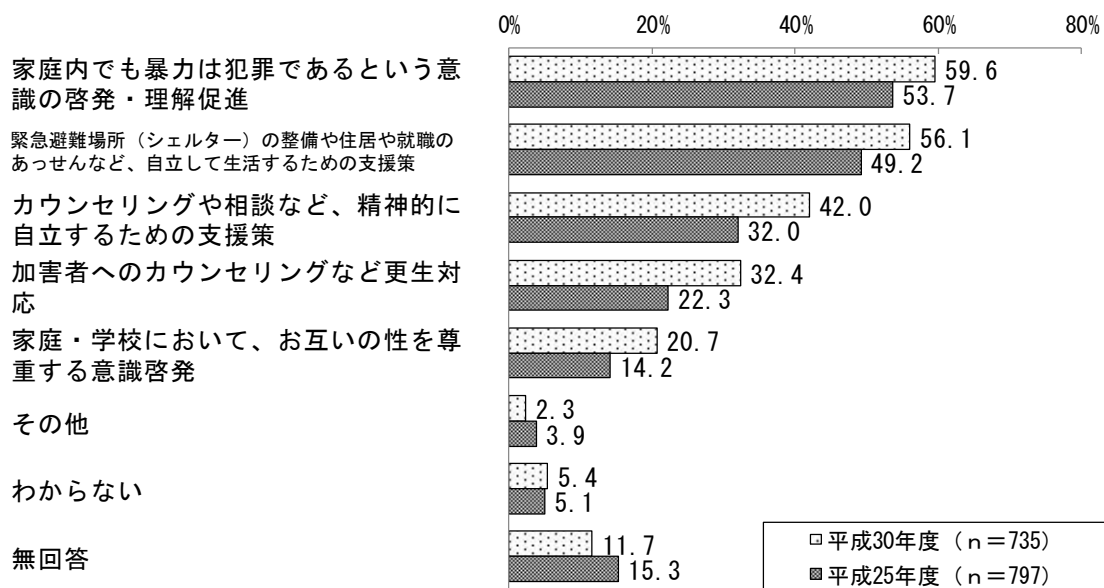
問24 あなたは、配偶者（離婚を含む）や交際相手などからの暴力の防止や被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

配偶者（離婚を含む）や交際相手などからの暴力の防止や被害者支援のために、どのような対策が必要だと思うか聞いたところ、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発・理解促進」

（59.6%）が6割と最も高くなっている。次いで、「緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援策」（56.1%）、「カウンセリングや相談など、精神的に自立するための支援策」（42.0%）、「加害者へのカウンセリングなど更生対応」（32.4%）などとなっている。

前回調査と比較すると、「カウンセリングや相談など、精神的に自立するための支援策」は10.0ポイント増加している。

図表1-24-1 配偶者からのDV防止、被害者支援に必要な対策—過年度比較



性別で見ると、「緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援策」は女性が男性より10.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援策」は女性の30歳代と40歳代が7割と高く、「カウンセリングや相談など、精神的に自立するための支援策」は男性の50歳代が5割を超えて高くなっている。

■前回調査と同様、啓発・理解の促進や自立のための支援策が高い割合となっている。

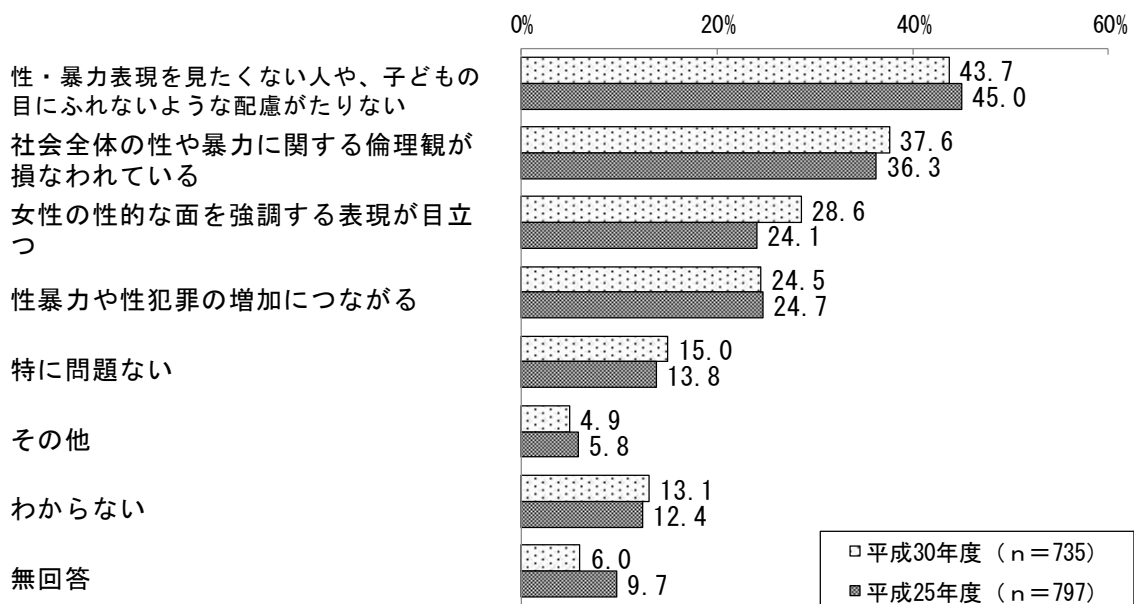
⑮ メディアにおける性・暴力表現について

問25 テレビ、DVD、インターネット、映画、新聞、雑誌、広告などのメディアにおける性・暴力表現について、あなたは日ごろどのように感じていますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

メディアにおける性・暴力表現について、あなたは日ごろどのように感じているか聞いたところ、「性・暴力表現を見たくない人や、子どもの目にふれないような配慮がたりない」(43.7%)が4割を超え最も高くなっている。次いで、「社会全体の性や暴力に関する倫理観が損なわれている」(37.6%)、「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」(28.6%)、「性暴力や性犯罪の増加につながる」(24.5%)などとなっている。

前回調査と比較すると、「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」は4.5ポイント増加している。

図表1-25-1 メディアにおける性・暴力表現について一過年度比較



■メディアにおける性・暴力表現について、問題があると思っている人の割合は65.9%。

■前回調査と同様の傾向であり、配慮不足や倫理観の欠損を問題視する人が多いことが伺える。

※メディアにおける性・暴力表現について、問題があると思っている人の割合は、「特に問題ない」の15.0%、「わからない」の13.1%、「無回答」の6.0%を、回答者全体(100.0%)から差し引いて算出している。

⑯ 「性的少数者」の認知度

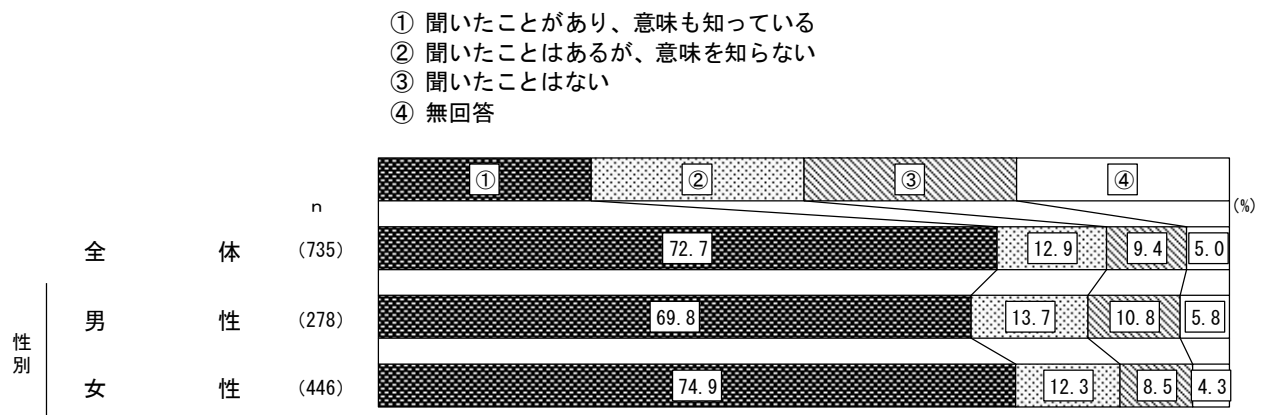
問26 あなたは「性的少数者（セクシュアル・マイノリティ、LGBT等）※」という言葉を知ったことがありますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

※性的少数者（セクシュアル・マイノリティ、LGBT等）…性同一性障害など、身体の性と自分が認識する性が一致しない人や、恋愛感情などの性的な意識が同性ないしは両性に向かう人、身体的な性別が不明瞭な人等のことです。

「性的少数者（セクシュアル・マイノリティ、LGBT等）」という言葉を知ったことがあるか知ったところ、「知ったことがあり、意味も知っている」（72.7%）が7割を超え最も高くなっている。「知ったことはあるが、意味を知らない」（12.9%）は1割を超え、「知ったことはない」（9.4%）は1割未満となっている。

性別で見ると、「知ったことがあり、意味も知っている」は女性が男性より5.1ポイント高くなっている。

図表1-26-1 「性的少数者」の認知度－性別



■高い認知度ではあるが、女性よりも男性の方がやや低い割合になっているため、引き続き啓発活動を行う必要があると考える。

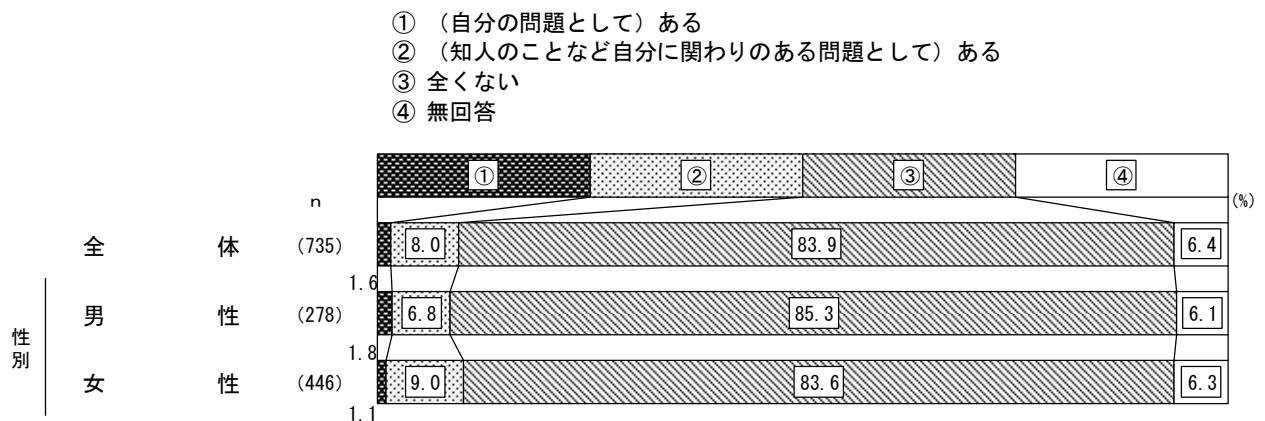
⑰ 性的少数者に対する意識

問27 あなたは、性的少数者（セクシュアル・マイノリティ、LGBT等）のことを自分や自分に関わりのある問題として、悩んだり考えたりしたことはありますか。

性的少数者のことを自分や自分に関わりのある問題として、悩んだり考えたりしたことはあるか聞いたところ、「(自分の問題として) ある」(1.6%)と「(知人のことなど自分に関わりのある問題として) ある」(8.0%)を合わせた『ある』(9.6%)は1割となっている。

性別でみると、大きな違いはみられない。

図表1-27-1 性的少数者に対する意識－性別



■問題を身近なこととして捉えてもらえるよう、生活上不便に感じている実例をまとめて説明するなど、啓発活動を引き続き行う必要があると考える。

⑩ 性的少数者の人権を守る為に必要な取り組み

(問27で「1」「2」と答えた方にお聞きます。)

問27-1 性的少数者の人権を守るために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

自由回答

性的少数者のことを自分や自分に関わりのある問題として、悩んだり考えたりしたことが『ある』と答えた方に、性的少数者の人権を守るために、どのような取り組みが必要だと思うか聞いたところ、「教育・啓発活動」(38.7%)は4割近く、「周囲からの理解」(35.5%)は3割半ばとなっている。

図表1-27-1-1 性的少数者の人権を守る為に必要な取り組み



■教育・啓発活動、周囲の理解が必要という意見が多くみられたため、区として取り組みを進めていく必要がある。

図表 1-27-1-1 性的少数者の人権を守る為に必要な取り組み—自由記述

No.	教育・啓発活動	性別	年齢
1	教育	女性	20歳代以下
2	家庭、学校等意識教育		40歳代
3	学校などで理解促進、(小学校高学年くらいから) カウンセリングや支援策もある、ということも伝え人権、性についてもっと繰り返し年齢に合わせた指導(啓発)を行ってゆく事。	女性	30歳代
4	本人が周りに言えないプレッシャーは、社会の認識のまちがいや先入観が強くなるからだと思う。本来の意味や、どういう風に考えるのか、正しい社会認識がされる様に家庭や学校で間違っていない情報を共有していく。	女性	50歳代
5	単に、同性愛を肯定、容認するような風潮は、家庭、社会、国家全体をダメにするだけである。結婚、家庭の意義と価値をきちんと見直し教育すべきである。	男性	50歳代
6	社会的な意識の変革。子供の頃から、社会にはその様な人々が少なからず存在する事を教え、差別的な感情を増着させない。寛容な精神を身に付けてゆく事が大切かと思います。	男性	60歳代
7	性的少数者のことを特別なこととは思わず、自然な事であると認識できる社会的意識改革を、幼い頃からできる場を作る。年配者にも理解をしてもらう場を作る。	女性	40歳代
8	学校や会社で周知啓発の研修会をもつ。マスコミの報道に節度をもたせる。	男性	30歳代
9	多用性があることを認識して、差別意識を持たず、基本的人権の大切さを、学校や家庭において、教育する事が必要でこれは、いじめや、児童虐待やDV等すべてにつながっていると思います。無関心が問題です。	男性	50歳代
10	ヘテロセクシュアルであることが当たり前で、それ以外は普通ではないという「常識」がはびこりすぎている。性だけではなく全ての「多様性」を認める教育や、ものづくり。		50歳代
11	多様性を認める、受け入れられる教育。又、教育者となる人々(教師だけでなく、特に発言力のある政治家など)の意識改革と向上が必須だと考える。	女性	30歳代
12	教育の場で性に対する知識を深めさせる。また、性に関して学びの場をもうける時に、男女を別々に分けて説明をしない。教育者側の理解度も重要。	女性	50歳代
13	差別者側の意識の問題なので長い目で見た草の根活動が必要だと思う。(次世代以降への啓発活動)	男性	20歳代以下
14	周囲(社会)の理解できる様な教育。	女性	50歳代
15	啓発活動	女性	30歳代
16	差別的に考える人を減らしていく取り組み	女性	40歳代
17	会社内での偏見をなくしたり、理解を深める取り組みが必要。イベント等で交流をしたり、相談窓口をもうけたり。	女性	30歳代

No.	教育・啓発活動	性別	年齢
18	学校教育の中で可能な限り、人権への意識向上を図る。思い悩んだときに、相談できる場を設ける。比較的高い年齢層に対する理解促進の機会を作る。 (親世代(60代70代)には未だ偏見が強いように感じるため)	女性	40歳代
19	定期的な情報の発信	男性	30歳代
20	学校での教育	女性	40歳代
21	LGBTに限らず、「みんな違ってみんな良い」という教育、社会にならないといけないと思う。	女性	20歳代以下
22	相談窓口の設置、啓発	男性	40歳代
23	教育・研修の徹底	男性	50歳代
24	幼少期からの教育	男性	60歳代
25	LGBTを理解するための教育が必要だと思います。	女性	30歳代

No.	周囲からの理解	性別	年齢
1	相手のそのまま、ありのままの姿を受け止める。	男性	30歳代
2	まずは知ってもらうためにメディアでのテーマの取り上げ	女性	30歳代
3	自分がバイセクシャルなので、そしてつよいので立ちむかうしかない。でも弱く傷ついている人をとにかく助けてほしい。ありとあらゆる方法で。	女性	40歳代
4	偏見しないこと。その人なりの人権であり、尊ばれるべきである。	女性	20歳代以下
5	そもそも差別という意識を持たないような意識改革	女性	30歳代
6	差別しない。	男性	40歳代
7	性的少数者への理解を深め、偏見をなくす。	女性	20歳代以下
8	周りの理解。	女性	40歳代
9	もっと周知してもらうように、テレビ等各メディアが流すのが必要だと思う。“性的少数者”という言い方、呼び名をやめる。彼ら、彼女らは、自分のような身体もこころも性が一致している人間よりも、“性”という科学的、物理的に解決できない事を持ちながら生活しているので、自分よりも優っている。決して劣ってはいない、が平等でもない。	男性	20歳代以下
10	その人は、その人だという認識を持つこと。それは、その人にとっての個性だと思い、接することが大切である。またそのことを、少しでも、周知していく。	男性	20歳代以下
11	身近に性的少数者がいないので、理解に欠けていると思うが、やはり偏見や差別は絶対にいけないと思う。	女性	60歳代
12	それぞれの個性として受け入れる世の中になる様に。NHKの番組でも多くあつかうようになって広まって来たと思うが…	女性	60歳代
13	「人」として受け入れる気持ち(意識の醸成)が必要。社内研修等行っても、「知識」だけであって、認知や理解しようとする努力は皆無に等しい。人それぞれなのでそれも強要できないのが難しいところではある。	女性	30歳代
14	学校での性教育の充実。公共機関での差別や蔑視をなくす。世間一般に偏見をなくす運動など。	男性	70歳代以上

No.	周囲からの理解	性別	年齢
15	性的少数者と生活を共にする人々が、彼等とどのような接し方をしたらよいか、等の相談口を設けたらどうですか。(すでに設置済みでしたら、認識不足でした。悪しからず)	男性	60歳代
16	理解を深め、どのように接したら傷つけずにコミュニケーションできるかを知りたいと思う	女性	60歳代
17	マイノリティへの理解をマジョリティ側がすることが大事。マイノリティ側に解決策を求めるのは意味がない。	男性	30歳代
18	性的少数者の事は、テレビ、新聞等を見て関心を持っている。子供の時から、先生・親、大人は偏見を持たず、接する事。病気ではなく個性として受けとめるべきである。北区も同性結婚に前向きに考えてほしい。	女性	70歳代以上
19	LGBTを珍しい存在としてあつかわない。どんな性別であろうと、相手を怖がらせない限り、好きになっていい意識を広める	女性	20歳代以下
20	差別することなく、自然体で付き合う。	女性	70歳代以上
21	男女に分けて考えることが当たり前であることという無意識レベルへのアプローチ。例えば、この調査も性別を問うており、性差で分析することが前提となっている。LGBT等の人はどちらに○をつけるのかと問題意識を持たないのでしょうか。	女性	30歳代
22	人それぞれの違いをもっと受け入れること。ステレオタイプを植え付けないこと。性的少数者と一纏めにせず、個人として関わること。同性婚の合法化(まずは自治体の認知と支援は必要、新宿区のように)。	女性	20歳代以下
23	理解を深めてもらう	女性	20歳代以下
24	周りの人の理解	女性	30歳代
25	下手にメディアで誇張的に露出させない	男性	30歳代

No.	法の改正	性別	年齢
1	住民票の続柄記載に同性パートナーも「内縁の妻・夫」と記載する。法律婚として同性同士の婚姻もできるようにする。必要性のない性別表記、性別記入欄をやめる。	女性	40歳代
2	婚姻制度、相続制度等について、性的少数者が不利とならないような制度の確立	男性	30歳代
3	戸籍とは異なる姓での雇用支援など。	女性	40歳代
4	公的期間において選別しない	男性	30歳代
5	婚姻制度の変更	男性	30歳代

No.	その他	性別	年齢
1	<ul style="list-style-type: none"> ・真の男女平等はありえないので、出来る所、出来る場所からやる。 ・小さい時からの教育が必要。 	男性	50歳代
2	絶対的に男性の出る場が少ない。出る人は出るが決った人、若い人（自分から見て）の参加がない	女性	70歳代以上
3	男女共同参画について何も知らなかったなので、これからは注意して、記事を読もうと思います。ガンバッテ下さい。	女性	70歳代以上
4	男女共同参画をするためにはまず施設を作って欲しい。	男性	20歳代以下
5	誰もが参加したいと思う環境造り	男性	60歳代
6	男・女性が別であるように、個々の性格、得て不得て、向き、不向きがある。相互理解・尊重・協力が不可欠。	女性	60歳代
7	差別と区別の違い、平等にする為の不平等が生まれていること。質問に答えていて、そのちぐはぐさが気になりました。	女性	20歳代以下

(9) 男女共同参画について

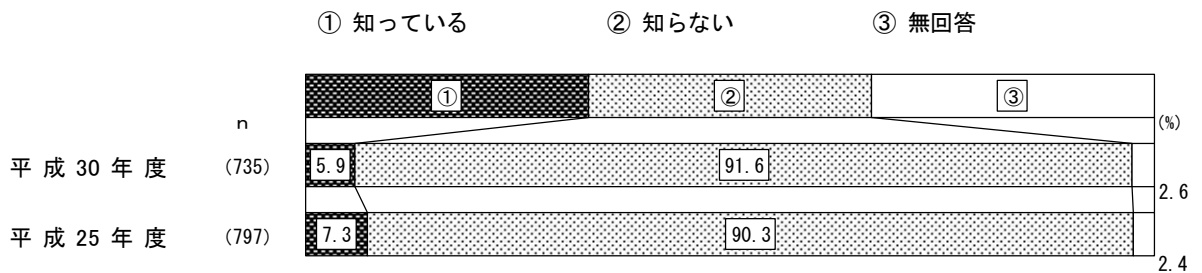
① 「アゼリアプラン」の認知度

問28 北区男女共同参画行動計画「アゼリアプラン」をご存知ですか。

北区男女共同参画行動計画「アゼリアプラン」を知っているか聞いたところ、「知っている」は5.9%、「知らない」(91.6%)が9割を超えている。

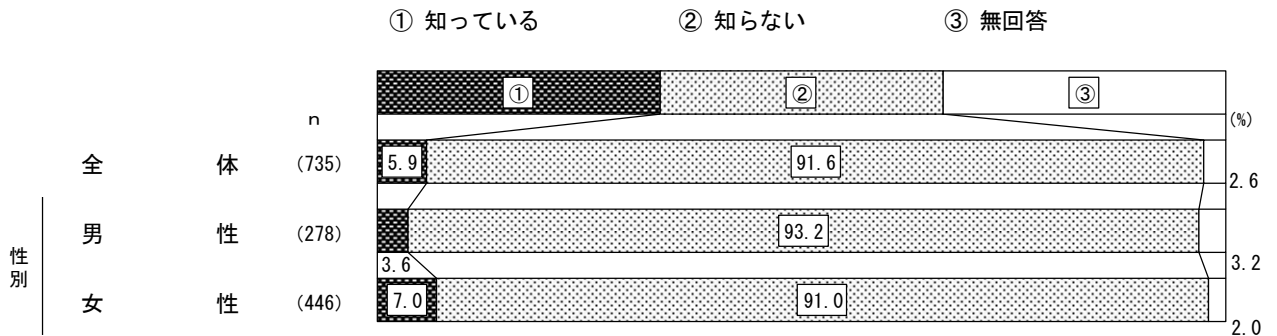
前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表1-28-1 アゼリアプランの認知度－過年度比較



性別でみると、大きな違いはみられない。

図表1-28-2 アゼリアプランの認知度－性別



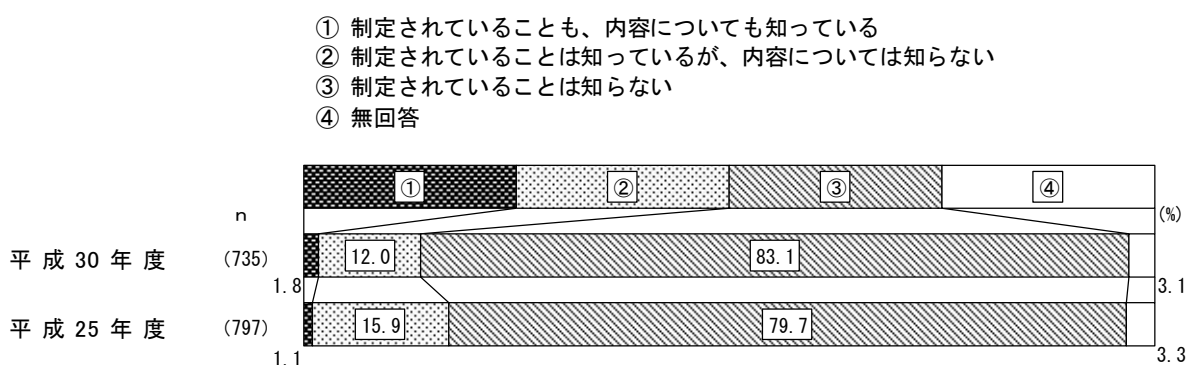
② 「北区男女共同参画条例」の認知度

問29 北区では平成18年6月に北区男女共同参画条例を制定しましたが、この条例についてご存知ですか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

北区男女共同参画条例を制定したことを知っているか聞いたところ、「条例が制定されていることも、条例の内容についても知っている」は1.8%となっており、「条例が制定されていることは知っているが、条例の内容については知らない」(12.0%)は1割を超えている。一方、「条例が制定されていることは知らない」(83.1%)は8割を超えている。

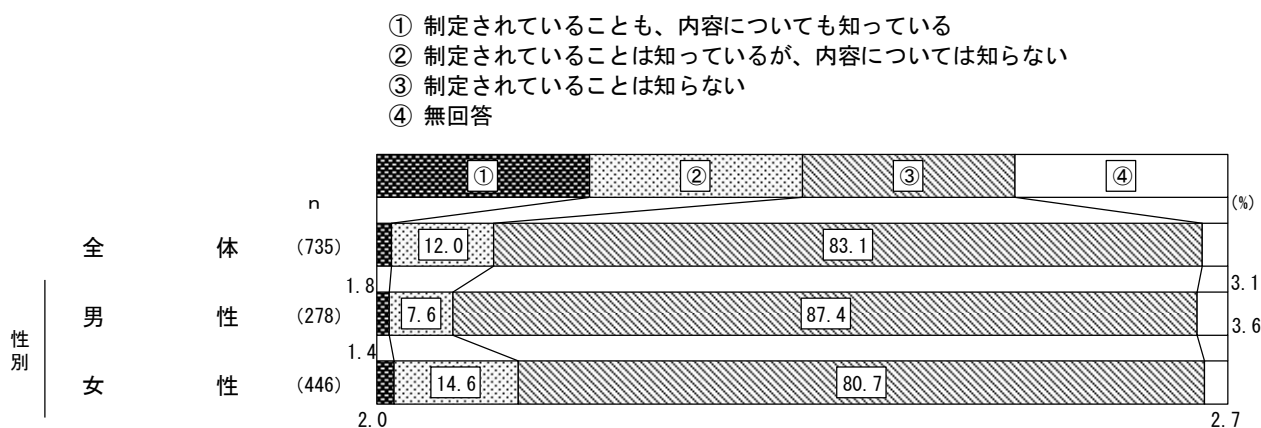
前回調査と比較すると、「条例が制定されていることは知らない」は3.4ポイント高くなっている。

図表1-29-1 「北区男女共同参画条例」の認知度一過年度比較



性別でみると、「条例が制定されていることは知っているが、条例の内容については知らない」は女性が男性より7.0ポイント高くなっている。

図表1-29-2 「北区男女共同参画条例」の認知度一性別



■北区男女共同参画条例の認知度は13.8%。

■特に男性の知名度が低くなっているため、男性に焦点を当てた啓発活動を行うなど、広報活動を強化する必要があると考える。

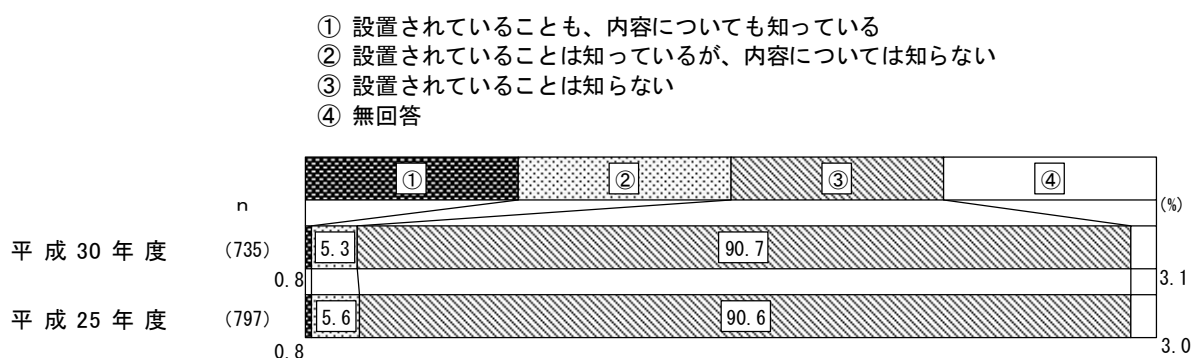
③ 「北区苦情解決委員会」の認知度

問30 北区男女共同参画条例に基づき、「北区苦情解決委員会」を設置していますがご存知ですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

「北区苦情解決委員会」を設置していることを知っているか聞いたところ、「北区苦情解決委員会が設置されていることも、内容についても知っている」は0.8%、「北区苦情解決委員会が設置されていることは知っているが、内容については知らない」は5.3%となっている。一方、「北区苦情解決委員会が設置されていることは知らない」(90.7%)がほぼ9割となっている。

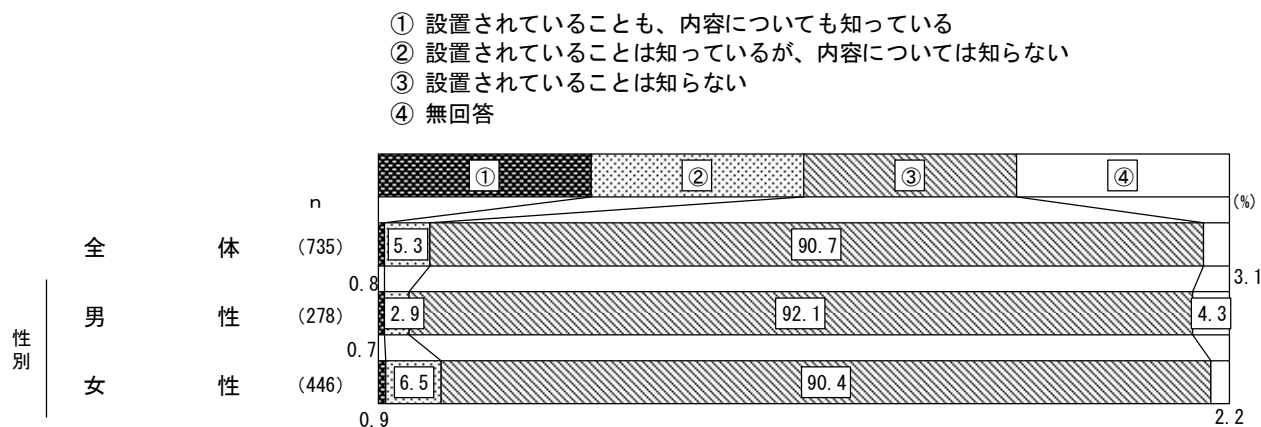
前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表1-30-1 「北区苦情解決委員会」の認知度一過年度比較



性別でみると、大きな違いはみられない。

図表1-30-2 「北区苦情解決委員会」の認知度一性別

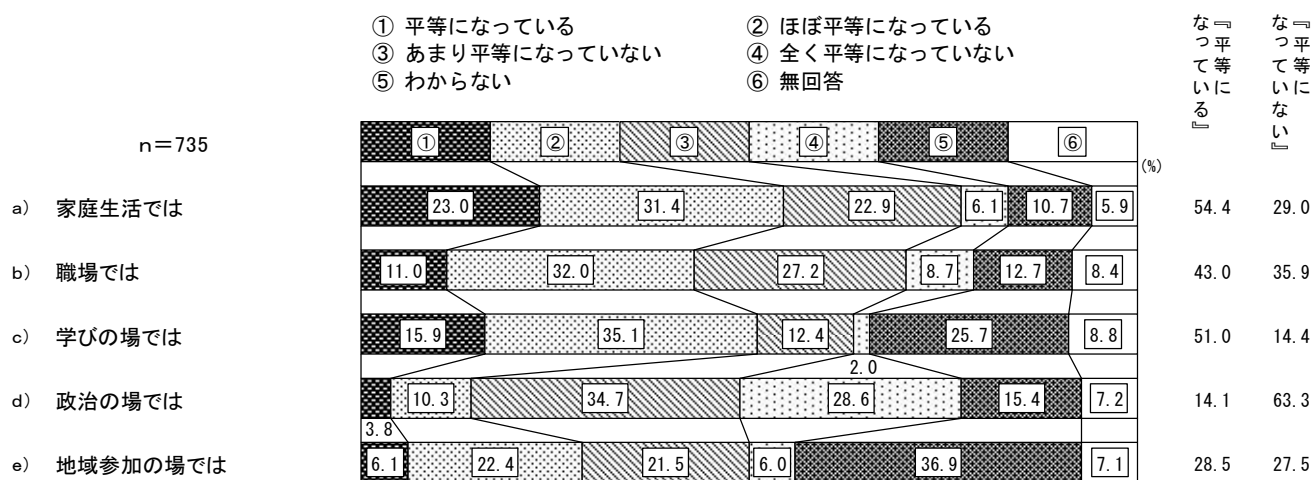


④ 男女の地位の平等

問31 あなた自身にとって、次のa)からe)の項目の場において、男女の地位が平等になっているとおもいますか。(それぞれの項目についてあてはまる番号に○を1つずつつけて下さい)

さまざまな場で男女の地位が平等になっていると思うか聞いたところ、「平等になっている」と「ほぼ平等になっている」を合わせた『平等になっている』は“a 家庭生活では”(54.4%)が5割半ばと最も高く、次いで、“c 学びの場では”(51.0%)も5割を超えている。

図表 1-31-1 男女の地位の平等



■「政治の場では平等になっていない」と考えている人が多い。

■それ以外の項目では「平等になっている」の方が高い割合になっているが、全ての項目において男性よりも女性の方が「平等になっている」の割合が低く、男女での認識に差異があることが伺える。

【a 家庭生活では】

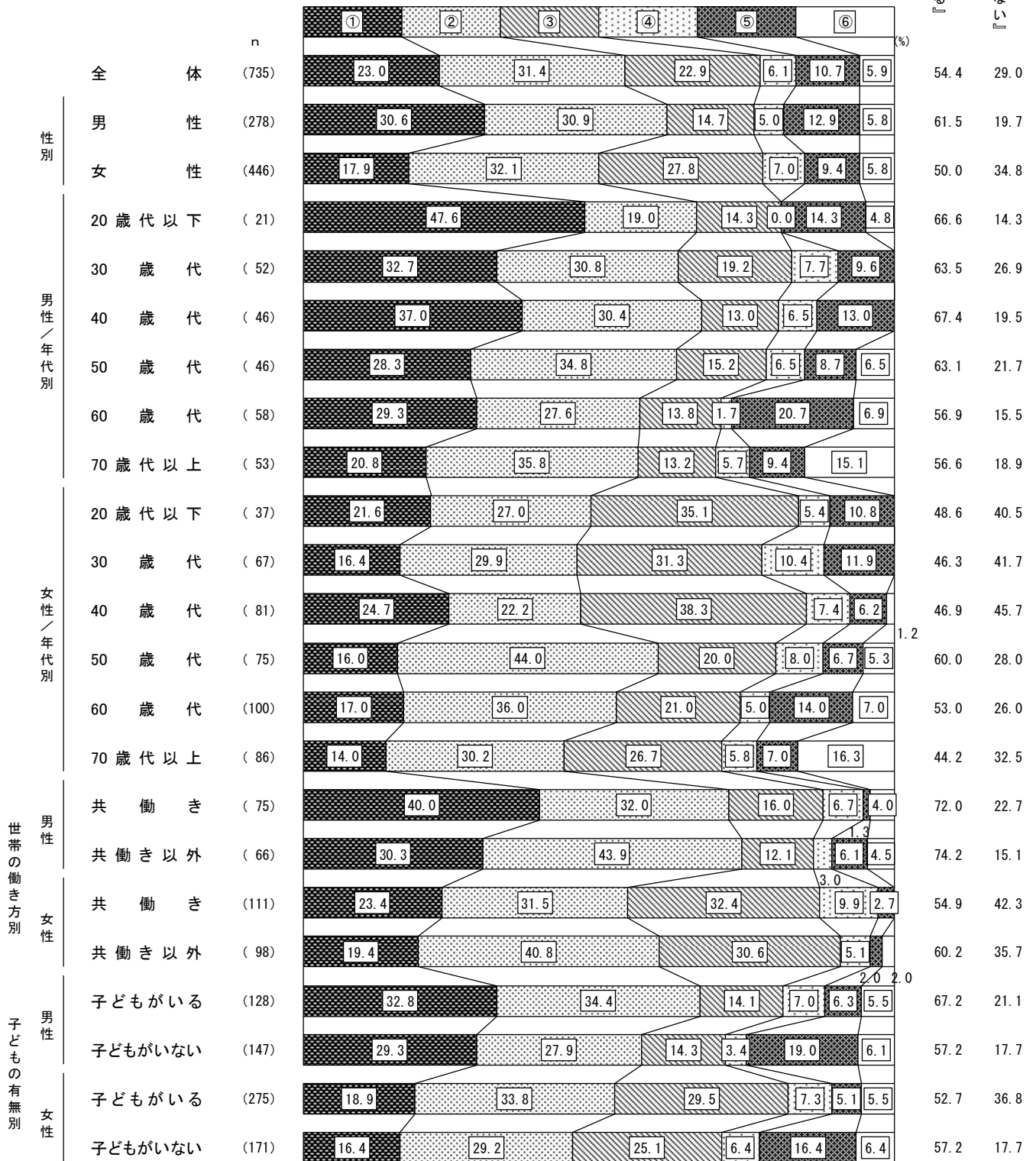
家庭生活では男女の地位が平等になっていると思うか聞いたところ、「平等になっている」(23.0%)と「ほぼ平等になっている」(31.4%)を合わせた『平等になっている』(54.4%)は5割半ば、「あまり平等になっていない」(22.9%)と「全く平等になっていない」(6.1%)を合わせた『平等になっていない』(29.0%)はほぼ3割となっている。性別で見ると、『平等になっている』は男性が女性より11.5ポイント高くなっている。性・世帯の働き方別で見ると、『平等になっている』は“男性の共働き以外”で7割半ばと高くなっている。

図表 1-31-2

男女の地位の平等 (a) - 性別、性・年代別、性・世帯の働き方別、性・子どもの有無別

- ① 平等になっている
- ② ほぼ平等になっている
- ③ あまり平等になっていない
- ④ 全く平等になっていない
- ⑤ わからない
- ⑥ 無回答

な『平等
ている』
な『平等
でない』

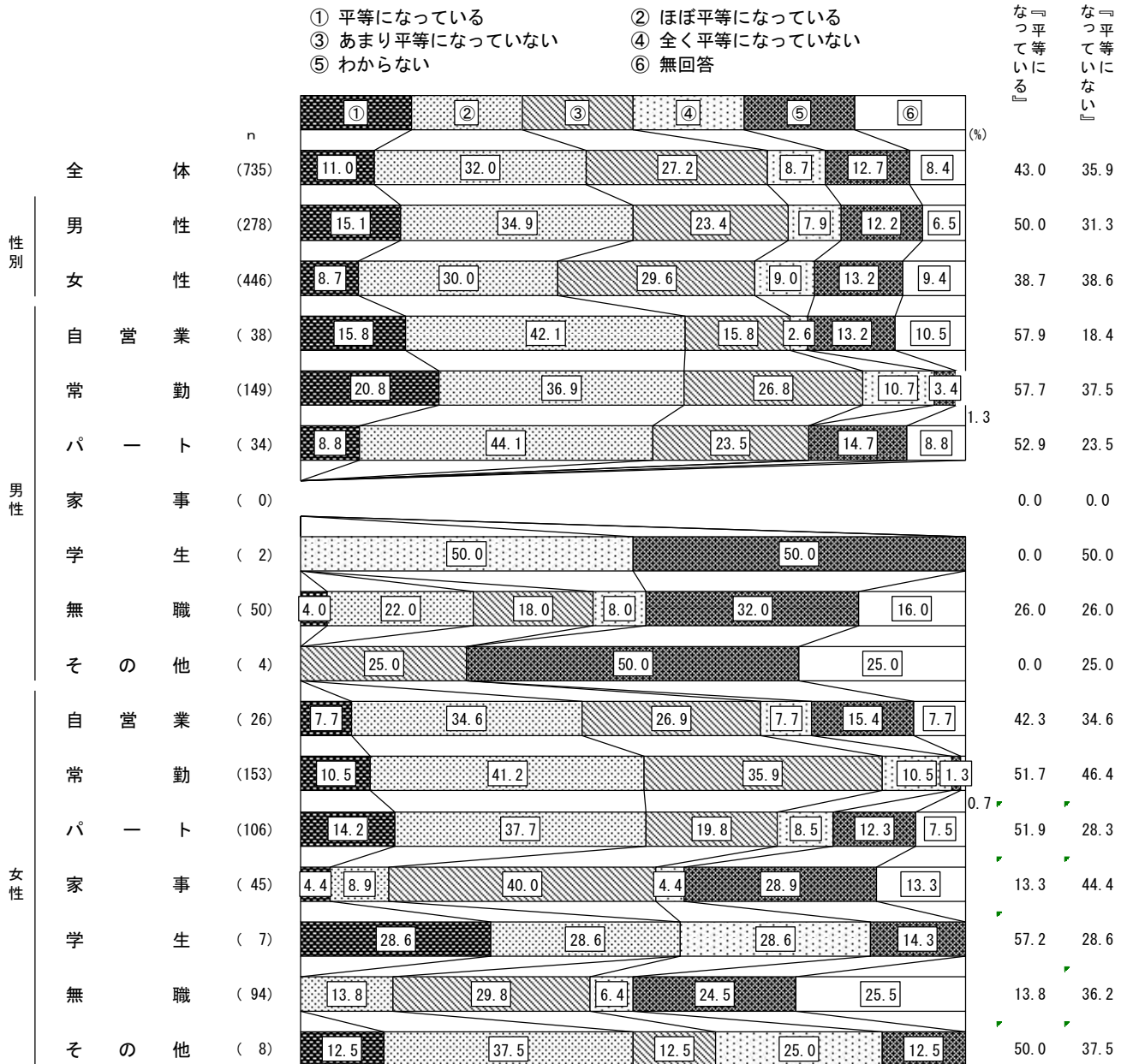


【b 職場では】

職場では男女の地位が平等になっていると思うか聞いたところ、「平等になっている」(11.0%)と「ほぼ平等になっている」(32.0%)を合わせた『平等になっている』(43.0%)は4割を超え、「あまり平等になっていない」(27.2%)と「全く平等になっていない」(8.7%)を合わせた『平等になっていない』(35.9%)は3割半ばとなっている。

性別でみると、『平等になっている』は男性が女性より11.3ポイント高くなっている。

図表 1-31-3 男女の地位の平等 (b) - 性別、性・職業別

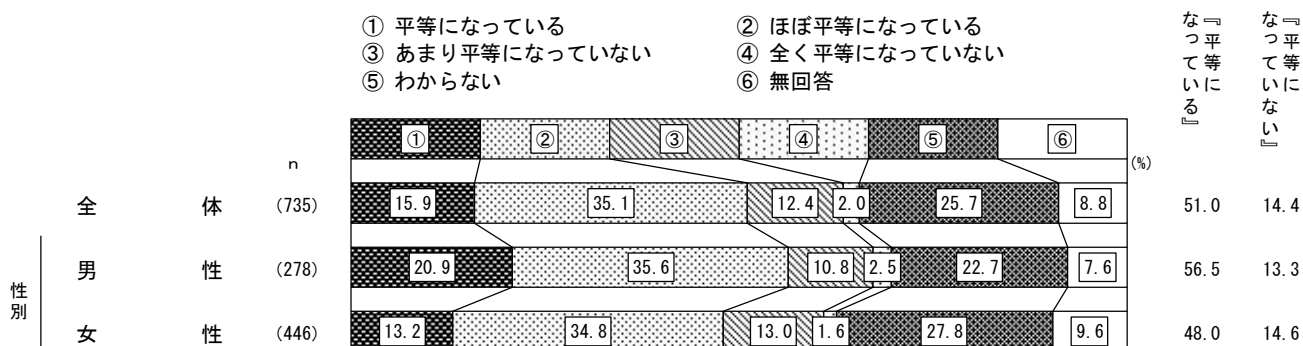


【c 学びの場では】

学びの場では男女の地位が平等になっていると思うか聞いたところ、「平等になっている」(15.9%)と「ほぼ平等になっている」(35.1%)を合わせた『平等になっている』(51.0%)は5割を超え、「あまり平等になっていない」(12.4%)と「全く平等になっていない」(2.0%)を合わせた『平等になっていない』(14.4%)は1割半ばとなっている。

性別でみると、『平等になっている』は男性が女性より8.5ポイント高くなっている。

図表 1-31-4 男女の地位の平等 (c) - 性別

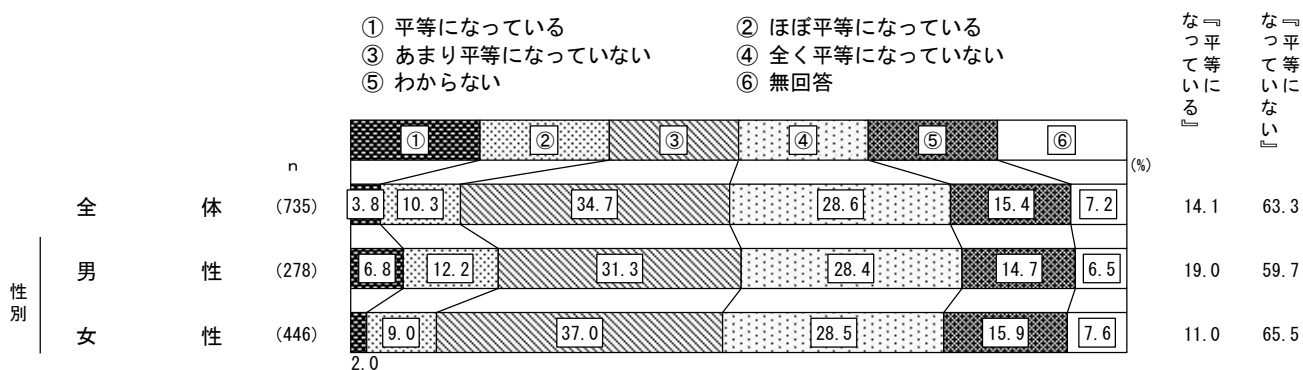


【d 政治の場では】

政治の場では男女の地位が平等になっていると思うか聞いたところ、「平等になっている」(3.8%)と「ほぼ平等になっている」(10.3%)を合わせた『平等になっている』(14.1%)は1割半ば、「あまり平等になっていない」(34.7%)と「全く平等になっていない」(28.6%)を合わせた『平等になっていない』(63.3%)は6割を超えている。

性別でみると、『平等になっている』は男性が女性より8.0ポイント高くなっている。

図表 1-31-5 男女の地位の平等 (d) - 性別



【e 地域参加の場では】

地域参加の場では男女の地位が平等になっていると思うか聞いたところ、「平等になっている」(6.1%)と「ほぼ平等になっている」(22.4%)を合わせた『平等になっている』(28.5%)は3割近く、「あまり平等になっていない」(21.5%)と「全く平等になっていない」(6.0%)を合わせた『平等になっていない』(27.5%)も3割近くとなっている。

性別でみると、『平等になっている』は男性が女性より7.4ポイント高くなっている。

図表 1-31-6 男女の地位の平等 (e) - 性別、性・年代別



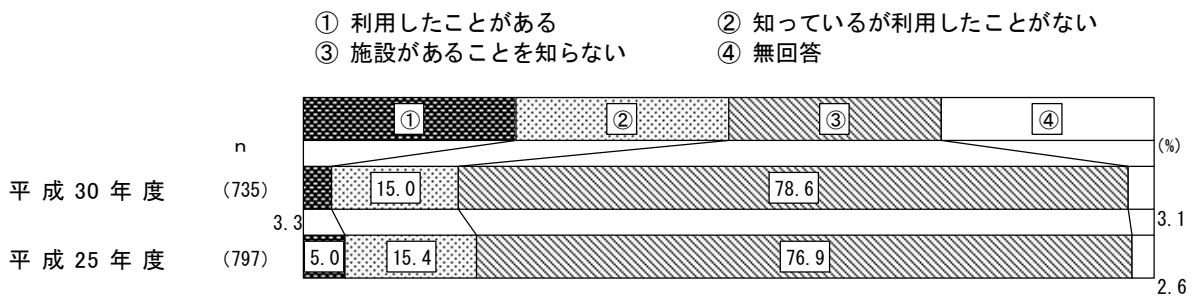
(10) スペースゆう（男女共同参画活動拠点施設）について

① スペースゆうの利用状況

問32 スペースゆうを利用したことがありますか。

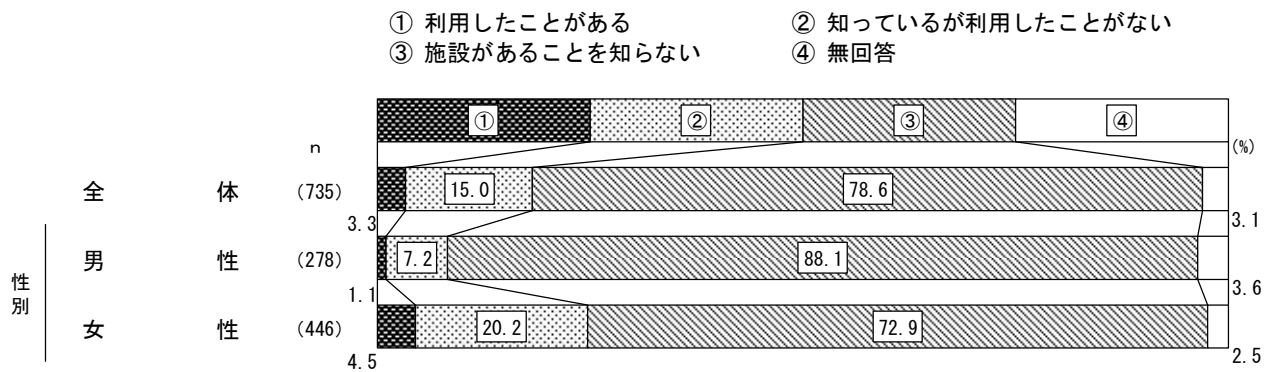
スペースゆう（男女共同参画活動拠点施設）を利用したことがあるか聞いたところ、「利用したことがある」は3.3%となっており、「知っているが利用したことがない」（15.0%）は1割半ばとなっている。一方、「施設があることを知らない」（78.6%）が8割近くとなっている。
 前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

図表 1-32-1 スペースゆうの利用状況—過年度比較



性別でみると、「知っているが利用したことがない」は女性が男性より13.0ポイント高く、「利用したことがある」でも3.4ポイント高くなっている。

図表 1-32-2 スペースゆうの利用状況—性別



■スペースゆう（男女共同参画活動拠点施設）の認知度は18.3%。

■女性の利用率・認知度は比較的高いため、今後は男性への広報を強化する必要があると考えられる。

②スペースゆうの利用目的

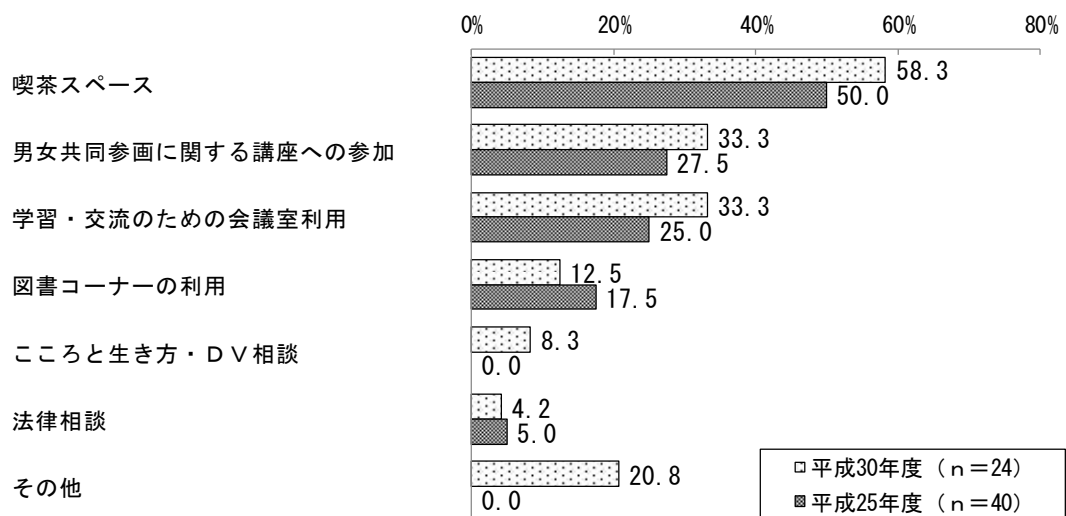
(問32で「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。)

問32-1 どのような目的で利用されましたか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

問32で、「利用したことがある」と答えた方に、どのような目的で利用したか聞いたところ、「喫茶スペース」(58.3%)が6割近くと最も高くなっている。次いで、「男女共同参画に関する講座への参加」(33.3%)、「学習・交流のための会議室利用」(33.3%)などとなっている。

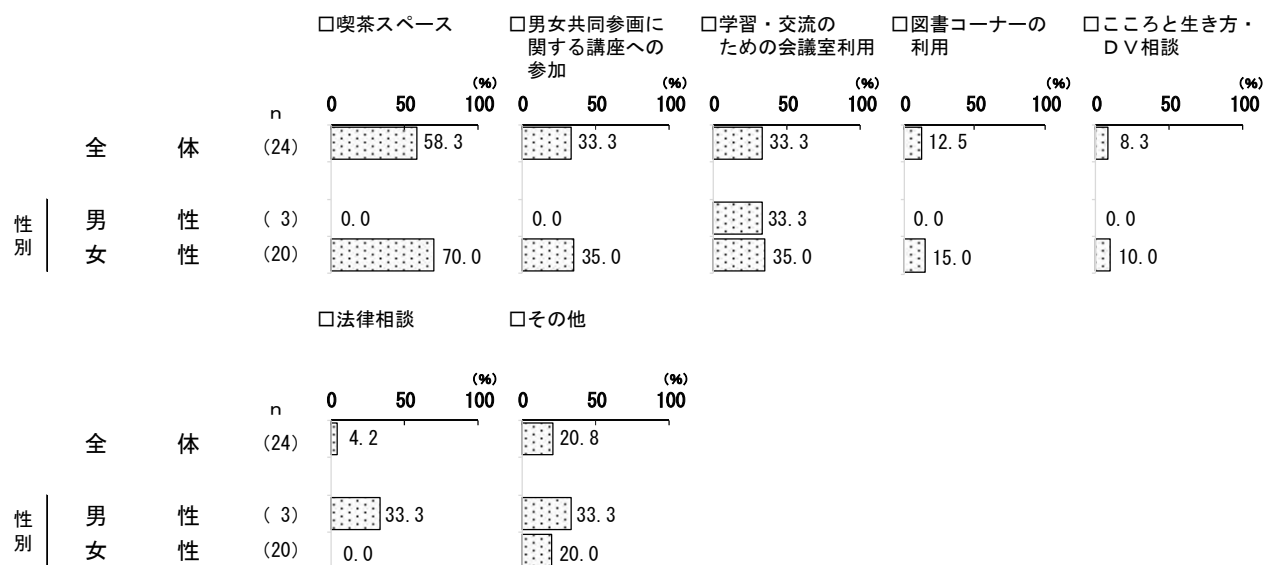
前回調査との比較は、サンプル数が少ないため参考までに図示する。

図表1-32-1-1 スペースゆうの利用目的



性別による比較は、サンプル数が少ないため参考までに図示する。

図表 1-32-1-2 スペースゆうの利用状況—性別

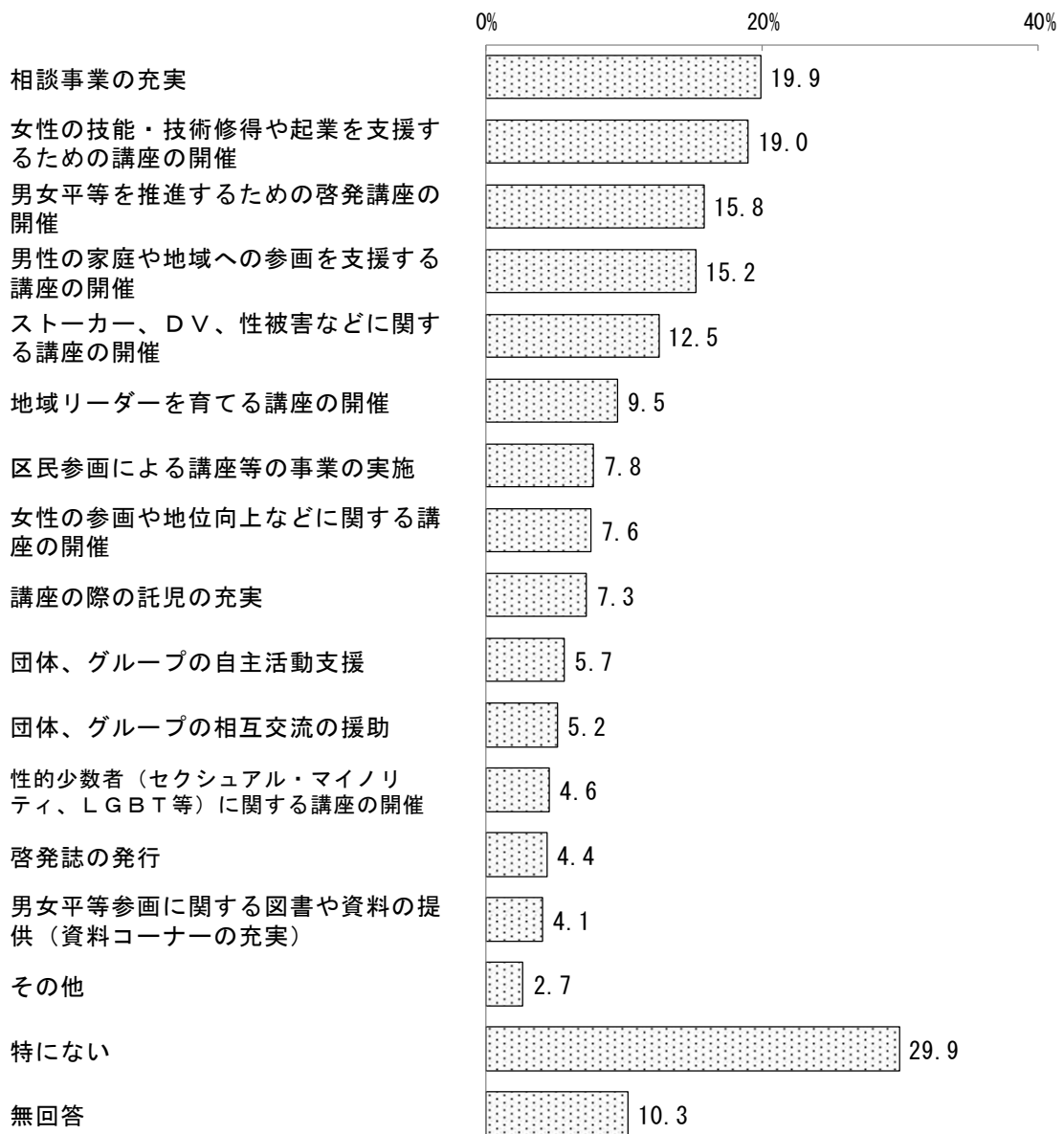


③ スペースゆうで力を入れて欲しいこと

問33 スペースゆうで、今後どのような事業に力を入れていくとよいと思いますか。
あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

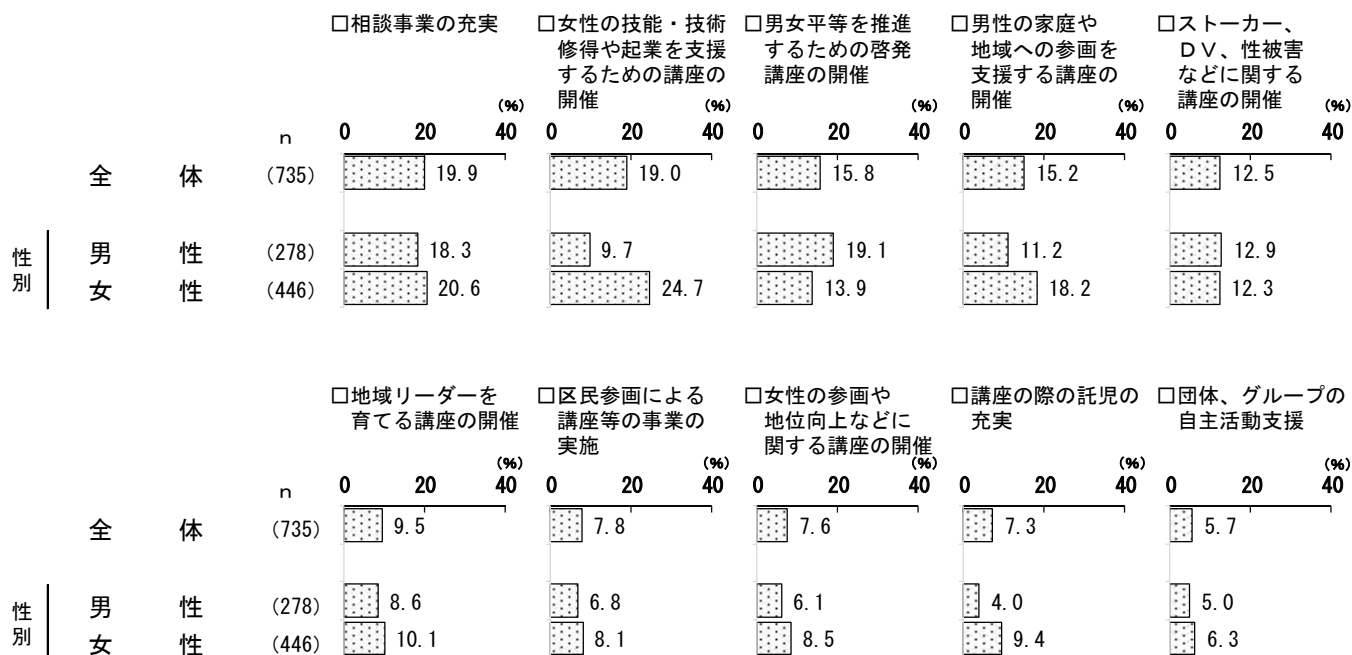
スペースゆうで、今後どのような事業に力を入れていくとよいと思うか聞いたところ、「相談事業の充実」(19.9%)が2割と最も高くなっている。次いで、「女性の技能・技術修得や起業を支援するための講座の開催」(19.0%)、「男女平等を推進するための啓発講座の開催」(15.8%)、「男性の家庭や地域への参画を支援する講座の開催」(15.2%)などとなっている。

図表1-33-1 スペースゆうで力を入れて欲しいこと



性別でみると、「女性の技能・技術修得や起業を支援するための講座の開催」は女性が男性より15.0ポイント高くなっている。

図表 1-33-2 スペースゆいで力を入れて欲しいことー性別（上位10項目）



■最も期待することは「相談事業の充実」という結果であった。

■女性向けの講座関連以外では男女差があまりみられないので、男性も女性と同じように男女共同参画に関心を持っていることが伺える。

④ 北区の男女共同参画推進施策についてのご意見・ご要望

問34 北区の男女共同参画の推進施策について、ご意見・ご要望を自由にご記入ください。

No.	北区の施策について	性別	年齢
1	中小企業への支援に注力してほしい	男性	50歳代
2	70才にはあまりびんどこない	男性	70歳代 以上
3	働いている人も、色々な講座に参加出来る様な企画があるといいな。	女性	40歳代
4	大多数の住人は、役所が何をやっているかを知らない。SNSを活用し、積極的に配信すべき。	男性	40歳代
5	この政策を余り存じませんでした。もっと知りたいです。	女性	40歳代
6	力を入れているようで素晴らしいと思う。知らなかったことについて申しわけないと思う	男性	20歳代 以下
7	周知が第一。実行→伝える（広報）	男性	40歳代
8	「スペースゆう」のこと、まったく知りませんでした。もっと多くの方々に知っていただくにはどうしたら良いか… 宜しく願い申し上げます。	男性	70歳代 以上
9	一般区民へのPRに欠けていると思う。いろいろな方法で発信していく必要があると思う。	女性	70歳代 以上
10	介護などの支援活動	男性	50歳代
11	こちらに越して来て5年になりますが、北区の事をあまり知らないと感じました。区報等ポストに入っていますが、なかなか目を通す機会がありません。わかりやすくなっているとありがたいです。	女性	20歳代 以下
12	主旨として賛成。徹底する事。	男性	70歳代 以上
13	区でなく国がすべき事は国にしてもらい、むだな税金をつかわないでほしい。		40歳代
14	なにが優先するかを議論し必要な事柄から実行する。	男性	60歳代
15	事業内容の充実と情報の活性化	男性	70歳代 以上
16	具体的な活動内容などをもっと広く広報してほしい	女性	50歳代
17	アンケートをした所で、どんな解決策がうまれたか、どんな行動にうつすのかしっかり結果を区民に報告していただきたい。公表ではない「報告」です。「ホームページにあるが見てください。」や、「区役所においてあります。」などでもかまわない。無言で公表するのではなく、全区民スペースゆうの広報活動をもっとやった方が良くと思います。	男性	20歳代 以下
18	知らない人がほとんどだと思うので、まずは細かいことよりも、概要の周知が大切だと思う。	男性	20歳代 以下
19	机上だけの議題でなく本気で取組まなくては、いつまでも同じ事のくり返しとなる。	女性	70歳代 以上
20	引き続きご健闘頂きたい	女性	60歳代
21	北区ニュースなどでもっと広報活動をひろげると良いと思う。	女性	60歳代

No.	北区の施策について	性別	年齢
22	誰でも気軽に相談出来る組織を作る	男性	70歳代以上
23	何をやっているのか全く知らないし、分からない。実績や結果を教えて欲しいです。具体的な成果はあるのですか。	女性	30歳代
24	女性起業家支援に関して他の区よりも遅れていると感じる。前例がないこと、新しい取り組みに対し、消極的。他区と比較し、もっと改善すべきと思う。北区が子育て支援を充実してきたように、女性の支援も充実させてほしい。	女性	30歳代
25	北とぴあにあつて名前は、聞いたことがあります、詳細は、わかりません。もっと、わかりやすい言葉で世間に広くしらしめることが、大事かと思えます。	女性	60歳代
26	男女共同参画の推進には、大いに賛成します。さて、北区在住40数年の納税者です。過去に1度だけ「区民ニュース」なるものを受取りました。区政の情報や区政への参加等々理解できておりません。このような地域が存在すると言うことを区政担当者の方々はどう思われますか	男性	60歳代
27	北区の推進施策に、期待しています。	女性	60歳代
28	条例や施設はあっても区民に理解されていなければ意味がない。区民がより知ることができるような仕組み、広報活動が必要でしょうか。	女性	50歳代
29	アンケート結果からの行動がどのように変化したかの報告か結果開示	男性	40歳代
30	周知の徹底と充実拡大し、詳細に区民へ伝達を早急に推進する事を切望します。	男性	70歳代以上
31	2016年5月に娘の出産を援助する為転居してきましたが、すぐに自分も自立しながら、娘の家庭生活、孫の世話と大変忙しい日々になり今日に至ってしまい、未だに北区の施策等々、多くの事が目にはいってなくて毎日、少しでも時間をと、心がけている所です。	女性	70歳代以上
32	スペースゆうの情報を知りたい。	男性	50歳代
33	J Rや地下鉄等、入手しやすい場所に、「北区の男女共同参画のたより」的なものの配布。	女性	40歳代
34	デートDVについて悩んだ際、24時間体制の電話相談窓口や、LINEやSMSなど何らかの手軽な窓口があるとありがたいと思いました。自分自身の身に降りかかると思っていなかったことも、いざその立場になり、行政サービスを利用すると長所、短所を実感するものだと感じました。	女性	30歳代
35	2016年12月に北区に移住しましたが、この活動の存在を全く知りません。	男性	20歳代以下
36	女性にとって活躍しにくい社会、というのは、女性だけでなく、全てのマイノリティ・弱い立場にいる人にとって住みにくい世の中であり、現在マジョリティ・強い立場にいると思っている人たちも、何がきっかけで逆の立場になるかはわからない(けがや病気をすれば一発でマイノリティです)訳で、結果、あらゆる人にとって住みにくい世の中となるのです。施策する人たちがそのことを肝に銘じていただきたいと思えます。	女性	40歳代
37	もっとPRすべきだ	男性	60歳代

No.	北区の施策について	性別	年齢
38	良い取り組みだと考える	女性	50歳代

No.	男女共同参画について	性別	年齢
1	男女平等とは、何を持って「平等」なのでしょう。男と女は違い、もっと言ってしまうと1人1人が違うので「平等でない」事自体が「平等」では無いのでしょうか…。性別や体で言えば女性は生理等もあり体調が万全の時では無い時もあり、仕事で言えば出来る人、出来ない人はかならずいます。「平等」と言ったらこの格差を無くす事でしょうか。先に言った様に女性に生理等で調子の悪い時でも、男性と同じ様に働けと、言うのですか。給与、賞与、昇進等で努力した人、努力してない人でも同じだけの給与などをあたえる事ですか。育児、出産などで休みになる方の支援等も大変必要な事だと思いますがそれをフォローする人に対する支援等も必要だと思います。「平等で無い」という事が、私には「平等」で有ると思います。	男性	30歳代
2	我が家も子供の保育園の入園で3才の壁にぶちあたりました。何よりも保育園の整備が急がれ、男女共同参画はそれが整っていてこそと実感しています。保育園は「家庭での保育にける子供のもの」という古い考えでは参画はすすまないと思います。	女性	40歳代
3	「男女平等」の圧力にとらわれて、性別や性格の違いを否定するのではなく、男女の性差・1人1人の個性を認めたくて、個々人が生きやすい・働きやすい社会を作ることが最も大切だと思う。	男性	30歳代
4	北区の男女共同参画の推進施策についてよくわかっていませんでした。地域の事業にもう少し関心をもっていきたいと思います。	女性	30歳代
5	「男女共同参画」について北区のどこに行けば、資料をもらえるのか。北区民へのPRが不足しているのでは。このアンケートを送付する際に例えば「スペースゆう」の施設の物件などの資料を同封してほしい。	男性	70歳代以上
6	身体的、精神的な面も含めて、完全な男女平等というのは困難だと思います。女性に色々な権利、役割（社会的）を与えるということは大切だと思う反面、逆に男性への差別も増えていく気がします。権利と主張ばかりを大きく取り上げるのは、同性としては恥ずかしく思う時もあります。	女性	40歳代
7	女性がずっと働けるよう、病児保育サービスやファミリーサポートの事業をもっと充実させてほしい。学校もPTA活動などが共働きを前提にしておらずとても困る。学童のサービスもとても十分とは言えない。（スポット延長ができなかったり、休みの日のお弁当など）世の中の共働き世帯の女性は、男性の3倍は大変だと思う。（仕事、家事、学校行事、病児のサポート、習い事の送迎、などなど）それをもっと理解してもらわないと、男女共同参画にならないと思う。	女性	30歳代
8	男・女は同権であるが、同質ではないと思います。他者を思いやる・認める事が当然である、とした教育が必要であり、共助、共済協力の大切さを広報して頂きたいと思います。	男性	50歳代

No.	男女共同参画について	性別	年齢
9	男女は、関係なく、力をつければ、同じ人間としてあつかわれる。しかし、体の仕組みは異なる。それぞれのメリットデメリットをおぎなう仕組みがあれば、くるしくなくなる。	女性	30歳代
10	女性が働き続けるのには、保育所はもちろんのこと、小学校に上がってからの学童や中学、高校へ行っても地域の見守りが必須です。タテ割り行政ではなく各行政が横連携していただくことを望みます。	女性	50歳代
11	親、又は祖父母が安易に「女の子だから優秀じゃなくても良い」「女の子だからそんなに働かなくて良い」と言わない、考えない事。女性が妻、母、主婦として生きる事自体は本人の自由であり幸せであればそれで良いが、必ずしも幸運に恵まれるとは限らない。最後に頼れるのは自分しか居ない。	女性	50歳代
12	「男女共同参画」という言葉すら「何？」と言う人が多いのが現状です。女性の中でも意識の差が激しく、「スペースゆう」の存在も知らない人が大多数です。北区がもう長年やってきている男女共同参画の進め方に疑問を感じています。税金を投入しているのに、成果が実感できません。施策の方向性や方法を考える必要があると思います。一部の人のたまり場とか、一部の人の自己満足といった印象を長年感じています。拠点を王子（北とぴあ）だけでなく、たとえば滝野川、王子、赤羽の3カ所にするなどして、活動しやすさや特色を出すのも一案かと思っています。	女性	50歳代
13	男女の区別と差別を混同していることが多い。男女の特性、区別をわきまえた上で、平等である。何でもかんでも差別として文句を言うのは唯物思想である。対立関係を強調、あおるような一部勢力にかき回されてはいけない。	男性	60歳代
14	女であることにほとほとつかれています。がんばってください。		30歳代
15	私は現在、夫の介護をしています。その折、ヘルパーさんを頼んでいますが、レクチャーが、されてないのに驚いています。男女共同参画といっても基礎をしっかり修得することが大切だと思います。		70歳代以上
16	・真の男女平等はありえないので、出来る所、出来る場所からやる。 ・小さい時からの教育が必要。	男性	50歳代
17	絶対的に男性の出る場が少ない。出る人は出るが決った人、若い人（自分から見て）の参加がない	女性	70歳代以上
18	男女共同参画について何も知らなかったもので、これからは注意して、記事を読もうと思います。ガンバッテ下さい。	女性	70歳代以上
19	男女共同参画をするためにはまず施設を作って欲しい。	男性	20歳代以下
20	誰もが参加したいと思う環境作り	男性	60歳代
21	男・女性が別であるように、個々の性格、得て不得て、向き、不向きがある。相互理解・尊重・協力が不可欠。	女性	60歳代
22	差別と区別の違い、平等にする為の不平等が生まれていること 質問に答えていて、そのちぐはぐさが気になりました。	女性	20歳代以下
23	一旦、男女に分けて、男女共同参画を考えるというのは定義が難しいと思います。普遍的人権からのアプローチの方が自然の様に感じます。	男性	60歳代

No.	男女共同参画について	性別	年齢
24	男女ともども様々な面で優遇されることがあります。ただ、性別、能力の差を鑑みず平等にするのは本質的には不平等であると思われます。ぜひ、何が区別されるべきで、何が平等であるべきか標を作っていただきたいと思います。	男性	30歳代
25	男女平等など簡単に言うものではない。今日の衰退をよく考えてみろ。	男性	30歳代
26	何を実施するにしても男女を区別せず実施、説明することが大事であり、現時点において女性への機会が少ない＝女性のみを増加させるのではなく、機会そのものを増加させる必要が有ると感じている。結論、男性が蔑ろになる可能性が高い。	男性	30歳代
27	男女平等や男女共同参画の意味が、決して男女が同じことをするという意味ではないと思いますし、男女平等がイコール「共稼ぎ」という意味ではないと思います。男性が専業主夫で女性が働くというスタイルでも問題ないはずで、現状の男女平等は、サッカーにたとえると、昔はフォワードが男性で女性がバックスやゴールキーパーだったのに、今は男女平等のもと全員が全員フォワードになってしまいました。もっとバックスの重要性、つまり、子育てや家事の重要性を訴え、それらの地位向上に務めるべきです。主夫業(主婦業)も重要な社会貢献です。もし、専業主夫や専業主婦が増えれば、託児所、待機児童の問題の解決につながります。	男性	50歳代
28	女性だけが主義主張するのは如何なものか。果たすべきものをしてからだと考えます。	男性	40歳代

No.	アンケートについて	性別	年齢
1	アンケートに答え、勉強になりました	女性	60歳代
2	このアンケートがむずかしい。	男性	40歳代
3	アンケートを答える事で、少しでも、北区の発展が出来ればと思い記入しました。今後の発展に期待します。	男性	40歳代
4	勉強になりました。	男性	50歳代
5	このアンケート自体が何を聞きたいのかよくわかりません。質問の項目も変ですし、3つまで○もおかしいです。仕事だから、仕方なく作成したように見えます。こんな内容で仕事をした気にならないでください。それよりも、自分達が、色々なサークルに参加し、ボランティア活動をして実体験をして下さい。意見を聞いたふりをして、実際には何もしない。結局自分達のやりたい事しかやらない。そんな行政は、もう考え直して下さい。セクハラ、マタハラ、パワハラ等、多くは、中高年男性の意識の低さと、無知からくるものです。	男性	50歳代
6	アンケートの期限をもう少し長くしてもらえると助かる	女性	30歳代
7	このアンケートは私に答えられない事ばかり。70代以上の年金生活で答えられない	女性	70歳代以上
8	F 1 の性別で男と女しかないことが気になりました。(アンケート)	女性	20歳代以下

No.	アンケートについて	性別	年齢
9	アンケートの設問で、たとえば「女の子も、経済的に自立できるように育てるのがよい」の対になる「男の子も、経済的に自立できるように育てるのがよい」がないため、「男も女も経済的に自立できるように育てるのがよい」と考えていても、回答できないし、LGBTならどう答えれば良いかも分からない。また、女性は「参画」だが男性は「家庭や地域への参画」と限定されている設問もある。このように、設問が偏っており、公的機関が行うアンケートとして適切ではないと感じた。	男性	30歳代
10	時間を割いて善意でアンケートに回答するわけだが、長すぎてまったく回答者の立場に立っていない。民間企業では考えられないほど意識の低さで愕然とする。	男性	30歳代
11	見づらい。フォントやフォントサイズ、行間、文字数全てに気を配って制作してほしい。	男性	40歳代
12	北区で行っている色々な取り組みについてこのアンケートで知ることができたのは良かった。	女性	40歳代

No.	意識改革・啓発について	性別	年齢
1	必要なのは女性うんぬんではなく、日本男性がダイバーシティを本当に理解して変わる事です。北区は子供やシニアばかりに働きかけている。私の様に単身で、税金を沢山納めている人間にマッチした活動は全く見受けられない。呆れる位高い住民税を払っても何もメリットがありません。	女性	50歳代
2	男性、女性の垣根を超えて、よりよい北区になる事を願っております。	男性	40歳代
3	北区ニュースの中で知らされていますので有難く思いますが自身の関心が薄いため申し訳なく思っています	女性	70歳代以上
4	結婚をしてから身のまわりの環境について知ることになったのもっと早いうちから（10代とか）どんな活用法があるとか、交流があるか、知っていたらよかったと思うことがあった。他にも区が行っている内容ももっと地域住民に理解、啓発するべきだと思う。	女性	30歳代
5	「アゼリアプラン」は知っていますが、内容がよくわかりません。北区苦情解決委員会が設置されていることは知りませんでしたので男女平等を推進するためにも、啓発して欲しい。	女性	70歳代以上
6	あまりにも、知らなすぎ、介護生活（母親）10数年なので、これから勉強していきたいです。少々介護疲れ気味。肉体的（大腸、腰、膝の治療中です。）	女性	70歳代以上
7	啓発だけでは意味が無い。実行まで持って行けるようにしていただきたいと思います。	女性	50歳代
8	今まで何気なく生活していましたが、北区ではこういう取組みをしていることを知り、少し意識が高まりました。	女性	60歳代
9	自分の心が明るく開かれている様心掛ける。	男性	60歳代

No.	意識改革・啓発について	性別	年齢
10	男女の平等を推進する際には、女性自身が持っている「男性には従う」「上司は男性がのぞましい」といった考え方を変えることが重要だと考える。男性の意識改革だけでなく、女性の意識改革にも同じくらい比重をかけて取り組んでもらえたらありがたい。	女性	40歳代
11	男女共同参画の知識がなく（知らない）意見をのべるまでに至りません。今後、意識して考えていきたいと思います。	女性	70歳代 以上

No.	家庭生活・就業・社会参加について	性別	年齢
1	育児休暇などの長期の休みが必要になった場合、職場に代替の方を雇用しなくてもなんとかかなるような国、自治体の支援、法改正が必要	男性	40歳代
2	子供は3才位までは母の元で。あずけない方がよいと思います。ぜいたくしなければ生活できると思う。(子育てという仕事は大変です。子の為にも母がそばにいてほしい) 今、ハローワークでも正社員の仕事がありません。なので子供ができたら、退社し、子育てに専念し、少し大きくなったら、パートなどを…。新しい人に正社員はゆずるべき。	女性	60歳代
3	身の廻りに問題はないと感じている。	男性	70歳代以上
4	子供を育てながら女性が正社員で働くのに出来なくないが、こんなに頑張らないといけないのかと追いこまれる。仕事もしろ、子育てもしろ、家事もしろ。ひどい	男性	40歳代
5	働く女性たちが産後うつにならないように、支援が必要だと思います。若くて素晴らしい人材が出産後に全てを失わないように、活動している民間企業もありますので、もっと良く調べて支援してあげて欲しいです。	女性	40歳代
6	男女共同を推進していくのはよいが必ずしも男が上、女が下となっているわけではない。少なくとも、家庭環境下においては、女性が上位となりストレスを持つ男性がいることをかくさず、目をつぶらずに着目してください。男性上位の時代は、家庭環境下においてはもう終わっています。	男性	30歳代
7	30代、共働き世帯ですが、夫は男女平等でない環境で育ち、教育を受けてきた為、口では「平等」と言いますが妻から見るとそうでないような気がします。(家事、育児、金銭面) 次世代の子ども達へはその様なことがない様に、義務教育からライフスタイルの多様化、ジェンダーによる差別がない様な指導をして頂きたいと思っております。日常はすりこまれる為、当たり前になると変えることが難しい様ですので…。	女性	30歳代
8	男性・女性に関わらず一人一人が輝ける社会が望ましい。個人的には夫婦別姓を強く望みます。色んな制度の選択肢を増やしてほしい。	女性	30歳代
9	中高年独身女性の場合、賃貸しに住む人がかなりいるはず。その場合、保証人がネックになりうる。1人っ子だと特に。保証会社は金がかかって不親切なことが多く、代わりにはならない。衣食住の「住」は、これまで持ち家を中心に考えられてきた。しかし、非正規雇用の増加、未婚率の上昇等、時代が変わったので、賃貸しの問題も光を当てて下さい。	男性	50歳代
10	画期的な子育て経済支援を望みます。	女性	20歳代以下

No.	その他のご意見	性別	年齢
1	男女平等の世界に居るオトコの私の心境を思い描くことが出来ないのは老い過ぎたためだろうか。	男性	70歳代以上
2	特に要望は有りません。推進施策については良いとは思いますが。	男性	60歳代
3	自治会の中で、途中から、シングルマザーになりました。自治会から、さまざまないやがらせをされています。たとえば、自治会名簿に何年も、夫の氏名を書かれた。	女性	50歳代
4	「北とびあ」にあったプラネタリウムの再開をお願いいたします。利用した時は子供が居ませんでした。現在、小さな子供を持つ父親としては子供を連れて行きたいNo.1のスポットです。男女共同参画とは違うかもしれませんが、父親の子育て参加にも手軽に行ける施設は重要です。(個人的に私自身がとても気に入っていました。)	男性	40歳代
5	生活保護者は人間あつかいされていない。父母兄の墓参りぐらいはしたい。	男性	70歳代以上
6	20～30人程度サークル(旅行)を毎年やってほしい。関東近県(日帰り)	男性	70歳代以上
7	私は障害者になってから精神病になり外へ出るのが苦手で家にいるのが多く、ひきこもりの1つではと思うのですがカラオケが好きで、1人カラオケでストレス発散をしています。ダンボール等は、一人息子が来て、しばってくれるので、気楽にいらしてはいますが、中にはひどい人間もおります。離婚してから安穏な、幸せな暮らしをしています。その分息子には迷惑をかけているけれど。死ぬまで好きな処へ行ける暮らしがほしいです。	女性	60歳代
8	知識不足の為、意見の幅がわからない。	男性	60歳代
9	日常生活で何気なくやっている家の色々な事。これは、生活インフラと同じでやっている人がいるから毎日がまわっているという事。家事についても、誰かがやっているから成り立っているのだという基本にたちかえって皆具体的な学びや実践を身につけていく事が大事だと思う。	女性	50歳代
10	とにかく老人が多すぎて若い人への負担がすごすぎる。長生きはいいが「生きていてなんになるのか」と考えさせる事が多すぎて老後にとっても不安を感じる。子供達がかわいそう。自分自身も気が狂いそうです。老人問題をなんとかしてほしい。	女性	50歳代

No.	その他のご意見	性別	年齢
11	区内在住の生活保護者（男女問わず）の実態調査を行い、現役世代の受給者が、何故生活保護を申請するに至ったのかを調べ、心のケアを行うカウンセリングや、相談員の活動を通じて、1人でも多くの生活保護脱却者を増やし、活力ある世の中へと導いて欲しい。	男性	40歳代
12	一昔前の家庭環境であれば何世帯の世代が同居して助けあって生活していたので（良、悪は別として）介護育児の問題は起きなかったのでは…。難しい住みづらい社会になったものです。	女性	60歳代
13	ボランティア活動の内容を充実させてほしい。	女性	40歳代
14	色々な事について勉強になりました。高齢者の私にはあまり参考にならないのでは。	女性	70歳代以上
15	こういった団体を作られるのは、けっこうですが、まず最初に、こんなことをするぐらいならその分の税を返してほしい。私たちの年代は、税金を払っても未来ではかえってこないし、なんでただでさえ少ない給料で大変なのに…この紙一つでかえてくれるんですか。アンケート答えたんだから、金一封ぐらいくれるのが常識。もっとよりよい町をつくりたいんだったら議員への給料をへらしてからにしてください。	女性	20歳代以下
16	健康の為にスポーツをしたい。	男性	30歳代
17	保育士、介護士の待遇改善と社会的地位向上に力を入れるべき。少なくとも看護師並みの地位、待遇となるような施策（人件費のための補助金等）で人材を確保し、子ども、高齢者を安心して預けられる社会でなければ女性はそのために家庭にしばられ、社会に出られない。また、保育や介護は女が家で行えばタダという概念を払拭するためにも、保育、介護のための労力に対する価値を正当なものにしてもらいたい。	女性	40歳代